AINU Report 04
北海道アイヌ民族生活実態調査報告
その4

2014年　アイヌ民族多住地域住民調査報告書

地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係

―札幌市とむかわ町を対象にして―

北海道大学アイヌ・先住民研究センター　2015

北海道アイヌ民族生活実態調査報告その 4
地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係
－札幌市とむかわ町を対象にして－

正誤表

本書に下記のとおり誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

43 頁　6 行目
（誤）
「老年層では「アイヌの人々」71.6%、「地域ごと」48.6%、「国として」40.8%となる。」
（正）
「老年層では「国として」74.8%、「アイヌの人々」71.6%、「地域ごと」48.6%となる。」

43 頁　8～11 行目
（誤）
「壮年層では「国として」、老年層では「アイヌの人々」との回答が優勢である。とくに、老年層の「アイヌの人々」の数値が突出して高いことが注目されるが、ここには、アイヌの人々の意志を尊重することの強調から、国の主導を待つことへの批判まで多様な意見が含まれていると推察される。」
（正）
「壮年層と老年層では「国として」と「アイヌの人々」が同じような数値を示してはいるものの、「国として」との回答が優勢であることから、この 2 つの年代においては、アイヌの人々の意志を尊重することを重視しながらも、国の主導を期待する考え方の方がより強いことがわかる。」

43 頁　下から 2 行目
（誤）
「〈和人〉における世代的特徴との共通点として」
（正）
「〈和人〉における世代的特徴とは異なり」

43 頁　表 1-27
和人老年層　「国として」×「たまにある」の数値
（誤）34(3.4)　→　（正）34(37.4)

本人（老）　「国として」×「よくある」の数値
（誤）1(50.0)　→　（正）1(100.0)

97 頁　表 4-6
「札幌市」×「とてもそう思う」の数値
（誤）7.7　→　（正）7.1

以上

地域住民のアイヌ政策への評価と
アイヌの人々との社会関係

――札幌市とむかわ町を対象にして――

小内　透編著

はしがき

北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、社会調査プロジェクトとして2008年と2009年にアイヌ民族の方々を対象としたアンケートとインタビューの方式による生活実態調査を実施した。それぞれの調査結果については、すでに『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告　現代アイヌの生活と意識』（2010年３月）、『2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告　現代アイヌの生活の歩みと意識の変容』（2012年３月）、『2008年北海道アイヌ民族生活実態調査再分析報告書　現代アイヌの生活と意識の多様性』（2014年３月）の３つの報告書にまとめられている。

今回、これまでの調査とは視点を変え、アイヌの人々が数多く居住する地域の住民を対象にし、アイヌの人々との関わりやアイヌ文化・アイヌ政策に対する評価について明らかにするための調査を実施した。具体的には、2009年調査の対象地であった札幌市とむかわ町を選定し、そこに居住する有権者を対象にした郵送によるアンケート調査を行った。本報告書は、その結果をまとめたものである。

地域住民を対象にした調査を実施したのは、地域の人々が取り結ぶアイヌの人々との社会関係、アイヌ文化に対する意識やアイヌ政策に対する評価のあり方が、アイヌの人々の生活や意識に大きな影響を与えると考えたからである。かつてアイヌの人々が同化を強いられ、生活が困窮した背景の１つに、アイヌの人々に対する和人の差別意識があった。和人の差別意識はアイヌの人々との社会関係を支配・抑圧的なものにし、その関係が差別意識をさらに強固なものにした。

現在では、2008年に「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が国会の衆参両院で採択され、それ以降、様々な形で日本政府によるアイヌ政策が推進されるようになった。その中には、アイヌ民族やアイヌ文化に関する理解を深め、差別をなくすための取り組みも含まれている。そのため、アイヌの人々やアイヌ文化に対する地域住民の眼差しや付き合い方は、かつてとは異なっている可能性がある。このような点を明らかにすることが本調査の主たる目的の１つである。

なお、札幌市とむかわ町を対象地として実施した2009年調査の報告書とつきあわせれば、アイヌの人々の生活や意識の実態が複眼的に把握できると考えている。そのため、今回の調査ではアイヌの人々を直接の対象者としていないが、本報告書を「北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その４」として位置づけている。

今回の調査には札幌市とむかわ町の多くの方々に協力して頂いた。この場を借りて、協力して頂いた皆様に、お礼を申し上げる。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員
北海道大学大学院教育学研究院
小内　　透

目　　次

はしがき

序　章　問題の所在
第１節　問題の背景…… 7
第２節　問題意識…… 8
第３節　調査の対象と方法……10

第１章　地域住民とアイヌの人々との交流状況
はじめに……13
第１節　札幌市、むかわ町それぞれにおける交流の全体像……13
第２節　むかわ町における交流……18
おわりに……47

第２章　アイヌ文化の知識と体験
はじめに……51
第１節　アイヌ文化の知識と体験の特徴……51
第２節　アイヌ文化の知識と体験の規定要因……59
第３節　アイヌ文化の知識と体験のあり方の背景……73
おわりに……78

第３章　北海道の地域住民によるアイヌ政策評価
はじめに……81
第１節　アイヌ政策に対する支持の状況……81
第２節　属性によるアイヌ政策に対する支持の差異……84
第３節　アイヌ政策に対する支持の規定要因……88
第４節　まとめ……91

第４章　アイヌ民族との交流・アイヌ民族に対する意識と地域的要因
はじめに……95
第１節　対象地域別に見た地域への評価……95
第２節　地域の要因から見たアイヌの人たちとの交流…… 100
第３節　地域の要因から見たアイヌ文化の保存に対する意識…… 104
第４節　地域の要因から見たアイヌ民族への経済的援助の評価…… 107
第５節　地域の要因から見たアイヌ民族への教育支援の評価…… 110
第６節　まとめ――居住年数が持つ両義的な意味…… 112

終　章　調査報告のまとめ …… 115

付属資料 …… 119

序　章　問題の所在

小内　　透

北海道大学大学院教育学研究院教授
北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員

第１節　問題の背景

アイヌ民族は、江戸時代から和人との不平等な交易や抑圧的な労働を強いられてきた。さらに、明治維新以降、アイヌの人たちが利用していた土地が明治政府により無主地とされ、和人入植者の手に渡るようになった。同時に、同化政策として日本語の使用が奨励され、戸籍を作成する際に日本風の名前にするため創氏改名が行われた。旧来の漁労や狩猟のやり方や入れ墨などの風習も禁止された。その結果、アイヌ語やアイヌ文化はすたれ、生活に困窮するアイヌの人々が増大した。和人の入植者の増加は、アイヌの人々に対する差別を強めることにもつながった。

そのため、1899（明治32）年にはアイヌの人々の窮状を救うことを目的として北海道旧土人保護法が制定された。狩猟、漁労や採集などを主たる生業としていたアイヌの人々に農業を推奨し、農業を希望する者に５町を上限に土地の無償給与を行った。また、日本語を学ばせるために子どもたちを和人とは異なる旧土人学校に通わせるようにした。旧土人学校は４年制で、修学年限６年の尋常小学校と比べ、修学年限、科目ともに少なく、アイヌ語の使用が禁止された。北海道旧土人保護法は、明らかにそれまでの同化主義と同様な性格をもっており、差別的な側面も持ち合わせていた。

アイヌの人々の中には、差別や厳しい境遇から抜け出すために、自ら和人との結婚を望み、アイヌの血を薄めようとする者も少なくなかった。それだけ厳しい状況におかれていたといえる。だが、同時に、自らの立場を改善するため、独自の社会運動を展開するアイヌの人々もいた。1930（昭和５）年には、道庁の肝いりの下、十勝などのアイヌが中心となり北海道アイヌ協会が結成され、旧土人学校の廃止等を目指して北海道旧土人保護法の改正などに取り組んだ。その成果として、1937（昭和12）年には北海道旧土人保護法改正などの成果を勝ち取った。しかし、彼らの運動はそれ以上発展することはなかった。

第２次世界大戦後、1946（昭和21）年、社団法人「北海道アイヌ協会」が新たに設立された。新たな北海道アイヌ協会は、農地改革の対象からアイヌの給与地を除外するよう運動を行ったが、成功に至らず、これを機に事実上休眠状態に陥った。

事情が変わるきっかけになったのが、1961（昭和36）年から全国的に展開された不良環境地区対策の実施であった。不良環境地区対策は同和地区や都市のスラムなどの生活環境を改善するために始められ、北海道では炭鉱地区やアイヌ部落などが対象とされた。道庁はこの事業を開始するに当たって、前年の1960（昭和35）年に不良環境地区の調査を実施した。その際、調査をスムーズに進めるため、アイヌ協会の再建を行った。ただし、アイヌの人々はそれまで様々な差別を受けていたこともあり、翌1961年には協会の名称からアイヌの文字を削除し、北海道ウタリ協会と名称を変更した。

さらに、1974（昭和49）年からアイヌ民族に対する独自の福祉対策が始まった。道庁が独自の調査を行い、多くのアイヌの人々が厳しい生活環境に置かれていることがわかったからである。アイヌ部落を対象にした不良環境地区対策は、アイヌ民族に対する福祉対策の中に包摂されることになった。それ以後、アイヌ民族を対象にした実態調査が７年ごとに行われ、それにもとづいて、「北海道ウタリ福祉対策」（第１～４次：1974～2001（平成13）年度）、「アイヌの人たちの生活向上に関する推進方策」（第１～２次：2002（平成14）～2015（平成27）年度）と政策の名称を変えながら、アイヌ民族に対する福祉政策が続けられてきている。

この間、1997（平成９）年には100年近く続いた北海道旧土人保護法が廃止され、新たに「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律」（略称、アイヌ文化振興法）が制定されている。この法律にもとづいて、アイヌ文化振興・研究推進機構が設立され、アイヌ文化の振興に関わる各種の補助事業が展開されている。しかし、アイヌ民族に対する福祉政策がアイヌ民族の経済状況や教育水準の抜本的な改善につながらないこともあり、アイヌ文化の振興だけで、かつて利用していた土地を奪われ差別され続けたアイヌの人々の権利を回復することにはならないとの批判もあった[1)]。その背後には、アイヌ民族が先住民族として認められてこなかったことも大きな要因として存在していた。

世界に目を転じると、第２次世界大戦後、様々な国の先住民族が民族の復権運動を展開してきた。1980年代に入ると、いわゆるコーボ報告をきっかけに、国際連合に先住民作業部会 (WGIP)が設置され、先住民族の復権を目指す取り組みが粘り強く続けられた。1993（平成５）年には、国連本部で「世界の先住民の国際年」が開催され、1995（平成７）年から2014（平成26）年の間に、「世界の先住民の国際の10年」が２次にわたり設定された。2007（平成19）年には20年以上に及ぶ議論を経て、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が賛成多数で国連総会において採択された。この宣言の採択にあたっては、日本政府も賛成票を投じた。

この結果をふまえ、翌2008（平成20）年６月、わが国の国会でも衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で可決された。これを受け、同日、同決議に対応して「アイヌ政策をさらに推進し、総合的な施策の確立」をめざすとする内閣官房長官談話が出された。2009（平成21）年に、内閣官房にアイヌ政策推進室が設置されるとともに内閣官房長官を座長とするアイヌ政策推進会議が発足し、様々なアイヌ政策が展開されるようになった。

その結果、もともと1974年から続いているアイヌ民族に対する福祉政策と1997年以降開始されたアイヌ文化振興政策を含めて、2008年以降総合的なアイヌ政策が展開されてきている。新しい動きとして大規模なイオル空間を整備し、そこに国立のアイヌ民族に関する博物館を建設したり、北海道大学を中心にした多くの大学に保管されているアイヌ民族の人骨の返還に関する検討が行われたり、道外のアイヌの人々に対する政策が打ち出されたりしている。また、アイヌの人々だけでなく、日本国民全体を対象にして、アイヌの人々の歴史や文化に関わる知識や関心等についての世論調査なども行っている。

第２節　問題意識

アイヌの人々をとりまく社会環境は大きく変化しつつある。様々なアイヌ政策の推進がそれを後押ししている。しかし、アイヌの人々が実際にどのような過去を経験し、現在どのような生活

を送っているのか、またアイヌの人々はどのような意識をもっているのか、これらの点については、十分に知られているとはいいがたい。アイヌ民族に関する歴史学、人類学、民族学などの研究は盛んに行われてきたが、現代のアイヌの人々に焦点をあわせた研究が少なかったこともその一因となっている。本来であれば、この問題に正面から取り組むべき社会学においても、例外ではない[2)]。そこで、2007年に発足した北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、2008年から研究プロジェクトの１つとして、現代アイヌの人々の生活と意識を明らかにする調査研究をスタートさせた。そこでは、アイヌ民族にとって有効な政策を考える上で必要な資料を獲得することが重要な課題とされた。

われわれは、この調査研究を行うにあたって、４つの視点を設定した。第１はアイヌの人々の現実の生活と意識を明らかにすることである。教科書やテレビなどで流れるアイヌの人々の姿は、伝統的なアイヌ文化を強調したものであることが多く、必ずしも現実のアイヌの人々の実態を表してはいない。普段、アイヌ文様が施された衣服を着ているわけではないし、アイヌ料理を日々の食事にしているわけでもない。伝統的な住居・チセで暮らしているアイヌの人々はいない。現実を正確に把握することが何よりも必要になる。

第２に、アイヌの人々の労働や生活の歩みを明らかにすることである。過去の労働や生活の歴史は、彼らの現在の労働や生活、そして意識を作り上げる過程そのものであり、和人も含めた他の人々との社会関係を構築することにもつながっている。アイヌの人々一人一人が歩んできた歴史そのものに、彼らの現状と未来を理解する１つの鍵がある。アイヌの人々の場合、これまでの労働と生活の歩みの中で、様々な差別の経験を被っていることが多い。そのため、労働や生活の歩みに注目することは重要である。

第３に、アイヌ民族、アイヌ文化、さらにはアイヌ政策に対するアイヌと和人の評価を検討することである。アイヌ民族に対する評価は、アイヌであろうと和人であろうと、個人によって異なることはいうまでもない。それが、アイヌ民族政策の評価の違いにつながることも多い。しかも、それらの評価は、同じ個人の中でも時代によって変化する可能性がある。それゆえ、現在、そして今後展開される様々なアイヌ政策の内容は、アイヌと和人を含めた国民の評価を正確に把握し、それらをふまえることが求められる。

第４に、和人とアイヌの人々の日常的な交流にも目を向けなければならない。アイヌの人々は、特別に設定された居留地などで生活しているわけではない。アイヌの人々が数多く住む地域はあるものの、彼らだけで構成されている地域は存在しない。そのため、アイヌの人々は、日々の職場、学校、地域で和人と接触し交流しながら日常生活を送っている。日常生活におけるアイヌと和人の接触や交流のあり方がアイヌ民族、アイヌ文化やアイヌ政策への評価に影響を与えることも否定できない。

以上の視点にもとづいて、われわれは、２つの枠組みで北海道アイヌ民族生活実態調査を進めてきた。

１つは、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの研究プロジェクト本体としての調査研究である。これは、2008年に北海道ウタリ協会（2009年に北海道アイヌ協会に改称）の協力を得ながら実施した全道のアイヌの人々を対象にしたアンケートにもとづく調査から始まった。この結果から明らかになったアイヌの人々の厳しい生活実態の一端が、北海道アイヌ協会によって国連の

場でも紹介されている。翌2009年には、札幌市とむかわ町に住むアイヌの人々を対象にした、よりインテンシブなインタビュー調査を実施した。両地域に多くのアイヌの人々が居住していたからである。これらの結果は、それぞれ小内編著（2010）、小内編著（2012）としてまとめられている。また、2008年調査をより詳細に検討した報告書、小内編著（2014a）も刊行している。

これらとは別に、2012（平成24）年から北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室が日本学術振興会の科学研究費補助金（基盤研究Ａ）を用いて行ってきた調査研究がある。これは、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの社会調査プロジェクトにも位置づけられている。アイヌ民族が数多く居住する地域を対象に、アイヌの人々と地域住民の生活・意識や日常生活での交流の実態を明らかにする目的で取り組まれたものである。2012年に新ひだか町、2013（平成25）年に伊達市、2014年に白糠町を対象にした調査を行った。アイヌの人々にはインタビュー調査、地域住民の方々には郵送のアンケート調査を実施した。アンケート調査の対象となった地域住民のうち協力して頂ける方には、さらにインタビュー調査も行っている。いずれの地域の調査結果も、小内編著（2013b）、小内編著（2014b）、小内編著（2015b）としてまとめられている。なお、教育社会学研究室のプロジェクトでは、国際比較として、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドのサーミに関する調査研究も行っており、小内編著（2013a）および小内編著（2015a）を刊行している[3)]。

こうして、全道の調査だけでなく、札幌市、むかわ町、新ひだか町、伊達市、白糠町の５つの地域の調査を積み重ねてきた。ただし、このうち、2009年に実施した札幌市とむかわ町に関しては、アイヌの人々の調査しか実施していなかった。

そのため、今回、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの研究プロジェクト本体の追加調査として、札幌市とむかわ町の地域住民の方々を対象にした「日常的な交流とアイヌ文化・アイヌ政策に関する意識調査」を実施した。本報告書は、その結果をまとめたものである。

第３節　調査の対象と方法

今回の地域住民に対する調査は、他の３地域とほぼ同様な方法で行った。札幌市とむかわ町の有権者名簿から系統抽出法により、それぞれ2014年９月１日時点で20歳以上79歳以下の男女1,200人を調査対象として選定し、郵送法によるアンケート調査を10月31日～11月14日の予定で実施した。実際には、期日後に届いた調査票もあったが、それらも含めて、有効回収数・有効回答率が札幌市で、579票、48.3％、むかわ町で、540票、45.0％であった。

回答者の構成を住民の構成と比較すると、札幌市では20歳代と30歳代の男女で回答者の構成比が低く、反対に、40歳代以上の男女で回答者の構成比が住民のそれより高くなっている（表０－１）。とくに、20歳代男性が住民構成より10.4ポイント低い点が目につく。一方、むかわ町では20歳代～40歳代の男女と60歳代女性で回答者の構成比が低く、それ以外の50歳代以上で回答者の構成比が住民のそれより高くなっている（表０－２）。20歳代と40歳代の男性がそれぞれ6.6ポイント、6.4ポイント低いのが特徴的である。これらの点を念頭において、データの分析をする必要がある。

表０－１　男女別年齢別住民構成とサンプル構成（札幌市）　単位：人、％

		実数			構成比		
		計	男	女	計	男	女
札幌市	20～30歳未満	233,985	113,095	120,890	15.8	16.2	15.3
	30～40歳未満	287,600	138,741	148,859	19.4	19.9	18.9
	40～50歳未満	265,354	125,299	140,055	17.9	18.0	17.8
	50～60歳未満	259,706	121,973	137,733	17.5	17.5	17.5
	60～70歳未満	266,174	123,288	142,886	17.9	17.7	18.1
	70～80歳未満	172,534	74,750	97,784	11.6	10.7	12.4
	計	1,485,353	697,146	788,207	100.0	100.0	100.0
住民調査回答者	20～30歳未満	47	13	34	8.2	5.8	9.7
	30～40歳未満	92	36	56	16.0	16.1	15.9
	40～50歳未満	120	44	76	20.8	19.6	21.6
	50～60歳未満	114	51	63	19.8	22.8	17.9
	60～70歳未満	125	55	70	21.7	24.6	19.9
	70～80歳未満	78	25	53	13.5	11.2	15.1
	計	576	224	352	100.0	100.0	100.0

注）１. 住民調査回答者のうち、年齢ないし性別不明の３名を除いてある。
　　２. 住民調査回答者の 70 ～ 80 歳未満には 80 歳２名が含まれている。
資料：『国勢調査報告』2010 年版およびアンケート調査結果より作成。

表０－２　男女別年齢別住民構成とサンプル構成（むかわ町）　単位：人、％

		実数			構成比		
		計	男	女	計	男	女
むかわ町	20～30歳未満	751	422	329	10.4	11.6	9.1
	30～40歳未満	995	530	465	13.7	14.6	12.9
	40～50歳未満	1,087	571	516	15.0	15.7	14.3
	50～60歳未満	1,456	760	696	20.1	20.9	19.3
	60～70歳未満	1,608	738	870	22.2	20.3	24.1
	70～80歳未満	1,343	612	731	18.5	16.8	20.3
	計	7,240	3,633	3,607	100.0	100.0	100.0
住民調査回答者	20～30歳未満	24	13	11	4.5	5.0	4.1
	30～40歳未満	52	30	22	9.8	11.6	8.1
	40～50歳未満	61	24	37	11.5	9.3	13.7
	50～60歳未満	125	62	63	23.6	23.9	23.2
	60～70歳未満	129	70	59	24.3	27.0	21.8
	70～80歳未満	139	60	79	26.2	23.2	29.2
	計	530	259	271	100.0	100.0	100.0

注）１. 住民調査回答者のうち、年齢ないし性別不明の 10 名を除いてある。
　　２. 住民調査回答者の 70 ～ 80 歳未満には 80 歳以上７名が含まれている。
資料：『国勢調査報告』2010 年版およびアンケート調査結果より作成。

調査対象者には当然アイヌの方も含まれるが、調査倫理の上で問題があるため、アイヌ民族であるかどうかについて直接問うことはしていない。しかし、自由回答などで自らアイヌの血筋あるいは配偶者がアイヌであることを表明したり、確実に推定できる場合、「本人がアイヌ」あるいは「配偶者がアイヌ」とした。また、「アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか」という質問に、「家族や親戚」とこたえた者を「家族や親戚からアイヌ文化に関する知識を得た者」とした。ちなみに、札幌市では、「本人がアイヌ」と判断できる者はおらず、「配偶者がアイヌ」が１人、「家族や親戚からアイヌ文化に関する知識を得た者」が25人、むかわ町では「本人がアイヌ」が４人、「配偶者がアイヌ」が２人、「家族や親戚からアイヌ文化に関する知識を得た者」が50人である。

以下、アイヌの人々との交流や接触（第１章）、アイヌ文化に関する知識と体験（第２章）の分析の後に、アイヌ政策や地域社会への評価（第３章、第４章）を明らかにし、終章でまとめを行っている。

注

１）この点については、とりあえず阿部（2004）、中村（2007）を参照されたい。

２）アイヌの人々をめぐる現状や課題に関する社会学的研究としてまとまったものは、松本・大黒編（1998）と松本・江川編（2001）が目につく程度である。本研究は、こうした状況を克服しようとする試みでもある。この点については、小内編著（2010）および小内編著（2012）の序章を参照されたい。

３）サーミに関する調査研究は、野崎剛毅を代表とする日本学術振興会の科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）によるプロジェクト（2011～2014年度）とも連携して行ってきた。このプロジェクトの成果は、野崎編著（2015）としてまとめられている。

参考文献

阿部ユポ, 2004,「アイヌ民族の復権運動」上村英明監修、藤岡美恵子・中野憲志編『グローバル時代の先住民族』法律文化社, 39-49.

松本和良・大黒正伸編, 1998,『ウタリ社会と福祉コミュニティ』学文社.

松本和良・江川直子編, 2001,『アイヌ民族とエスニシティの社会学』学文社.

中村康利, 2007,「アイヌ民族の『見えない貧困』」『教育福祉研究』13, 39-48.

野崎剛毅編著, 2015,『スウェーデン・サーミの生活と意識――国際郵送調査からみるサーミの教育、差別、民族・政治意識、メディア――』札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科.

小内透編著, 2010,『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その１　現代アイヌの生活と意識――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

――――, 2012,『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その２　現代アイヌの生活の歩みと意識の変容――2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

――――, 2013a,『調査と社会理論・研究報告書29　ノルウェーとスウェーデンのサーミの現状』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2013b,『調査と社会理論・研究報告書30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2014a,『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その３　現代アイヌの生活と意識の多様性――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査再分析報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

――――, 2014b,『調査と社会理論・研究報告書31　伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2015a,『調査と社会理論・研究報告書32　ノルウェー・フィンマルク地方におけるサーミの現状』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2015b,『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

（小内　透）

第１章　地域住民とアイヌの人々との交流状況
――札幌市とむかわ町――

小野寺理佳

名寄市立大学保健福祉学部教授

はじめに

本章では、札幌市およびむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流の実態、およびそれらの交流を規定する諸条件を探る。その際、交流の内容を、「近所付き合い」「職場での付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「インターネットを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」（「その他」）に分類する。

分析にあたっては、交流の内容が年齢によって大きく異なることが予想されることから、住民を３世代、すなわち青年層（20～30歳代）、壮年層（40～50歳代）、老年層（60歳代以上）に分ける。なお、回答者のほとんどは和人であるが、アイヌ系住民もわずかに含まれる。そこで、本章では、アイヌ性と世代を組み合わせて、アイヌ性４パターン、すなわち、〈和人〉〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉について、それぞれ世代（青年層、壮年層、老年層）毎に集計する[1)]。「家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た」と回答している者は、アイヌの血筋ではないがアイヌの人々と親密な間柄にある（あるいは、親密な間柄にあったことがある）と判断される人々であるが、場合によってはアイヌの血筋である可能性も考え、便宜上、和人とは別のグループとしている。

第１節　札幌市、むかわ町それぞれにおける交流の全体像

第１項　交流頻度

はじめに、札幌市とむかわ町におけるアイヌの人々との交流の全体像をとらえよう。表１－１－１、表１－１－２は交流頻度をまとめたものである。それによると、札幌市全体では、交流が「よくある」0.5％、「たまにある」3.1％であり、「交流あり」（「よくある」「たまにある」の合計、以下同じ）は3.6％である（表１－１－１）。交流はきわめて低調である。一方、むかわ町全体では、交流が「よくある」25.6％、「たまにある」30.6％であり、56.2％が「交流あり」と回答している（表１－１－２）。札幌市の3.6％とむかわ町の56.2％を並べてみると、アイヌの集住地であるむかわ町における交流頻度の高さは際立っている。〈和人〉だけの数値を見ると、札幌市における「交流あり」は2.9％、むかわ町における「交流あり」は53.8％であり、〈和人〉以外のグループによって「交流あり」の数値が若干押し上げられていることがわかる。そこで、〈和人〉以外の３グループについて「交流あり」を見るならば、札幌市では〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉16.0％、むかわ町では、〈本人がアイヌの血筋の者〉50.0％、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉78.0％である。アイヌの血筋の者やアイヌ文化をより知る者において、アイヌの人々との交流が和人よりも相対的に盛んであることは明らかといえよう。このとき、

むかわ町の〈本人がアイヌの血筋の者〉の数値50.0％が〈配偶者がアイヌの血筋の者〉100.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉78.0％よりも低いことについては、身内の付き合いが除かれたうえでの交流について回答されている可能性が考えられる。

さて、この交流頻度をアイヌ性と世代を組み合わせてみるとどうだろうか。まず、札幌市について見る。〈和人〉の「交流あり」の数値に着目すると、青年層3.1％、壮年層2.2％、老年層3.6％であり、世代による交流状況の違いを明確に提示することは難しい。次いで、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の「交流あり」を見ると、青年層37.5％、壮年層0.0％、老年層14.3％であり、青年層の数値が最も高く、壮年層の数値が最も低い。

次に、むかわ町の状況を見ていこう。〈和人〉の「交流あり」は、青年層28.5％、壮年層49.1％、老年層64.2％である。「交流あり」の世代間格差が顕著で、さらに、青年層から老年層へ世代が上がるにしたがって「交流あり」の比率が順次上昇するという特徴が認められる。この特徴は、〈和人〉以外のグループについては当てはまらない。すなわち、〈本人がアイヌの血筋の者〉では、壮年層50.0％、老年層50.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、青年層100.0％、壮年層68.4％、老年層80.0％となっている。〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、青年層の数値が最も高く、壮年層の数値が最も低い。

表１－１－１　アイヌの人々との交流頻度（アイヌ性別・世代別）・札幌

	度数（年齢層毎の応答者数の％）					合計
	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	0 (0.0)	4 (3.1)	6 (4.6)	121 (92.4)	0 (0.0)	131 (100.0)
和人壮年層	1 (0.4)	4 (1.8)	11 (4.9)	205 (91.5)	3 (1.3)	224 (100.0)
和人老年層	1 (0.5)	6 (3.1)	10 (5.1)	176 (89.8)	3 (1.5)	196 (100.0)
和人　計	2 (0.4)	14 (2.5)	27 (4.9)	502 (91.1)	6 (1.1)	551 (100.0)
配偶者（老）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（青）	0 (0.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
家族（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	9 (90.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
家族（老）	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	6 (85.7)	0 (0.0)	7 (100.0)
家族　計	0 (0.0)	4 (16.0)	2 (8.0)	19 (76.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
合計	3 (0.5)	18 (3.1)	29 (5.0)	521 (90.3)	6 (1.0)	577 (100.0)

注）配偶者（老）：配偶者がアイヌの血筋であると回答した老年層。家族（青）、家族（壮）、家族（老）：家族・親戚からアイヌ文化に関する知識を得たと回答した青年層、壮年層、老年層。以下、札幌全表において同じ。

表１－１－２　アイヌの人々との交流頻度（アイヌ性別・世代別）・むかわ

	度数（年齢層毎の応答者数の％）					合計
	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	12 (17.1)	8 (11.4)	13 (18.6)	36 (51.4)	1 (1.4)	70 (100.0)
和人壮年層	30 (18.4)	50 (30.7)	28 (17.2)	49 (30.1)	6 (3.7)	163 (100.0)
和人老年層	69 (28.4)	87 (35.8)	44 (18.1)	32 (13.2)	11 (4.5)	243 (100.0)
和人　計	111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人　計	2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	4 (66.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
家族（壮）	6 (31.6)	7 (36.8)	3 (15.8)	2 (10.5)	1 (5.3)	19 (100.0)
家族（老）	11 (44.0)	9 (36.0)	2 (8.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)
家族　計	21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計	136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

注）本人（壮）、本人（老）：本人がアイヌの血筋であると回答した壮年層、老年層。配偶者（壮）：配偶者がアイヌの血筋であると回答した壮年層。家族（青）、家族（壮）、家族（老）：家族・親戚からアイヌ文化に関する知識を得たと回答した青年層、壮年層、老年層。以下、むかわ全表において同じ。

このように、むかわ町の〈和人〉では、世代が上がるにしたがって交流頻度が確実に高まるという特徴がある。また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、両地域とも青年層の交流頻度が最も高く、壮年層の数値が最も低い。青年層の数値が高いことについては、アイヌ文化に関する知識を得るに至った過程で、アイヌの人々と何らかの接触を持ってからの年月が年長世代に比べれば短いことが推察され、その比較的新しい接触の経験が交流と認識されているということが考えられる。

第２項　交流の内容

では、交流の内容とは具体的にはどのようなものなのだろうか。「交流あり」と回答した者にその内容を問うた結果（複数回答）をまとめたものが表１－２－１と表１－２－２である。札幌市の〈和人〉においては、数値の高い順に「その他」40.6％、「職場付き合い」28.1％、「趣味の付き合い」と「学生時代」がともに12.5％、「近所付き合い」9.4％、「子どもを介した付き合い」3.1％となっている（表１－２－１）。ここで「その他」の内容を見ると、アイヌ関係の文化教室・催し物・展示会・イベント、アイヌ資料館、飲食店の客、檀家、仕事関係といった記述があり、なかには「職場の付き合い」や「趣味の付き合い」に分類され得るものも見受けられる。「その他」が選択された理由として考えられるのは、この問いが「継続的な交流の習慣」を尋ねるものと理解されたために、回答者が「一時的な出会い」あるいは「偶発的な出会い」として認識しているものは「その他」に分類されたということである。

〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では、「その他」100.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、「職場付き合い」20.0％と「その他」80.0％である。この場合の「その他」の内容は、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では妻であり、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、アイヌ文化資料館に行くこと、父の仕事関係で会ったことがある、親戚にアイヌの血が入っている方がいる、である。こうしてみると、〈和人〉以外のグループにおける「その他」は、和人の場合のような特別なイベントや出来事というよりは、日常生活の一端として、「交流」以前のもの＝「その他」として語られていると推察される。

これに対して、むかわ町の〈和人〉における交流の内容は、数値の高い順に、「近所付き合い」47.2％、「職場付き合い」38.3％、「学生時代からの付き合い」23.4％、「その他」15.9％、「子どもを介した付き合い」14.8％、「趣味の付き合い」14.5％となっており、「近所付き合い」の数値が最も高い（表１－２－２）。「その他」の内容は、店の客、店の従業員、アイヌの行事、昔からの知り合い、ある会で知り合った、法事、顔見知り、仕事、子どものときからの付き合い、老人会、主人の友人の知り合い、婦人部、同級生、友人の知り合い、自治会、友人、孫がアイヌ血縁、文化協会、町議などである。札幌市〈和人〉における「その他」の内容と見比べると、文化教室・催し物・展示会・イベントのような「消費者」として参加する類のものが見られないところに特徴がある。

このように、札幌市における「近所付き合い」の低調さとは大きく異なり、むかわ町では生活に根ざした交流がより広範におこなわれている。この地がアイヌ集住地であり、日常生活の様々な場面でアイヌの人々と出会う環境であることを示すものといえる。生活に根ざした交流がよりさかんであるという点は〈和人〉以外の２グループについても同様である。たとえば、〈配偶者

がアイヌの血筋の者〉では、「近所付き合い」「職場付き合い」「その他」が同率50.0％、また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、数値の高い順に、「近所付き合い」47.7％、「職場付き合い」45.5％、「趣味の付き合い」と「学生時代からの付き合い」がともに25.0％、「子どもを介した付き合い」と「その他」がともに18.2％、「インターネットを介した付き合い」2.3％となっており、札幌市では回答ゼロであった「近所付き合い」が上位を占める。ただし、〈本人がアイヌの血筋の者〉における交流内容は「その他」100.0％となっている。ここで、「その他」の内容を確認すると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉における「その他」は身内付き合い、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉における「その他」は旧友、職場、親戚、法事、町内会行事、〈本人がアイヌの血筋の者〉における「その他」もまた身内付き合いである。したがって、〈本人がアイヌの血筋の者〉は、プライベートなつながりを中心とする交流を行っていることがうかがわれる。

そこで、世代毎にさらに詳しく考察する。札幌市から順に見ていこう。〈和人〉について「交流あり」が最も高比率のものとその次のものを並べると、青年層では、「趣味の付き合い」と「その他」が同率28.6％、「職場付き合い」と「子どもを介した付き合い」と「学生時代からの付き合い」が同率14.3％、壮年層では、「職場付き合い」50.0％、「その他」40.0％、老年層では、「その他」46.7％、「近所付き合い」と「職場付き合い」が同率20.0％となる。青年層と壮年層では「近所付き合い」はゼロである。こうした状況は、一般に職業生活や家庭生活の比重が年代によって異なることに対応していると考えられる。つまり、青年層では趣味、仕事、家庭、友人との付き合いが幅広くなされているが、壮年層では仕事中心の暮らしとなり、老年層では退職等により仕事の比重が下がり、地域での生活の比重が高まるということである。〈和人〉以外のグループを見ると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の老年層では「その他」100.0％であり、その内容は、先に述べたように、妻である。また、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層では「職場付き合い」25.0％、「その他」75.0％であり、「その他」の内容は、これも先に示したように、アイヌ文化資料館に行く、父の仕事関係で会ったことがある、親戚にアイヌの血が入っている方がいる、である。同・老年層では「その他」100.0％であるが、その具体的内容についての記述はない。

次いで、むかわ町について見る。むかわ町の〈和人〉についても、上と同じく、「交流あり」が最も高比率のものとその次のものを抜き出すと、青年層では、「職場付き合い」50.0％、「近所付き合い」34.6％、壮年層では、「職場付き合い」50.5％、「近所付き合い」48.4％、老年層では、「近所付き合い」48.5％、「職場付き合い」29.8％となっている。３世代とも「近所付き合い」と「職場付き合い」が１位２位を占めているが、就労世代である青年層と壮年層では「職場付き合い」の比率がより高く、リタイヤ世代である老年層では「近所付き合い」の方がより多くなされている。〈和人〉以外のグループでは、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層において「近所付き合い」「職場付き合い」「その他」が同率50.0％、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈本人がアイヌの血筋の者〉の老年層ではそれぞれ「その他」100.0％である。「その他」の内容を確認すると、いずれも身内の付き合いであり、自身あるいは配偶者がアイヌの血筋である者にとっては、家族や親族を通じての内輪の付き合いをしているものの、それに「交流」という語を当てることには若干の迷いがあるということだと思われる。これに対して、〈家族や親戚を通してアイヌ文

化に関する知識を得た者〉においては相対的により多様な交流が実践されている。最も数値が高いものとその次に高いものをあげると、青年層では、「職場付き合い」66.7％、「近所付き合い」50.0％、壮年層では、「職場付き合い」60.0％、「近所付き合い」と「学生時代からの付き合い」がともに46.7％、老年層では、「近所付き合い」47.8％、「職場付き合い」と「趣味の付き合い」と「その他」が同率30.4％である。「その他」の内容は、旧友、職場、法事、町内会であり、日常生活の中の一場面としてあげられているように見受けられる。

こうしてみると、札幌市では、世代による交流内容の分散傾向がより高いのに対して、むかわ町では、各世代の交流内容において「近所付き合い」と「職場付き合い」が必ず上位を占めているという違いがある。しかしながら、両地域の〈和人〉とむかわ町の〈和人〉以外のグループの一部では、青年層と壮年層においては「近所付き合い」より「職場付き合い」の比率が高く、逆に老年層では「近所付き合い」の比重が高まってくることが指摘される。年代によるライフスタイルの違いが交流内容の違いに影響していると考えられる。

表１－２－１　アイヌの人々との交流の内容（複数回答）（アイヌ性別・世代別）・札幌

	度数（年齢層毎の応答者数の％）						合計
	近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	0 (0.0)	1 (14.3)	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (21.9)
和人壮年層	0 (0.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	10 (31.3)
和人老年層	3 (20.0)	3 (20.0)	2 (13.3)	0 (0.0)	2 (13.3)	7 (46.7)	15 (46.9)
和人　計	3 (9.4)	9 (28.1)	4 (12.5)	1 (3.1)	4 (12.5)	13 (40.6)	32 (100.0)
配偶者（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族（青）	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	4 (80.0)
家族（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
家族（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (20.0)
家族　計	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (80.0)	5 (100.0)

注）インターネットは回答者ゼロなので欄を削除。

表１－２－２　アイヌの人々との交流の内容（複数回答）（和人・世代別）・むかわ

	度数（年齢層毎の応答者数の％）							合計
	近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネットを介した付き合い	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	9 (34.6)	13 (50.0)	5 (19.2)	8 (30.8)	0 (0.0)	7 (26.9)	2 (7.7)	26 (9.0)
和人壮年層	45 (48.4)	47 (50.5)	6 (6.5)	24 (25.8)	0 (0.0)	29 (31.2)	15 (16.1)	93 (32.1)
和人老年層	83 (48.5)	51 (29.8)	31 (18.1)	11 (6.4)	0 (0.0)	32 (18.7)	29 (17.0)	171 (59.0)
和人　計	137 (47.2)	111 (38.3)	42 (14.5)	43 (14.8)	0 (0.0)	68 (23.4)	46 (15.9)	290 (100.0)
本人（壮）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (50.0)
本人（老）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (50.0)
本人　計	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
配偶者（壮）	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	3 (50.0)	4 (66.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (13.6)
家族（壮）	7 (46.7)	9 (60.0)	2 (13.3)	5 (33.3)	0 (0.0)	7 (46.7)	1 (6.7)	15 (34.1)
家族（老）	11 (47.8)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	7 (30.4)	23 (52.3)
家族　計	21 (47.7)	20 (45.5)	11 (25.0)	8 (18.2)	1 (2.3)	11 (25.0)	8 (18.2)	44 (100.0)

以上、札幌市とむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流の全体的な状況を見てきた。次節以降では、56.2%が「交流あり」と回答しているむかわ町の住民について、次に掲げる６つの視点からアイヌの人々との交流状況をさらに探る。その６つの視点とは、「ジェンダー」「地域への根づき方」「地域における諸活動」「職業生活」「個人としてのアイヌ文化の経験」「市民としてのアイヌ文化への関心」である。札幌市における交流人口は上で確認したようにきわめて少なく、これら６項目についてクロス集計をして得られた数値を見ると、その大小やそれが意味するところを判断することは難しい。したがって、以下においては、むかわ町住民に焦点を当て検討を行う。

第２節　むかわ町における交流

第１項　ジェンダー

それでは、ジェンダーという視点から交流状況を見ていこう。社会において男性と女性がそれぞれ位置づけられている立場の違いは交流にいかなる影響を及ぼしているのだろうか。

まず、交流頻度について見る（表１－３）。「交流あり」の比率を男女別に整理すると、青年層（以下、青年層、壮年層、老年層と単独表記の場合は〈和人〉を指すものとする）では、男性32.5%、女性23.3%、壮年層では、男性55.4%、女性43.8%、老年層では、男性73.5%、女性55.5%となり、３世代すべてにおいて男性優位となっている[2)]。では、どういった内容の交流において男性の優位が顕著なのだろうか（表１－４）。

第一に指摘しなければならないのは、「職場付き合い」「趣味の付き合い」については３世代とも男性の「交流あり」の数値が女性の数値を上回っていることである。とくに、「職場付き合い」の数値は、青年層では男性25.0%、女性10.0%、壮年層では男性40.5%、女性19.1%、老年層では男性28.3%、女性14.8%となっており、男性の数値は女性のほぼ２倍以上に達する。また、男性が女性に増して幅広く交流を行っている場面も認められる。注目されるのは「近所付き合い」である。青年層では男性の数値の方が高く（男性17.5%、女性6.7%）、壮年層と老年層では女性の数値の方が高い（壮年層の男性27.0%、女性28.1%、老年層の男性31.9%、女性35.9%）。女性の数値が高いことは、家事や育児の主な担い手である女性が家事の延長としての近所付き合いの担い手でもあることを示すものといえるが、それでも、壮年層における男女の比率が拮抗している点に注目したい。札幌市のような大都市圏とは異なり近隣の付き合いが日頃より濃密であろうことを斟酌する必要はあるとしても、働き盛りの壮年層男性としてこの数値は十分に高いといえるのではないだろうか。アイヌの人々が身近に暮らす地であり、交流にわざわざ「参加する」という形をとらずとも、日々の暮らしに交流が組み込まれ得る環境があることが、男性参加の多さを支えていると推察される。全体として男性優位であるなかで、女性の「交流あり」の比率が男性より高いのは、青年層と壮年層における「子どもを介した付き合い」である。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層においてジェンダー差は見られず、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層と老年層および〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層においては、女性よりも男性において交流頻度が高いという結果となっており、男性優位の状況といえる。「職場付き合い」、「近所付き合い」の比率を確認すると、〈配

偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層においては、男性の数値の方が高いという結果である。

表１－３　アイヌの人々との交流×ジェンダー（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	男性	9 (22.5)	4 (10.0)	6 (15.0)	21 (52.5)	0 (0.0)	40 (100.0)
	女性	3 (10.0)	4 (13.3)	7 (23.3)	15 (50.0)	1 (3.3)	30 (100.0)
和人壮年層	男性	18 (24.3)	23 (31.1)	12 (16.2)	18 (24.3)	3 (4.1)	74 (100.0)
	女性	12 (13.5)	27 (30.3)	16 (18.0)	31 (34.8)	3 (3.4)	89 (100.0)
和人老年層	男性	41 (36.3)	42 (37.2)	15 (13.3)	12 (10.6)	3 (2.7)	113 (100.0)
	女性	28 (21.9)	43 (33.6)	29 (22.7)	20 (15.6)	8 (6.3)	128 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	男性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	男性	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	女性	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	男性	3 (30.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	女性	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
家族（老）	男性	8 (50.0)	6 (37.5)	0 (0.0)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	女性	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－４　アイヌの人々との交流内容×ジェンダー（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	男性	7 (17.5)	10 (25.0)	3 (7.5)	4 (10.0)	0 (0.0)	3 (7.5)	1 (2.5)	40 (100.0)
	女性	2 (6.7)	3 (10.0)	2 (6.7)	4 (13.3)	0 (0.0)	4 (13.3)	1 (3.3)	30 (100.0)
和人壮年層	男性	20 (27.0)	30 (40.5)	6 (8.1)	8 (10.8)	0 (0.0)	22 (29.7)	7 (9.5)	74 (100.0)
	女性	25 (28.1)	17 (19.1)	0 (0.0)	16 (18.0)	0 (0.0)	7 (7.9)	8 (9.0)	89 (100.0)
和人老年層	男性	36 (31.9)	32 (28.3)	20 (17.7)	7 (6.2)	0 (0.0)	19 (16.8)	17 (15.0)	113 (100.0)
	女性	46 (35.9)	19 (14.8)	10 (7.8)	4 (3.1)	0 (0.0)	13 (10.2)	12 (9.4)	128 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	男性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	男性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	男性	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者　計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	男性	1 (33.3)	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	女性	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	男性	5 (50.0)	7 (70.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	女性	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
家族（老）	男性	9 (56.3)	6 (37.5)	4 (25.0)	3 (18.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	5 (31.3)	16 (100.0)
	女性	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (22.2)	9 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第２項　地域への根づき方

次に、交流状況を地域への根づき方という視点から見ていく。その際、地域への根づき方の指標として、本人の来住時期、定住志向の２つに着目する。その地に長く暮らしている者において「交流あり」の比率がより高いといえるのだろうか。また、「ずっと住みたい」と回答する者において、「交流あり」の比率は高いのだろうか。これらの問いはアイヌ集住地であるむかわ町の住民の交流に深く関わるものといえる。

（１）来住時期

表１－５は本人の来住時期、つまり、地元生まれ・育ちかどうかを示したものである。生まれてからずっと居住する者において「交流あり」の数値は明らかに高い。各世代の「交流あり」を来住時期別に見ると、青年層では、「生まれてからずっと」32.4％、「明治～平成に来住」24.2％、壮年層では、「生まれてからずっと」67.1％、「明治～平成に来住」35.5％、老年層では、「生まれてからずっと」68.7％、「明治～平成に来住」61.4％である。とくに壮年層では、来住時期による交流頻度の差は大きく、約30ポイントの開きがある。来住先がアイヌ集住地である場合は、その地で暮らす時間の長さがアイヌの人々とのより多くの交流をもたらしていると見ることができる。

では、来住時期によって交流内容は異なるのだろうか。地元生まれ・育ちの者の「交流あり」の比率がそうではない者より高い項目が明らかに多い。３世代すべてに関して該当するのは、「近所付き合い」「学生時代からの付き合い」である（表１－６）。「交流あり」の数値をあげるならば、「近所付き合い」については、青年層では、「生まれてからずっと」16.2％、「明治～平成に来住」9.1％、壮年層では、「生まれてからずっと」42.9％、「明治～平成に来住」16.1％、老年層では、「生まれてからずっと」37.5％、「明治～平成に来住」32.4％である。また、「学生時代からの付き合い」については、青年層では、「生まれてからずっと」16.2％、「明治～平成に来住」3.0％、壮年層では、「生まれてからずっと」34.3％、「明治～平成に来住」5.4％、老年層では、「生まれてからずっと」20.8％、「明治～平成に来住」8.3％である。隣近所との付き合いや、地元の小・中学校時代に始まるつながりは、土地に根づいているからこそ可能な交流であることが示されたといえる。また、３世代中２世代において地元生まれ・育ちの者の「交流あり」の比率が高いものとして、「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」がある。これらの結果が示すように、地元に生まれ育った者の交流内容はそうでない者に比して圧倒的に多様に展開されている。

〈和人〉以外のグループの場合は、〈和人〉とは異なり、生まれてからずっと居住している者において「交流あり」の比率が確実に高く、交流内容が確実に多彩であるということはない。すでに身内や親しい関係者として身近にアイヌの人々がいる状況であれば、交流が来住時期によって左右されることは少ないのは当然といえるだろう。

表１－５　アイヌの人々との交流×来住時期（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	誕生以来	8 (21.6)	4 (10.8)	8 (21.6)	17 (45.9)	0 (0.0)	37 (100.0)
	明治～平成	4 (12.1)	4 (12.1)	5 (15.2)	19 (57.6)	1 (3.0)	33 (100.0)
和人壮年層	誕生以来	21 (30.0)	26 (37.1)	11 (15.7)	9 (12.9)	3 (4.3)	70 (100.0)
	明治～平成	9 (9.7)	24 (25.8)	17 (18.3)	40 (43.0)	3 (3.2)	93 (100.0)
和人老年層	誕生以来	32 (33.3)	34 (35.4)	18 (18.8)	8 (8.3)	4 (4.2)	96 (100.0)
	明治～平成	37 (25.5)	52 (35.9)	26 (17.9)	23 (15.9)	7 (4.8)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	誕生以来	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	誕生以来	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	誕生以来	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	明治～平成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	誕生以来	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	明治～平成	3 (27.3)	4 (36.4)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (0.0)	11 (100.0)
家族（老）	誕生以来	5 (38.5)	4 (30.8)	1 (7.7)	1 (7.7)	2 (15.4)	13 (100.0)
	明治～平成	6 (50.0)	5 (41.7)	1 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－６　アイヌの人々との交流内容×来住時期（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	誕生以来	6 (16.2)	7 (18.9)	3 (8.1)	4 (10.8)	0 (0.0)	6 (16.2)	1 (2.7)	37 (100.0)
	明治～平成	3 (9.1)	6 (18.2)	2 (6.1)	4 (12.1)	0 (0.0)	1 (3.0)	1 (3.0)	33 (100.0)
和人壮年層	誕生以来	30 (42.9)	27 (38.6)	6 (8.6)	14 (20.0)	0 (0.0)	24 (34.3)	6 (8.6)	70 (100.0)
	明治～平成	15 (16.1)	20 (21.5)	0 (0.0)	10 (10.8)	0 (0.0)	5 (5.4)	9 (9.7)	93 (100.0)
和人老年層	誕生以来	36 (37.5)	20 (20.8)	12 (12.5)	4 (4.2)	0 (0.0)	20 (20.8)	11 (11.5)	96 (100.0)
	明治～平成	47 (32.4)	31 (21.4)	19 (13.1)	6 (4.1)	0 (0.0)	12 (8.3)	18 (12.4)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	明治～平成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	誕生以来	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	明治～平成	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	誕生以来	1 (25.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	明治～平成	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	誕生以来	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	明治～平成	4 (36.4)	6 (54.5)	1 (9.1)	2 (18.2)	0 (0.0)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
家族（老）	誕生以来	6 (46.2)	4 (30.8)	3 (23.1)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	3 (23.1)	13 (100.0)
	明治～平成	5 (41.7)	3 (25.0)	4 (33.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	4 (33.3)	12 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（2）定住志向

次いで、定住志向に目を移そう。「交流あり」の数値を定住志向別に並べると、青年層では、「ずっと住みたい」29.6％、「移りたい」42.8％、「移る予定あり」10.0％、「わからない」23.6％、壮年層では、「ずっと住みたい」57.3％、「移りたい」53.1％、「移る予定あり」35.3％、「わからない」28.0％、老年層では、「ずっと住みたい」69.8％、「移りたい」55.0％、「移る予定あり」50.0％、「わからない」41.7％となる（表１－７）。壮年層と老年層においては定住志向を持つ者において「交流あり」の比率が最も高い。この時、青年層では「移りたい」と回答する者の比率が最も高い[3)]。その理由としては、先に見たように、青年層の交流の中心は「近所付き合い」ではなく「職場付き合い」であり、彼らにとっての定住志向とはおそらく地元好きという程度の意味であって、地域での多様な交流を多く経験しているわけではないということではないだろうか。逆に言えば、年長世代における定住志向とは地域に根ざすことを志向することであり、ゆえに、アイヌの人々との交流を含め地域の人々との交流への積極的な姿勢があると考えられる。さらに、３世代に共通する点を探すと、「ずっと住みたい」と「移る予定あり」を比べたときに、「ずっと住みたい」と回答する者において、「移る予定あり」と回答する者よりも、「交流あり」の数値が高いということはいえる。「移る予定あり」が、転居が具体的に計画されているという意味だとするなら、アイヌの人々との交流を含めた周囲の人々との交流規模が縮小される途上にあるとも考えられる。それに比べると「移りたい」という回答には願望も含まれていると考えられるため、実際の交流頻度が必ずしも低調ではない場合もあると見ることができる。

では、交流内容を見ていこう。上で示したように、各世代の交流内容においては、「近所付き合い」と「職場付き合い」が主要な位置を占めているが、この２つについて「交流あり」の数値の高い１位と２位を見ると、３世代とも、「ずっと住みたい」と回答する者と「移りたい」と回答する者のいずれかとなる（表１－８）。「近所付き合い」については、青年層では、「ずっと住みたい」18.5％、「移りたい」21.4％、壮年層では、「ずっと住みたい」34.1％、「移りたい」28.1％、老年層では、「ずっと住みたい」37.9％、「移りたい」40.0％である。また、「職場付き合い」については、青年層では、「ずっと住みたい」22.2％、「移りたい」28.6％、壮年層では、「ずっと住みたい」36.6％、「移りたい」28.1％、老年層では、「ずっと住みたい」22.2％、「移りたい」20.0％である。この他にも、「ずっと住みたい」あるいは「移りたい」と回答する者の方がより多くの交流を行っている項目が少なからずあり、全体として見ると、定住志向を持つ者と他所へ移りたいと考える者の違いはそれほど明確ではない。しかし、「移る予定あり」、すなわちその地を去ることが確実な者における交流内容の相対的な低調さは明らかである。「移りたい」という願望はあるとしても、そこで暮らす限りは地域住民としての多様な交流関係は維持される（されざるを得ない）状況にあることがわかる。交流が選択的、選好的におこなわれ得るものであるかどうかの違いが大きく関わっていると思われる。

〈和人〉以外のグループについて見ると、定住志向が交流のあり方に一定の影響を与えている様子は認められない。「移る予定あり」「わからない」と回答する者においても交流頻度がとくに低くなることはなく、交流の種類が格段に減るわけでもない。来住時期を含めて「地域への根づき方」によって交流が影響されるのは主に〈和人〉の方といえる。

表１－７　アイヌの人々との交流×定住志向（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	ずっと住みたい	4 (14.8)	4 (14.8)	8 (29.6)	10 (37.0)	1 (3.7)	27 (100.0)
	移りたい	5 (35.7)	1 (7.1)	3 (21.4)	5 (35.7)	0 (0.0)	14 (100.0)
	移る予定あり	0 (0.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	7 (70.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	わからない	2 (11.8)	2 (11.8)	0 (0.0)	13 (76.5)	0 (0.0)	17 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	ずっと住みたい	23 (28.0)	24 (29.3)	18 (22.0)	14 (17.1)	3 (3.7)	82 (100.0)
	移りたい	4 (12.5)	13 (40.6)	4 (12.5)	11 (34.4)	0 (0.0)	32 (100.0)
	移る予定あり	0 (0.0)	6 (35.3)	0 (0.0)	11 (64.7)	0 (0.0)	17 (100.0)
	わからない	3 (12.0)	4 (16.0)	6 (24.0)	12 (48.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
	不明	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	1 (14.3)	3 (42.9)	7 (100.0)
和人老年層	ずっと住みたい	57 (31.3)	70 (38.5)	35 (19.2)	12 (6.6)	8 (4.4)	182 (100.0)
	移りたい	3 (15.0)	8 (40.0)	2 (10.0)	7 (35.0)	0 (0.0)	20 (100.0)
	移る予定あり	1 (16.7)	2 (33.3)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	わからない	6 (25.0)	4 (16.7)	5 (20.8)	8 (33.3)	1 (4.2)	24 (100.0)
	不明	2 (18.2)	3 (27.3)	1 (9.1)	3 (27.3)	2 (18.2)	11 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	ずっと住みたい	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	ずっと住みたい	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	移りたい	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	ずっと住みたい	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	ずっと住みたい	2 (18.2)	4 (36.4)	2 (8.2)	2 (18.2)	1 (9.1)	11 (100.0)
	移りたい	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	ずっと住みたい	7 (38.9)	8 (44.4)	0 (0.0)	1 (5.6)	2 (11.1)	18 (100.0)
	移りたい	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－８　アイヌの人々との交流の内容×定住志向（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	ずっと	5 (18.5)	6 (22.2)	0 (0.0)	5 (18.5)	0 (0.0)	2 (7.4)	1 (3.7)	27 (100.0)
	移りたい	3 (21.4)	4 (28.6)	2 (14.3)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (7.1)	1 (7.1)	14 (100.0)
	移る予定	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	わからない	0 (0.0)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	17 (100.0)
	不明	1 (12.9)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	ずっと	28 (34.1)	30 (36.6)	6 (7.3)	14 (17.1)	0 (0.0)	22 (26.8)	9 (11.0)	82 (100.0)
	移りたい	9 (28.1)	9 (28.1)	0 (0.0)	6 (18.8)	0 (0.0)	5 (15.6)	3 (9.4)	32 (100.0)
	移る予定	2 (11.8)	2 (11.8)	0 (0.0)	3 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.8)	17 (100.0)
	わからない	6 (24.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	1 (4.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
	不明	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	7 (100.0)

和人老年層	ずっと	69 (37.9)	40 (22.0)	31 (17.0)	9 (4.9)	0 (0.0)	25 (13.7)	24 (13.2)	182 (100.0)
	移りたい	8 (40.0)	4 (20.0)	0 (0.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	3 (15.0)	1 (5.0)	20 (100.0)
	移る予定	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	わからない	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0.0)	1 (4.2)	0 (0.0)	2 (8.3)	3 (12.5)	24 (100.0)
	不明	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	ずっと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	ずっと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	移りたい	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	ずっと	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	ずっと	2 (18.2)	5 (45.5)	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (0.0)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
	移りたい	2 (66.7)	3 (100.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	移る予定	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	わからない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	ずっと	9 (50.0)	4 (22.2)	4 (22.2)	3 (16.7)	1 (5.6)	2 (11.1)	7 (38.9)	18 (100.0)
	移りたい	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	移る予定	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	わからない	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第３項　地域における諸活動

ここでは、アイヌの人々との交流を、地域における諸活動、具体的には近所付き合いと自治会活動という２つの視点から確認する。日常的に近隣との付き合いが濃密であれば、アイヌの人々との交流もその一環として増えるのだろうか。また、自治会活動への参加は、地域住民としてのアイヌの人々と知り合う機会を増やし、そこから交流が生まれることにつながるのだろうか。

（１）近所付き合い

表１－９を見ると、近所付き合いを密に行っている者においては、アイヌの人々との交流もより多く行われていることがはっきりと認められる。「交流あり」の数値が高い順にあげていくと、青年層では、「互いの家を行き来する」100.0％、「会った際に世間話をする」37.5％、「会えば挨拶する」23.1％、「近所付き合いはない」0.0％、壮年層では、「互いの家を行き来する」66.7％、「会った際に世間話をする」59.3％、「会えば挨拶する」42.9％、「近所付き合いはない」11.1％、老年層では、「互いの家を行き来する」77.4％、「会った際に世間話をする」68.7％、「会えば挨拶する」56.5％、「近所付き合いはない」50.0％であり、３世代すべてにおいてこのことがいえる。

続いて、交流内容を見よう。近所付き合いの程度によって交流の内容は異なるのだろうか（表１－10）。たとえば、アイヌの人々との「近所付き合い」に関しては、青年層では、「近所付き合いはない」0.0％、「会えば挨拶する」2.6％、「会った際に世間話をする」29.2％、「互いの家

を行き来する」50.0％、壮年層では、「近所付き合いはない」0.0％、「会えば挨拶する」13.0％、「会った際に世間話をする」42.4％、「互いの家を行き来する」66.7％、老年層では、「近所付き合いはない」33.3％、「会えば挨拶する」25.9％、「会った際に世間話をする」39.1％、「互いの家を行き来する」45.2％であり、３世代すべてにおいて、「互いの家を行き来する」ほどの付き合いをする者において「交流あり」の数値が最も高い。そして、近所付き合いが深まるにしたがって「交流あり」の数値が概ね順当に上昇する。それ以外の交流についても、「互いの家を行き来する」者において「交流あり」の数値が他３者より高い傾向が見られる。ただし、〈和人〉以外のグループについては、より親密な近所付き合いが行われているところにより多彩で活発な交流が成立しているとはいえないという結果であり、身内の縁や個人的なきっかけを得て交流が行われていることがわかる。

表１－９　アイヌの人々との交流×近所付き合い（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	付き合い無	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	会えば挨拶	5 (12.8)	4 (10.3)	9 (23.1)	20 (51.3)	1 (2.6)	39 (100.0)
	世間話	6 (25.0)	3 (12.5)	4 (16.7)	11 (45.8)	0 (0.0)	24 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	付き合い無	0 (0.0)	1 (11.1)	2 (22.2)	6 (66.7)	0 (0.0)	9 (100.0)
	会えば挨拶	10 (13.0)	23 (29.9)	12 (15.6)	30 (39.0)	2 (2.6)	77 (100.0)
	世間話	14 (23.7)	21 (35.6)	11 (18.6)	12 (20.3)	1 (1.7)	59 (100.0)
	家を行き来	6 (40.0)	4 (26.7)	3 (20.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	15 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
和人老年層	付き合い無	0 (0.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	会えば挨拶	14 (16.5)	34 (40.0)	19 (22.4)	15 (17.6)	3 (3.5)	85 (100.0)
	世間話	39 (33.9)	40 (34.8)	19 (16.5)	14 (12.2)	3 (2.6)	115 (100.0)
	家を行き来	15 (48.4)	9 (29.0)	4 (12.9)	1 (3.2)	2 (6.5)	31 (100.0)
	不明	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	3 (50.0)	6 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	会えば挨拶	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	世間話	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	会えば挨拶	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	会えば挨拶	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	世間話	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	付き合い無	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	会えば挨拶	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	世間話	3 (33.3)	3 (33.3)	1 (11.1)	1 (11.1)	1 (11.1)	9 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	会えば挨拶	0 (0.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	世間話	9 (56.3)	5 (31.3)	1 (6.3)	1 (6.3)	0 (0.0)	16 (100.0)
	家を行き来	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－10　アイヌの人々との交流の内容×近所付き合い（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	付き合い無	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	会えば挨拶	1 (2.6)	6 (15.4)	3 (7.7)	1 (2.6)	0 (0.0)	3 (7.7)	0 (0.0)	39 (100.0)
	世間話	7 (29.2)	6 (25.0)	1 (4.2)	5 (20.8)	0 (0.0)	3 (12.5)	2 (8.3)	24 (100.0)
	家を行き来	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	付き合い無	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)
	会えば挨拶	10 (13.0)	17 (22.1)	0 (0.0)	7 (9.1)	0 (0.0)	9 (11.7)	4 (5.2)	77 (100.0)
	世間話	25 (42.4)	22 (37.3)	4 (6.8)	13 (22.0)	0 (0.0)	14 (23.7)	8 (13.6)	59 (100.0)
	家を行き来	10 (66.7)	6 (40.0)	2 (13.3)	4 (26.7)	0 (0.0)	5 (33.3)	1 (6.7)	15 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	3 (100.0)
和人老年層	付き合い無	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	会えば挨拶	22 (25.9)	18 (21.2)	10 (11.8)	3 (3.5)	0 (0.0)	11 (12.9)	6 (7.1)	85 (100.0)
	世間話	45 (39.1)	25 (21.7)	13 (11.3)	5 (4.3)	0 (0.0)	15 (13.0)	19 (16.5)	115 (100.0)
	家を行き来	14 (45.2)	6 (19.4)	8 (25.8)	2 (6.5)	0 (0.0)	4 (12.9)	3 (9.7)	31 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	会えば挨拶	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	世間話	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	会えば挨拶	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	会えば挨拶	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	世間話	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	付き合い無	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	会えば挨拶	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	世間話	5 (55.6)	5 (55.6)	0 (0.0)	4 (44.4)	0 (0.0)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
	家を行き来	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	会えば挨拶	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	世間話	9 (56.3)	4 (25.0)	4 (25.0)	3 (18.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	5 (31.3)	16 (100.0)
	家を行き来	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（２）自治会活動

続けて取り上げるのは自治会活動である。自治会活動は近所付き合いのような偶然的で選好的な付き合いとは異なり、活動内容や活動範囲が定められたなかで、地域への奉仕としておこなわれる性質のものである。表１－11を見ると、３世代とも「積極的に参加している」と回答する者における「交流あり」の比率が最も高くなっている点は共通する。しかし、壮年層・老年層と青年層ではやや異なる傾向が認められる。すなわち、「交流あり」の比率を見ると、青年層では、「積極的に参加している」55.5％、「ある程度参加している」26.1％、「あまり参加していない」17.7％、「まったく参加していない」28.5％、壮年層では、「積極的に参加している」72.8％、「ある程度参加している」52.0％、「あまり参加していない」41.4％、「まったく参加していない」33.4％、老年層では、「積極的に参加している」78.8％、「ある程度参加している」68.0％、

「あまり参加していない」39.0％、「まったく参加していない」41.7％となっており、壮年層と老年層では「積極的に参加している」と「ある程度参加している」が１位と２位を占めている。アイヌ集住地において積極的に自治会活動に参加することは、地域住民であるアイヌの人々と知り合い、交流を育てることに直結するものと考えられる。このとき、青年層においては「まったく参加していない」と回答する者の「交流あり」の比率が高めであることについては、地域活動が主に年長世代によって担われており、青年層にとって自治会という場の比重が小さいことから説明されよう[4)]。

次に交流内容であるが、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」の計５項目について、「積極的に参加している」者において「交流あり」と回答する比率が最も高い（表１－12）。「交流あり」の数値が、積極度が高くなるのに応じて上昇している項目も少なくない。自治会活動への参加状況とアイヌの人々との交流とは密に連動しているといえる。しかしながら、こうした規則性は〈和人〉以外のグループの人々については当てはまらない。

表１－11　アイヌの人々との交流×自治会活動への参加（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	積極的	4 (44.4)	1 (11.1)	2 (22.2)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
	ある程度	4 (17.4)	2 (8.7)	5 (21.7)	12 (52.2)	0 (0.0)	23 (100.0)
	あまりせず	2 (11.8)	1 (5.9)	4 (23.5)	10 (58.8)	0 (0.0)	17 (100.0)
	参加せず	2 (9.5)	4 (19.0)	2 (9.5)	12 (57.1)	1 (4.8)	21 (100.0)
和人壮年層	積極的	10 (45.5)	6 (27.3)	3 (13.6)	2 (9.1)	1 (4.5)	22 (100.0)
	ある程度	16 (20.8)	24 (31.2)	12 (15.6)	24 (31.2)	1 (1.3)	77 (100.0)
	あまりせず	3 (7.3)	14 (34.1)	9 (22.0)	14 (34.1)	1 (2.4)	41 (100.0)
	参加せず	1 (4.8)	6 (28.6)	4 (19.0)	9 (42.9)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
和人老年層	積極的	33 (50.0)	19 (28.8)	8 (12.1)	4 (6.1)	2 (3.0)	66 (100.0)
	ある程度	32 (26.2)	51 (41.8)	24 (19.7)	10 (8.2)	5 (4.1)	122 (100.0)
	あまりせず	2 (4.9)	14 (34.1)	10 (24.4)	13 (31.7)	2 (4.9)	41 (100.0)
	参加せず	2 (16.7)	3 (25.0)	2 (16.7)	5 (41.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	あまりせず	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	積極的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	積極的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	積極的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	3 (30.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	あまりせず	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	参加せず	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	積極的	4 (57.1)	1 (14.3)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
	ある程度	6 (37.5)	7 (43.8)	1 (6.3)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－12　アイヌの人々との交流の内容×自治会活動への参加（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	積極的	4 (44.4)	3 (33.3)	3 (33.3)	5 (55.6)	0 (0.0)	3 (33.3)	2 (22.2)	9 (100.0)
	ある程度	2 (8.7)	5 (21.7)	1 (4.3)	2 (8.7)	0 (0.0)	1 (4.3)	0 (0.0)	23 (100.0)
	あまりせず	1 (5.9)	2 (11.8)	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (100.0)
	参加せず	2 (9.5)	3 (14.3)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	3 (14.3)	0 (0.0)	21 (100.0)
和人壮年層	積極的	11 (50.0)	8 (36.4)	4 (18.2)	6 (27.3)	0 (0.0)	9 (40.9)	3 (13.6)	22 (100.0)
	ある程度	26 (33.8)	25 (32.5)	2 (2.6)	13 (16.9)	0 (0.0)	11 (14.3)	5 (6.5)	77 (100.0)
	あまりせず	8 (19.5)	6 (14.6)	0 (0.0)	5 (12.2)	0 (0.0)	7 (17.1)	6 (14.6)	41 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人老年層	積極的	30 (45.5)	15 (22.7)	12 (18.2)	4 (6.1)	0 (0.0)	12 (18.2)	10 (15.2)	66 (100.0)
	ある程度	45 (36.9)	25 (20.5)	16 (13.1)	7 (5.7)	0 (0.0)	16 (13.1)	15 (12.3)	122 (100.0)
	あまりせず	5 (12.2)	9 (22.0)	3 (7.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.9)	4 (9.8)	41 (100.0)
	参加せず	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	あまりせず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	積極的	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者　計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	積極的	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	積極的	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	3 (30.0)	6 (60.0)	2 (20.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	6 (60.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	あまりせず	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	参加せず	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	積極的	4 (57.1)	5 (71.4)	2 (28.6)	2 (28.6)	1 (14.3)	1 (14.3)	3 (42.9)	7 (100.0)
	ある程度	6 (37.5)	2 (12.5)	5 (31.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.3)	4 (25.0)	16 (100.0)
	あまりせず	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第４項　職業生活

本節では、職業によって交流状況がどのように異なるのかを見ていく。職場は、アイヌの人々と知り合い、共に働くことで交流が生まれ得る環境の一つである。いかなる職業においてアイヌの人々との交流が盛んに行われているのだろうか。

まず、交流頻度を見る。むかわ町の回答者の職業構成上、札幌市との一番の違いは農林水産的職業従事者の存在（札幌市では農林水産的職業従事者はゼロである）であり、「交流あり」と回答される職業の種類が札幌市よりも多い（表１－13）。「交流あり」の比率が高い職業を探ると、青年層では、「保安的」100.0％、「農林水産的」66.7％、「販売的」50.0％、「サービス的」

25.0％、「事務的」20.0％、「専門・技術的」9.1％、壮年層では、「運輸・通信的」75.0％、「技能工」と「管理的」が66.7％、「その他」が57.1％、「農林水産的」が51.7％、「事務的」50.0％、「専門・技術的」31.6％、「販売的」25.0％、「サービス的」20.0％、老年層では、「技能工」87.5％、「運輸・通信的」80.0％、「販売的」75.0％、「その他」71.5％、「事務的」66.6％、「農林水産的」64.0％、「サービス的」58.3％、「専門・技術的」54.6％、「管理的」40.0％であり、これだけを見ると、ブルーカラー職従事者においてより多くの交流がもたれていると確言できるほどの傾向は見られない。しかし、ここで、交流が「よくある」と回答した者に限って、その数値の高い職業上位３位までを取り出すと、青年層では、「販売的」「農林水産的」「サービス的」、壮年層では、「運輸・通信的」「農林水産的」「技能工」、老年層では、「販売的」「その他」「運輸・通信的」(「その他」を除くと「事務的」)となる。ここから、アイヌの人々との交流がより多いのはブルーカラー職と見ることができるだろう。むかわ町の場合は、「農林水産的」職業の存在が大きい[5)]。

では、交流内容を職業別に見るとどのような特徴があるのだろうか。３世代とも、ほぼすべての交流内容に関して「交流あり」の数値が高いのはブルーカラー職である（表１－14）。ホワイトカラー職も「職場付き合い」に加えていろいろな交流場面を経験しているが、ブルーカラー職には及ばない。〈和人〉以外のグループについて職業を見ると、ホワイトカラー職、ブルーカラー職ともにいるが、〈和人〉において見られたような交流状況の違いは見られない。

表１－13　アイヌの人々との交流×職業（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	事務的	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	7 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	販売的	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	1 (9.1)	2 (18.2)	7 (63.6)	1 (9.1)	11 (100.0)
	農林水産的	5 (41.7)	3 (25.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
	サービス的	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	4 (16.7)	2 (8.3)	3 (12.5)	15 (62.5)	0 (0.0)	24 (100.0)
和人壮年層	事務的	2 (11.1)	7 (38.9)	1 (5.6)	8 (44.4)	0 (0.0)	18 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	5 (62.5)	1 (12.5)	8 (100.0)
	技能工	1 (16.7)	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	運輸・通信的	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	6 (31.6)	5 (26.3)	7 (36.8)	1 (5.3)	19 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	農林水産的	10 (34.5)	5 (17.2)	8 (27.6)	6 (20.7)	0 (0.0)	29 (100.0)
	サービス的	1 (10.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	5 (50.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	その他	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	13 (22.8)	20 (35.1)	9 (15.8)	12 (21.1)	3 (5.3)	57 (100.0)
和人老年層	事務的	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	技能工	2 (25.0)	5 (62.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	運輸・通信的	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	1 (9.1)	5 (45.5)	2 (18.2)	3 (27.3)	0 (0.0)	11 (100.0)
	管理的	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)

	農林水産的	6 (24.0)	10 (40.0)	6 (24.0)	1 (4.0)	2 (8.0)	25 (100.0)
	サービス的	3 (25.0)	4 (33.3)	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
	その他	9 (42.9)	6 (28.6)	4 (19.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	21 (100.0)
	不明	42 (28.2)	52 (34.9)	28 (18.8)	20 (13.4)	7 (4.7)	149 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	技能工	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	運輸・通信的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	事務的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	事務的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	事務的	0 (0.0)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	運輸・通信的	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	サービス的	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
家族（老）	事務的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	農林水産的	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	その他	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	不明	8 (47.1)	6 (35.3)	1 (5.9)	1 (5.9)	1 (5.9)	17 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－14　アイヌの人々との交流の内容×職業（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	事務的	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	1 (100.0)	10 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	販売的	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	0 (0.0)	2 (18.2)	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)
	農林水産的	3 (25.0)	6 (50.0)	2 (16.7)	4 (33.3)	0 (0.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	サービス的	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	3 (12.5)	2 (8.3)	1 (4.2)	2 (8.3)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
和人壮年層	事務的	3 (16.3)	5 (27.8)	1 (5.6)	4 (22.2)	0 (0.0)	6 (33.3)	0 (0.0)	18 (100.0)
	保安的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	2 (25.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	技能工	2 (33.3)	3 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	6 (100.0)
	運輸・通信的	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	専門・技術的	2 (10.5)	3 (15.8)	0 (0.0)	3 (15.8)	0 (0.0)	2 (10.5)	2 (10.5)	19 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	3 (100.0)

和人老年層	農林水産的	11 (37.9)	10 (34.5)	2 (6.9)	4 (13.8)	0 (0.0)	6 (20.7)	4 (13.8)	29 (100.0)
	サービス的	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	その他	2 (28.6)	5 (71.4)	0 (0.0)	2 (28.6)	0 (0.0)	2 (28.6)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	21 (36.8)	15 (26.3)	2 (3.5)	9 (15.8)	0 (0.0)	9 (15.8)	6 (10.5)	57 (100.0)
	事務的	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
	技能工	6 (75.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
	運輸・通信的	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	専門・技術的	3 (27.3)	3 (27.3)	0 (0.0)	2 (18.2)	0 (0.0)	3 (27.3)	1 (9.1)	11 (100.0)
	管理的	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	5 (100.0)
	農林水産的	9 (36.0)	5 (20.0)	2 (8.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	2 (8.0)	3 (12.0)	25 (100.0)
	サービス的	4 (33.3)	4 (33.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	12 (100.0)
	その他	9 (42.9)	5 (23.8)	5 (23.8)	2 (9.5)	0 (0.0)	3 (14.3)	3 (14.3)	21 (100.0)
	不明	48 (32.2)	25 (16.8)	19 (12.8)	4 (2.7)	0 (0.0)	19 (12.8)	16 (10.7)	149 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	技能工	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	運輸・通信的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	事務的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	事務的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	販売的	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	事務的	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	販売的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	技能工	0 (0.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	運輸・通信的	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	専門・技術的	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	管理的	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	農林水産的	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	サービス的	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (20.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族（老）	事務的	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	技能工	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
	農林水産的	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	その他	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	8 (47.1)	4 (23.5)	4 (23.5)	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (23.5)	17 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第５項　個人としてのアイヌ文化の経験

さて、個人としてのアイヌ文化の経験は交流の仕方にどのような影響をもたらしているのだろうか。アイヌの文化を学んだり体験したりした経験と交流との関係に焦点を当て、「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」「学校でアイヌの文化を体験した経験」「アイヌ文化に関する知識」「アイヌ文化に関する体験」「アイヌ文化に関する体験への希望」の５点に関して見ていく。アイヌの歴史や文化についての知識を獲得し、アイヌの文化に触れる体験をし、さらにアイヌの文化に触れることへの積極的な意志を持つことは、アイヌの人々への関心や親密さの表れと見るこ

とができるが、果たしてそれは交流を豊かにすることにつながっているのだろうか。

（1）学校でアイヌの歴史を学んだ経験

はじめに、学校教育における学びの経験という点から見ていく。学校でアイヌの歴史を学んだ経験の有無と交流状況を整理したものが表1－15である[6]。「交流あり」の数値は、青年層では、「経験あり」34.6％、「経験なし」26.2％、壮年層では、「経験あり」37.7％、「経験なし」57.8％、老年層では、「経験あり」73.9％、「経験なし」62.9％であり、青年層と老年層においては、経験を持つ者において「交流あり」の数値が高くなっている。壮年層においては、経験を持つことがより多くの交流をもたらすことにはなっていない。その理由を解明するためには他の条件とも関わらせてさらに探っていく必要があるだろう。

続いて、学んだ経験の有無によって交流の内容に違いがあるのかを確認するならば、「経験あり」と回答する者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表1－16）。「職場付き合い」と「趣味の付き合い」については、3世代とも、「経験あり」の者において「交流あり」の数値が最も高くなっている。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層と老年層に限っては、経験を持つことが多くの交流に結び付いている（壮年層では「経験あり」83.3％、「経験なし」61.6％、老年層では「経験あり」100.0％、「経験なし」78.2％）。ちなみに〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層において、学校でアイヌの歴史を学んだ経験を持つ者は31.6％、老年層では8.0％である。当該グループの場合、自身や配偶者がアイヌの血筋である者に比べると、アイヌの人々との距離を縮める何かがさらに必要であると考えるならば、アイヌの歴史を学んだ経験がそれにあたるということではないだろうか。ただし、交流内容については、「経験あり」と「経験なし」の違いを見出すことは難しい。

表1－15　アイヌの人々との交流×学校でアイヌの歴史を学んだ（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	経験あり	8 (30.8)	1 (3.8)	6 (23.1)	11 (42.3)	0 (0.0)	26 (100.0)
	経験なし	4 (9.5)	7 (16.7)	6 (14.3)	24 (57.1)	1 (2.4)	42 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	経験あり	7 (13.2)	13 (24.5)	12 (22.6)	19 (35.8)	2 (3.8)	53 (100.0)
	経験なし	22 (22.7)	34 (35.1)	13 (13.4)	26 (26.8)	2 (2.1)	97 (100.0)
	不明	1 (7.7)	3 (23.1)	3 (23.1)	4 (30.8)	2 (15.4)	13 (100.0)
和人老年層	経験あり	5 (21.7)	12 (52.2)	3 (13.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	23 (100.0)
	経験なし	58 (28.7)	69 (34.2)	39 (19.3)	29 (14.4)	7 (3.5)	202 (100.0)
	不明	6 (33.3)	6 (33.3)	2 (11.1)	0 (0.0)	4 (22.2)	18 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	経験なし	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	経験ない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	経験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	経験あり	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	経験なし	1 (33.3)	3 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)

家族（壮）	経験あり	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	経験なし	3 (23.1)	5 (38.5)	2 (15.4)	2 (15.4)	1 (7.7)	13 (100.0)
家族（老）	経験あり	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	経験なし	9 (39.1)	9 (39.1)	2 (8.7)	1 (4.3)	2 (8.7)	23 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－16　アイヌの人々との交流の内容×学校でアイヌの歴史を学んだ（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	経験あり	5 (19.2)	7 (26.9)	2 (7.7)	4 (15.4)	0 (0.0)	1 (3.8)	2 (7.7)	26 (100.0)
	経験なし	3 (7.1)	6 (14.3)	3 (7.1)	4 (9.5)	0 (0.0)	6 (14.3)	0 (0.0)	42 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	経験あり	14 (26.4)	16 (30.2)	3 (5.7)	8 (15.1)	0 (0.0)	12 (22.6)	7 (13.2)	53 (100.0)
	経験なし	30 (30.9)	29 (29.9)	3 (3.1)	15 (15.5)	0 (0.0)	16 (16.5)	7 (7.2)	97 (100.0)
	不明	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	1 (7.7)	13 (100.0)
和人老年層	経験あり	10 (43.5)	8 (34.8)	5 (21.7)	1 (4.3)	0 (0.0)	4 (17.4)	2 (8.7)	23 (100.0)
	経験なし	64 (31.7)	40 (19.8)	25 (12.4)	9 (4.5)	0 (0.0)	27 (13.4)	24 (11.9)	202 (100.0)
	不明	9 (50.0)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (5.6)	3 (16.7)	18 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	経験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	経験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	経験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	経験あり	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	経験なし	2 (66.7)	2 (66.7)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（壮）	経験あり	3 (50.0)	4 (66.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	経験なし	4 (30.8)	5 (38.5)	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	4 (30.8)	1 (7.7)	13 (100.0)
家族（老）	経験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
	経験なし	11 (47.8)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	5 (21.7)	23 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（２）学校でアイヌの文化を体験した経験

ここでは、学校における文化体験に注目する。学校でアイヌ文化を体験した経験率を世代毎に確認すると、「体験あり」は青年層11.4％、壮年層8.0％、老年層3.3％であり、３世代すべてにおいて「体験なし」の比率の方が高く、その開きは、青年層では「体験あり」の7.8倍、壮年層では同11.2倍、老年層では同27.9倍にのぼる[7]。このような状況における「交流あり」の数値を見ると、青年層では、「体験あり」37.5％、「体験なし」27.4％、壮年層では、「体験あり」38.5％、「体験なし」50.3％、老年層では、「体験あり」87.5％、「体験なし」62.8％であり、青年層と老年層においては、「体験あり」と回答する者において「交流あり」の数値がより高く、壮年層においてはその逆、という結果である（表１－17）。これは、上記「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」に関してむかわ町の〈和人〉の世代的な特徴として指摘されたことと同じであり、さらに探る必要があろう。交流内容については、「体験あり」と回答する者において「交流あり」の数

値が高い項目が多い傾向はみられないという結果である（表１－18）。

〈和人〉以外のグループについて、学校でのアイヌ文化体験の経験有無を問うと、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉においては「体験なし」の者しかおらず、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉についても、「体験あり」は青年層では16.7％、壮年層では10.5％、老年層では12.0％であり、〈和人〉よりやや高い程度である。「学校でアイヌの歴史を学んだ経験」の場合とは異なり、アイヌの文化を体験したことが交流の頻度・内容に関してどのような影響を持つのかを見出すことはできない。

表１－17　アイヌの人々との交流×学校でアイヌの文化を体験（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	体験あり	3 (37.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	体験なし	9 (14.5)	8 (12.9)	12 (19.4)	32 (51.6)	1 (1.6)	62 (100.0)
和人壮年層	体験あり	1 (7.7)	4 (30.8)	1 (7.7)	7 (53.8)	0 (0.0)	13 (100.0)
	体験なし	29 (20.0)	44 (30.3)	26 (17.9)	41 (28.3)	5 (3.4)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
和人老年層	体験あり	2 (25.0)	5 (62.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	体験なし	64 (28.7)	76 (34.1)	43 (19.3)	32 (14.3)	8 (3.6)	223 (100.0)
	不明	3 (25.0)	6 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	12 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	体験なし	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	体験なし	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	体験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族（壮）	体験あり	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	6 (37.5)	6 (37.5)	2 (12.5)	1 (6.3)	1 (6.3)	16 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	体験あり	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	体験なし	8 (38.1)	9 (42.9)	2 (9.5)	1 (4.8)	1 (4.8)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－18　アイヌの人々との交流の内容×学校でアイヌの文化を体験（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	体験あり	3 (37.5)	1 (12.5)	2 (25.0)	2 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	8 (100.0)
	体験なし	6 (9.7)	12 (19.4)	3 (4.8)	6 (9.7)	0 (0.0)	7 (11.3)	0 (0.0)	62 (100.0)
和人壮年層	体験あり	3 (23.1)	4 (30.8)	0 (0.0)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	1 (7.7)	13 (100.0)
	体験なし	42 (29.0)	41 (28.3)	6 (4.1)	22 (15.2)	0 (0.0)	27 (18.6)	13 (9.0)	145 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
和人老年層	体験あり	3 (37.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	体験なし	74 (33.2)	45 (20.2)	28 (12.6)	10 (4.5)	0 (0.0)	29 (13.0)	27 (12.1)	223 (100.0)
	不明	6 (50.0)	3 (25.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	0 (0.0)	3 (25.0)	1 (8.3)	12 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	体験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	2 (40.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族（壮）	体験あり	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	6 (37.5)	9 (56.3)	2 (12.5)	5 (31.3)	0 (0.0)	7 (43.8)	1 (6.3)	16 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	体験あり	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	3 (100.0)
	体験なし	10 (47.6)	6 (28.6)	7 (33.3)	2 (9.5)	1 (4.8)	1 (4.8)	4 (19.0)	21 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（３）アイヌ文化に関する知識

続いて、アイヌ文化に関する知識の有無と交流のありようとの関係を見る。知識を得る場は学校だけに限らないからである。まず、アイヌ文化に関する知識の有無を各世代について確かめると、アイヌ文化を「知っている」は、青年層51.4％、壮年層54.6％、老年層41.6％である。３世代ともおおよそ半数が知識を持っていると答えており、世代間の差は少ない[8)]。これは、学校でアイヌの歴史を学ぶ経験を持たなくても、その後何らかの機会を得てアイヌの文化に関する知識を獲得した者が少なからずいることを示している。

こうした状況をふまえて「交流あり」の比率を知識の有無の別に見ると、青年層では、「知っている」36.1％、「知らない」20.6％、壮年層では、「知っている」51.7％、「知らない」48.4％、老年層では、「知っている」69.4％、「知らない」60.6％となり、３世代ともアイヌ文化に関する知識を持つ者において「交流あり」の数値はより高い（表１－19）。交流内容を各項目について見たとき、知識を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表１－20）。この傾向は全世代にいえることである。なかでも、「職場付き合い」「趣味の付き合い」「学生時代からの付き合い」の３つに関しては、３世代すべてにおいて、「知っている」と回答する者の比率の方が高くなっている。この場合、アイヌ文化に関する知識の有無が交流のあり方を規定する一方で、交流を持つことによって知識が増え、知識が増えたことでさらに交流が盛んに行われるという効果も当然考えられるだろう。

〈和人〉以外のグループについてはどうだろうか。〈和人〉と比較すると、アイヌの知識を持つ者の比率がそもそも全体として高く、「知らない」と回答する者は、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の壮年層と、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の壮年層に見られるだけである。〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉について知識の有無をさらに世代毎に見ると、青年層83.3％、壮年層89.5％、老年層92.0％が「知っている」と回答している。こうした状況であることから、アイヌ文化の知識の有無による交流実態の違いを取り出すことは難しいという結果である。

表１－19　アイヌの人々との交流×アイヌ文化の知識有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	知っている	7 (19.4)	6 (16.7)	8 (22.2)	15 (41.7)	0 (0.0)	36 (100.0)
	知らない	5 (14.7)	2 (5.9)	5 (14.7)	21 (61.8)	1 (2.9)	34 (100.0)
和人壮年層	知っている	17 (19.1)	29 (32.6)	17 (19.1)	24 (27.0)	2 (2.2)	89 (100.0)
	知らない	13 (20.3)	18 (28.1)	9 (14.1)	22 (34.4)	2 (3.1)	64 (100.0)
	不明	0 (0.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	10 (100.0)
和人老年層	知っている	35 (34.7)	35 (34.7)	16 (15.8)	11 (10.9)	4 (4.0)	101 (100.0)
	知らない	26 (25.0)	37 (35.6)	21 (20.2)	18 (17.3)	2 (1.9)	104 (100.0)
	不明	8 (21.1)	15 (39.5)	7 (18.4)	3 (7.9)	5 (13.2)	38 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	知っている	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	知っている	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	知らない	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	知っている	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	知っている	6 (35.3)	7 (41.2)	2 (11.8)	1 (5.9)	1 (5.9)	17 (100.0)
	知らない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	知っている	11 (47.8)	9 (39.1)	1 (4.3)	1 (4.3)	1 (4.3)	23 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－20　アイヌの人々との交流の内容×アイヌ文化の知識有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	知っている	4 (11.1)	8 (22.2)	4 (11.1)	4 (11.1)	0 (0.0)	5 (13.9)	2 (5.6)	36 (100.0)
	知らない	5 (14.7)	5 (14.7)	1 (2.9)	4 (11.8)	0 (0.0)	2 (5.9)	0 (0.0)	34 (100.0)
和人壮年層	知っている	27 (30.3)	29 (32.6)	4 (4.5)	17 (19.1)	0 (0.0)	17 (19.1)	7 (7.9)	89 (100.0)
	知らない	17 (26.6)	15 (23.4)	2 (3.1)	7 (10.9)	0 (0.0)	11 (17.2)	6 (9.4)	64 (100.0)
	不明	1 (10.0)	3 (30.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	10 (100.0)
和人老年層	知っている	39 (38.6)	24 (23.8)	21 (20.8)	4 (4.0)	0 (0.0)	16 (15.8)	13 (12.9)	101 (100.0)
	知らない	29 (27.9)	19 (18.3)	8 (7.7)	5 (4.8)	0 (0.0)	14 (13.5)	11 (10.6)	104 (100.0)
	不明	15 (39.5)	8 (21.1)	2 (5.3)	2 (5.3)	0 (0.0)	2 (5.3)	5 (13.2)	38 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	知っている	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	知っている	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	知らない	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	知っている	3 (60.0)	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	知っている	6 (35.3)	9 (52.9)	2 (11.8)	5 (29.4)	0 (0.0)	7 (41.2)	1 (5.9)	17 (100.0)
	知らない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	知っている	10 (43.5)	7 (30.4)	7 (30.4)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (8.7)	7 (30.4)	23 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	(100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	(100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（４）アイヌ文化に関する体験

では、アイヌ文化に関する「知識」ではなく、アイヌ文化に関する「体験」を持つことはアイヌの人々とのより豊かな交流に結び付いているのだろうか[9)]。「交流あり」を体験の有無によって整理すると、青年層では、「体験あり」22.2％、「体験なし」29.5％、壮年層では、「体験あり」60.8％、「体験なし」48.1％、老年層では、「体験あり」77.7％、「体験なし」62.1％となる（表１－21）。壮年層および老年層において、体験を持つ者において「交流あり」の数値が高い。このことから、青年層においては、アイヌ文化に関する体験の有無によって交流頻度はあまり左右されないが、年長世代では、体験を持つことが交流を持つことにつながっていることがわかる。同時に、交流の経験を重ねることがアイヌ文化に関する体験を増やすことになっている場合もあるだろう。

それぞれの交流内容についてみると、体験を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表１－22）。その項目とは、青年層では「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」、壮年層では「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、老年層では「近所付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」「学生時代からの付き合い」（「その他」を除く）であり、「近所付き合い」と「趣味の付き合い」に関しては全世代おいて、「職場付き合い」については青年層と壮年層において、「子どもを介した付き合い」では壮年層と老年層において、「体験あり」と回答する者の比率の方が高くなっている。

和人以外のグループのうち、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉では、〈和人〉と同じく、青年層では体験の有無による差が見られず、壮年層と老年層では「交流あり」の比率が「体験あり」と回答する者においてより高くなっているが、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉については体験の有無の影響を見出すことはできない。

表１－21　アイヌの人々との交流×アイヌの文化の体験有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	体験あり	2 (22.2)	0 (0.0)	2 (22.2)	5 (55.6)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	10 (16.4)	8 (13.1)	11 (18.0)	31 (50.8)	1 (1.6)	61 (100.0)
和人壮年層	体験あり	3 (13.0)	11 (47.8)	5 (21.7)	3 (13.0)	1 (4.3)	23 (100.0)
	体験なし	26 (20.5)	35 (27.6)	20 (15.7)	43 (33.9)	3 (2.4)	127 (100.0)
	不明	1 (7.7)	4 (30.8)	3 (23.1)	3 (23.1)	2 (15.4)	13 (100.0)
和人老年層	体験あり	12 (33.3)	16 (44.4)	3 (8.3)	4 (11.1)	1 (2.8)	36 (100.0)
	体験なし	44 (27.3)	56 (34.8)	33 (20.5)	23 (14.3)	5 (3.1)	161 (100.0)
	不明	13 (28.3)	15 (32.6)	8 (17.4)	5 (10.9)	5 (10.9)	46 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	体験あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	体験なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

家族（壮）	体験あり	2 (22.2)	6 (66.7)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	4 (50.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	2 (25.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	体験あり	7 (53.8)	5 (38.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	13 (100.0)
	体験なし	2 (28.6)	3 (42.9)	1 (14.3)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
	不明	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－22　アイヌの人々との交流の内容×アイヌの文化の体験有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	体験あり	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (22.2)	9 (100.0)
	体験なし	7 (11.5)	11 (18.0)	3 (4.9)	7 (11.5)	0 (0.0)	7 (11.5)	0 (0.0)	61 (100.0)
和人壮年層	体験あり	7 (30.4)	9 (39.1)	2 (8.7)	8 (34.8)	0 (0.0)	2 (8.7)	3 (13.0)	23 (100.0)
	体験なし	37 (29.1)	33 (26.0)	4 (3.1)	15 (11.8)	0 (0.0)	25 (19.7)	11 (8.7)	127 (100.0)
	不明	1 (7.7)	5 (38.5)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	2 (15.4)	1 (7.7)	13 (100.0)
和人老年層	体験あり	14 (38.9)	7 (19.4)	11 (30.6)	3 (8.3)	0 (0.0)	7 (19.4)	6 (16.7)	36 (100.0)
	体験なし	53 (32.9)	33 (20.5)	15 (9.3)	7 (4.3)	0 (0.0)	23 (14.3)	18 (11.2)	161 (100.0)
	不明	16 (34.8)	11 (23.9)	5 (10.9)	1 (2.2)	0 (0.0)	2 (4.3)	5 (10.9)	46 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	体験なし	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	体験あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	体験なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	体験あり	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	体験なし	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	体験あり	5 (55.6)	6 (66.7)	1 (11.1)	2 (22.2)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
	体験なし	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	体験あり	6 (46.2)	1 (7.7)	5 (38.5)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (7.7)	4 (30.8)	13 (100.0)
	体験なし	4 (57.1)	4 (57.1)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (100.0)
	不明	1 (20.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（５）アイヌ文化に関する体験への希望

さらに、「体験」の有無ではなく、「体験希望」の有無という点から見るとどうだろうか。アイヌ文化に関する体験への希望を持つことが、交流状況に何らかの影響を及ぼすことはあるのだろうか。これは経験ではなく積極的な意志の有無を問うものである[10)]。「交流あり」の比率を体験希望の有無によって整理すると、青年層では、「希望あり」30.8％、「希望なし」28.6％、壮年層では、「希望あり」56.7％、「希望なし」47.7％、老年層では、「希望あり」71.8％、「希望なし」61.1％である（表１－23）。これを見ると、３世代すべてにおいて、「交流あり」の数値は「希望あり」の者において高い。このように、全世代について、体験希望を持つ者において交流

頻度がより高い。

そこで、アイヌ文化に関する体験希望の有無と交流内容をまとめたものを見てみよう。「希望あり」と回答する者における「交流あり」の数値がより高い項目を見ていくと（「その他」を除く）、青年層では、「近所付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、壮年層では、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「子どもを介した付き合い」、老年層では、「近所付き合い」「職場付き合い」「趣味の付き合い」「学生時代からの付き合い」となり、希望を持つ者において「交流あり」の数値がより高い項目が相対的に多い（表１－24）。「近所付き合い」「趣味の付き合い」については３世代、「職場付き合い」については壮年層と老年層において、「希望あり」の数値が「希望なし」を上回っている。この場合、アイヌ文化に関する体験希望の有無に関しても、体験の有無の場合と同じく、体験することへの関心がより多くの交流をもたらすと同時に、交流を重ねることによってアイヌ文化に関する体験への関心が増す、という両方の効果があることが推察されよう。

〈和人〉以外のグループについて見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉における体験希望者の比率は36.0％であり、〈和人〉の各世代よりは数値は高いが、「交流あり」の数値が、体験の希望を持つ者においてより高いということはない。ただし、「近所付き合い」と「趣味の付き合い」については３世代において「希望あり」と回答する者の「交流あり」の数値の方が高くなっている。

表１－23　アイヌの人々との交流×アイヌ文化の体験希望有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	希望あり	2 (15.4)	2 (15.4)	2 (15.4)	6 (46.2)	1 (7.7)	13 (100.0)
	希望なし	10 (17.9)	6 (10.7)	11 (19.6)	29 (51.8)	0 (0.0)	56 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
和人壮年層	希望あり	6 (16.2)	15 (40.5)	5 (13.5)	9 (24.3)	2 (5.4)	37 (100.0)
	希望なし	23 (21.1)	29 (26.6)	18 (16.5)	36 (33.0)	3 (2.8)	109 (100.0)
	不明	1 (5.9)	6 (35.3)	5 (29.4)	4 (23.5)	1 (5.9)	17 (100.0)
和人老年層	希望あり	17 (37.0)	16 (34.8)	7 (15.2)	6 (13.0)	0 (0.0)	46 (100.0)
	希望なし	33 (23.7)	52 (37.4)	29 (20.9)	21 (15.1)	4 (2.9)	139 (100.0)
	不明	19 (32.8)	19 (32.8)	8 (13.8)	5 (8.6)	7 (12.1)	58 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	希望あり	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	不明	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	希望なし	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	希望あり	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	希望なし	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	希望あり	0 (0.0)	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	希望なし	5 (50.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
	不明	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
家族（老）	希望あり	4 (36.4)	6 (54.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (9.1)	11 (100.0)
	希望なし	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	6 (60.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (24.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－24　アイヌの人々との交流の内容×アイヌ文化の体験希望有無（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	希望あり	4 (30.8)	2 (15.4)	2 (15.4)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	13 (100.0)
	希望なし	5 (8.9)	11 (19.6)	3 (5.4)	6 (10.7)	0 (0.0)	7 (12.5)	0 (0.0)	56 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
和人壮年層	希望あり	13 (35.1)	14 (37.8)	3 (8.1)	7 (18.9)	0 (0.0)	6 (16.2)	4 (10.8)	37 (100.0)
	希望なし	30 (27.5)	28 (25.7)	3 (2.8)	16 (14.7)	0 (0.0)	21 (19.3)	9 (8.3)	109 (100.0)
	不明	2 (11.8)	5 (29.4)	0 (0.0)	1 (5.9)	0 (0.0)	2 (11.8)	2 (11.8)	17 (100.0)
和人老年層	希望あり	18 (39.1)	13 (28.3)	11 (23.9)	2 (4.3)	0 (0.0)	9 (19.6)	2 (4.3)	46 (100.0)
	希望なし	45 (32.4)	26 (18.7)	12 (8.6)	7 (5.0)	0 (0.0)	19 (13.7)	17 (12.2)	139 (100.0)
	不明	20 (34.5)	12 (20.7)	8 (13.8)	2 (3.4)	0 (0.0)	4 (6.9)	10 (17.2)	58 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	希望あり	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	希望なし	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	希望あり	2 (100.0)	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	希望なし	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	希望あり	3 (60.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	希望なし	3 (30.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
	不明	1 (25.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
家族（老）	希望あり	6 (54.5)	2 (18.2)	4 (36.4)	1 (9.1)	0 (0.0)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (100.0)
	希望なし	2 (50.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
	不明	3 (30.0)	3 (30.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (40.0)	10 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

第６項　市民としてのアイヌ文化への関心

最後に、アイヌ文化保存への意志、アイヌ文化保存の主体についての考え方、白老の国立の施設を設置することへの賛否という３点から交流状況をみる。上で見たのは、アイヌの歴史や文化への個人的関わり、個人的関心のありようであるが、ここで注目するのは、社会の一員としての意識である。アイヌの歴史や文化をどのように守っていくべきと考えるのか。こうした関心のありようによって交流状況は変わってくるのだろうか。

（１）アイヌ文化保存への賛同意志

まず、文化保存への賛同意志という点から見ていく。「交流あり」の数値を文化保存への賛同の程度という点から見ると、青年層では、「そう思う」33.3％、「ある程度そう思う」24.3％、「あまり思わない」33.3％、「思わない」33.3％、壮年層では、「そう思う」58.5％、「ある程度そう思う」47.5％、「あまり思わない」43.7％、「思わない」42.9％、老年層では、「そう思う」75.6％、「ある程度そう思う」64.3％、「あまり思わない」50.0％、「思わない」44.4％となる（表１－25）[11)]。これを見ると、壮年層と老年層においては、より強く賛同する者において「交流あり」の比率がより高くなっている。アイヌ文化に関する知識、体験、体験希望の有無について

は、それらがより多くの交流を促すと同時に、より多くの交流がもたれることが知識や体験を増やし、体験希望を強くするという効果が推察されたが、このアイヌ文化保存への賛同意志についても同じことが考えられよう。一方、青年層においては保存への賛同の程度にかかわらず、「交流あり」の数値にはあまり変動がない。青年層における交流は、市民としての意識とは関係なく、というより、むしろ、アイヌ文化保存への無関心を抱えたまま行われている側面があるのではないか。

次に交流内容について見る。半数超の交流について、「そう思う」と回答する者において「交流あり」の数値が最も高い（表１－26）。これは３世代すべてに認められる傾向であり、交流毎に「そう思う」の数値をひろっていくと（「その他」を除く）、青年層では、「職場付き合い」33.3％、「趣味の付き合い」25.0％、「子どもを介した付き合い」16.7％（「あまりそう思わない」と同率）、「学生時代からの付き合い」25.0％、壮年層では、「職場付き合い」41.5％、「趣味の付き合い」7.3％、「子どもを介した付き合い」24.4％、「学生時代からの付き合い」24.4％、老年層では「近所付き合い」41.9％、「職場付き合い」24.3％、「趣味の付き合い」17.6％、「学生時代からの付き合い」17.6％となる。しかしながら、「そう思う」と回答する者における「交流あり」の比率が最高値を示している場合であっても、賛同の程度が強くなるにしたがって「交流あり」の数値が順に上昇するわけではない。そのような交流もあれば、そうではない交流もあり、規則性は認められない。

〈和人〉以外のグループについて、まずアイヌ文化保存への賛同意志を見る。「そう思う」「ある程度そう思う」の合計を見ると、〈本人がアイヌの血筋の者〉では100％、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では50.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉の青年層では83.3％、壮年層では68.4％、老年層では84.0％であり、〈和人〉より高い水準にある。しかしながら、賛同意志の程度が交流頻度、交流内容のありようを規定することにはなっていない。

表１－25　アイヌの人々との交流×伝統文化保存への賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	そう思う	3 (25.0)	1 (8.3)	3 (25.0)	4 (33.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	ある程度	6 (16.2)	3 (8.1)	7 (18.9)	21 (56.8)	0 (0.0)	37 (100.0)
	あまり	1 (8.3)	3 (25.0)	1 (8.3)	7 (58.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	そう思わない	2 (22.2)	1 (11.1)	2 (22.2)	4 (44.4)	0 (0.0)	9 (100.0)
和人壮年層	そう思う	6 (14.6)	18 (43.9)	5 (12.2)	10 (24.4)	2 (4.9)	41 (100.0)
	ある程度	18 (22.5)	20 (25.0)	19 (23.8)	22 (27.5)	1 (1.3)	80 (100.0)
	あまり	5 (15.6)	9 (28.1)	4 (12.5)	13 (40.6)	1 (3.1)	32 (100.0)
	そう思わない	0 (0.0)	3 (42.9)	0 (0.0)	4 (57.1)	0 (0.0)	7 (100.0)
	不明	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)	3 (100.0)
和人老年層	そう思う	30 (40.5)	26 (35.1)	11 (14.9)	5 (6.8)	2 (2.7)	74 (100.0)
	ある程度	25 (21.7)	49 (42.6)	22 (19.1)	16 (13.9)	3 (2.6)	115 (100.0)
	あまり	9 (23.7)	10 (26.3)	8 (21.1)	8 (21.1)	3 (7.9)	38 (100.0)
	そう思わない	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	2 (22.2)	1 (11.1)	9 (100.0)
	不明	3 (42.9)	0 (0.0)	1 (14.3)	1 (14.3)	2 (28.6)	7 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	そう思う	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	ある程度	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	そう思わない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	そう思う	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	そう思わない	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	そう思う	2 (25.0)	5 (62.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	ある程度	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	あまり	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	そう思わない	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（老）	そう思う	9 (60.0)	4 (26.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (6.7)	15 (100.0)
	ある程度	1 (16.7)	4 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	あまり	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	そう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		13 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－26　アイヌの人々との交流×伝統文化保存への賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	そう思う	2 (16.7)	4 (33.3)	3 (25.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	3 (25.0)	2 (16.7)	12 (100.0)
	ある程度	3 (8.1)	6 (16.2)	0 (0.0)	3 (8.1)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100.0)
	あまり	1 (8.3)	1 (8.3)	1 (8.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	思わない	3 (33.3)	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	0 (0.0)	9 (100.0)
和人壮年層	そう思う	12 (29.3)	17 (41.5)	3 (7.3)	10 (24.4)	0 (0.0)	10 (24.4)	6 (14.6)	41 (100.0)
	ある程度	20 (25.0)	23 (28.8)	2 (2.5)	6 (7.5)	0 (0.0)	13 (16.3)	7 (8.8)	80 (100.0)
	あまり	10 (31.3)	7 (21.9)	1 (3.1)	6 (18.8)	0 (0.0)	6 (18.8)	2 (6.3)	32 (100.0)
	思わない	2 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
	不明	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
和人老年層	そう思う	31 (41.9)	18 (24.3)	13 (17.6)	6 (8.1)	0 (0.0)	13 (17.6)	8 (10.8)	74 (100.0)
	ある程度	40 (34.8)	24 (20.9)	16 (13.9)	2 (1.7)	0 (0.0)	14 (12.2)	18 (15.7)	115 (100.0)
	あまり	7 (18.4)	7 (18.4)	2 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.5)	2 (5.3)	38 (100.0)
	思わない	3 (33.3)	1 (11.1)	0 (0.0)	3 (33.3)	0 (0.0)	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
	不明	2 (28.6)	1 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (14.3)	7 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	そう思う	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	ある程度	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
配偶者　計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	そう思う	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	ある程度	0 (0.0)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	思わない	1 (100.0)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	そう思う	4 (50.0)	6 (75.0)	2 (25.0)	3 (37.5)	0 (0.0)	4 (50.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	ある程度	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	あまり	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	3 (100.0)
	思わない	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族（老）	そう思う	4 (26.7)	4 (26.7)	5 (33.3)	2 (13.3)	1 (6.7)	2 (13.3)	5 (33.3)	15 (100.0)
	ある程度	5 (83.3)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	6 (100.0)
	あまり	2 (100.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	思わない	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（２）アイヌ文化保存の主体についての考え方

では、「誰が主体となってアイヌ文化を後世に残していくべきなのか」と問われたとき、どのような回答をする者がどのような交流をしているのだろうか（表１－27）[12)]。「交流あり」の数値が高い順に見ると（「その他」を除く）、青年層では「地域ごと」33.4％、「アイヌの人々」30.4％、「国として」25.9％、壮年層では「国として」55.8％、「アイヌの人々」53.1％、「地域ごと」37.7％、老年層では「アイヌの人々」71.6％、「地域ごと」48.6％、「国として」40.8％となる。世代によって傾向が異なり、青年層においては「地域ごと」と回答する者の「交流あり」の数値が最も高いのに対して、壮年層では「国として」、老年層では「アイヌの人々」との回答が優勢である。とくに、老年層の「アイヌの人々」の数値が突出して高いことが注目されるが、ここには、アイヌの人々の意志を尊重することの強調から、国の主導を待つことへの批判まで多様な意見が含まれていると推察される。日常場面でアイヌの人々との出会いや接触がある状況において、老年層の交流は、アイヌの人々自身の姿勢を問いながら実践されていると見ることができる。アイヌ文化保存の主体についての考え方の違いによって交流の内容に違いがあるのかを確認するならば、一定の傾向を見出すことは難しい（表１－28）。

〈和人〉以外のグループのアイヌ文化保存の主体についての考え方を整理すると、〈本人がアイヌの血筋の者〉壮年層・老年層はともに「国として」、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉壮年層は「アイヌの人々」、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉青年層で最も比率が高いのは「国として」、壮年層では同じく「地域ごと」、老年層では同じく「国として」である。国主導のアイヌ文化保存を期待する者が多い状況での「交流あり」の比率を見ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉については、〈和人〉における世代的特徴との共通点として、壮年層では「国として」、老年層では「アイヌの人々」の数値が最も高いことがあげられる。

表１－27　アイヌの人々との交流×伝統文化の残し方（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	アイヌの人々	4 (17.4)	3 (13.0)	5 (21.7)	11 (47.8)	1 (0.0)	23 (100.0)
	国として	5 (18.5)	2 (7.4)	4 (14.8)	16 (59.3)	0 (0.0)	27 (100.0)
	地域ごと	3 (16.7)	3 (16.7)	3 (16.7)	8 (44.4)	1 (5.6)	18 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	アイヌの人々	10 (20.4)	16 (32.7)	7 (14.3)	16 (32.7)	0 (0.0)	49 (100.0)
	国として	12 (19.7)	22 (36.1)	11 (18.0)	15 (24.6)	1 (1.6)	61 (100.0)
	地域ごと	6 (13.3)	11 (24.4)	9 (20.0)	16 (35.6)	3 (6.7)	45 (100.0)
	その他	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
和人老年層	アイヌの人々	17 (28.3)	26 (43.3)	7 (11.7)	8 (13.3)	2 (3.3)	60 (100.0)
	国として	34 (37.4)	34 (3.4)	2 (13.2)	7 (7.7)	4 (4.4)	91 (100.0)
	地域ごと	11 (16.2)	22 (32.4)	18 (26.5)	15 (22.1)	2 (2.9)	68 (100.0)
	その他	5 (41.7)	3 (25.0)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	12 (100.0)
	不明	2 (16.7)	2 (16.7)	5 (41.7)	1 (8.3)	2 (16.7)	12 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	国として	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
本人（老）	国として	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	アイヌの人々	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	アイヌの人々	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	国として	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	地域ごと	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	アイヌの人々	3 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	国として	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	地域ごと	2 (25.0)	3 (37.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
	その他	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	アイヌの人々	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	国として	5 (35.7)	7 (50.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (7.1)	14 (100.0)
	地域ごと	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	その他	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－28　アイヌの人々との交流の内容×伝統文化の残し方（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	アイヌの人々	3 (13.0)	4 (17.4)	1 (4.3)	4 (17.4)	0 (0.0)	3 (13.0)	0 (0.0)	23 (100.0)
	国として	3 (11.1)	4 (14.8)	3 (11.1)	4 (14.8)	0 (0.0)	2 (7.4)	2 (7.4)	27 (100.0)
	地域ごと	3 (16.7)	5 (27.8)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)	0 (0.0)	18 (100.0)
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	アイヌの人々	15 (30.6)	14 (28.6)	2 (4.1)	10 (20.4)	0 (0.0)	7 (14.3)	4 (8.2)	49 (100.0)
	国として	22 (36.1)	19 (31.1)	3 (4.9)	7 (11.5)	0 (0.0)	14 (23.0)	5 (8.2)	61 (100.0)
	地域ごと	6 (13.3)	13 (28.9)	1 (2.2)	5 (11.1)	0 (0.0)	7 (15.6)	5 (11.1)	45 (100.0)
	その他	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	4 (100.0)
	不明	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
和人老年層	アイヌの人々	25 (41.7)	13 (21.7)	10 (16.7)	6 (10.0)	0 (0.0)	8 (13.3)	6 (10.0)	60 (100.0)
	国として	39 (42.9)	21 (23.1)	12 (13.2)	3 (3.3)	0 (0.0)	13 (14.3)	13 (14.3)	91 (100.0)
	地域ごと	13 (19.1)	14 (20.6)	8 (11.8)	2 (2.9)	0 (0.0)	9 (13..2)	7 (10.3)	68 (100.0)
	その他	4 (33.3)	2 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)	12 (100.0)
	不明	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (16.7)	0 (0.0)	12 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	国として	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
本人（老）	国として	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	アイヌの人々	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	アイヌの人々	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	国として	3 (100.0)	3 (100.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	地域ごと	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（壮）	アイヌの人々	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
	国として	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	地域ごと	4 (50.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	2 (25.0)	1 (12.5)	8 (100.0)
	その他	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（老）	アイヌの人々	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
	国として	6 (42.9)	2 (14.3)	3 (21.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	5 (35.7)	14 (100.0)
	地域ごと	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	5 (100.0)
	その他	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	不明	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	25 (100.0)
合計		59 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	577 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

（３）白老の国立の施設を設置することへの賛否

最後に、具体的な事案としての国立施設設置についての賛否動向と交流状況との関わりを見る。「交流あり」の比率を賛否動向によって整理すると、青年層では、「賛成」23.1％、「やや賛成」29.1％、「やや反対」25.0％、「反対」33.4％、壮年層では、「賛成」54.7％、「やや賛成」45.1％、「やや反対」60.9％、「反対」25.0％、老年層では、「賛成」75.3％、「やや賛成」58.9％、「やや反対」53.6％、「反対」61.6％であり、老年層においてのみ、「賛成」と回答する者において「交流あり」の比率が最も高いだけで、どの世代においても、賛同の程度が強い者において「交流あり」の数値が順当に高くなるということにはなっていない（表１－29）[13]。

次に交流内容を見る。それぞれの交流について「交流あり」の比率が高いのはいかなる考え方の者なのだろうか。いくつか取り出してみると、たとえば、「近所付き合い」については、青年層は「反対」と回答する者、壮年層は「やや反対」と回答する者、老年層は「賛成」と回答する者、「職場付き合い」と「趣味の付き合い」では3世代とも「賛成」と回答する者において「交流あり」の数値が最も高い（表１－30）。このように、交流の内容について、施設設置の賛否の別に応じた特徴的な傾向を探り出すことは困難である。

〈和人〉以外のグループについて賛否を探ると、「賛成」と「やや賛成」の合計比率は、〈本人がアイヌの血筋の者〉の壮年層・老年層では100％、〈配偶者がアイヌの血筋の者〉では50.0％、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉青年層では66.7％、壮年層では52.6％、老年層では68.0％であり、〈和人〉以上に施設設置を歓迎しているというわけでもない。交流頻度と交流内容については、〈和人〉と同様、賛否のあり方によって説明することは難しい。

表１－29　アイヌの人々との交流×国立の施設設置賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（％）					合計
		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	不明	
和人青年層	賛成	4 (15.4)	2 (7.7)	6 (23.1)	13 (50.0)	1 (3.8)	26 (100.0)
	やや賛成	5 (20.8)	2 (8.3)	3 (12.5)	14 (58.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
	やや反対	1 (8.3)	2 (16.7)	3 (25.0)	6 (50.0)	0 (0.0)	12 (100.0)
	反対	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	3 (50.0)	0 (0.0)	6 (100.0)
	不明	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	賛成	12 (18.8)	23 (35.9)	11 (17.2)	14 (21.9)	4 (6.3)	64 (100.0)
	やや賛成	10 (16.1)	18 (29.0)	12 (19.4)	21 (33.9)	1 (1.6)	62 (100.0)
	やや反対	8 (34.8)	6 (26.1)	0 (0.0)	9 (39.1)	0 (0.0)	23 (100.0)
	反対	0 (0.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (20.0)	5 (50.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
和人老年層	賛成	33 (37.1)	34 (38.2)	13 (14.6)	7 (7.9)	2 (2.2)	89 (100.0)
	やや賛成	21 (22.1)	35 (36.8)	20 (21.1)	15 (15.8)	4 (4.2)	95 (100.0)
	やや反対	7 (25.0)	8 (28.6)	6 (21.4)	5 (17.9)	2 (7.1)	28 (100.0)
	反対	4 (30.8)	4 (30.8)	1 (7.7)	3 (23.1)	1 (7.1)	13 (100.0)
	不明	4 (22.2)	6 (33.3)	4 (22.2)	2 (11.1)	2 (11.1)	18 (100.0)
和人　計		111 (23.3)	145 (30.5)	85 (17.9)	117 (24.6)	18 (3.8)	476 (100.0)
本人（壮）	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人（老）	賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		2 (50.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	4 (100.0)

配偶者（壮）	やや賛成	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや反対	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（青）	賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	賛成	1 (25.0)	1 (25.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	やや賛成	1 (16.7)	4 (66.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	やや反対	3 (50.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	反対	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
家族（老）	賛成	6 (40.0)	6 (40.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	2 (13.3)	15 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	3 (100.0)
	反対	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
家族　計		21 (42.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	3 (6.0)	3 (6.9)	50 (100.0)
合計		136 (25.6)	163 (30.6)	91 (17.1)	121 (22.7)	21 (3.9)	532 (100.0)

表１－30　アイヌの人々との交流の内容×国立の施設設置賛否（アイヌ性別・世代別）

		度数（%）							合計
		近所付き合い	職場付き合い	趣味の付き合い	子どもを介した付き合い	インターネット	学生時代からの付き合い	その他	
和人青年層	賛成	2 (7.7)	6 (23.1)	3 (11.5)	2 (7.7)	0 (0.0)	2 (7.7)	2 (7.7)	26 (100.0)
	やや賛成	3 (12.5)	3 (12.5)	0 (0.0)	4 (16.7)	0 (0.0)	2 (8.3)	0 (0.0)	24 (100.0)
	やや反対	1 (8.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0.0)	1 (8.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
	反対	1 (16.7)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	6 (100.0)
	不明	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
和人壮年層	賛成	20 (31.3)	20 (31.3)	4 (6.3)	10 (15.6)	0 (0.0)	15 (23.4)	5 (7.8)	64 (100.0)
	やや賛成	16 (25.8)	18 (29.0)	1 (1.6)	7 (11.3)	0 (0.0)	8 (12.9)	6 (9.7)	62 (100.0)
	やや反対	8 (34.8)	7 (30.4)	1 (4.3)	7 (30.4)	0 (0.0)	4 (17.4)	3 (13.0)	23 (100.0)
	反対	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	不明	0 (0.0)	2 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	10 (100.0)
和人老年層	賛成	35 (39.3)	20 (22.5)	14 (15.7)	3 (3.4)	0 (0.0)	11 (12.4)	10 (11.2)	89 (100.0)
	やや賛成	30 (31.6)	20 (21.1)	10 (10.5)	3 (3.2)	0 (0.0)	13 (13.7)	13 (13.7)	95 (100.0)
	やや反対	7 (25.0)	2 (7.1)	4 (14.3)	1 (3.6)	0 (0.0)	2 (7.1)	3 (10.7)	28 (100.0)
	反対	5 (38.5)	2 (15.4)	1 (7.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	2 (15.4)	2 (15.4)	13 (100.0)
	不明	6 (33.3)	7 (38.9)	2 (11.1)	2 (11.1)	0 (0.0)	4 (22.2)	1 (5.6)	18 (100.0)
和人　計		137 (28.8)	111 (23.3)	42 (8.8)	43 (9.0)	0 (0.0)	68 (14.3)	46 (9.7)	476 (100.0)
本人（壮）	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
本人（老）	賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
本人　計		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
配偶者（壮）	やや賛成	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	1 (100.0)
	やや反対	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
配偶者　計		1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
家族（青）	賛成	1 (50.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや賛成	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	やや反対	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
家族（壮）	賛成	3 (75.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
	やや賛成	3 (50.0)	3 (50.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)
	やや反対	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	6 (100.0)

	反対	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
家族（老）	賛成	7 (46.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	1 (6.7)	3 (20.0)	15 (100.0)
	やや賛成	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
	やや反対	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)
	反対	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	不明	1 (33.3)	2 (66.7)	2 (66.7)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)	3 (100.0)
家族計		21 (42.0)	20 (40.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	1 (2.0)	11 (22.0)	8 (16.0)	50 (100.0)
合計		159 (29.9)	132 (24.8)	53 (10.0)	51 (9.6)	1 (0.2)	79 (14.8)	57 (10.7)	532 (100.0)

注）それぞれについて「あり」と回答した数と％を記載

おわりに

本章では、札幌市およびむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流状況、その交流を枠づけている条件を探ってきた。アイヌの人々との交流がある（「よくある」「たまにある」の合計）住民は、札幌市の3.6％、むかわ町の56.2％であり、札幌市における交流人口がきわめて少数である点が第一に指摘されなければならないだろう。以下、考察から導き出されたことを整理しておく。

まず、交流の全体像を簡単にまとめる。

はじめに〈和人〉について整理すると、札幌市においては各世代の交流頻度は３％前後であり、それほどの差は見られないのに対して、むかわ町においては、青年層から老年層へと世代が上がるに従って交流がある者の比率が、青年層約３割、壮年層約５割、老年層約６割と順当に上昇していた。交流内容を見ると、札幌市では「近所付き合い」などをおさえて「その他」の比率が最も高く、このことは、アイヌの人々にまつわる経験が「交流」というほどではない一時的・偶然的な経験としてあげられる傾向として解釈される。具体的には、芸術・文化・生活に関わる催事の鑑賞者あるいは消費者としての関心が先行しているといえる。一方、むかわ町では、「近所付き合い」の数値が最も高く、「近所付き合い」と「職場付き合い」が交流内容の中心を占めていた。このとき、これら２項目の交流に関しては、札幌市とむかわ町いずれにおいても、年代によるライフスタイルの違いが反映されていることが認められた。つまり、就労世代である青年層と壮年層においては「近所付き合い」より「職場付き合い」が中心であり、リタイヤ世代である老年層では「近所付き合い」の比重が高まってくることである。

さて、札幌市における交流人口はこのようにきわめて少ないことから、「交流あり」と回答した人々に関して、さらに多様な視点から交流状況の違いをとらえ、交流を規定する諸条件を探ることには困難があった。したがって、両地域における交流の全体像を確認したうえで、住民の半数超が交流をしているむかわ町に焦点を当て、交流に影響を与えると考えられる６項目についてさらに実態を探ることとした。その結果を以下に記す。

第１に、ジェンダーという視点から見ると、３世代すべてにおいて男性優位であった。この点については、むかわ町では、男性が「職場付き合い」に加えて、どの世代でも「近所付き合い」をそれなりにおこなっていることが男性優位の交流状況を支えていることが明らかとなった。

第２に、地域への根づき方という点から見ると、地元に生まれ育った者においては「交流あり」の比率がより高かった。来住先がアイヌ集住地である場合は、その地で暮らす時間の長さが

アイヌの人々との、より多く、より多彩な交流をもたらすことが示された。また、定住志向に関しては、壮年層と老年層に限っては、定住志向を持つ者において「交流あり」の比率が最も高かった。青年層にはそれが当てはまらなかったことについては、世代による定住志向の意味の違いを考える必要があるだろう。さらに、定住志向と交流内容については、定住志向を持つ者においてより多くの項目でよりコンスタントな交流が行われていた。その際、「移りたい」と回答する者においても定住志向を持つ者と同様の傾向を示すところがあり、この違いを十分にとらえることはできなかった。

第３に、地域における諸活動という視点から見たところ、近所付き合いを密におこなう者、自治会活動に積極的に取り組む者において「交流あり」と回答する者の比率が高い（自治会活動における「青年層」を除く）という結果であった。「互いの家を行き来する」ほどの深い近所付き合いをする者において、そして自治会活動に「積極的に参加している」者においてより多彩な内容の交流が展開されていることも確認された。選択性の低い近所付き合いに比べると自治会活動の方が意志的な活動であり、その意味で、アイヌの人々との交流のありようにより関わっているのではないかと思われる。

第４に、職業生活という点から見ると、ブルーカラー職に分類される職業においてホワイトカラー職よりも交流頻度が高いことが確認された。ブルーカラー職とホワイトカラー職それぞれの交流内容の傾向を抽出することは難しいが、ブルーカラー職に従事する者においてより多彩な内容の交流がなされている。

第５に、個人としてのアイヌ文化の経験から見ると、アイヌの歴史や文化についての知識を獲得し、アイヌの文化に触れる体験をし、さらにアイヌの文化に触れることへの積極的な意志を持つ者においてより高い交流頻度とより多彩な交流が実現される傾向が強いことが認められた。同時に、交流を持つことが、知識や体験を得ることを促し、体験への関心を喚起するという相関関係があることが推察された。

第６に、市民としてのアイヌ文化への関心という点から見ると、アイヌ文化の保存や国立の施設設置への賛否、文化保存の主体についての考え方が異なる者において、交流頻度や交流内容が各世代いろいろな形で異なっている実態は得られたが、一定の傾向を見出すところまではいかなかった。社会の一員としてのアイヌ文化への関心とは、交流の入り口というよりも、むしろ、交流するなかで徐々に明確なものとなっていく類のものかもしれない。交流の種類によっても、考え方の違いが及ぼす影響のあり方は大いに異なることが予想される。他の条件とも関わらせてさらに探っていく必要があろう。

最後に、〈和人〉以外のグループ、〈本人がアイヌの血筋の者〉〈配偶者がアイヌの血筋の者〉〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉についてまとめると、アイヌの血筋の者やアイヌ文化とより親しく接してきた者において、アイヌの人々との交流がそれぞれの地域の〈和人〉よりもさかんであることが確認された。さらに世代毎の特徴を探ると、〈家族や親戚を通してアイヌ文化に関する知識を得た者〉においては、両地域とも、青年層の交流頻度が３世代中最も高く、壮年層の交流頻度が最も低いという結果であった。青年層については、アイヌ文化に関する知識を得る過程が交流として回答されたためと思われるが、壮年層の数値の低さの要因をとらえることはできなかった。むかわ町のこれら３グループの交流状況について上記６項

目に関して検討した結果からは、一部の世代について交流の担い手が男性優位である傾向が確認された。しかし、その他の項目については、それらの影響を認めることは総じて難しかった。身内の縁や個人的なきっかけを得て交流が行われているためと考えられる。

以上、札幌市、むかわ町の住民とアイヌの人々との交流状況を考察してきた。より盛んな交流が実現されるには、地域住民として共に暮らす環境に身を置くことが基盤となることは疑いようがないが、ここでは、学校教育あるいはその他の機会を得てアイヌの歴史や文化を学び体験することがより多くの交流につながっていることに注目したい。その際、知識や体験、体験への関心を持つことが交流の入り口となると同時に、交流によって知識と体験の蓄積が促され、体験への関心の深まりが期待される点が重要である。この循環を支えることができる広い意味での教育について考えるべきではないだろうか。

札幌市については詳細な検討がかなわなかったが、今後、交流をしている少数の人々を対象とする聴き取り調査（交流の契機、内容、交流を経ての意識の変化など）をおこなうことによって、アイヌ集住地以外の地域での交流のあり方を展望することができると思われる。地域住民とアイヌの人々との交流が今後どのように展開あるいは変遷していくのか、継続的な探究が求められる。

注

1）アイヌ性のうち、〈本人がアイヌの血筋の者〉と〈配偶者がアイヌの血筋の者〉の判定は自由回答にもとづいており、厳密な血筋によってアイヌと判断しているわけではない。自分のことをアイヌと見なしている場合や、アイヌとの交流を尋ねる質問に対して身内やきょうだいをあげている場合、さらにアイヌの家系、家族で育っている場合には〈本人がアイヌの血筋の者〉と判断した。また、アイヌとの交流を尋ねる質問に対して妻や夫をあげている場合は〈配偶者がアイヌの血筋の者〉と判断した。〈家族や親戚からアイヌ文化に関する知識を得た者〉については、「アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか」という質問に対する回答として、「家族や親戚」という選択肢を選んだ者を自動的にこのグループとしている。

2）札幌市では「交流あり」の男女別比率が、青年層では、男性2.2％、女性3.5％、壮年層では、男性2.2％、女性2.3％、老年層では、男性6.6％、女性1.7％となり、老年層においてのみわずかなジェンダー差が認められる。老年層はリタイヤ世代であるため、男性も様々な交流場面に顔を出せるようになることが考えられる。

3）札幌市における青年層の「交流あり」の比率は、「ずっと住みたい」3.2％、「移りたい」0.0％、「移る予定あり」8.3％、「わからない」0.0％となっている。

4）札幌市についても、老年層においてのみ自治会活動への積極度の高低による交流頻度の違いが認められ、積極度が高い者において「交流あり」の数値が順当に高くなっている（「積極的に参加している」15.4％、「ある程度参加している」4.6％、「あまり参加していない」3.2％、「まったく参加していない」0.0％）。自治会活動は、近所付き合いに比べれば、自然発生的な性質のものというよりは、地域の人々との交流への前向きな姿勢が求められる活動である。そうした姿勢を持つことが、アイヌの人々と相対的により多くの交流をおこなうことに結びついていると考えられる。

5）なお、この傾向は札幌市についても同様であり、「交流あり」の数値が高い順に職業を並べると、ブルーカラーに分類される職業がほとんどを占めている（青年層では、「技能工」25.0％、「その他」20.0％、「サービス的」5.3％、「専門・技術的」3.8％、壮年層では、「運輸・通信的」14.3％、「技能工」7.7％、「その他」5.9％、「サービス的」5.6％、老年層では、「販売的」12.5％、「技能工」11.1％、「その他」4.5％）。また、札幌市における職業毎の交流内容の特徴をとらえることは困難ではあるが、「職場付き合い」に注目すると、「交流あり」の数値がゼロではない職業はすべてブルーカラー職であるという点は指摘できる。このことから、ブルーカラー職においては、職場付き合いの水準の交流が成立しやすいことが推察される。

6）学校でアイヌの歴史を学んだ経験を持つ者の比率を世代毎に確認すると、「経験あり」は、青年層37.1％、壮年層32.5％、老年層9.5％である。札幌市以上に経験を持たない者の割合が高い（札幌市における「経験あり」は、青年層59.5％、壮年層39.7％、老年層17.9％）。

7）学校でのアイヌ文化の体験状況は、札幌市以上に経験者の比率が低いという実態である（札幌市の「体験あり」は、青年層19.8％、壮年層16.1％、老年層6.1％）。

8）札幌市の「知っている」は、青年層56.5％、壮年層57.1％、老年層51.5％である。

9）アイヌ文化に関する体験の有無を世代別に見ていくと、「体験あり」は、青年層12.9％、壮年層14.1％、老年層14.8％である。札幌市における「体験あり」は、青年層24.4％、壮年層18.3％、老年層10.2％であり、青年層における体験ありの比率は札幌市の約半分である。このことから、アイヌ文化に関する体験の多寡は、アイヌ集住地に暮らすことで「自然に」もたらされるものでもないことがうかがわれ、むしろ、アイヌ集住地ではない札幌市の若い世代の方が、学校教育やメディア、各種イベントなど様々な媒体でアイヌ文化に触れる機会により多く恵まれていると考えることができる。

10）アイヌ文化に関する体験希望者の比率を世代毎にみると、「希望あり」は、青年層18.6％、壮年層22.7％、老年層18.9％である。札幌市より全体として低めであり、また、その比率は世代間で若干の差はあるものの大きくは変わらない（札幌市における「希望あり」は、青年層42.7％、壮年層37.5％、老年層25.5％）。

11）世代毎のアイヌ文化保存への賛同意志を見ると、「そう思う」「ある程度そう思う」の合計は、青年層では70.0％、壮年層では74.2％、老年層では77.8％であり、札幌市に比較すると賛同する者の比率は低い（札幌市の「そう思う」「ある程度そう思う」と回答する者は、青年層では91.6％、壮年層では89.7％、老年層では89.3％）。

12）アイヌ文化保存の主体を問うた答えを世代毎に比較すると、青年層では、「アイヌの人々」32.9％、「国として」38.6％、「地域ごと」25.7％、「その他」2.9％、壮年層では、「アイヌの人々」30.1％、「国として」37.4％、「地域ごと」27.6％、「その他」2.5％、老年層では、「アイヌの人々」24.7％、「国として」37.4％、「地域ごと」28.0％、「その他」4.9％となる。３世代共通して、国が中心となって取り組むことを一番にあげており、また、アイヌの人々主体で保存すべきと考える者は若い世代になるほど増加する。なお、札幌市において「国として」と回答する者は、青年層の49.6％、壮年の52.7％、老年層の61.7％である。

13）国立の施設を設置することへの賛同傾向を「賛成」「やや賛成」の合計としてとらえるなら、賛同する者は、青年層71.4％、壮年層77.3％、老年層75.7％であり、３世代ともほぼ同じ比率といえる。アイヌ文化の主体について問われた際に「国として」という意見の比率が各世代で最も高かったことと矛盾しない。その数値は、札幌市と比べると全世代において低めである（札幌市における「賛成」「やや賛成」の合計は、青年層89.3％、壮年層88.4％、老年層89.8％）。

参考文献

小内透編著，2013，『調査と社会理論・研究報告書30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――，2014，『調査と社会理論・研究報告書31　伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――，2015，『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

（小野寺理佳）

第２章　アイヌ文化の知識と体験
――札幌市とむかわ町を対象にして――

上山浩次郎

北海道大学大学院教育学研究院助教

はじめに

本章では、アイヌ多住地域の和人住民が、どのような形でアイヌ文化との関わりを持っているのかを札幌市とむかわ町に焦点をあてて明らかにする。和人住民は、どのようなアイヌ文化に関する知識を持ち、どのようなアイヌ文化の体験をしているのだろうか。その際には、アイヌ文化の今後についてどのような考えを持っているのかという点も合わせて検討する。

こうした和人住民のアイヌ文化への関わりという論点については、たとえば上山（2015）で白糠町を対象にした分析を行った。そこで、札幌市とむかわ町を対象として、こうした論点に検討を加えてみよう。

以下では、まず、これまで行ってきた他地域の調査結果、すなわち新ひだか町（小内編著2013）、伊達市（小内編著2014）、白糠町（小内編著2015）との比較を通して、札幌市とむかわ町の和人住民がもつアイヌ文化の知識と体験の特徴を浮き彫りにする。次に、札幌市とむかわ町それぞれの地域内の相違に焦点をあてながらアイヌ文化の知識と体験の規定要因を検討し、両地域におけるその特徴を明らかにする。それらをふまえて、最後に、札幌市とむかわ町における和人住民のアイヌ文化の知識と体験のあり方が、どのような背景によりもたらされているのか考察を加える。なお、分析は、和人住民（アイヌの配偶者である和人を除く）に限定して行う。

第１節　アイヌ文化の知識と体験の特徴

第１項　アイヌ文化の知識・体験

まず、表２－１から、アイヌ文化の知識の有無を確認すると、５つの地域（新ひだか町、伊達市、白糠町、札幌市、むかわ町）のすべてで、おおよそ５割程度の者がアイヌ文化の知識を持っていることがわかる。そのうち、札幌市は、59.0％の者がアイヌ文化の知識があると回答しており５つの地域で最も多くなっている。また、むかわ町の場合を見ると、56.7％と札幌市の次に多い。カイ二乗検定の有意確率を見るとp=0.000であり有意な関連があると判断できる。札幌市の調整済み残差は3.440、むかわ町の調整済み残差は1.985となっている。その意味で、５つの地域の中において、札幌市とむかわ町の和人住民はアイヌ文化の知識を持つ者が多い。

ただ、札幌市とむかわ町は、アイヌ文化の知識を持つ者が多い点で共通しているものの、知っているアイヌ文化の内容に違いが見られる。すなわち、一方で、札幌市は、「アイヌ語」「ユカラなど口承文芸」「歌と踊り・楽器」「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」などの「文化的」な知識を持つ者が相対的に多く、他方で、むかわ町は、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」「伝統的な葬儀・先祖供養」「イナウを捧げる」などの「祭祀的」な知識を持つ者が相対的に多いという特徴が見られる。

たとえば、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」を見ると、札幌市は38.4％と５つの地域の中で最も多くの者が回答している。カイ二乗検定の有意確率はp=0.000で有意であり、さらに札幌市の調整済み残差は5.324と有意に高いと判断できる。他方で、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」を見ると、むかわ町が28.5％となっており５つの地域の中で最も高く、カイ二乗検定の有意確率はp=0.000、調整済み残差も4.144であり有意に高いと判断できる。

次に、表２－２から、実際に体験や参加したことがあるアイヌ文化を確認すると、５つの地域のすべてでおおよそ２割程度の者が回答している。具体的な値を確認すると、札幌市が20.1％、むかわ町が20.0％となっている。また、カイ二乗検定の有意確率を見るとp=0.311となっており、地域間で違いがあるとはいいがたい。

ただし、アイヌ文化の項目を見ると、札幌市とむかわ町の特徴が見られることもわかる。たとえば、札幌市は「歌と踊り・楽器」が多く体験されている。具体的に値を確認すると、札幌市では14.6％の者が「歌と踊り・楽器」を体験している（p=0.001、調整済み残差4.219）。ここからは、札幌市の場合、アイヌ文化の知識だけでなく体験においてもアイヌ文化のうち「文化的」なアイヌ文化を経験していることがわかる。他方で、むかわ町は「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」「伝統的な葬儀・先祖供養」が相対的に多く体験されている。たとえば、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」を見ると、むかわ町は6.5％と新ひだか町（7.1％）の次に高くなっている（p=0.000、調整済み残差2.030）。むかわ町の場合も、アイヌ文化の知識だけでなくその体験においてもアイヌ文化のうち「祭祀的」なものを経験している。その意味で、アイヌ文化の知識と体験には共通点が見られる。

しかし、「アイヌ語」に関しては、注目しておく必要がある。なぜなら、アイヌ文化の知識の場合とは異なり、アイヌ文化の体験の場合では、むかわ町の方が「アイヌ語」を経験している者が多いからである。具体的に値を確認すると、むかわ町では4.3％の者が「アイヌ語」を体験したと回答しており、５つの地域の中で最も多く回答されている。カイ二乗検定の有意確率はp=0.067であり、むかわ町の調整済み残差は2.708となっている。対して、札幌市は1.8％の者しか実際に「アイヌ語」を体験していない。

このことは、一方で、札幌市の場合、「アイヌ語」に関する経験は、直接的に体験した形で得られたものではないこと、他方で、むかわ町の場合、「アイヌ語」を直接的に体験する機会は相対的に多かったことを示唆しているのかもしれない。

さらに、表２－３から、将来体験したいアイヌ文化があるかどうかを確認すると、札幌市が40.2％となっており、５つの地域の中でとりわけ高くなっている。カイ二乗検定の有意確率を見るとp=0.000であり、さらに札幌市の調整済み残差は8.246となっている。むかわ町では、25.9％となっており５つの地域の中で２番目に多く回答されているものの、札幌市とは大きな違いがある。

具体的なアイヌ文化の項目を確認すると、「祭祀的」な内容，「文化的」な内容を問わずおおよそすべての項目で札幌市の回答が高い。たとえば、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」では札幌市の回答は5.0％、カイ二乗検定の有意確率はp=0.018、調整済み残差は2.919となっており、有意に高いと判断できる。他方で、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」では札幌市の回答は17.7％、カイ二乗検定の有意確率はp=0.000、調整済み残差は5.386となっている。

表２－１　アイヌ文化の知識

	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
新ひだか町	51.7%	26.5%	3.6%	6.8%	4.5%	4.1%	3.4%	0.9%	1.1%	15.4%	7.3%	25.6%	26.3%	8.8%	5.3%	0.6%	468
伊達市	45.0%	16.3%	1.3%	1.3%	1.9%	3.0%	2.1%	0.2%	0.7%	14.6%	7.3%	22.4%	23.9%	5.0%	2.6%	0.6%	535
白糠町	50.0%	21.2%	1.0%	3.3%	4.6%	4.8%	1.8%	0.5%	0.5%	15.1%	4.8%	31.9%	24.7%	7.1%	8.2%	0.5%	392
札幌市	59.0%	16.8%	1.4%	1.6%	2.3%	4.9%	4.0%	0.7%	0.7%	24.7%	13.0%	31.9%	38.4%	5.1%	4.5%	0.7%	554
むかわ町	56.7%	28.5%	2.7%	5.2%	5.0%	3.8%	3.1%	1.3%	0.8%	17.7%	5.8%	26.9%	31.9%	4.6%	5.8%	1.3%	480
合計	52.6%	21.6%	2.0%	3.5%	3.5%	4.1%	2.9%	0.7%	0.8%	17.7%	7.9%	27.6%	29.4%	6.0%	5.1%	0.7%	2429
新ひだか町	-0.436	2.882	2.766	4.296	1.233	-0.019	0.709	0.447	0.782	-1.487	-0.571	-1.068	-1.645	2.786	0.259	-0.281	
伊達市	-3.970	-3.382	-1.321	-3.164	-2.369	-1.437	-1.348	-1.612	-0.103	-2.170	-0.597	-3.043	-3.145	-1.062	-2.961	-0.551	
白糠町	-1.132	-0.210	-1.533	-0.262	1.230	0.843	-1.460	-0.492	-0.668	-1.524	-2.450	2.061	-2.207	1.030	3.004	-0.582	
札幌市	3.440	-3.117	-1.092	-2.778	-1.731	1.081	1.667	0.071	-0.183	4.898	5.056	2.591	5.324	-1.078	-0.721	-0.059	
むかわ町	1.985	4.144	1.202	2.207	1.932	-0.403	0.293	1.614	0.142	-0.023	-1.878	-0.410	1.332	-1.469	0.809	1.451	
	p=0.000	p=0.000	p=0.021	p=0.000	p=0.016	p=0.519	p=0.213	p=0.344	p=0.922	p=0.000	p=0.000	p=0.002	p=0.000	p=0.031	p=0.004	p=0.685	

表２－２　アイヌ文化の体験

	アイヌ文化の体験	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
新ひだか町	16.9%	7.1%	2.1%	2.4%	1.4%	1.4%	1.0%	0.2%	0.0%	2.4%	2.4%	7.6%	2.9%	1.4%	3.1%	0.5%	420
伊達市	15.7%	3.9%	1.0%	1.0%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.8%	8.5%	4.1%	0.6%	1.2%	0.0%	484
白糠町	18.8%	5.0%	0.3%	1.7%	1.1%	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	2.8%	0.6%	8.3%	5.0%	1.4%	4.7%	0.6%	361
札幌市	20.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.2%	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%	1.8%	1.6%	14.6%	6.4%	0.4%	2.7%	0.4%	513
むかわ町	20.0%	6.5%	1.5%	3.0%	1.5%	0.2%	1.3%	0.2%	0.4%	4.3%	1.3%	8.8%	6.2%	0.4%	3.7%	0.4%	465
合計	18.3%	4.7%	1.0%	1.6%	0.9%	0.8%	0.6%	0.1%	0.1%	2.5%	1.3%	9.8%	5.0%	0.8%	3.0%	0.4%	2243
新ひだか町	-0.834	2.649	2.680	1.505	1.298	1.758	1.116	1.134	-0.679	-0.232	2.065	-1.643	-2.230	1.595	0.144	0.456	
伊達市	-1.683	-0.889	0.132	-1.057	-1.264	-1.579	-1.897	-0.742	-0.742	-1.402	-1.105	-1.082	-0.982	-0.509	-2.550	-1.486	
白糠町	0.275	0.299	-1.481	0.170	0.477	2.162	-0.070	-0.620	-0.620	0.302	-1.415	-1.016	-0.007	1.354	2.098	0.687	
札幌市	1.169	-3.811	-2.567	-3.247	-1.911	-0.515	-1.307	-0.770	-0.770	-1.289	0.498	4.219	1.704	-1.193	-0.391	0.144	
むかわ町	1.049	2.030	1.289	2.834	1.581	-1.516	2.268	1.022	2.767	2.708	-0.099	-0.772	1.382	-1.011	0.952	0.298	
	p=0.311	p=0.000	p=0.007	p=0.002	p=0.107	p=0.034	p=0.056	p=0.544	p=0.105	p=0.067	p=0.178	p=0.001	p=0.073	p=0.221	p=0.047	p=0.666	

表２－３　将来、体験したいアイヌ文化

	将来体験したいアイヌ文化	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
新ひだか町	17.4%	1.2%	1.2%	0.5%	0.0%	1.0%	1.7%	0.5%	0.7%	3.2%	1.0%	1.0%	6.5%	2.0%	4.2%	0.2%	402
伊達市	23.9%	3.4%	1.0%	1.5%	1.0%	2.5%	4.4%	1.7%	1.3%	4.4%	2.3%	3.8%	10.3%	3.6%	5.7%	0.4%	477
白糠町	18.3%	2.3%	1.1%	1.1%	0.9%	1.7%	2.3%	1.1%	0.6%	4.3%	1.4%	3.4%	7.4%	2.6%	2.9%	1.1%	349
札幌市	40.2%	5.0%	2.6%	3.0%	1.2%	4.0%	5.2%	4.2%	2.6%	8.2%	4.6%	7.8%	17.7%	3.8%	10.0%	1.0%	498
むかわ町	25.9%	2.7%	2.3%	0.5%	0.5%	1.6%	2.3%	0.9%	0.7%	3.4%	1.8%	3.2%	11.4%	3.4%	5.9%	0.2%	440
合計	25.9%	3.0%	1.7%	1.4%	0.7%	2.3%	3.3%	1.8%	1.2%	4.8%	2.4%	4.0%	11.0%	3.1%	6.0%	0.6%	2166
新ひだか町	-4.325	-2.331	-0.796	-1.687	-1.917	-1.893	-1.962	-2.177	-1.002	-1.669	-1.992	-3.419	-3.238	-1.464	-1.658	-1.011	
伊達市	-1.155	0.442	-1.260	0.175	0.894	0.422	1.488	-0.230	0.025	-0.513	-0.079	-0.306	-0.601	0.602	-0.356	-0.579	
白糠町	-3.540	-0.896	-0.885	-0.417	0.288	-0.745	-1.174	-1.004	-1.238	-0.522	-1.240	-0.601	-2.333	-0.656	-2.693	1.442	
札幌市	8.246	2.919	1.771	3.540	1.384	2.999	2.691	4.621	3.126	4.008	3.797	4.941	5.386	0.986	4.324	1.330	
むかわ町	-0.020	-0.437	1.024	-1.871	-0.780	-1.061	-1.378	-1.575	-1.196	-1.574	-0.831	-0.999	0.247	0.363	-0.092	-1.135	
	p=0.000	p=0.018	p=0.226	p=0.005	p=0.227	p=0.023	p=0.011	p=0.000	p=0.029	p=0.002	p=0.003	p=0.000	p=0.000	p=0.518	p=0.000	p=0.265	

第２項　アイヌ文化の情報源

次に、どのような経緯でアイヌ文化と関わりを持ったのかを確認しよう。表２－４と図２－１には、アイヌ文化の知識があると回答した者を対象に、その知識をどのような形で得たのかを尋ねた結果を整理した。それによれば、５つの地域では、主に、「施設や展示物」と「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」からアイヌ文化の知識を得られていることがわかる。札幌市とむかわ町の値を確認しよう。たとえば、「施設や展示物」を見ると、札幌市で56.9％、むかわ町で52.6％と半数程度の者がそれを通してアイヌ文化の知識を得ていることがわかる。次に、「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を見ると、札幌市で51.1％、むかわ町で36.8％となっている。

しかし、札幌市とむかわ町それぞれの特徴も存在する。他の地域と比べた場合、札幌市は、前述の「施設や展示物」と「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を通じてアイヌ文化の知識を得た者がより多く見られるだけでなく、「学校の授業や行事」を通じてアイヌ文化の知識を得ている者も相対的に多い。たとえば、再度、「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を見ると、カイ二乗検定の有意確率はp=0.000であり、札幌市の調整済み残差は3.810と有意に高くなっている。また、「学校の授業や行事」を見ると、札幌市は27.2％と５つの地域の中で最も高い（p=0.000、調整済み残差4.529）。

他方で、むかわ町は、「家族や親戚」「近所の人」「友人」を通じてアイヌ文化の知識を得た者が５つの地域の中で最も多くなっている。たとえば、「近所の人」を見ると、札幌市では3.1％に過ぎないところ、むかわ町は19.1％となっている（p=0.000、調整済み残差6.347）。

以上のように見れば、相対的にいえば、札幌市は、「学校の授業や行事」「施設や展示物」「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」などのいわば「フォーマル」な経路をとおして、むかわ町は、「家族や親戚」「近所の人」「友人」などのいわば「インフォーマル」で「パーソナル」な経路をとおしてアイヌ文化を経験している。

ただし、むかわ町の場合、「アイヌ文化を普及している団体」も28.3％であり、白糠町に次いで２番目に多くなっている点にも留意した方がよい（p=0.000、調整済み残差3.032）。すなわち、むかわ町の場合、相対的に「アイヌ文化を普及している団体」を通じた形でアイヌ文化を経験する者も多いという特徴がある。

次に、学校（小学校・中学校・高校など）でアイヌの歴史や文化を学んだことがあるかどうかを整理した表２－５を見よう。まず、学校でアイヌの歴史を学んだかへの回答を見ると、札幌市が39.0％と５つの地域の中で最も多く回答されている。有意確率はp=0.000であり、さらに札幌の調整済み残差も6.420と有意に高くなっている。他方で、アイヌの文化を体験したかどうかを見ると、ここでも札幌市は14.5％と５つの地域の中で最も高くなっている（p=0.000、調整済み残差5.401）。

このように見れば、ここからも札幌市では学校を通じた形でアイヌ文化を経験しているという特徴を確認することができよう。

表２－４　アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか

	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）	施設や展示物	その他	回答者数
新ひだか町	10.3%	14.0%	15.3%	12.4%	25.6%	36.0%	50.0%	4.1%	242
伊達市	6.2%	3.3%	5.4%	16.6%	16.6%	46.1%	51.0%	10.4%	241
白糠町	9.7%	7.1%	12.2%	20.9%	36.7%	37.2%	42.9%	7.7%	196
札幌市	7.0%	3.1%	4.0%	27.2%	7.6%	51.1%	56.9%	8.6%	327
むかわ町	16.5%	19.1%	16.9%	14.7%	28.3%	36.8%	52.6%	5.5%	272
合計	9.9%	9.2%	10.4%	18.8%	21.6%	42.1%	51.4%	7.3%	1278
新ひだか町	0.227	2.875	2.763	-2.824	1.689	-2.151	-0.487	-2.092	
伊達市	-2.139	-3.520	-2.829	-0.963	-2.094	1.383	-0.128	2.054	
白糠町	-0.124	-1.099	0.916	0.833	5.598	-1.495	-2.603	0.220	
札幌市	-2.035	-4.471	-4.415	4.529	-7.107	3.810	2.295	1.038	
むかわ町	4.105	6.347	3.960	-1.939	3.032	-2.008	0.433	-1.261	
	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.000	p=0.040	p=0.059	

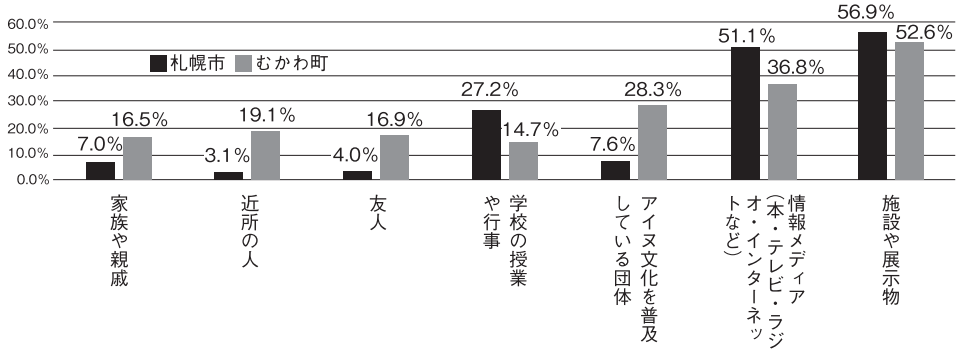


図２－１ アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか（札幌市・むかわ町）

表２－５　学校でアイヌの歴史を学んだか、アイヌの文化を体験したか

	学校でアイヌの歴史を学んだか	
新ひだか町	26.5%	460
伊達市	30.9%	554
白糠町	18.3%	388
札幌市	39.0%	559
むかわ町	22.6%	499
合計	28.3%	2460
新ひだか町	-0.914	
伊達市	1.553	
白糠町	-4.745	
札幌市	6.420	
むかわ町	-3.116	
	p=0.000	

	学校でアイヌの文化を体験したか	
新ひだか町	4.5%	465
伊達市	8.2%	563
白糠町	9.5%	402
札幌市	14.5%	564
むかわ町	6.8%	514
合計	8.9%	2508
新ひだか町	-3.647	
伊達市	-0.646	
白糠町	0.463	
札幌市	5.401	
むかわ町	-1.828	
	p=0.000	

第３項　アイヌ文化の現状と今後に関する考え

では、アイヌ多住地域の和人住民は、アイヌ文化の現状をどのように評価しているのか。表２－６と図２－２によれば、カイ二乗検定の有意確率がp=0.000となっており、地域によってアイヌ文化の現状に関する評価に違いが見られることがわかる。そこで、札幌市を見ると、「あまり残っていない」と回答する者が41.7％と最も多くなっている（調整済み残差5.589）。他方で、むかわ町では、「ある程度残っている」が39.0％と最も多い（調整済み残差2.863）。

このように、アイヌ文化の現状について、札幌市では「あまり残っていない」と回答される傾向が見られる一方、むかわ町では「ある程度残っている」と回答される傾向が見られる。

次に、アイヌ文化に関する世間の認知に対してはどのような評価をしているのだろうか。表２－７と図２－３によれば、いずれの地域でも「あまり正しく知られていない」と回答する者が最も多い。たとえば、札幌市で47.2％、むかわ町で41.8％となっている。

ただし、カイ二乗検定がp=0.000となっており、この点においても地域間で違いが見られるといえる。札幌市を見ると、「正しく知られていない」が30.1％（調整済み残差5.841）と、５つの地域の中で最も高く、相対的に見て「正しく知られていない」と考えている。他方で、むかわ町を見ると、「だいたいは知られている」が14.6％（調整済み残差3.320）となっており、相対的に見て「だいたいは知られている」と評価している。

こうしてみると、アイヌ文化に関する世間の認知については、５つの地域でおおよそ「あまり正しくは知られていない」と回答する傾向が見られるものの、相対的に見て、札幌市ではより「正しく知られていない」と回答する傾向が、逆にむかわ町では「だいたいは知られている」と回答する傾向が見られる。

では、こうしたアイヌ文化は残すべきと考えられているのだろうか。表２－８と図２－４にはそうした設問への回答を整理した。ただ、こうした設問は札幌市とむかわ町の場合のみしか尋ねていないためその２地域での比較となる。それによれば、両地域とも、多くの者がアイヌ文化を保存していくべきと考えていることがわかる。札幌市では、アイヌの伝統文化を積極的に保存していくべきという考えに「そう思う」が43.2％、「ある程度そう思う」が48.3％とあわせて91.5％の者が積極的に保存すべきという考えに賛同している。他方で、むかわ町では、「そう思う」が29.3％、「ある程度そう思う」が47.8％とあわせて77.1％の者が積極的に保存すべきと考えている。

ただし、両地域の相対的な特徴も見られる。たとえば、札幌市は、先ほどみたように「そう思う」と回答する者がとりわけ43.2％と多くなっている（調整済み残差4.781）。対して、むかわ町は、「あまりそう思わない」「そう思わない」がそれぞれ17.0％（調整済み残差5.355）、5.9％（調整済み残差3.446）となっており相対的に多く回答されている。

以上から、基本的には、札幌市もむかわ町も、アイヌ文化を残していくべきと考えているものの、そうした考えは、札幌市でより強く、むかわ町でやや弱くなっているといえる。

表２－６　アイヌ文化の現状

	アイヌ文化の現状					
	かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
新ひだか町	5.9%	37.2%	26.7%	2.4%	27.9%	495
伊達市	2.2%	23.5%	39.6%	5.0%	29.8%	584
白糠町	8.7%	46.4%	20.0%	1.4%	23.6%	416
札幌市	1.2%	27.1%	41.7%	4.8%	25.2%	568
むかわ町	4.8%	39.0%	27.9%	4.6%	23.7%	523
合計	4.3%	33.7%	32.1%	3.8%	26.2%	2586
新ひだか町	1.968	1.806	-2.858	-1.769	0.956	
伊達市	-2.760	-5.961	4.412	1.692	2.259	
白糠町	4.855	5.969	-5.775	-2.737	-1.328	
札幌市	-4.039	-3.771	5.589	1.362	-0.616	
むかわ町	0.668	2.863	-2.272	1.072	-1.439	

p=0.000

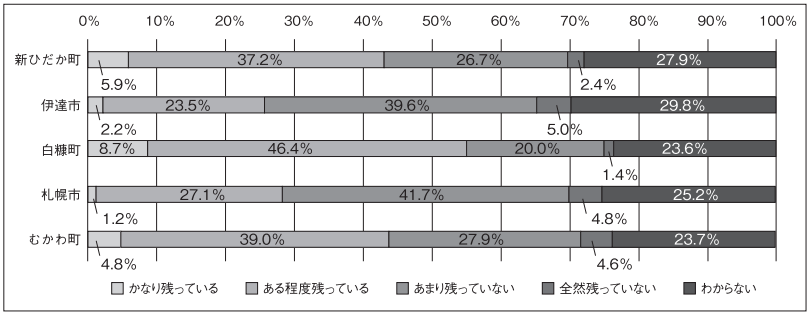


図２－２ アイヌ文化の現状

表２－７　世間の認知への評価

	世間の認知					
	正しく知られている	だいたいは知られている	あまり正しく知られていない	正しく知られていない	わからない	合計
新ひだか町	2.0%	15.1%	40.6%	16.5%	25.9%	498
伊達市	1.6%	7.8%	45.4%	24.2%	21.1%	579
白糠町	1.7%	11.7%	43.0%	14.6%	29.1%	412
札幌市	0.5%	5.1%	47.2%	30.1%	17.1%	572
むかわ町	2.1%	14.6%	41.8%	18.2%	23.4%	522
合計	1.5%	10.6%	43.7%	21.3%	22.9%	2583
新ひだか町	0.924	3.628	-1.595	-2.907	1.788	
伊達市	0.013	-2.485	0.923	1.953	-1.177	
白糠町	0.270	0.779	-0.351	-3.621	3.292	
札幌市	-2.248	-4.848	1.888	5.841	-3.709	
むかわ町	1.157	3.320	-1.024	-1.910	0.299	

p=0.000

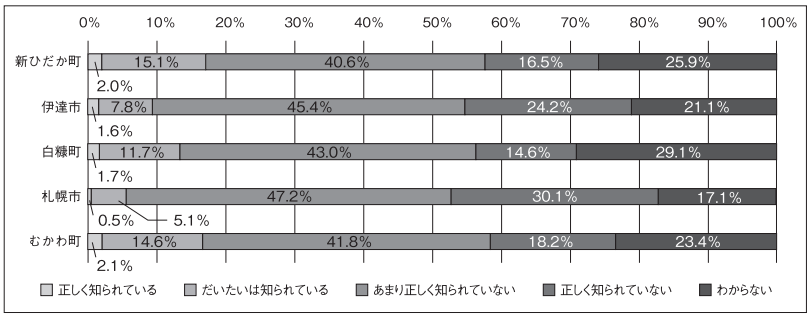


図２－３　世間の認知への評価

表２－８（図２－４） アイヌ文化を残すべきか

	伝統文化を積極的に保存していくべき				
	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計
札幌市	43.2%	48.3%	6.6%	1.9%	572
むかわ町	29.3%	47.8%	17.0%	5.9%	523
合計	36.5%	48.0%	11.6%	3.8%	1095
札幌市	4.781	0.149	-5.355	-3.446	
むかわ町	-4.781	-0.149	5.355	3.446	

p=0.000

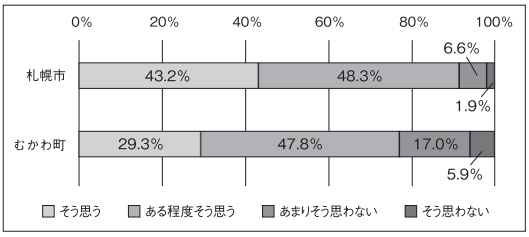


表２－９ アイヌ文化の残し方

	アイヌ文化の残し方				
	アイヌの人たちが残すべき	日本の国として残すべき	地域ごとに残すべき	その他	合計
新ひだか町	25.0%	39.3%	30.3%	5.3%	468
伊達市	16.7%	55.9%	22.7%	4.7%	556
白糠町	20.2%	44.6%	31.3%	4.0%	377
札幌市	15.7%	57.0%	24.0%	3.4%	567
むかわ町	28.1%	38.8%	28.7%	4.5%	516
合計	20.9%	47.7%	27.0%	4.3%	2484
新ひだか町	2.400	-4.052	1.823	1.171	
伊達市	-2.768	4.388	-2.600	0.431	
白糠町	-0.402	-1.344	2.055	-0.382	
札幌市	-3.489	5.004	-1.824	-1.325	
むかわ町	4.496	-4.591	0.983	0.137	

p=0.000

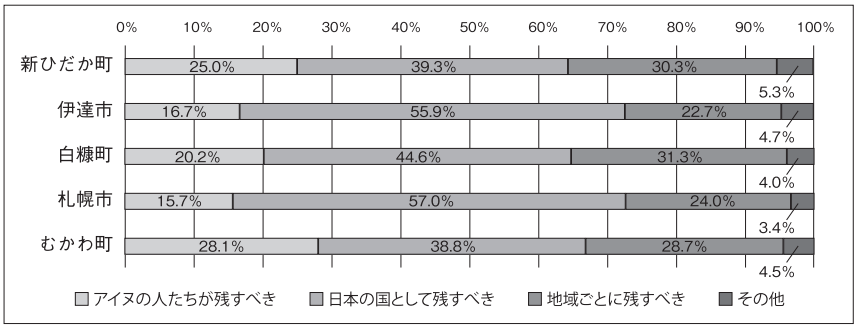
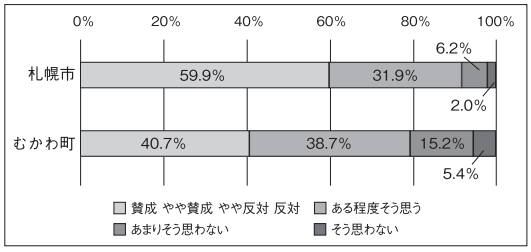


図２－５ アイヌ文化の残し方

表２－10（図２－６） アイヌ文化の復興の促進および民族共生の象徴の場として、国立の施設を設置すること

	アイヌ文化の復興の促進及び民族共生の象徴の場として、国立の施設を設置すること				
	賛成	やや賛成	やや反対	反対	合計
札幌市	59.9%	31.9%	6.2%	2.0%	564
むかわ町	40.7%	38.7%	15.2%	5.4%	499
合計	50.9%	35.1%	10.4%	3.6%	1063
札幌市	6.265	-2.306	-4.802	-3.033	
むかわ町	-6.265	2.306	4.802	3.033	

p=0.000



では、こうしたアイヌ文化はどのような形で残すべきと考えているのだろうか。表２－９と図２－５を確認しよう。それによれば、５つの地域すべてにおいて「日本の国として残すべき」という回答が最も多くなっている。

ただ、カイ二乗検定の有意確率はp=0.000であり、地域によって違いが見られることもわかる。そこで、札幌市を確認すると、「日本の国として残すべき」が57.0％（調整済み残差5.004）で有意に高く、その意味で、札幌市では「日本の国として残すべき」と考える者が一層多く見られている。他方で、むかわ町の場合、「アイヌの人たちが残すべき」が28.1％と５つの地域の中で最も多く回答されており（調整済み残差4.496）、その意味で、相対的に「アイヌの人たちが残すべき」と考える者が多い。

これらをふまえると、札幌市もむかわ町も、アイヌ文化は日本の国として残すべきと考える者が多いものの、相対的に見てむかわ町ではアイヌの人たちが残すべきと考える傾向も見られると判断できよう。

最後に、表２－10と図２－６から、アイヌ文化の復興の促進及び民族共生の象徴の場として，国立の施設を設置することについてどのような意見を持つのかを確認しよう。なお、この設問も札幌とむかわ町の２地域のみの比較となる。それによれば、両地域とも先の意見に賛成と考える者が多数を占めている。札幌市を見ると「賛成」が59.9％、「やや賛成」が31.9％となっておりあわせて91.8％が賛成と回答している。むかわ町でも「賛成」が40.7％、「やや賛成」が38.7％となっておりあわせて79.4％が賛成している。

ただし、両地域の相対的な特徴も存在していよう。なぜなら、上で確認したように札幌市では９割程度が賛成しているのに対し、むかわ町では８割程度だからである。実際、カイ二乗検定の有意確率がp=0.000であり地域によって違いがあると判断できる。むかわ町を見ると「やや反対」が15.2％（調整済み残差4.802）、「反対」が5.4％（調整済み残差3.033）となっている。

その意味で、札幌市とむかわ町では、アイヌ文化の復興の促進及び民族共生の象徴の場として国立の施設を設置することについて、賛成である者が多数であるものの、札幌市でそうした意見がより強い一方、むかわ町では相対的に見て反対する意見も見られている。

第２節　アイヌ文化の知識と体験の規定要因

以上，他の３つの地域との比較を通して、札幌市とむかわ町の和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験の特徴について明らかにしてきた。ただし、同一地域内すべての者が同様の経験をしているわけではない。たとえば、同じ札幌市（むかわ町）の和人住民といっても、アイヌ文化の知識と体験やアイヌ文化への評価のあり方に違いが見られる。そこで、こうした同一地域内の多様性を明らかにするため、性別・世代別・学歴別にそれぞれ違いが見られるものを中心にクロス表分析を行い、その上で多変量解析を行なおう。そのことを通して、札幌市とむかわ町における和人住民のアイヌ文化の知識と体験の規定要因の特徴を明らかにする。

第１項　性別

まず、性別に関しては、アイヌ文化の知識に関して男女間の違いが見られる。表２－11－１から札幌市を見ると、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」が男性23.5％、女性12.6％と

男性ほどその知識を持っていることがわかる（p＝0.001）。また、「伝統的狩猟・農法・漁法」も男性7.5％、女性3.5％となっている（p=0.038）。他方で、「ユカラなど口承文芸」を見ると、男性9.4％、女性15.3％と女性ほどその知識を持っている（p=0.045）。このように、男性はカムイノミなどの「祭祀的」な内容や狩猟・農法・漁法などの知識を持ちやすい一方、女性はユカラなどの「文化的」な内容の知識を持ちやすい。

こうした男女間での選好の違いは、むかわ町でも確認することができる。表２－11－２を見よう。そこから、「伝統的な葬儀・先祖供養」を見ると、男性7.8％、女性2.2％となっており男性ほどそうした知識を持っている（p=0.005）。他方で、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」を見ると、男性27.8％、女性36.4％となっている（p=0.044）。このように、むかわ町の場合でも、札幌市とは具体的な文化項目は異なるものの、男性ほど「祭祀的」な内容を、女性ほど「文化的」な内容を選好するという傾向を確認できる。

表２－11－１　アイヌ文化の知識（札幌市）（性別）

札幌市	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
男性	59.2%	23.5%	0.5%	2.3%	2.8%	7.0%	6.1%	0.9%	0.0%	22.5%	9.4%	28.2%	37.1%	7.5%	4.7%	1.4%	213
女性	58.8%	12.6%	2.1%	1.2%	2.1%	3.5%	2.6%	0.6%	1.2%	26.2%	15.3%	34.4%	39.4%	3.5%	4.4%	0.3%	340
合計	59.0%	16.8%	1.4%	1.6%	2.4%	4.9%	4.0%	0.7%	0.7%	24.8%	13.0%	32.0%	38.5%	5.1%	4.5%	0.7%	553
男性	0.077	3.313	-1.523	1.059	0.573	1.865	2.024	0.474	-1.589	-0.965	-2.008	-1.531	-0.546	2.079	0.156	1.505	
女性	-0.077	-3.313	1.523	-1.059	-0.573	-1.865	-2.024	-0.474	1.589	0.965	2.008	1.531	0.546	-2.079	-0.156	-1.505	
	p=0.939	p=0.001	p=0.128	p=0.290	p=0.567	p=0.062	p=0.043	p=0.636	p=0.112	p=0.334	p=0.045	p=0.126	p=0.585	p=0.038	p=0.876	p=0.132	

表２－11－２　アイヌ文化の知識（むかわ町）（性別）

むかわ町	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
男性	53.1%	29.0%	3.3%	7.8%	4.5%	4.5%	4.5%	1.6%	0.4%	16.3%	6.1%	24.9%	27.8%	4.9%	5.7%	0.4%	245
女性	60.6%	28.1%	2.2%	2.2%	5.2%	3.0%	1.7%	0.9%	1.3%	19.5%	5.6%	29.4%	36.4%	4.3%	6.1%	2.2%	231
合計	56.7%	28.6%	2.7%	5.0%	4.8%	3.8%	3.2%	1.3%	0.8%	17.9%	5.9%	27.1%	31.9%	4.6%	5.9%	1.3%	476
男性	-1.660	0.203	0.736	2.786	-0.358	0.834	1.722	0.750	-1.064	-0.898	0.229	-1.114	-2.013	0.295	-0.160	-1.717	
女性	1.660	-0.203	-0.736	-2.786	0.358	-0.834	-1.722	-0.750	1.064	0.898	-0.229	1.114	2.013	-0.295	0.160	1.717	
	p=0.097	p=0.839	p=0.462	p=0.005	p=0.720	p=0.404	p=0.085	p=0.454	p=0.287	p=0.369	p=0.819	p=0.266	p=0.044	p=0.768	p=0.873	p=0.086	

表２－12－１　将来、体験したいアイヌ文化（札幌市）（性別）

札幌市	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
男性	40.2%	6.7%	3.1%	4.1%	1.5%	5.2%	7.7%	4.1%	3.1%	9.3%	5.7%	9.8%	15.5%	7.2%	8.2%	2.6%	194
女性	40.3%	4.0%	2.3%	2.3%	1.0%	3.3%	3.6%	4.3%	2.3%	7.6%	4.0%	6.6%	19.1%	1.7%	11.2%	0.0%	303
合計	40.2%	5.0%	2.6%	3.0%	1.2%	4.0%	5.2%	4.2%	2.6%	8.2%	4.6%	7.8%	17.7%	3.8%	10.1%	1.0%	497
男性	-0.013	1.364	0.533	1.153	0.554	1.026	2.003	-0.090	0.533	0.667	0.885	1.291	-1.048	3.157	-1.075	2.809	
女性	0.013	-1.364	-0.533	-1.153	-0.554	-1.026	-2.003	0.090	-0.533	-0.667	-0.885	-1.291	1.048	-3.157	1.075	-2.809	
	p=0.990	p=0.173	p=0.594	p=0.249	p=0.580	p=0.305	p=0.045	p=0.928	p=0.594	p=0.505	p=0.376	p=0.197	p=0.295	p=0.002	p=0.282	p=0.005	

表２－12－２　将来、体験したいアイヌ文化（むかわ町）（性別）

むかわ町	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
男性	23.9%	2.8%	3.7%	0.9%	0.9%	2.8%	2.3%	1.8%	1.4%	5.0%	0.9%	3.2%	6.9%	6.0%	4.6%	0.0%	218
女性	28.3%	2.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	2.3%	0.0%	0.0%	1.8%	2.7%	3.2%	16.0%	0.9%	7.3%	0.5%	219
合計	26.1%	2.7%	2.3%	0.5%	0.5%	1.6%	2.3%	0.9%	0.7%	3.4%	1.8%	3.2%	11.4%	3.4%	5.9%	0.2%	437
男性	-1.061	0.008	1.927	1.421	1.421	1.911	0.007	2.014	1.742	1.848	-1.421	0.009	-2.988	2.899	-1.201	-0.999	
女性	1.061	-0.008	-1.927	-1.421	-1.421	-1.911	-0.007	-2.014	-1.742	-1.848	1.421	-0.009	2.988	-2.899	1.201	0.999	
	p=0.289	p=0.994	p=0.054	p=0.155	p=0.155	p=0.056	p=0.994	p=0.044	p=0.082	p=0.065	p=0.155	p=0.993	p=0.003	p=0.004	p=0.230	p=0.318	

こうした性別による違いは、将来体験したいアイヌ文化を見ても確認することができる。表２－12－１と表２－12－２を見よう。表２－12－１から札幌市の場合を確認すると、「伝統的狩猟・農法・漁法」が男性7.2％、女性1.7％となっている（p=0.002）。また、表２－12－２からむかわ町の場合を確認すると、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」は男性6.9％、女性16.0％と違いが見られる（p=0.003）。

以上のように、両地域とも、アイヌ文化に関して、男性ほど「祭祀的」な内容を、女性ほど「文化的」な内容を選好するという意味で性別によって違いが見られる。

第２項　世代別

次に、世代について確認しよう。まず、表２－13－１と表２－13―２から、世代別にアイヌ文化の知識を見ると、地域ごとに特徴が見られることがわかる。表２－13－１から札幌市を見ると、たとえば、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」が「老年層」において24.6％と高く回答されている（p=0.001、調整済み残差3.641）。他方で、表２－13－２からむかわ町の場合を見ると、たとえば、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」が「壮年層」において41.5％と高く回答されている（p=0.000、調整済み残差3.233）。

ただし、両地域に共通して見られる特徴も存在している。それは「アイヌ語」が「青年層」で多く回答されていることである。再度表２－13－１から札幌市の場合を確認すると、「青年層」42.5％、「壮年層」25.1％、「老年層」12.0％となっている。カイ二乗検定の有意確率はp=0.000であり、「青年層」の調整済み残差は5.457となっている。他方で、表２－13－２からむかわ町の場合を確認すると、「青年層」34.7％、「壮年層」19.9％、「老年層」11.0％となっており、カイ二乗検定の有意確率はp=0.000であり、「青年層」の調整済み残差は4.117となっている。このように両地域ともに、若い世代ほど「アイヌ語」の知識があるという傾向が見られる。

加えて、両地域には、若い世代ほど学校でアイヌの歴史や文化を学んでいるという共通点も見られる。表２－14を見よう。それによれば、札幌市の場合でもむかわ町の場合でも、若い世代において、学校でアイヌの歴史を学ぶとともに、アイヌの文化を体験する傾向が見られる。たとえば、札幌市において学校でアイヌの歴史を学んだかどうかは、「青年層」61.3％、「壮年層」41.7％、「老年層」19.8％となっている（p=0.000）。こうした傾向は、学校でアイヌの文化を体験したかどうかでも確認することができ、「青年層」21.2％、「壮年層」16.8％、「老年層」7.3％となっている（p=0.001）。こうした特徴は、むかわ町の場合でも確認することができる。

この点に関連して、表２－15を見よう。そこには、世代別にアイヌ文化をどこで（誰から）知ったかを整理した。そこで「学校の授業や行事」を見ると、若い世代ほどそれを通してアイヌ文化の知識を得ていることがわかる。たとえば、むかわ町の場合を見ると、「青年層」34.1％、「壮年層」17.0％、「老年層」6.5％となっている（p=0.000）。このように、表２－15からも、両地域ともに、若い世代ほど学校を通じてアイヌの知識に触れていることがわかる。

しかし、表２－15からは、両地域の独自の特徴が存在することもわかる。札幌市の場合を見よう。そこからは、「老年層」ほど「アイヌ文化を普及している団体」と「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を介して、アイヌ文化の知識を得る傾向が見られる。具体的に値を確認すると、たとえば「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」では、「青年層」28.4％、「壮年層」50.7％、「老年層」68.2％となっている（p=0.000）。他方で、むかわ町の場合を見ると、「老年層」ほど「近所の人」と「友人」を介して、アイヌ文化の知識を得ている。たとえば、「近所の人」を見ると、「青年層」7.3％、「壮年層」14.2％、「老年層」26.6％となっている（p=0.007）。

このように見れば、札幌市では、「老年層」ほど「アイヌ文化を普及している団体」や「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」などの「フォーマル」な経路を通じて、むかわ町では、「老年層」ほど「近所の人」や「友人」などの「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じて、アイヌ文化の知識を得る傾向が見られよう。

表２－13－１　アイヌ文化の知識（札幌市）（世代別）

札幌市	アイヌ文化の知識	1.カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	2.伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	3.伝統的な葬儀・先祖供養	4.イナウを捧げる	5.神聖な場所への祈り	6.海・川・山でのタブーや約束事	7.まじない・トゥス（巫術）	8.夢見を大事にする	9.アイヌ語	10.ユカラなど口承文芸	11.歌と踊り・楽器	12.工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	13.伝統的狩猟・農法・漁法	14.伝統的な料理	15.その他	回答者数
青年層	60.4%	13.4%	1.5%	1.5%	2.2%	3.7%	4.5%	1.5%	1.5%	42.5%	11.2%	21.6%	35.8%	4.5%	6.7%	0.7%	134
壮年層	60.8%	11.9%	1.3%	0.9%	0.4%	6.6%	3.1%	0.4%	0.0%	25.1%	12.8%	35.7%	41.9%	4.0%	4.0%	0.0%	227
老年層	56.0%	24.6%	1.6%	2.6%	4.7%	3.7%	4.7%	0.5%	1.0%	12.0%	14.7%	35.1%	36.6%	6.8%	3.7%	1.6%	191
合計	59.1%	16.7%	1.4%	1.6%	2.4%	4.9%	4.0%	0.7%	0.7%	24.8%	13.0%	32.1%	38.6%	5.1%	4.5%	0.7%	552
青年層	0.376	-1.154	0.048	-0.145	-0.102	-0.715	0.335	1.204	1.204	5.457	-0.731	-2.971	-0.756	-0.991	1.399	0.034	
壮年層	0.693	-2.514	-0.210	-1.162	-2.479	1.563	-0.905	-0.658	-1.678	0.132	-0.156	1.522	1.316	1.350	-0.533	-1.678	
老年層	-1.055	3.641	0.174	1.332	2.656	-0.972	0.635	-0.405	0.650	-5.055	0.820	1.103	-0.680	0.000	-0.710	1.705	
	p=0.572	p=0.001	p=0.977	p=0.373	p=0.016	p=0.295	p=0.660	p=0.482	p=0.220	p=0.000	p=0.651	p=0.012	p=0.416	p=0.000	p=0.372	p=0.169	

表２－13－２　アイヌ文化の知識（むかわ町）（世代別）

むかわ町	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
青年層	54.7%	17.3%	0.0%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	2.7%	34.7%	2.7%	29.3%	38.7%	5.3%	4.0%	0.0%	75
壮年層	62.0%	32.2%	4.1%	4.7%	5.8%	5.3%	3.5%	0.6%	0.6%	19.9%	5.3%	29.8%	41.5%	5.3%	8.2%	0.6%	171
老年層	54.4%	29.8%	2.6%	6.6%	5.3%	3.5%	3.5%	1.8%	0.4%	11.0%	7.5%	24.6%	23.2%	3.9%	4.8%	2.2%	228
合計	57.2%	28.7%	2.7%	5.1%	4.9%	3.8%	3.2%	1.3%	0.8%	17.9%	5.9%	27.2%	32.3%	4.6%	5.9%	1.3%	474
青年層	-0.478	-2.370	-1.585	-1.606	-1.546	-1.217	-0.987	0.057	1.881	4.117	-1.297	0.449	1.290	0.310	-0.764	-1.069	
壮年層	1.592	1.255	1.353	-0.287	0.758	1.254	0.322	-0.996	-0.463	0.832	-0.447	0.959	3.233	0.483	1.582	-0.996	
老年層	-1.181	0.525	-0.142	1.449	0.401	-0.317	0.412	0.916	-0.929	-3.807	1.377	-1.250	-4.049	-0.691	-0.962	1.738	
	p=0.282	p=0.053	p=0.193	p=0.191	p=0.292	p=0.316	p=0.614	p=0.585	p=0.168	p=0.000	p=0.282	p=0.457	p=0.000	p=0.787	p=0.277	p=0.206	

表２－14　学校でアイヌの歴史を学んだか、アイヌの文化を体験したか（世代別）

札幌市	学校でアイヌの歴史を学んだか		学校でアイヌの文化を体験したか	
青年層	61.3%	137	21.2%	137
壮年層	41.7%	228	16.8%	232
老年層	19.8%	192	7.3%	193
合計	39.0%	557	14.6%	562
青年層	6.179		2.508	
壮年層	1.091		1.250	
老年層	-6.728		-3.563	
	p=0.000		p=0.001	

むかわ町	学校でアイヌの歴史を学んだか		学校でアイヌの文化を体験したか	
青年層	39.2%	74	11.8%	76
壮年層	34.9%	169	8.5%	176
老年層	10.0%	250	4.3%	255
合計	22.9%	493	6.9%	507
青年層	3.612		1.842	
壮年層	4.574		1.049	
老年層	-6.923		-2.314	
	p=0.000		p=0.044	

表２－15　アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか（世代別）

札幌市	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）	施設や展示物	その他	回答者計
青年層	8.6%	1.2%	1.2%	51.9%	7.4%	28.4%	58.0%	7.4%	81
壮年層	7.2%	3.6%	2.9%	28.3%	3.6%	50.7%	58.4%	8.7%	138
老年層	5.6%	3.7%	7.5%	7.5%	13.1%	68.2%	54.2%	9.3%	107
合計	7.1%	3.1%	4.0%	27.3%	7.7%	50.9%	56.9%	8.6%	326
青年層	0.643	-1.104	-1.461	5.721	-0.102	-4.678	0.231	-0.438	
壮年層	0.115	0.499	-0.861	0.333	-2.352	-0.061	0.457	0.059	
老年層	-0.714	0.491	2.250	-5.616	2.568	4.368	-0.693	0.341	
	p=0.719	p=0.543	p=0.066	p=0.000	p=0.022	p=0.000	p=0.785	p=0.894	

むかわ町	家族や親戚	近所の人	友人	学校の授業や行事	アイヌ文化を普及している団体	情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）	施設や展示物	その他	回答者計
青年層	12.2%	7.3%	12.2%	34.1%	22.0%	39.0%	56.1%	2.4%	41
壮年層	16.0%	14.2%	11.3%	17.0%	25.5%	42.5%	56.6%	5.7%	106
老年層	18.5%	26.6%	22.6%	6.5%	33.1%	31.5%	48.4%	6.5%	124
合計	16.6%	18.8%	16.6%	14.8%	28.4%	36.9%	52.8%	5.5%	271
青年層	-0.824	-2.045	-0.824	3.799	-0.996	0.306	0.464	-0.941	
壮年層	-0.201	-1.576	-1.874	0.826	-0.861	1.518	1.014	0.072	
老年層	0.790	3.015	2.428	-3.542	1.559	-1.707	-1.327	0.606	
	p=0.625	p=0.007	p=0.052	p=0.000	p=0.271	p=0.216	p=0.414	p=0.621	

第３項　学歴別

さらに、学歴別に確認しよう。表２－16－１と表２－16－２から、学歴別にアイヌ文化の知識を見ると、高学歴の者はアイヌ文化の知識を持つ傾向があることがわかる。たとえば、表２－16－１から札幌市を見ると、「中学卒」41.0％、「高校卒」58.6％、「短大高専専門卒」57.2％、「大学卒以上」66.0％となっている。カイ二乗値の有意確率はp=0.034であり、「大学卒以上」の調整済み残差は2.113となっている。この点は、アイヌ文化の項目を見ても確認できる。同じく表２－16－１を見ると、「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」や「伝統的な料理」などの多くの項目で、学歴が高いほどアイヌ文化の知識を持つと解釈できる。

他方で、表２－16－２からむかわ町を見ると、知っているアイヌ文化があるか否かという設問への回答については有意な違いが見られないものの、アイヌ文化の各項目を見ると、「アイヌ語」などの項目で、学歴が高いとアイヌ文化の知識を持つ傾向が強まると解釈できる。たとえば、「歌と踊り・楽器」を見ると、「中学卒」12.8％、「高校卒」27.6％、「短大高専専門卒」31.8％、「大学卒以上」34.4％となっている（p=0.012）。

こうしてみると、学歴が高いとアイヌ文化の知識を持ちやすいという特徴は、両地域において確認できるといえよう。

加えて、アイヌの現状に関する評価に関しても、学歴による違いが見られる。表２－17から、まずは札幌市の場合を見よう。それによれば、カイ二乗検定の有意確率がp=0.012であり、学歴によってアイヌ文化の現状に関する評価に違いが見られることがわかる。具体的に値を見ていく

と、「中学卒」で「かなり残っている」と回答する者が4.9％（調整済み残差2.181）となっている一方、「大学卒以上」で「あまり残っていない」と回答する者が51.3％（調整済み残差2.788）となっている。ここからは、相対的に見て、学歴が低いとアイヌ文化が残っていると評価し、学歴が高いとアイヌ文化が残っていないと評価する傾向が見られると判断できる。

こうした傾向は、同じ表２－17を見ると、むかわ町でも確認することができる。なぜなら、「中学卒」で「かなり残っている」が10.1％（調整済み残差2.931）、「大学卒以上」で「あまり残っていない」が39.3％（調整済み残差2.087）となっているからである。

このようにみると、札幌市とむかわ町では、相対的に見て、学歴が低いとアイヌ文化が残っていると考えやすい一方、学歴が高いとアイヌ文化が残っていないと考えやすい傾向があると判断できる。

表２－16－１　アイヌ文化の知識（学歴別）（札幌市）

札幌市	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
中学卒	41.0%	12.8%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	5.1%	10.3%	20.5%	25.6%	0.0%	0.0%	0.0%	39
高校卒	58.6%	17.7%	2.2%	1.6%	2.7%	4.3%	3.8%	0.0%	0.0%	16.1%	7.0%	37.1%	39.2%	3.2%	2.7%	1.6%	186
短大高専専門卒	57.2%	9.6%	0.6%	1.2%	0.0%	2.4%	1.2%	0.6%	0.6%	33.7%	16.9%	32.5%	36.1%	5.4%	4.8%	0.0%	166
大学卒以上	66.0%	24.5%	1.9%	1.9%	5.0%	8.8%	7.5%	1.9%	1.9%	30.8%	17.0%	28.3%	43.4%	8.2%	7.5%	0.6%	159
合計	59.1%	16.9%	1.5%	1.6%	2.4%	4.9%	4.0%	0.7%	0.7%	24.9%	13.1%	32.0%	38.5%	5.1%	4.5%	0.7%	550
中学卒	-2.381	-0.707	-0.787	0.474	-1.008	-0.703	-0.475	-0.555	-0.555	-2.963	-0.544	-1.595	-1.718	-1.501	-1.414	-0.555	
高校卒	-0.167	0.372	0.975	-0.031	0.358	-0.472	-0.202	-1.435	-1.435	-3.403	-3.033	1.832	0.242	-1.422	-1.495	1.747	
短大高専専門卒	-0.584	-2.991	-1.097	-0.524	-2.399	-1.784	-2.199	-0.227	-0.227	3.147	1.726	0.175	-0.761	0.232	0.203	-1.320	
大学卒以上	2.113	3.040	0.540	0.295	2.626	2.697	2.707	2.041	2.041	2.043	1.725	-1.186	1.491	2.099	2.155	-0.173	
	p=0.034	p=0.004	p=0.522	p=0.927	p=0.019	p=0.046	p=0.032	p=0.200	p=0.200	p=0.000	p=0.014	p=0.132	p=0.190	p=0.086	p=0.083	p=0.315	

表２－16－２　アイヌ文化の知識（学歴別）（むかわ町）

むかわ町	アイヌ文化の知識	カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事	伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	伝統的な葬儀・先祖供養	イナウを捧げる	神聖な場所への祈り	海・川・山でのタブーや約束事	まじない・トゥス（巫術）	夢見を大事にする	アイヌ語	ユカラなど口承文芸	歌と踊り・楽器	工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）	伝統的狩猟・農法・漁法	伝統的な料理	その他	回答者数
中学卒	44.9%	24.4%	1.3%	3.8%	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%	0.0%	9.0%	1.3%	12.8%	15.4%	3.8%	6.4%	2.6%	78
高校卒	57.5%	29.0%	2.3%	4.5%	5.0%	3.6%	2.3%	1.4%	0.9%	16.3%	5.0%	27.6%	32.6%	3.2%	5.0%	1.4%	221
短大高専専門卒	61.7%	31.8%	5.6%	4.7%	4.7%	5.6%	4.7%	0.0%	0.9%	24.3%	7.5%	31.8%	40.2%	5.6%	8.4%	0.9%	107
大学卒以上	60.7%	27.9%	1.6%	9.8%	9.8%	4.9%	6.6%	3.3%	1.6%	26.2%	13.1%	34.4%	37.7%	4.9%	3.3%	0.0%	61
合計	56.7%	28.7%	2.8%	5.1%	4.9%	3.9%	3.2%	1.3%	0.9%	18.2%	6.0%	27.0%	32.1%	4.1%	5.8%	1.3%	467
中学卒	-2.319	-0.927	-0.883	-0.567	-1.629	-1.293	-1.059	-0.002	-0.899	-2.314	-1.921	-3.087	-3.468	-0.109	0.261	1.099	
高校卒	0.298	0.120	-0.649	-0.570	0.050	-0.249	-1.103	0.132	0.108	-1.015	-0.879	0.287	0.201	-0.934	-0.706	0.132	
短大高専専門卒	1.174	0.803	2.022	-0.249	-0.137	1.073	0.976	-1.344	0.100	1.862	0.735	1.273	2.035	0.918	1.327	-0.366	
大学卒以上	0.000	-0.153	-0.583	1.782	1.901	0.463	1.589	1.483	0.712	1.743	2.512	1.405	1.002	0.360	-0.898	-0.956	
	p=0.113	p=0.743	p=0.229	p=0.355	p=0.147	p=0.476	p=0.212	p=0.346	p=0.770	p=0.016	p=0.025	p=0.012	p=0.003	p=0.745	p=0.498	p=0.591	

表２－17　アイヌ文化の現状（学歴別）

札幌市	アイヌ文化の現状					
	かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
中学卒	4.9%	39.0%	22.0%	2.4%	31.7%	41
高校卒	1.6%	26.0%	37.0%	4.7%	30.7%	192
短大高専専門卒	0.6%	27.0%	43.7%	4.0%	24.7%	174
大学卒以上	0.6%	25.0%	51.3%	6.4%	16.7%	156
合計	1.2%	27.0%	41.9%	4.8%	25.0%	563
中学卒	2.181	1.801	-2.691	-0.733	1.023	
高校卒	0.492	-0.368	-1.709	-0.086	2.240	
短大高専専門卒	-0.958	0.005	0.566	-0.574	-0.122	
大学卒以上	-0.798	-0.661	2.788	1.110	-2.840	

p=0.012

むかわ町	アイヌ文化の現状					
	かなり残っている	ある程度残っている	あまり残っていない	全然残っていない	わからない	合計
中学卒	10.1%	42.4%	23.2%	1.0%	23.2%	99
高校卒	1.7%	40.3%	28.8%	4.7%	24.5%	233
短大高専専門卒	5.5%	39.4%	24.8%	6.4%	23.9%	109
大学卒以上	4.9%	32.8%	39.3%	4.9%	18.0%	61
合計	4.6%	39.6%	28.1%	4.4%	23.3%	502
中学卒	2.931	0.632	-1.200	-1.829	-0.020	
高校卒	-2.857	0.299	0.310	0.345	0.571	
短大高専専門卒	0.521	-0.046	-0.871	1.176	0.153	
大学卒以上	0.134	-1.168	2.087	0.218	-1.039	

p=0.057

第４項　多変量解析

以上、性別・世代別・学歴別にクロス表分析を行ってきた。以下では、ロジスティック回帰分析を行い、他の変数の影響を考慮しても、上で確認してきた特徴が確認できるか検討する。また、その際、上山（2015）で得られた白糠町における和人住民のアイヌ文化の知識と体験の規定要因に関する知見と比較することで、札幌市とむかわ町における規定要因の特徴をより浮き彫りにする。そのため用いる変数は上山（2015）を踏襲する。具体的には表２－18に整理した。ただ、「アイヌの方との交流」について、札幌市ではカテゴリの値に大きな偏りが見られたため（→後述の表２－26参照）、４カテゴリ（「よくある」「たまにある」「あまりない」「ほとんどない」）を縮約した２カテゴリ（「ある・あまりない」「ほとんどない」）を用いる。なお、分析はクロス表分析で違いが見られたものを中心に行う。

分析結果を表２－19～表２－23に示した。そこからは、基本的には、クロス表で確認できた傾向が見られることがわかる。

まず、第１に、性別については、男女によって選好する文化項目に違いが見られる。表２－19を見よう。たとえば、札幌市の「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」を見ると、「男性」の回帰係数が0.540でp=0.065となっており男性ほど「カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事」の知識を持っていることがわかる。また、「ユカラなどの口承文芸」において「男性」の回帰係数は－1.179でp=0.001となっており男性ほどその知識を得ていない、すなわち女性ほど「ユカラなどの口承文芸」の知識を持っている。こうした女性ほど知識を持つという傾向は、「歌と踊り」でも見られる。

この点については、むかわ町でも確認することができる。たとえば、「伝統的な葬儀・先祖供養」において「男性」の回帰係数は1.114でp=0.063となっている一方で、「工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）」の「男性」の回帰係数は－0.640でp=0.008となっている。

加えて、表２－20を見ると、表２－19とは具体的な文化項目には違いが見られるものの、将来体験したいアイヌ文化においても、男女間で選好の違いを確認することができる。たとえば、札幌市の「伝統的狩猟・農法・漁法」を見ると、「男性」の回帰係数は1.458（p=0.026）となっている一方、「伝統的な料理」において「男性」の回帰係数は－0.706（p=0.067）となっている。む

かわ町においても、「伝統的狩猟・農法・漁法」において「男性」の回帰係数は1.670（p=0.044）となっているだけでなく、「伝統的な料理」において「男性」の回帰係数は－1.416（p=0.011）となっている。

このように見れば、他の変数の影響を考慮しても、男性ほど「祭祀的」内容や狩猟などの内容を選好し、女性ほど「文化的」な内容を選好するという違いが見られる。

こうした男女の違いは、上山（2015）で指摘したように、具体的な項目には違いが見られるものの白糠町の場合でも確認することができる。その意味で、こうした男女の違いは、白糠町・札幌市・むかわ町という３つの地域に共通して見られるものといえよう。

表２－18　使用する変数

変数	変数の情報
従属変数	
アイヌ文化の現状	
かなり残っている	「かなり残っている」を選択＝１，その他を選択＝０
あまり残っていない	「あまり残っていない」を選択＝１，その他を選択＝０
上記以外	選択＝１，非選択＝０
独立変数	
性別	
男性	男性＝１，女性＝０
世代	
青年層	青年層＝１，その他の回答者＝０
壮年層（基準カテゴリ）	
老年層	老年層＝１，その他の回答者＝０
学歴	
中学	中学卒＝１，その他の回答者＝０
高校（基準カテゴリ）	
専門・高専・短大	専門・高専・短大卒＝１，その他の回答者＝０
大学	大学卒以上＝１，その他の回答者＝０
就業状態	
経営・役員	経営者・役員＝１，その他の回答者＝０
常時雇用（基準カテゴリ）	
自営・家族従業	自営業・家族従業者＝１，その他の回答者＝０
パート・アルバイト	パート・アルバイト＝１，その他の回答者＝０
無職・学生	無職・学生＝１，その他の回答者＝０
出身地域	
自治体内	該当自治体出身＝１，その他の回答者＝０
道内（基準カテゴリ）	
道外	道外出身＝１，その他の回答者＝０
アイヌの方との交流	
（札幌市の場合）	
ある・あまりない	よくある＝1or たまにある＝1or あまりない＝1，ほとんどない＝0
ほとんどない（基準カテゴリ）	
（むかわ町の場合）	
よくある	よくある＝１，その他の回答者＝０
たまにある	たまにある＝１，その他の回答者＝０
あまりない	あまりある＝１，その他の回答者＝０
ほとんどない（基準カテゴリ）	

表２－19 二項ロジスティック回帰分析（アイヌ文化の知識）

札幌市	アイヌ文化の知識																	
	有無			カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事			アイヌ語			ユカラなど口承文芸			歌と踊り・楽器			伝統的狩猟・農法・漁法		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	0.574	0.282	0.042	-2.449	0.411	0.000	-1.051	0.326	0.001	-2.366	0.442	0.000	-0.107	0.286	0.709	-3.867	0.701	0.000
性別																		
男性	-0.376	0.223	0.091	0.540	0.293	0.065	-0.526	0.270	0.052	-1.179	0.368	0.001	-0.414	0.238	0.082	0.171	0.493	0.728
女性																		
世代																		
青年層	-0.132	0.239	0.580	0.042	0.356	0.905	0.734	0.254	0.004	-0.491	0.370	0.185	-0.835	0.269	0.002	-0.069	0.568	0.903
壮年層																		
老年層	-0.253	0.256	0.324	0.726	0.337	0.031	-0.480	0.328	0.143	0.541	0.371	0.145	-0.191	0.265	0.471	1.034	0.546	0.058
学歴																		
中学卒	-0.756	0.390	0.053	-0.901	0.583	0.122	-0.794	0.777	0.307	0.098	0.626	0.876	-0.940	0.447	0.035	-15.697	1045.542	0.988
高校卒																		
短大・高専・専門卒	-0.139	0.237	0.557	-0.423	0.360	0.239	0.655	0.285	0.022	1.060	0.384	0.006	-0.273	0.249	0.272	0.804	0.585	0.169
大学卒以上	0.448	0.254	0.078	0.448	0.315	0.155	0.791	0.304	0.009	1.602	0.419	0.000	-0.161	0.267	0.547	1.011	0.565	0.074
出身地																		
自治体内	-0.124	0.211	0.557	-0.136	0.295	0.644	0.072	0.242	0.767	0.013	0.314	0.967	-0.098	0.223	0.659	0.290	0.469	0.537
道内																		
道外	-0.339	0.277	0.221	0.055	0.359	0.879	-0.886	0.370	0.017	0.005	0.397	0.991	-0.343	0.300	0.253	-0.300	0.643	0.640
就業形態																		
経営者・役員	0.043	0.482	0.928	-0.303	0.696	0.663	0.092	0.562	0.870	0.159	0.703	0.821	0.627	0.483	0.194	0.132	0.875	0.880
常勤雇用																		
自営・家族従業	0.382	0.383	0.318	0.937	0.447	0.036	-0.263	0.426	0.536	0.270	0.499	0.588	-0.501	0.412	0.224	-0.100	0.722	0.890
パート・アルバイト等	-0.276	0.266	0.299	0.156	0.409	0.703	-0.774	0.311	0.013	-0.397	0.394	0.314	-0.339	0.285	0.235	-0.907	0.709	0.201
無職・学生	0.223	0.270	0.409	0.505	0.360	0.162	-0.548	0.318	0.085	-0.229	0.387	0.554	0.199	0.282	0.481	-0.366	0.577	0.526
アイヌの人との交流																		
ある・あまりない	0.996	0.379	0.009	0.427	0.418	0.307	0.737	0.385	0.056	0.534	0.451	0.236	0.700	0.348	0.045	1.354	0.552	0.014
ほとんどない																		
	N = 522	deviance:686.02		N = 522	deviance:430.43		N = 522	deviance:524.89		N = 522	deviance:384.73		N = 522	deviance:629		N = 522	deviance:195.95	

むかわ町	アイヌ文化の知識																	
	有無			伝統的な葬儀・先祖供養			イナウを捧げる			アイヌ語			ユカラなど口承文芸			工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	0.343	0.335	0.306	-5.958	1.282	0.000	-2.865	0.786	0.000	-1.342	0.416	0.001	-2.787	0.666	0.000	-0.251	0.349	0.472
性別																		
男性	-0.474	0.225	0.035	1.114	0.598	0.063	-0.600	0.543	0.270	-0.563	0.288	0.050	-0.508	0.475	0.285	-0.640	0.241	0.008
女性																		
世代																		
青年層	-0.253	0.315	0.423	-0.766	1.146	0.504	-1.541	1.105	0.163	0.753	0.345	0.029	-0.871	0.836	0.298	-0.045	0.317	0.886
壮年層																		
老年層	-0.329	0.274	0.230	0.382	0.618	0.536	0.379	0.622	0.543	-0.299	0.358	0.403	1.506	0.553	0.006	-0.545	0.290	0.060
学歴																		
中学卒	-0.301	0.309	0.330	-0.087	0.725	0.905	-1.358	1.083	0.210	-0.403	0.471	0.392	-1.645	1.069	0.124	-0.727	0.383	0.058
高校卒																		
短大・高専・専門卒	0.321	0.280	0.252	0.332	0.663	0.617	-0.170	0.701	0.809	0.383	0.327	0.242	0.678	0.548	0.216	0.205	0.280	0.464
大学卒以上	0.406	0.331	0.220	1.375	0.644	0.033	1.179	0.612	0.054	0.724	0.387	0.061	1.296	0.565	0.022	0.338	0.336	0.314
出身地																		
自治体内	-0.065	0.225	0.774	-0.732	0.526	0.164	-0.300	0.523	0.566	0.116	0.282	0.679	-0.114	0.491	0.816	0.086	0.237	0.716
道内																		
道外	-0.323	0.371	0.385	-0.068	0.787	0.931	-0.241	0.858	0.779	-0.270	0.506	0.594	0.949	0.590	0.108	0.023	0.406	0.955

就業形態																		
経営者・役員	-0.744	0.446	0.095	0.004	1.079	0.997	-1.236	1.205	0.305	-0.714	0.614	0.245	-0.472	0.818	0.564	-0.759	0.504	0.132
常勤雇用																		
自営・家族従業	-0.481	0.312	0.123	0.128	0.813	0.875	-1.633	0.887	0.066	-0.569	0.394	0.149	-1.330	0.740	0.072	-0.264	0.322	0.412
パート・アルバイト等	-0.101	0.335	0.764	1.310	0.812	0.107	-0.527	0.788	0.504	-0.063	0.389	0.871	-0.348	0.690	0.614	-0.459	0.348	0.188
無職・学生	0.141	0.340	0.679	0.455	0.823	0.580	-0.653	0.756	0.388	-0.422	0.435	0.332	-1.264	0.682	0.064	-0.411	0.363	0.258
アイヌの人との交流																		
よくある	1.112	0.311	0.000	2.603	1.105	0.019	1.607	0.773	0.038	0.788	0.372	0.034	-0.056	0.623	0.928	0.619	0.325	0.057
たまにある	0.598	0.293	0.041	1.948	1.118	0.082	0.402	0.782	0.608	0.101	0.373	0.787	-0.282	0.565	0.617	0.217	0.313	0.489
あまりない	0.435	0.328	0.184	-14.640	1196.000	0.990	0.717	0.890	0.420	-0.152	0.431	0.724	0.054	0.683	0.937	0.582	0.346	0.093
ほとんどない																		
	N = 427	deviance:552.59		N = 427	deviance:137.95		N = 427	deviance:142.98		N = 427	deviance:386.67		N = 427	deviance:175.3		N = 427	deviance:507.31	

表２－20　二項ロジスティック回帰分析（将来体験したいアイヌ文化）

札幌市	将来体験したいアイヌ文化														
	有無			カムイノミ（動物や物の霊送り）などの祭事			工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）			伝統的狩猟・農法・漁法			伝統的な料理		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-0.235	0.293	0.423	-4.913	0.999	0.000	-1.232	0.362	0.001	-3.819	0.842	0.000	-1.901	0.467	0.000
性別															
男性	-0.142	0.233	0.542	1.206	0.601	0.045	-0.567	0.298	0.057	1.458	0.656	0.026	-0.706	0.386	0.067
女性															
世代															
青年層	0.075	0.240	0.754	-0.994	0.609	0.103	0.001	0.309	0.997	-0.287	0.650	0.659	0.660	0.381	0.083
壮年層															
老年層	-0.087	0.273	0.751	-0.961	0.744	0.196	0.487	0.344	0.157	0.070	0.716	0.923	0.197	0.474	0.678
学歴															
中学卒	-0.449	0.461	0.330	2.148	1.107	0.052	-1.286	0.776	0.098	-16.262	1818.458	0.993	-1.015	1.077	0.346
高校卒															
短大・高専・専門卒	0.160	0.252	0.526	2.329	0.818	0.004	0.336	0.311	0.279	-0.061	0.717	0.932	-0.068	0.419	0.870
大学卒以上	-0.057	0.265	0.829	0.453	0.873	0.604	-0.187	0.350	0.592	-0.240	0.613	0.695	0.232	0.433	0.592
出身地															
自治体内	0.371	0.221	0.093	1.109	0.543	0.041	0.219	0.283	0.440	0.445	0.582	0.445	-0.366	0.382	0.338
道内															
道外	0.286	0.289	0.323	1.090	0.685	0.112	0.411	0.353	0.244	0.127	0.757	0.867	0.152	0.445	0.733
就業形態															
経営者・役員	-0.628	0.529	0.236	0.396	0.913	0.665	-0.110	0.624	0.860	-16.891	2396.394	0.994	0.104	0.819	0.899
常勤雇用															
自営・家族従業	-0.308	0.389	0.428	-0.891	1.090	0.414	-0.147	0.477	0.759	-0.124	0.839	0.883	0.448	0.561	0.425
パート・アルバイト等	-0.461	0.273	0.091	-0.207	0.643	0.748	-0.966	0.361	0.007	-1.360	1.108	0.220	-0.708	0.468	0.131
無職・学生	-0.657	0.285	0.021	-0.426	0.771	0.581	-0.783	0.363	0.031	-0.265	0.750	0.724	-0.729	0.480	0.129
アイヌの人との交流															
ある・あまりない	0.859	0.366	0.019	-0.845	1.103	0.444	0.667	0.417	0.110	0.389	0.818	0.635	0.092	0.581	0.874
ほとんどない															
	N = 474	deviance:616.9		N = 474	deviance:150.04		N = 474	deviance:428.03		N = 474	deviance:129.48		N = 474	deviance:286.88	

むかわ町	将来体験したいアイヌ文化														
	有無			歌と踊り・楽器			工芸（編み物・刺繍・織物・木彫り）			伝統的狩猟・農法・漁法			伝統的な料理		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-0.982	0.398	0.014	-3.020	0.896	0.001	-2.052	0.549	0.000	-4.718	1.179	0.000	-2.501	0.691	0.000
性別															
男性	-0.555	0.270	0.040	-0.596	0.672	0.376	-1.027	0.379	0.007	1.670	0.830	0.044	-1.416	0.555	0.011
女性															
世代															
青年層	-0.352	0.390	0.367	0.244	0.810	0.763	0.076	0.521	0.884	-0.746	1.199	0.534	-0.263	0.647	0.684
壮年層															
老年層	0.148	0.328	0.651	-0.407	0.892	0.648	0.395	0.450	0.380	0.360	0.855	0.674	0.372	0.600	0.535
学歴															
中学卒	0.418	0.368	0.255	1.272	0.985	0.197	0.305	0.480	0.525	1.161	0.838	0.166	-16.193	1383.205	0.991
高校卒															
短大・高専・専門卒	0.233	0.329	0.478	0.413	0.897	0.645	0.194	0.447	0.664	0.572	0.864	0.508	0.681	0.648	0.293
大学卒以上	1.023	0.373	0.006	1.775	0.835	0.034	0.814	0.504	0.106	0.599	0.828	0.469	2.679	0.634	0.000
出身地															
自治体内	-0.633	0.268	0.018	-0.208	0.712	0.770	-1.012	0.382	0.008	0.062	0.709	0.930	-0.052	0.563	0.927
道内															
道外	-0.065	0.402	0.872	0.946	0.806	0.241	0.589	0.470	0.210	0.962	0.874	0.271	1.256	0.612	0.040
就業形態															
経営者・役員	-1.149	0.637	0.071	-17.431	3047.263	0.995	-16.955	1119.337	0.988	-1.093	1.266	0.388	-0.580	1.011	0.566
常勤雇用															
自営・家族従業	-0.854	0.392	0.029	-0.773	0.901	0.391	-0.378	0.521	0.468	-1.606	1.171	0.170	-0.675	0.662	0.308
パート・アルバイト等	-0.386	0.395	0.328	-1.319	1.187	0.267	-0.250	0.526	0.635	-17.423	1898.591	0.993	-0.935	0.880	0.288
無職・学生	-0.055	0.386	0.887	-0.577	0.971	0.552	-0.353	0.524	0.501	-0.200	0.901	0.825	-1.048	0.770	0.173
アイヌの人との交流															
よくある	0.925	0.376	0.014	-0.412	0.914	0.652	1.248	0.511	0.015	-0.125	0.917	0.892	-0.089	0.692	0.898
たまにある	0.898	0.347	0.010	0.199	0.720	0.782	0.941	0.475	0.048	0.369	0.835	0.659	-0.194	0.596	0.745
あまりない	0.229	0.414	0.580	-17.407	1934.455	0.993	0.634	0.557	0.255	-0.671	1.258	0.594	-0.210	0.717	0.769
ほとんどない															
	N = 391	deviance:416.92		N = 391	deviance:94.379		N = 391	deviance:256.78		N = 391	deviance:93.771		N = 391	deviance:143.71	

表２－21　二項ロジスティック回帰分析（アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか）

札幌市	アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか														
	近所の人			友人			学校の授業や行事			アイヌ文化を普及している団体情報			メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-5.051	1.428	0.000	-21.180	1599.256	0.989	-0.185	0.405	0.647	-3.232	0.796	0.000	0.360	0.362	0.320
性別															
男性	1.227	1.076	0.254	-0.094	0.882	0.915	-0.221	0.376	0.557	0.065	0.565	0.908	0.356	0.315	0.258
女性															
世代															
青年層	-0.502	1.379	0.716	-0.243	1.335	0.856	1.296	0.335	0.000	0.862	0.690	0.212	-1.130	0.322	0.000
壮年層															
老年層	-1.406	1.203	0.243	-0.097	0.947	0.919	-1.131	0.492	0.022	1.267	0.685	0.064	0.654	0.354	0.065
学歴															
中学卒	2.483	1.223	0.042	-0.070	1.246	0.955	-15.462	964.912	0.987	-0.268	1.165	0.818	-1.025	0.596	0.085
高校卒															
短大・高専・専門卒	-17.720	2665.487	0.995	0.077	0.994	0.938	0.073	0.374	0.845	0.064	0.687	0.926	-0.367	0.325	0.259
大学卒以上	-0.279	0.928	0.763	-0.349	0.940	0.710	-0.323	0.403	0.422	0.600	0.620	0.333	-0.059	0.337	0.862
出身地															
自治体内	0.769	0.893	0.389	0.352	0.845	0.677	-0.094	0.324	0.771	-0.364	0.573	0.525	-0.207	0.284	0.465

道内															
道外	0.082	1.136	0.943	1.073	0.917	0.242	-1.240	0.547	0.023	-1.533	0.906	0.091	0.012	0.389	0.976
就業形態															
経営者・役員	2.104	1.321	0.111	19.798	1599.256	0.990	-1.349	1.105	0.222	1.923	0.811	0.018	-1.022	0.656	0.120
常勤雇用															
自営・家族従業	0.141	1.443	0.922	-0.407	3547.314	1.000	-0.128	0.538	0.812	-16.190	1200.148	0.989	-0.261	0.469	0.578
パート・アルバイト等	-17.322	3004.892	0.995	16.582	1599.256	0.992	-0.878	0.407	0.031	-0.977	0.854	0.253	0.015	0.367	0.967
無職・学生	1.650	1.219	0.176	18.244	1599.255	0.991	-1.022	0.445	0.022	-0.355	0.660	0.590	0.161	0.369	0.662
アイヌの人との交流															
ある・あまりない	2.381	0.978	0.015	1.947	1.009	0.054	-1.020	0.580	0.078	1.027	0.673	0.127	-0.469	0.425	0.271
ほとんどない															
	N = 307 deviance:54.016			N = 307 deviance:66.342			N = 307 deviance:286.61			N = 307 deviance:134.31			N = 307 deviance:382.38		

むかわ町	アイヌ文化をどこで（誰から）知ったか														
	近所の人			友人			学校の授業や行事			アイヌ文化を普及している団体情報			メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-3.570	0.921	0.000	-4.346	1.177	0.000	-1.175	0.669	0.079	-1.236	0.588	0.036	-0.338	0.476	0.477
性別															
男性	0.593	0.424	0.162	0.027	0.454	0.952	-1.274	0.529	0.016	-0.161	0.349	0.644	-0.153	0.323	0.635
女性															
世代															
青年層	-0.889	0.838	0.289	0.723	0.688	0.294	0.863	0.524	0.100	-0.499	0.523	0.340	-0.203	0.424	0.632
壮年層															
老年層	0.794	0.494	0.108	0.852	0.558	0.127	-0.597	0.663	0.368	0.166	0.423	0.694	-0.005	0.378	0.989
学歴															
中学卒	-0.531	0.565	0.347	0.138	0.548	0.802	-0.272	0.895	0.761	0.253	0.490	0.606	-1.697	0.661	0.010
高校卒															
短大・高専・専門卒	0.021	0.502	0.967	0.003	0.536	0.995	0.487	0.534	0.362	-0.067	0.422	0.874	0.529	0.356	0.137
大学卒以上	-0.610	0.623	0.328	-0.072	0.735	0.922	1.314	0.636	0.039	0.619	0.467	0.185	0.396	0.426	0.353
出身地															
自治体内	0.348	0.411	0.397	-0.670	0.420	0.111	-0.236	0.476	0.620	-0.273	0.325	0.401	0.689	0.309	0.026
道内															
道外	1.146	0.698	0.101	-0.492	0.832	0.554	2.220	0.779	0.004	-1.264	0.706	0.073	0.187	0.539	0.729
就業形態															
経営者・役員	-0.140	0.897	0.876	1.721	0.951	0.070	-16.582	992.691	0.987	-0.008	0.683	0.991	-0.554	0.691	0.423
常勤雇用															
自営・家族従業	-0.604	0.596	0.311	-0.167	0.717	0.815	-0.483	0.645	0.454	-1.451	0.526	0.006	0.263	0.445	0.554
パート・アルバイト等	-0.781	0.662	0.238	0.917	0.655	0.161	-1.051	0.677	0.120	-1.797	0.598	0.003	-0.214	0.475	0.652
無職・学生	-0.461	0.629	0.464	-0.009	0.712	0.990	-1.852	0.832	0.026	-0.400	0.505	0.428	0.117	0.471	0.804
アイヌの人との交流															
よくある	2.299	0.827	0.005	2.988	1.077	0.006	0.510	0.643	0.428	1.433	0.561	0.011	-1.062	0.447	0.017
たまにある	1.775	0.819	0.030	2.339	1.087	0.031	-0.418	0.641	0.514	1.134	0.533	0.033	-0.473	0.408	0.246
あまりない	-0.360	1.288	0.780	-14.808	977.206	0.988	0.516	0.659	0.434	1.166	0.582	0.045	0.057	0.454	0.900
ほとんどない															
	N = 247 deviance:185.6			N = 247 deviance:163.66			N = 247 deviance:150.44			N = 247 deviance:256.43			N = 247 deviance:296.07		

表２－22　　二項ロジスティック回帰分析（学校でアイヌの歴史や文化を学んだか）

札幌市	学校でアイヌの歴史を学んだか			学校でアイヌの文化を体験したか		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-0.535	0.294	0.069	-1.465	0.379	0.000
性別						
男性	-0.178	0.241	0.459	-0.466	0.320	0.145
女性						
世代						
青年層	0.890	0.244	0.000	0.361	0.297	0.224
壮年層						
老年層	-0.586	0.277	0.034	-0.476	0.407	0.241
学歴						
中学卒	-0.463	0.535	0.387	0.063	0.683	0.926
高校卒						
短大・高専・専門卒	0.471	0.253	0.062	0.337	0.330	0.307
大学卒以上	0.598	0.270	0.027	0.076	0.375	0.839
出身地						
自治体内	0.474	0.222	0.032	0.356	0.279	0.201
道内						
道外	-0.941	0.327	0.004	-0.929	0.514	0.071
就業形態						
経営者・役員	-0.974	0.601	0.105	-1.193	1.058	0.259
常勤雇用						
自営・家族従業	0.366	0.379	0.334	-0.125	0.477	0.793
パート・アルバイト等	-0.442	0.280	0.114	-0.586	0.347	0.091
無職・学生	-0.558	0.288	0.053	-0.797	0.397	0.044
アイヌの人との交流						
ある・あまりない	0.398	0.363	0.272	0.680	0.432	0.115
ほとんどない						
	N = 525　deviance:607.08			N = 531　deviance:403.03		

むかわ町	学校でアイヌの歴史を学んだか			学校でアイヌの文化を体験したか		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-0.223	0.373	0.550	-1.621	0.557	0.004
性別						
男性	-0.223	0.273	0.414	-0.526	0.426	0.217
女性						
世代						
青年層	0.331	0.326	0.309	0.413	0.481	0.391
壮年層						
老年層	-1.103	0.331	0.001	-0.552	0.535	0.302
学歴						
中学卒	-0.557	0.464	0.230	0.261	0.580	0.653
高校卒						
短大・高専・専門卒	-0.082	0.307	0.788	-0.299	0.499	0.549
大学卒以上	0.344	0.367	0.348	0.139	0.599	0.816
出身地						
自治体内	-0.776	0.268	0.004	-0.317	0.410	0.439
道内						
道外	-0.376	0.470	0.423	-0.062	0.684	0.928
就業形態						
経営者・役員	-1.011	0.673	0.133	-16.023	1135.485	0.989
常勤雇用						
自営・家族従業	0.074	0.347	0.832	-0.413	0.568	0.467
パート・アルバイト等	0.079	0.366	0.830	0.063	0.515	0.903
無職・学生	-0.783	0.427	0.067	-1.066	0.696	0.126
アイヌの人との交流						
よくある	0.300	0.362	0.408	0.207	0.532	0.698
たまにある	0.020	0.341	0.953	0.004	0.503	0.993
あまりない	0.533	0.378	0.158	-0.711	0.694	0.305
ほとんどない						
	N = 439　deviance:420.76			N = 452　deviance:215.52		

表２－23　二項ロジスティック回帰分析（アイヌ文化の現状）

札幌市	アイヌ文化の現状					
	かなり残っている			あまり残っていない		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-4.160	1.269	0.001	-0.619	0.275	0.025
性別						
男性	-0.692	1.020	0.497	0.159	0.217	0.463
女性						
世代						
青年層	-17.370	2425.000	0.994	0.306	0.230	0.184
壮年層						
老年層	-1.286	1.137	0.258	-0.175	0.249	0.481
学歴						
中学卒	1.368	1.099	0.213	-0.633	0.436	0.147
高校卒						
短大・高専・専門卒	-1.201	1.225	0.327	0.295	0.233	0.204
大学卒以上	-0.506	1.288	0.694	0.442	0.246	0.072
出身地						
自治体内	0.596	0.855	0.486	0.263	0.206	0.201
道内						
道外	0.060	1.236	0.962	0.144	0.272	0.596

むかわ町	アイヌ文化の現状					
	かなり残っている			あまり残っていない		
	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)	Estimate	Std.Error	Pr(>|z|)
切片	-5.333	1.098	0.000	-0.974	0.355	0.006
性別						
男性	0.043	0.536	0.937	0.584	0.240	0.015
女性						
世代						
青年層	1.542	0.727	0.034	-0.761	0.342	0.026
壮年層						
老年層	0.387	0.750	0.606	-0.606	0.290	0.037
学歴						
中学卒	1.715	0.703	0.015	0.021	0.323	0.947
高校卒						
短大・高専・専門卒	0.969	0.725	0.181	-0.049	0.294	0.866
大学卒以上	1.228	0.864	0.155	0.346	0.332	0.298
出身地						
自治体内	-0.096	0.548	0.861	-0.035	0.236	0.882
道内						
道外	0.431	0.872	0.621	0.206	0.389	0.595

就業形態						
経営者・役員	-16.570	5974.000	0.998	0.386	0.476	0.418
常勤雇用						
自営・家族従業	1.790	1.260	0.156	-0.292	0.368	0.429
パート・アルバイト等	0.000	1.458	1.000	-0.153	0.260	0.556
無職・学生	1.078	1.339	0.420	-0.106	0.263	0.687
アイヌの人との交流						
ある・あまりない	0.876	1.235	0.478	-0.070	0.335	0.835
ほとんどない						

N = 540　deviance:61.955　　N = 540　deviance:707.92

就業形態						
経営者・役員	-0.325	1.182	0.783	0.037	0.465	0.937
常勤雇用						
自営・家族従業	0.380	0.757	0.616	0.004	0.332	0.989
パート・アルバイト等	0.719	0.743	0.333	0.413	0.349	0.237
無職・学生	-0.912	1.004	0.364	0.240	0.361	0.506
アイヌの人との交流						
よくある	0.702	0.817	0.390	0.330	0.314	0.293
たまにある	1.200	0.801	0.134	-0.372	0.315	0.237
あまりない	0.451	0.877	0.607	0.168	0.341	0.623
ほとんどない						

N = 452　deviance:138.42　　N = 452　deviance:526.79

次に、第２に、世代に関しては、（１）札幌市とむかわ町ともに、「青年層」ほど「アイヌ語」の知識を持つ特徴が見られる。表２－19を見よう。具体的に値を確認すると、札幌市では「青年層」の回帰係数が0.734（p=0.004）となっている一方、むかわ町でも「青年層」の回帰係数が0.753（p=0.029）となっている。

世代に関しては、さらに（２）札幌市とむかわ町ともに、若い世代ほど学校を通じた形でアイヌ文化の経験をしていると解釈できる。表２－21から「学校の授業や行事」を見ると、札幌市の場合、「青年層」の回帰係数が1.296（p=0.000）となっている。むかわ町の場合、「青年層」の回帰係数0.863で有意確率は有意ではないもののp=0.100となっている。また、表２－22から、学校でアイヌの歴史や文化を学んだかどうかを見ると、両地域ともに、アイヌの文化を体験したかどうかについては世代差があるとはいいがたいものの、アイヌの歴史を学んだかどうかについては若い世代でそうした経験をしていると解釈できる。札幌市を見ると、「青年層」の回帰係数は0.890（p=0.000）となっているからであり、むかわ町を見ると、「老年層」の回帰係数が－1.103（p=0.001）であり、「老年層」ほど学校でアイヌの歴史を学んだ経験がないと判断できるからである。

これらの点について、上山（2015）によれば、白糠町でも「青年層」ほど「アイヌ語」の知識を持つと同時に、「青年層」ほど学校を通じた形でアイヌ文化を経験している。その意味で、これらの点は、白糠町・札幌市・むかわ町に共通して当てはまる特徴といえる。

ただし、先にクロス表分析で触れたように、世代に関しては、札幌市とむかわ町それぞれ独自の特徴が見られていた。具体的には、札幌市において「老年層」ほど「アイヌ文化を普及している団体」や「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」という「フォーマル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ていた。むかわ町の場合には、「老年層」ほど「近所の人」「友人」という「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ていた。そこで、この点について、ロジスティック回帰分析の結果を確認しよう。表２－21を見よう。

それによれば、世代に関しては、他の変数の影響を考慮しても（３）札幌市において、「老年層」ほど「フォーマル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ているという傾向が見られる。「アイヌ文化を普及している団体」において「老年層」の回帰係数は1.267（p=0.064）となっているだけでなく、「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」において「老年層」の回帰係数は0.654（p=0.065）となっているからである。こうした傾向は、表２－21からわかるよう

にむかわ町では見られないだけでなく、上山（2015）によれば白糠町の場合でも見られない。その意味で、この点は、札幌市の特徴であると解釈できよう。

他方で、（４）むかわ町において、「老年層」ほど「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ているという点については、有意な違いがあるとはいえなかった。「近所の人」において「老年層」の回帰係数は0.794（p=0.108）、「友人」において「老年層」の回帰係数は0.852（p=0.127）であるからである。しかし、両者共に回帰係数の値が正である点、そのうえ有意確率が10％水準に近い点には留意しておく必要があろう。

さらに、第３に、学歴に関しては、（１）学歴が高いほどアイヌ文化の知識を得ている。表２－19から札幌市を見ると、「アイヌ文化の知識」において「大学卒以上」の回帰係数が0.448（p=0.078）となっているからである。この点は、「アイヌ語」「ユカラなど口承文芸」「伝統的狩猟・農法・漁法」というアイヌ文化の項目でも見られる。むかわ町を見ると、「アイヌ文化の知識」においては有意な違いが見られないものの、「伝統的な葬儀・先祖供養」「イナウを捧げる」「アイヌ語」「ユカラなど口承文芸」において、「大学卒以上」において有意に値が高い。たとえば、「伝統的な葬儀・先祖供養」において「大学卒以上」の回帰係数は1.375（p=0.033）となっている。

こうした点は、上山（2015）で指摘したように白糠町でも確認されている。その意味で、学歴が高いほどアイヌ文化の知識を得ているという傾向は、多くの地域で見られると推測できる

ところで、学歴に関しては、クロス表分析において、学歴が高いほど、アイヌ文化は現在、残っていないと評価する傾向が見られていた。そこで、表２－23を見よう。

それによれば、学歴に関しては（２）札幌市において、学歴が高いほど、アイヌ文化が残っていないと判断していることがわかる。具体的に値を確認すると、「あまり残っていない」に関して、「大学卒以上」の回帰係数が0.442（p=0.072）となっている。ただし、むかわ町においては、「大学卒以上」の回帰係数は0.346（p=0.298）となっており有意な違いがあるとはいえない。

この点について、注目すべきは、上山（2015）において、白糠町では学歴が高いほどアイヌ文化が「かなり残っている」と評価していることが明らかにされている点である。その意味で、札幌市と白糠町においては、高学歴の者のアイヌ文化の現状への評価のあり方には違いが見られる。

また、表２－23から、「かなり残っている」を見ると、札幌市の場合、学歴によって有意な違いが見られないだけでなく、むかわ町の場合、「中学卒」の回帰係数が1.715（p=0.015）となっており、むしろ学歴が低いほどアイヌ文化を「かなり残っている」と評価していることがわかる。

このように見れば、学歴によるアイヌ文化の現状評価のあり方の違いは、３つの地域それぞれ独自の様相を帯びていることが示唆されよう。

第３節　アイヌ文化の知識と体験のあり方の背景

以上、札幌市とむかわ町に住む和人住民のアイヌ文化の知識と体験の特徴を、その地域内における規定要因の特徴も含めて検討してきた。以下では、これまで明らかになった主要な特徴に関して、それがもたらされる背景について考察を加えてみよう。

第１項　札幌市の場合

まず、札幌市の場合、５つの地域の中で、アイヌの知識を持つ者が最も多かった。また、将来体験したいアイヌ文化を持つ者も５つの地域の中でとりわけ多く見られていた。

こうした特徴の背景の１つとして考えられるのは、札幌市は高学歴の者が多く存在しているという点だろう。先ほど第２節で触れたように、学歴が高いほどアイヌの知識を持つという傾向は多くの地域で見られる可能性が高い。その意味で、地域的な特徴に還元されない一般的な傾向であると思われる。この点をふまえれば、学歴が高い者が多い地域では、アイヌの知識を持つ者が多くなると考えられよう。実際に、表２－24と図２－７から地域別に学歴を確認してみよう。それによれば、札幌市は「大学卒以上」28.0％、「短大高専専門以上」30.6％と、高卒以上の学歴を持つ者が５つの地域で最も多くなっている。それゆえ、こうした学歴のあり方が、アイヌ文化の知識を持つ者の多さや将来体験したいアイヌ文化がある者の多さをもたらしていると思われる。

表２－24　地域別学歴

	学歴				
	中学校卒	高校卒	短大高専専門卒	大学卒以上	合計
新ひだか町	21.6%	47.1%	19.8%	11.4%	499
伊達市	14.6%	47.7%	20.3%	17.4%	576
白糠町	23.0%	50.7%	17.4%	8.8%	408
札幌市	7.3%	34.1%	30.6%	28.0%	572
むかわ町	19.5%	46.5%	21.9%	12.1%	512
合計	16.7%	44.8%	22.4%	16.2%	2567
新ひだか町	3.319	1.148	-1.506	-3.207	
伊達市	-1.528	1.613	-1.340	0.884	
白糠町	3.762	2.629	-2.621	-4.393	
札幌市	-6.791	-5.842	5.361	8.700	
むかわ町	1.939	0.857	-0.295	-2.787	

p=0.000

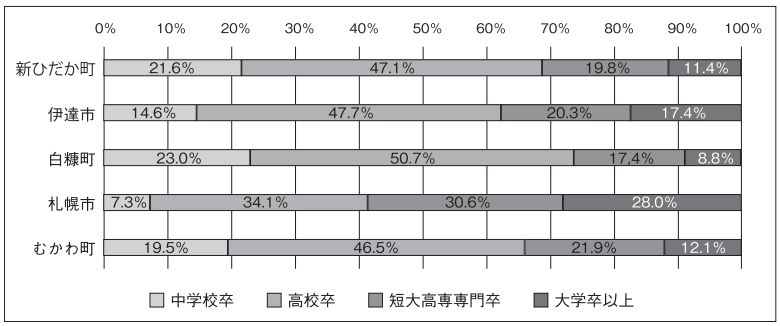


図２－７　地域別学歴

こうした学歴のあり方は、上述以外の札幌市における特徴ももたらしていると考えられる。具体的には、札幌市は、アイヌ文化の知識を得る経路として「近所の人」や「友人」が少ない一方、「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を通じて、アイヌ文化の知識を得る傾向が見られるという特徴である。一般的に、高学歴の者ほど、情報メディアを利用し情報を収集することに抵抗が見られないと思われる。それゆえに、高学歴の者が多い札幌市において、「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を経路として、アイヌ文化の知識が得

られているのではないだろうか。

ただし、こうした特徴は、学歴のあり方だけに起因しているものではないようにも思える。なぜなら、そもそも情報メディアなどを利用し情報収集をする以外の方法で、アイヌ文化の知識を得ていればそうした情報メディアを活用する必要がないからである。この点は、札幌市において、「近所の人」や「友人」を通じてアイヌ文化の知識を得る者が少ないという特徴とも関連している。

こうした点については、札幌市は、明治の当初ではアイヌの人たちはわずかしか住んでいなかったこと（小内編著2012：9-11）や、北海道の中においては、北海道内はもちろん道外の各地から人口が流入してきた特徴を持つことが関係しているかもしれない。すなわち、そもそもアイヌ文化に触れていなかった者が多いため、もしくはそうした者が札幌市に流入してきたために、「近所の人」や「友人」を介してアイヌ文化の知識を得ることが少なく、それゆえに「情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）」を通じてアイヌ文化の知識を得ることが多くなっているのではないだろうか。

この点について、表２－25と図２－８を見よう。そこには、地域別の出身地を示した。それによれば、「自治体内」の者が31.4％となっており、札幌市が出身地である者が３割程度存在している。また、アイヌ文化に触れることが少ないと思われる「道外」出身の者は14.4％（調整済み残差3.335）と５つの地域で最も多い。調査票の設計上、「道内」のいずれの市町村から移動してきたのか判別できないものの、アイヌの人々が多く住むわけではない地域から札幌市に流入した者もかなりの程度存在するだろう。

さらに、この点は、札幌市はアイヌ文化の現状を「あまり残っていない」と回答する者が５地域の中で最も多かったという点の背景にも存在していると思われる。すなわち、そもそもアイヌ文化に触れてこなかったからこそ、アイヌ文化を「あまり残っていない」と回答する傾向が見られるのではないだろうか。

このように見れば、先に触れた札幌市の和人住民のアイヌ文化の知識と体験の特徴は、札幌市という地域の歴史的な性格と人口構成上の特質によっても影響を受けていると考えられよう。

表２－25　地域別出身地

	出身地			
	自治体内	道内	道外	合計
新ひだか町	50.6%	39.4%	10.0%	502
伊達市	34.6%	55.4%	10.1%	587
白糠町	49.2%	42.7%	8.2%	417
札幌市	31.4%	54.2%	14.4%	576
むかわ町	50.0%	40.3%	9.7%	524
合計	42.4%	47.0%	10.6%	2606
新ひだか町	4.135	-3.760	-0.541	
伊達市	-4.355	4.632	-0.516	
白糠町	3.047	-1.912	-1.790	
札幌市	-6.041	3.922	3.335	
むかわ町	3.937	-3.439	-0.745	

p=0.000

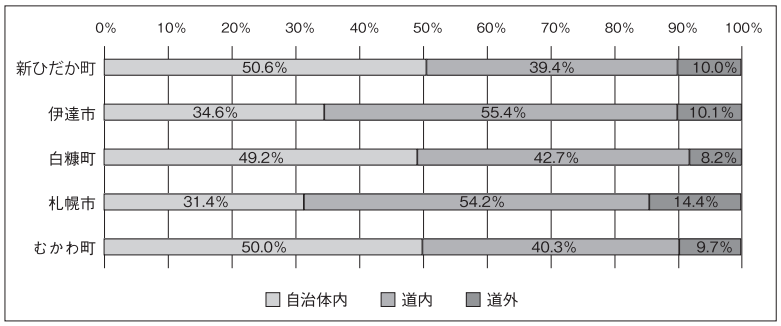


図２－８　地域別出身地

第２項　むかわ町の場合

次に、むかわ町の場合、札幌市に次いでアイヌ文化の知識が多いという特徴が見られた。そして、そうした知識は、相対的に見て、「家族や親戚」「近所の人」「友人」という「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じて得られていた。

こうした特徴が見られるのは、むかわ町は、そもそも古くからアイヌの人々が多く住んでいた地域（小内編著2012：9－11）である点が関係していよう。すなわち、身近にアイヌの人々が多くいるゆえに「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得る傾向が見られると思われる。

実際、アイヌの人々との交流に関する自由記述を見ると、「旧友」「顔見知り」「子どもの時からの付き合い」などの回答が見られるだけでなく、仕事や職場の関係、地域付き合いや自治会・町内会での関わりの中でアイヌの人々との交流があるという回答が見られる。さらには、親戚にアイヌの方がいると回答する者もいくつか見られた。

この点について、表２－26と図２－９を見よう。そこには、第１章で触れられているアイヌの人々との交流の程度を地域別に整理してある。そこからは、むかわ町ではアイヌの人々との交流が「よくある」が26.0％（調整済み残差10.009）、「たまにある」が32.4％（調整済み残差8.880）となっており、新ひだか町とほぼ同程度に、アイヌの方々との交流があることがわかる。

表２－26　地域別アイヌの人々との交流

	アイヌの人々との交流				
	よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	合計
新ひだか町	23.7%	31.0%	18.0%	27.3%	490
伊達市	5.3%	9.1%	14.9%	70.7%	583
白糠町	11.2%	22.3%	24.8%	41.7%	412
札幌市	0.3%	3.1%	5.1%	91.4%	572
むかわ町	26.0%	32.4%	17.8%	23.8%	512
合計	12.8%	18.7%	15.5%	53.1%	2569
新ひだか町	8.041	7.757	1.706	-12.676	
伊達市	-6.131	-6.781	-0.403	9.692	
白糠町	-1.064	2.048	5.702	-5.019	
札幌市	-10.094	-10.831	-7.792	20.860	
むかわ町	10.009	8.880	1.623	-14.809	

p=0.000

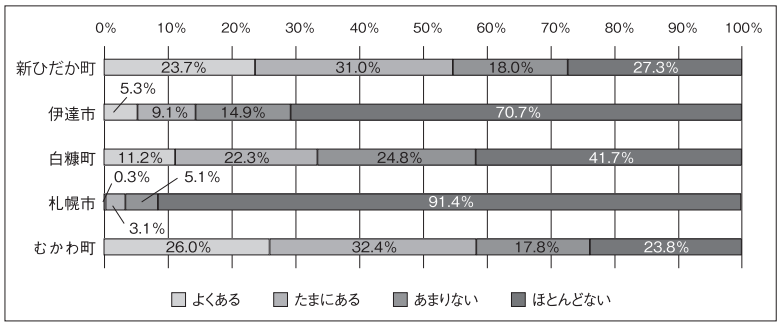


図２－９　地域別アイヌの人々との交流

このように、むかわ町では、そもそも古くからアイヌの人々が多く住んでいた地域であるために、「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ているという特徴が見られていよう。

この点に関連して、再度、表２－25と図２－８を見よう。そこからは、むかわ町の場合、「自治体内」が50.0％となっており、その意味で半数の者がもともとアイヌの人々が多く住んでいたむかわ町出身であることがわかる。さらに、表２－27と図２－10を見よう。そこには、地域別に居住歴を示した。それによれば、むかわ町は、他の地域と比べて、おおよそ居住歴が長い者が多いことがわかる。

こうした点は、むかわ町の和人住民は、アイヌの人々がもともと住んでいた地域での生活歴が長いことを示し、その意味で、アイヌの人々と関わる歳月も長いものであると考えられよう。

表２－27　地域別居住歴

	居住歴									
	0～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40～49年	50～59年	60～69年	70～79年	80年以上	合計
新ひだか町	9.4%	7.5%	9.4%	16.0%	20.2%	18.1%	11.0%	8.3%	0.2%	481
伊達市	12.0%	11.6%	15.8%	11.5%	20.2%	11.5%	10.1%	7.1%	0.2%	524
白糠町	7.8%	3.6%	11.2%	13.3%	17.7%	17.2%	20.8%	7.8%	0.5%	384
札幌市	10.6%	10.8%	16.0%	20.7%	21.4%	13.5%	3.9%	3.1%	0.0%	518
むかわ町	8.1%	6.2%	9.4%	13.6%	14.9%	19.4%	16.6%	11.5%	0.4%	470
合計	9.7%	8.2%	12.5%	15.1%	19.0%	15.7%	11.9%	7.4%	0.3%	2377

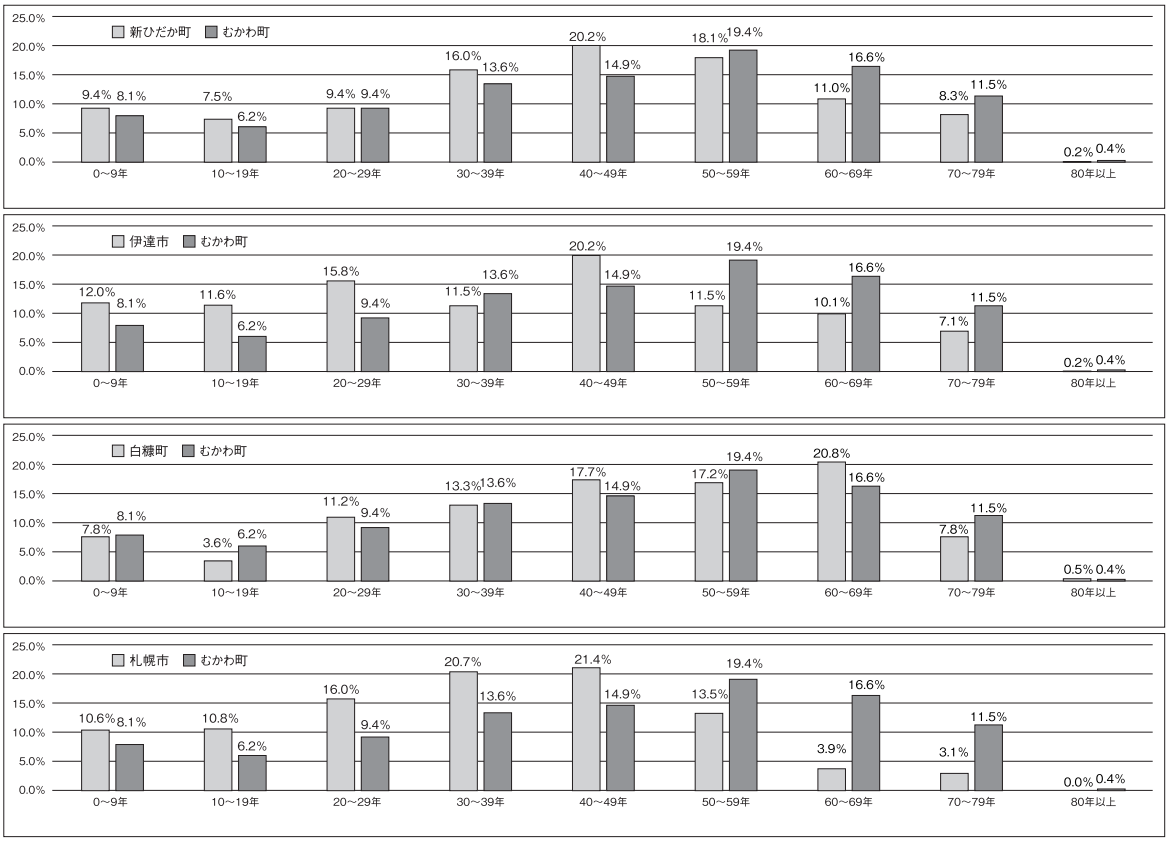


図２－10　地域別居住歴

おわりに

以上、札幌市とむかわ町を対象に、和人住民のアイヌ文化への関わり方を検討してきた。

そこからは、第１に、和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験の地域的な共通性が浮き彫りとなろう。たとえば、アイヌ文化の体験を見ると、５つの地域でおおよそ２割程度となっていた。また、アイヌ文化の知識を得る経路としてはアイヌ文化に関する施設や展示物が最も多く見られる点、アイヌ文化は日本の国として残すべきと考える者が最も多く見られる点も５つの地域で共通していた。

その上、アイヌ文化の規定要因も、地域的な共通性があると解釈することができた。たとえば、男女間では選好するアイヌ文化に違いが見られた。また、若い世代ほど学校を通じてアイヌ文化に触れていた。さらに、高学歴の者ほどアイヌ文化の知識を得てもいた。

しかし同時に、第２に、和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験のあり方に関して、地域的な多様性が存在することも明らかであろう。実際、札幌市では、将来体験したいアイヌ文化がとりわけ多かった。また、情報メディアを通じてアイヌ文化の知識を得る傾向も強かった。むかわ町では、札幌市に次いでアイヌ文化の知識を持つ者が多いものの、「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じたアイヌ文化の知識を得るという相対的な特徴が見られた。

そして、こうした和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験の地域的な多様性の背景には、該当地域の学歴構成や人口構成の特質、さらに地域の歴史的な性格が存在しているように思える。

このように見れば、引き続き和人住民のアイヌ文化の関わり方を把握していく上では、その地域的な共通性と多様性を同時に視野に入れつつ、それらがもたらされる社会的な背景について考察を

加えることが重要な意味を持つことになろう。

参考文献

小内透編著, 2012,『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その２　現代アイヌの生活の歩みと意識の変容――2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書――』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

――――, 2013,『調査と社会理論・研究報告書30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2014,『調査と社会理論・研究報告書31　伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

――――, 2015,『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室.

上山浩次郎, 2015,「白糠町の和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 171-196.

（上山浩次郎）

第３章　北海道の地域住民によるアイヌ政策評価
――むかわ町と札幌市を事例として――

濱田　国佑

駒澤大学文学部講師

はじめに

1997（平成９）年７月、アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）が制定され、法律の趣旨にもとづいてアイヌ文化の振興・啓発を図る取り組みが、国や北海道などによって行われるようになった。法律の制定後、国の指定を受けた「公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構」では、「アイヌに関する総合的かつ実践的な研究の推進」「アイヌ語の振興」「アイヌ文化の振興」「アイヌの伝統等に関する普及啓発」「伝統的生活空間の再生」といった各種の事業が行われている。

また、2007（平成19）年 9 月 には「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が国連において採択されることになり、わが国でも、翌2008（平成20）年に「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が衆議院および参議院において全会一致で採択されることになった。

こうした流れを受け、2014（平成26）年6月には、国立のアイヌ文化博物館や民族共生公園などの設置を定めた「アイヌ文化の復興等を促進するための『民族共生の象徴となる空間』の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定されることになった。現在、2020（平成32）年に開催される東京オリンピックに間に合うよう、整備が進められている状況である。

こうしたアイヌ文化の普及・振興に関わる政策とは別に、アイヌの生活支援に関する政策が主に北海道によって行われてきた。1974（昭和49）年度から「北海道ウタリ福祉対策」が行われており、「アイヌの人たちの自立を助長促進し、社会的・経済的地位の向上を図るため、生活環境の改善、社会福祉の充実、職業の安定、教育文化の向上及び生産基盤の整備等を積極的に推進する」ことを目的として、「住宅資金の貸付」「雇用対策」「教育対策」「福祉対策」などの政策が実施されている。

このようにアイヌ関連の政策に関しては、アイヌ文化の普及・振興およびアイヌに対する生活支援という２つの観点から実施されている。しかしながら、こうしたアイヌ政策についての理解は十分に進んでいるとはいえない状況にあり、アイヌ政策に対して否定的な態度をとる人も少なくない。

本章では、北海道札幌市・むかわ町における地域住民調査の結果をもとに、アイヌ政策に対する支持の状況、およびその規定要因を明らかにする[1)]。

第１節　アイヌ政策に対する支持の状況

まず、札幌市の住民が、各種のアイヌ政策に対してどのような態度を示しているかを確認してみることにしよう。以下の図３－１に回答の結果を示した。

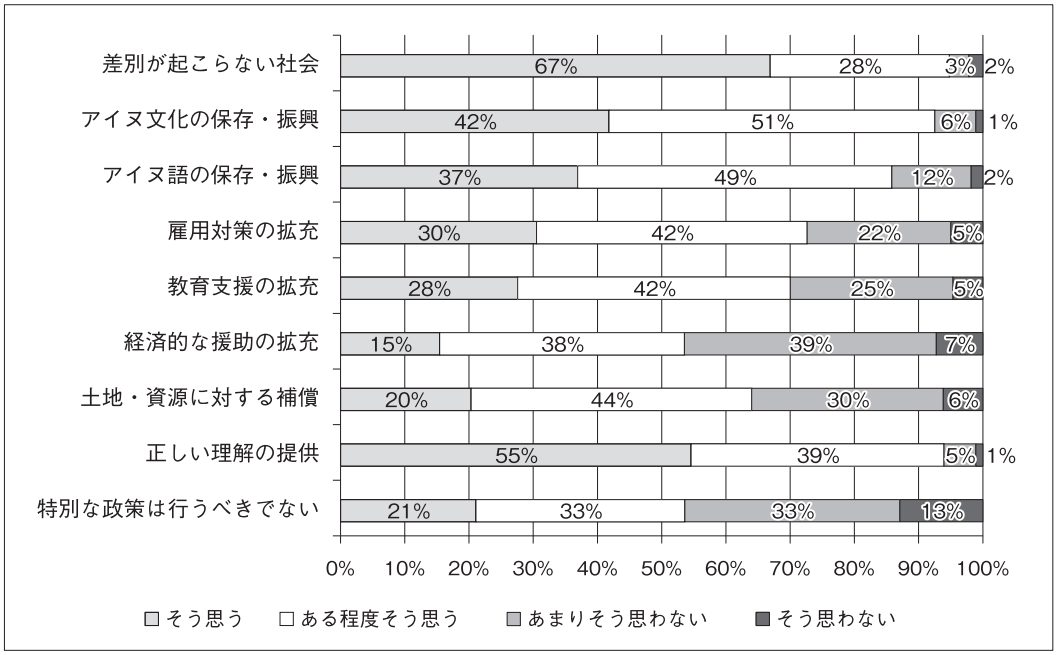


図３－１　札幌市におけるアイヌ政策支持の回答分布

図３－1を見ると、「アイヌ民族への差別が起こらない人権尊重の社会をつくるべき」という項目に対する支持が最も高いことがわかる。67％が「そう思う」と答えており、「ある程度そう思う」を合わせると約95％が「差別が起こらない社会」という目標に対して肯定的な態度を示している。次いで肯定的な回答が多いのが「アイヌ民族に関する正しい理解を提供すべき」という項目であり、やはり過半数が「そう思う」と答えている。このように、差別の撤廃や知識の普及・啓発といった政策に関しては、多くの人が肯定的にとらえているといえる。

また、「アイヌ文化の保存・振興」や「アイヌ語の保存・振興」に関しても、比較的多くの人が支持をしている。「そう思う」と答える人の割合はそれぞれ４割程度であり、先の２項目（「差別が起こらない社会」「正しい理解の提供」）よりは低い割合にとどまっているものの、「そう思う」と「ある程度そう思う」を合わせると、約９割がアイヌ文化やアイヌ語の保存・振興について肯定的な態度を示しているのである。

このように、差別の根絶や知識の啓発、アイヌ語・アイヌ文化の普及といった政策に関しては、比較的多くの人が支持をする一方、支持の割合が相対的に低い状態にとどまっている政策も確認される。たとえば、「教育支援の拡充」や「雇用対策の充実」といった政策に肯定的な回答をする人の割合は、「そう思う」「ある程度そう思う」という回答が合わせて７割程度にとどまっている。また、「土地・資源の補償」や「経済的支援の拡充」といったアイヌ民族に対する直接的な補償・経済的支援に関する政策に対する支持はさらに低くなっており、「土地・資源に対する補償をすべき」という項目に対して肯定的な回答をした人の割合は約64％、「アイヌ民族に対する経済的支援を拡充すべき」という項目では約53％にとどまっており、賛否が分かれている状況にあるといえる。全般的な傾向としては、アイヌ民族に関する知識の普及・啓発、アイヌ語やアイヌ文化の普及・振興に関する政策に関しては、９割以上が支持をするという状況が見られる一方、雇用対策や教育支援、および経済支援などのアイヌ民族に対する個別的な生活支援策については、支持の割

合はそれほど高くなっておらず、賛否が分かれている状況である。こうした傾向は「特別な政策は行うべきではない」という項目に対する肯定的な回答の多さにもあらわれている。回答者の約７割が「特別な政策は行うべきではない」との質問に対して「そう思う」または「ある程度そう思う」と答えているのである。アイヌ語やアイヌ文化の普及・振興、アイヌ民族に関する知識の啓発を図る政策に異議をとなえる人は少数であるが、アイヌ民族に対して「特別扱い」をすること、つまりアイヌ民族のみを対象にした各種の支援政策を実施することに対する抵抗感は決して小さくないといえるだろう。

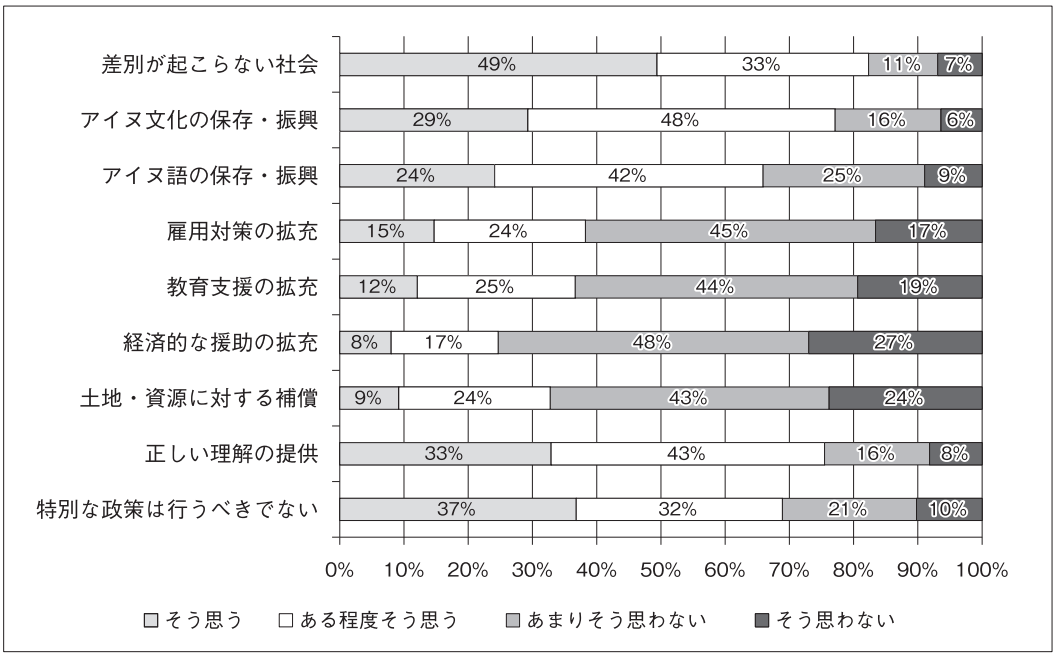


図３－２　むかわ町におけるアイヌ政策支持の回答分布

次に、むかわ町におけるアイヌ関連政策に対する支持の状況を、同様に確認してみることにしよう（図３－２）。グラフを見ると、札幌市に比べて、全般的に「そう思う」「ある程度そう思う」と回答する人の割合が低いということがわかる。札幌市と同様に「差別が起こらない社会」という項目に対する支持が最も高くなっているものの、「そう思う」「ある程度そう思う」という回答の合計は約82％であり、札幌市に比べて10ポイント以上低い値にとどまっている。また、「正しい理解の提供」や「アイヌ文化の保存・振興」「アイヌ語の保存・振興」といったアイヌ民族に関する知識の普及・啓発、アイヌ文化の振興に関わる項目についても、支持をする人の割合が札幌市に比べて20ポイント程度低くなっており、二つの地域の間で意識に大きな差があるといえる。

さらに大きな差が見られるのが、「雇用対策」「教育支援」「経済支援」「土地・資源の補償」といった政策に対する支持の割合である。これらの項目については、肯定的な回答の割合が、札幌市とむかわ町で30ポイント程度異なっており、非常に大きな差があるといえる。たとえば、アイヌ民族に対する「雇用対策を拡充すべき」だという質問に対して、札幌市ではおよそ72％が「そう思う」あるいは「ある程度そう思う」と回答する一方、むかわ町では「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した人の割合は合わせて39％にとどまっている。また、「経済的な

援助の拡充」という項目に関しても、札幌市では53％が「そう思う」もしくは「ある程度そう思う」と回答しているのに対し、むかわ町において肯定的な回答をする人の割合は25％程度にとどまっているのである。

最後に、国立のアイヌ文化博物館や民族共生公園などを含めたアイヌ関連施設の設置に対する賛否について確認しておくことにしよう（図３－３）。札幌市の場合、「賛成」とする回答が６割に達しているのに対して、むかわ町で「賛成」と回答した人の割合は約41％にとどまっている。「賛成」および「やや賛成」を合わせた割合でも、札幌では９割以上が国立のアイヌ関連施設の整備に肯定的な考えを示しているのに対し、むかわ町では８割程度にとどまっている。どちらの地域においても「賛成」もしくは「やや賛成」の回答が多数を占めているものの、やはり若干の温度差が見られる状況だといえる。

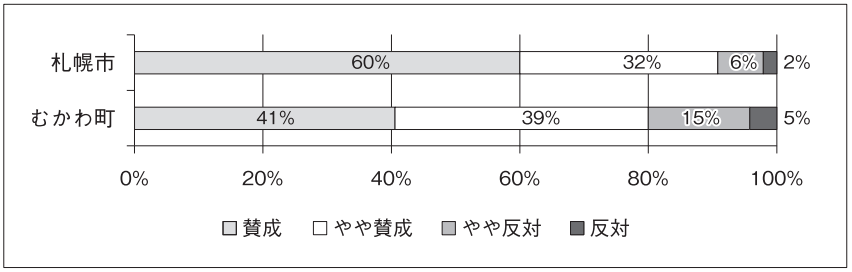


図３－３　国立のアイヌ関連施設の設置の賛否

このように、札幌市とむかわ町の両地域におけるアイヌ政策に対する許容度や支持の状況には、ある程度の差が存在しているといえるだろう。とくに、「雇用対策」「教育支援」「経済支援」などのアイヌ民族の生活支援を目的とする政策において、差が顕著に見られる。こうした住民の意識や温度差は、両地域におけるアイヌ民族が置かれた状況や歴史に起因しているのかもしれない。札幌市では「もともとアイヌの人々はわずかしか住んでいなかった」のに対して、むかわ町は古くからアイヌの人々が数多く住んでいた地域であり、「旧穂別地区にも旧鵡川地区にも多くのアイヌコタン（アイヌ部落あるいはアイヌ集落）が存在」していた（小内 2012）。また、2008年時点におけるウタリ協会（現・アイヌ協会）加入世帯数は、札幌市で275世帯なのに対して、むかわ町では265世帯となっており（山崎 2010）、人口比で見た場合、札幌市とむかわ町には大きな差が存在する。むかわ町では、古くからアイヌ民族の集落が存在しており、現在も人口に占める割合が比較的高いため、アイヌ民族に関する各種の政策、とりわけアイヌ民族のみを対象にした生活支援策に対して拒否感や抵抗感を持つ人が多いのではないかと考えられる。

第２節　属性によるアイヌ政策に対する支持の差異

前節では、札幌市とむかわ町における各種のアイヌ政策に対する支持の状況、および地域間の差異について確認した。続いて本節では、回答者の属性によるアイヌ政策に対する支持状況の差異について検討を行う。

第１項　学歴による政策支持の差異

まず、学歴による政策支持の差異について確認してみることにしよう。以下の表３－１および表３－２は、「そう思う」という回答に４点、「ある程度そう思う」に３点、「あまりそう思わない」に２点、「そう思わない」に１点という数値を与えた上で、学歴別に各種のアイヌ政策に対する支持の平均値を算出したものである。分散分析の結果、有意な差が確認された項目については各種の記号による印を付した。

札幌市の結果（表３－１）を確認すると、「雇用対策の拡充」「正しい理解の提供」「特別な政策を行うべきではない」という３つの項目において、学歴による有意な差（危険率10％水準）が見られる。「雇用対策の拡充」については、中学卒の学歴の場合に値が最も高くなっており、学歴が相対的に低い人の方が「雇用対策の拡充」という政策をより重要視していることがわかる。その一方で、アイヌ民族に関する「正しい理解の提供」という項目における学歴別の平均値を見ると、大学卒の学歴の場合に高く、逆に中学卒の学歴の場合は低い値を示している。アイヌ民族に関する正しい理解を提供するという政策に関しては、反対に高い学歴を持つ人々の方が、より重要だと考える傾向が存在するといえるだろう。

むかわ町において有意な差が見られたのは、「雇用対策の拡充」および「特別な政策は行うべきでない」という２つの項目である。「雇用対策の拡充」については札幌市と同様の傾向が見られる。むかわ町でも「中学卒」や「高校卒」など、学歴が相対的に低い層において平均値が高くなっており、大学卒などの高学歴層よりも、アイヌ民族に対する政策として「雇用対策の拡充」がより重要視されていることがわかる。一方、「特別な政策を行うべきでない」という項目については、学歴が高いほど支持する、あるいは学歴が低いほど支持するといった直線的な関係にはなっていない。学歴別の平均値を見ると、「大学卒」および「中学卒」の場合に低く、「高校」や「短大・高専・専門」といった中間的な学歴の層において高いという関係が見られる。つまり、高校卒および短大・高専・専門学校卒の場合、「特別な政策を行うべきではない」という質問に対して、より肯定的な回答をする傾向があるといえる。逆に言えば、中学卒および大学卒において、アイヌ民族に対して何らかの政策を行うべきだとの認識がより強く存在するということになる。こうした傾向はむかわ町だけでなく、新ひだか町において実施した同様の地域住民調査でも確認されている（濱田 2013）。アイヌ民族が身近に存在する地域の場合、アイヌ関連施策について実際に見聞きすることが多いと考えられる。その際、とりわけ学歴が相対的に低い層において、こうした政策によるメリットがより強く認識されやすいという傾向が存在するのではないかと考えられる。

表３－１　学歴による政策支持の差異（札幌市）

	中学	高校	短大 高専専門	大学	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.56	3.54	3.40	3.54	
差別が起こらない社会	3.50	3.63	3.58	3.59	
アイヌ文化の保存・振興	3.26	3.33	3.30	3.36	
アイヌ語の保存・振興	3.17	3.17	3.22	3.25	
雇用対策の拡充	3.30	3.00	2.99	2.88	+
教育支援の拡充	3.12	2.91	2.94	2.90	
経済的な援助の拡充	2.82	2.66	2.55	2.59	
土地・資源に対する補償	2.91	2.81	2.79	2.70	
正しい理解の提供	3.31	3.44	3.44	3.58	*
特別な政策は行うべきでない	2.91	2.67	2.62	2.47	+

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

表３－２　学歴による政策支持の差異（むかわ町）

	中学	高校	短大 高専専門	大学	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.27	3.12	3.06	3.25	
差別が起こらない社会	3.12	3.32	3.19	3.25	
アイヌ文化の保存・振興	2.99	2.99	3.00	3.08	
アイヌ語の保存・振興	2.74	2.81	2.85	2.86	
雇用対策の拡充	2.61	2.36	2.29	2.19	*
教育支援の拡充	2.50	2.27	2.24	2.19	
経済的な援助の拡充	2.20	2.07	2.00	1.93	
土地・資源に対する補償	2.34	2.14	2.20	2.12	
正しい理解の提供	2.89	2.98	3.04	3.23	
特別な政策は行うべきでない	2.84	3.07	3.02	2.71	*

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

第２項　出生地による政策支持の差異

次に、出生地による政策支持の差について確認していくことにしよう。札幌市における政策支持の平均値を出生地別に示したものが以下の表３－３である。有意な差が見られたのは「国立のアイヌ関連施設の設置」およびアイヌ民族に対する「土地・資源の補償」という２つの項目である。国立のアイヌ関連施設の設置に対する賛否に関しては、札幌市内出身者の値が最も低く、施設の設置に対して否定的な考えを示していることがわかる。一方、道内出身者および道外出身者の場合、賛成と回答する割合が相対的に高くなっている。国立のアイヌ関連施設は北海道白老町に整備することが閣議決定されており、札幌以外の地域、とりわけ人口が減少傾向にある地域に整備されることに対する危惧、あるいは税金を使って「箱物」を整備することに対する抵抗感が、他の地域の出身者より強いのかもしれない。また、「土地・資源に対する補償」という政策に関しては、逆に札幌市内出身者の場合に、賛成の割合が最も高くなっている。札幌という都市的な地域の出身者が「土地や資源の補償」に関する利害対立の当事者となる可能性、あるいは「補償」を現実的な問題として認識する可能性は、他の地域出身者より相対的に低いといえるだろう。こうした状況が「補償」に対する肯定的な態度を生み出しているのではないかと考えられる。

一方、むかわ町において有意な差が見られたのは「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的な援助の拡充」「土地・資源に対する補償」および「正しい理解の提供」といった項目である。道外出身者の方が各政策に対して肯定的な態度を示す傾向があり、逆にむかわ町出身者は「雇用対

策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的な援助の拡充」「土地・資源に対する補償」、さらにはアイヌ民族に関する「正しい理解の提供」といった政策に対して消極的であるといえる。町内出身者の場合、アイヌ政策に対する否定的な態度がより強まるという傾向は、新ひだか町において実施した地域住民調査においても確認されている（濱田 2013）。新ひだか町も、やはりアイヌ民族が古くから居住してきた地域である。こうした地域では、アイヌの人々の存在を身近なものとして意識したり、アイヌ関連の政策について見聞きしたりすることも多いと考えられる。むかわ町出身者にとって、アイヌの人々が身近な存在であり、アイヌの人々を対象にした各種の政策が実施されているという具体的な「イメージ」があるからこそ、こうした政策に対して抵抗感を持つ、あるいは否定的な態度を示す人が多くなっているのではないかと考えられる。

表３－３　出生地による政策支持の差異（札幌市）

	札幌市	道内	道外	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.40	3.54	3.56	+
差別が起こらない社会	3.58	3.60	3.62	
アイヌ文化の保存・振興	3.32	3.33	3.36	
アイヌ語の保存・振興	3.19	3.24	3.14	
雇用対策の拡充	2.96	3.02	2.87	
教育支援の拡充	2.91	2.95	2.88	
経済的な援助の拡充	2.63	2.63	2.53	
土地・資源に対する補償	2.92	2.73	2.67	*
正しい理解の提供	3.45	3.48	3.49	
特別な政策は行うべきでない	2.64	2.61	2.61	

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

表３－４　出生地による政策支持の差異（むかわ町）

	むかわ町	道内	道外	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.13	3.16	3.20	
差別が起こらない社会	3.24	3.24	3.44	
アイヌ文化の保存・振興	2.95	3.05	3.21	
アイヌ語の保存・振興	2.75	2.89	2.94	
雇用対策の拡充	2.28	2.45	2.51	+
教育支援の拡充	2.21	2.37	2.47	+
経済的な援助の拡充	1.97	2.12	2.30	*
土地・資源に対する補償	2.08	2.59	2.36	*
正しい理解の提供	2.92	3.11	3.13	+
特別な政策は行うべきでない	3.02	2.94	2.80	

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

第３項　年齢による政策支持の差異

最後に、年齢による政策支持の差異について確認しておくことにする。札幌市で有意な差が見られたのは「国立のアイヌ関連施設の設置」「差別が起こらない社会」「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的な援助の拡充」「土地・資源に対する補償」の６項目である（表３－５）。各世代の平均値を見ると、いずれの項目でも「60代以上」で高い値を示している。また、「20～30代」と「40～50代」の間で差はほとんど見られない。このように「60代以上」の世代でのみ、各種の政策に対する支持が高いという傾向が見られる。これは60代より上の世代において、アイヌ民族に対する差別、あるいはアイヌ民族の貧困といった問題が、よりリアリティを

もった形で認識されており、社会全体の問題として解決すべきだという考えが、多くの人によって共有されているからだと思われる。

これに対して、むかわ町では年齢による差異はそれほど見られない（表３－６）。「雇用対策の拡充」と「教育支援の拡充」において有意差が見られるものの、「60代以上」の高齢者層における支持が際立って高いというわけではなく、むしろ中間層である「40～50代」における支持の低さが目立っている。先にも述べたように、むかわ町ではアイヌ民族やアイヌ関連政策に関して見聞きをする機会が相対的に多いため、子育てや仕事を中心的に担う「40～50代」において、アイヌ政策に対して「不公平感」を持つような状況が存在するのではないかと考えられる。

表３－５　年齢による政策支持の差異（札幌市）

	20～30代	40～50代	60代以上	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.45	3.45	3.59	+
差別が起こらない社会	3.54	3.56	3.68	+
アイヌ文化の保存・振興	3.31	3.28	3.41	
アイヌ語の保存・振興	3.15	3.18	3.29	
雇用対策の拡充	2.90	2.92	3.14	*
教育支援の拡充	2.90	2.84	3.07	*
経済的な援助の拡充	2.53	2.51	2.83	***
土地・資源に対する補償	2.73	2.68	2.95	**
正しい理解の提供	3.49	3.47	3.47	
特別な政策は行うべきでない	2.66	2.57	2.63	

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

表３－６　年齢による政策支持の差異（むかわ町）

	20～30代	40～50代	60代以上	分散分析
国立のアイヌ関連施設の設置	3.03	3.16	3.17	
差別が起こらない社会	3.21	3.19	3.30	
アイヌ文化の保存・振興	2.92	2.97	3.05	
アイヌ語の保存・振興	2.70	2.87	2.81	
雇用対策の拡充	2.35	2.22	2.48	*
教育支援の拡充	2.23	2.17	2.41	*
経済的な援助の拡充	2.03	1.98	2.13	
土地・資源に対する補償	2.11	2.15	2.23	
正しい理解の提供	2.97	3.02	3.00	
特別な政策は行うべきでない	2.95	2.91	3.01	

*** p<.001　**p<.01　*p<.05　+p<.1

第３節　アイヌ政策に対する支持の規定要因

第２節では、属性による各種のアイヌ政策に対する支持の差異、具体的には学歴、出身地域、および年齢による政策支持の差異について検討を行った。以下では、属性に関する変数のほか、アイヌとの交流やアイヌ文化に関する知識の量、さらには近所との交流の程度などに関する変数を用いて、アイヌ政策に対する支持の規定要因について分析を行うことにする。

独立変数として用いるのは、年齢、性別（男性、基準カテゴリは女性）、学歴（中学、専門高専短大、大学、基準カテゴリは高校）、就業状態（経営・役員、自営家族従業、パート・アルバイト、無職・学生、基準カテゴリは常時雇用）、出身地域（道内出身、道外出身、基準カテゴリは市内・町内出身）、アイヌとの交流、アイヌ文化に関する知識、町内会活動への参加、および近所と

の交流という合計15の変数である。

従属変数は、「文化政策への支持」および「生活支援策への支持」という２つの変数である。「文化政策への支持」は「アイヌ文化の保存・振興」「アイヌ語の保存・振興」「正しい理解の提供」の３項目による主成分得点、「生活支援策への支持」は「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的な援助の拡充」の３項目による主成分得点である。

各変数の詳しい内容については、以下の表３－７に示した。

表３－７　分析に使用する変数の概要

変数	変数の情報
文化政策に対する支持	「アイヌ文化の保存・振興」「アイヌ語の保存・振興」「正しい理解の提供」の３項目による主成分得点
生活支援策に対する支持	「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的な援助の拡充」の３項目による主成分得点
年齢	年齢
性別	
男性ダミー	男性＝1、女性=0
学歴	
中学	中学卒=1、その他の回答者=0
高校	基準カテゴリ
専門・高専・短大	専門・高専・短大卒=1、その他の回答者=0
大学以上	大学卒以上=1、その他の回答者=0
就業状態	
経営・役員	経営者・役員=1、その他の回答者=0
常時雇用	基準カテゴリ
自営・家族従業	自営業・家族従業者=1、その他の回答者=0
パート・アルバイト	パート・アルバイト=1、その他の回答者=0
無職・学生	無職・学生=1、その他の回答者=0
出身地域	
札幌市・むかわ町	基準カテゴリ
道内	道内他地域出身=1、その他の回答者=0
道外	道外出身=1、その他の回答者=0
アイヌ文化知識	14項目のアイヌ文化のうち内容を知っているものとして選択した項目の数
アイヌとの交流	あなたは普段､アイヌの人たちと交流がありますか よくある=4、たまにある=3、あまりない=2、ほとんどない=1
自治会活動への参加	お住まいの地域で自治会（町内会）の活動や行事に参加していますか 積極的に参加=4、ある程度参加=3、あまり参加しない=2、全く参加しない=1
近所との交流	普段ご近所の人とどのくらい交流をおこなっていますか 互いの家をよく行き来する＝4、会った際に世間話をする＝3、道で会えばあいさつを交わす程度=2、近所の住民と付き合いはない=1

まず、札幌市における分析結果を確認してみることにしよう。札幌市における回帰分析の結果を示したものが以下の表３－８である。分析結果を見ると、「文化政策への支持」を従属変数にした場合、「生活支援策への支持」を従属変数にした場合のいずれも決定係数（調整済みR2乗値）の値がそれほど高くなく、分析モデルによる説明力は低い状況である。

「文化政策への支持」の規定要因として有意な影響を与えているのは、就業状態が「経営者・役員」であること、およびアイヌ文化に関する知識の量である。「経営者・役員」の係数（B）はマイナスの値を示しているので、回答者が経営者もしくは役員の場合、アイヌ文化政策に対する支持は低くなるという傾向が存在する。一方、「アイヌ文化知識」の係数の符号はプラスなの

で、アイヌ文化関連の知識の量が多いほど、「アイヌ文化政策」に対してより肯定的な態度をとる傾向があるといえる。

次に「生活支援策への支持」の規定要因として、有意な効果が見られたのは「経営者・役員」および「自治会活動への参加」という２つの変数である。「文化政策に対する支持」の場合と同様に、「経営者・役員」であることはマイナスの影響を与えており、「経営者・役員」層はアイヌ関連政策に対して、総じて否定的な態度を示す傾向があるといえる。「自治会活動への参加」は「生活支援策への支持」に対してプラスの影響を与えており、自治会活動への参加頻度が高い人ほど、アイヌを対象にした生活支援策に対して肯定的な態度をとる傾向があるといえる。地縁的組織や活動に強く関与する人は、共助・互助的な政策に対してより共感を持つ傾向があり、これがアイヌの生活支援策への支持に結びついているのではないかと考えられる。

表３－８　アイヌ政策に対する支持の規定要因（札幌市）

	文化政策への支持		生活支援策への支持	
	B	S.E.	B	S.E
定数	-.599	.380	-1.055 *	.006
年齢	.008	.006	.007	.006
性別（男性ダミー）	.258	.158	-.026	.172
学歴				
中学	-.245	.294	.428	.327
高校（基準）				
専門・高専・短大	.052	.170	.090	.186
大学以上	.108	.184	.081	.201
就業状態				
経営・役員	-1.197 **	.371	-1.141 **	.401
常時雇用（基準）				
自営・家族従業	-.214	.271	.358	.293
パート・アルバイト	.127	.190	.283	.208
無職・学生	-.262	.185	.103	.202
出身地				
札幌市（基準）				
道内	.030	.151	-.042	.165
道外	-.040	.216	-.131	.235
アイヌ文化知識	.151 ***	.033	.005	.036
アイヌとの交流	.051	.161	.155	.174
自治会活動	.090	.088	.230 *	.096
近所との交流	-.150	.126	-.017	.138
調整済み R2 乗	.052		.033	
F 値	2.88***		2.11**	
N	510		499	

続いて、むかわ町における分析結果についても確認をしてみることにしよう（表３－９）。札幌市における分析結果と同様、やはり決定係数（調整済みR2乗）の値が低く、分析モデルによる説明力は弱い。「文化政策への支持」に有意な影響を与えているのは、アイヌ文化に関する知識の量のみであり、知識の量が多いほど「文化政策への支持」が強まるという傾向が存在する。

「生活支援策への支持」に対して影響を与えているのは、学歴が中学卒であること、およびアイヌ文化に関する知識の量である。学歴が中学卒である場合、基準カテゴリである高校卒に比べて、

生活支援策への支持が強いという傾向が見られる。学歴が低い場合、利用可能な社会的資源が、他の階層と比べて相対的に少ない状況に置かれていると考えられる。その結果、生活支援策の重要性がより強く認識されているのではないだろうか。また、むかわ町の場合、アイヌ文化に関する知識の量は「文化政策への支持」だけではなく「生活支援策への支持」に対しても影響を与えている。先にも述べたように、むかわ町ではアイヌが古くから居住し身近な存在であるため、アイヌ文化に関して学ぶことや知識を得ることは、アイヌの人々の生活を理解することとより密接に結びついているのかもしれない。

表３－９　アイヌ政策に対する支持の規定要因（むかわ町）

	文化政策への支持		生活支援策への支持	
	B	S.E.	B	S.E
定数	-.905 *	.426	.044	.455
年齢	.002	.006	.005	.007
性別（男性ダミー）	.036	.159	.105	.171
学歴				
中学	-.016	.211	.465 *	.227
高校（基準）				
専門・高専・短大	-.021	.195	-.049	.210
大学以上	.190	.236	-.359	.256
就業状態				
経営・役員	-.115	.317	.092	.342
常時雇用（基準）				
自営・家族従業	-.270	.229	-.257	.249
パート・アルバイト	-.155	.232	-.198	.252
無職・学生	-.033	.242	.149	.261
出身地				
むかわ町（基準）				
道内	.210	.160	.235	.172
道外	.421	.257	.423	.275
アイヌ文化知識	.149 ***	.036	.071 +	.039
アイヌとの交流	.127 +	.073	-.017	.080
自治会活動	.036	.094	-.027	.102
近所との交流	.047	.114	-.167	.124
調整済み R2 乗	.047		.019	
F 値	2.39**		1.54+	
N	419		422	

第４節　まとめ

本章では、札幌市およびむかわ町に居住する地域住民が各種のアイヌ政策に対してどのような意識を持っているのかという点を、地域住民調査の結果をもとに明らかにしてきた。

その結果、まず全般的に「アイヌ文化の保存・振興」「アイヌ語の保存・振興」「正しい理解の提供」といった政策に対する支持が強く、反対に「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的支援の拡充」といった政策に対する支持が弱いという傾向が確認された。こうした傾向は北海道内の他地域における調査でも確認されており（濱田 2015）、アイヌに関する知識の普及・啓発やアイヌ文化の振興・保存といった政策に対してはある程度の支持が見られる一方、アイヌの

人々の生活支援に関する政策に関しては、積極的に支持をする人が少ないという状況が存在するといえる。また「特別な政策を行うべきではない」という項目に対して肯定的な回答をする人の割合が、むかわ町においては約７割に達しており、札幌市でも半数を超えている状況が確認された。このようにアイヌ民族のみを対象にした政策、アイヌ民族を「特別」扱いする政策に対する拒否感や否定的な態度は根強く存在しているといえるだろう。

次に、札幌市とむかわ町で、各種のアイヌ政策に対する明確な温度差が確認された。アイヌ政策に対して肯定的な回答をする人の割合は、札幌市において全般的に高くなっており、逆にむかわ町では低いという傾向が見られる。とりわけ「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的支援の拡充」といったアイヌの人々の生活支援に関する政策については、札幌市とむかわ町の間における肯定的な回答の割合の差が30ポイント程度にまで達していた。こうした差は、地域においてアイヌ民族が歩んできた歴史、あるいはアイヌの集落が身近に存在するという地域的な環境に起因するものだと考えられる。むかわ町ではアイヌが非常に身近な存在であり、アイヌ政策についても見聞きした経験があるからこそ、それに対して抵抗感や拒否感を持つ人も多いのだと考えられる。

さらに、こうしたアイヌ政策に対する支持の規定要因について検討したところ、わずかにアイヌ文化に関する知識の量がアイヌ政策、とくに「文化政策に対する支持」を高めるという傾向が見られたものの、全般的に説明力は弱く、回答者の個人属性やアイヌとの交流といった要因はほとんど影響を与えていなかった。

本稿における分析結果をまとめると、各種のアイヌ政策に対する支持は、地域的な要因によって規定される部分がきわめて大きく、それに比べて個人的な要因による影響は非常に小さいといえる。したがって、アイヌ政策に対する支持や理解を広げようとする場合、地方自治体が中心になって地域全体の課題として位置づけ、これに取り組んでいく必要があるといえるだろう。

調査結果を見ても、アイヌ関連政策、とりわけアイヌの人々への生活支援策に対する支持は十分に広がっているとはいえない。自治体が中心となってアイヌ民族に関する知識、さらにはアイヌの人々の生活の実態に関する正しい知識を提供しながら、幅広い層に対して働きかけを続けていくことが、今後政策を進めていく上での重要なポイントになるのではないだろうか。

注

1）自由回答の記述によって、本人もしくは配偶者がアイヌ民族であると確認できた場合については、分析から除外することにした。札幌市では１人の対象者、むかわ町では６人の対象者を除外している。

参考文献

濱田国佑, 2013, 「アイヌ政策に対する評価」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 136-147.

――――, 2014, 「地域住民によるアイヌ政策評価とその規定要因――伊達市における地域住民調査の分析から」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書31　伊達市におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 131-144.

――――, 2015, 「地域住民によるアイヌ政策評価とその規定要因――白糠町における地域住民調査の分析から」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 197-210.

小内透, 2012, 「調査の概要と分析の視点」小内透編著『現代アイヌの生活の歩みと意識の変容――2009年北海道

アイヌ民族生活実態調査報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.
山崎幸治，2010，「調査対象の特性」小内透編著『現代アイヌの生活と意識――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター.

（濱田　国佑）

第４章　アイヌ民族との交流・アイヌ民族に対する意識と地域的要因

新藤　　慶

群馬大学教育学部准教授

はじめに

本章では、札幌市、むかわ町を対象に、これらの地域に暮らす一般住民が、アイヌ民族多住地域としての札幌市、むかわ町をどのように評価しているかを明らかにする。また、これらの地域への評価が、アイヌ民族やアイヌ文化への受け止め方にもたらす影響についても検討する。これらの作業を通じて、今後のアイヌ民族をめぐる状況を地域の視点から考えるための試論を展開したい[1)]。

第１節　対象地域別に見た地域への評価

まず、札幌市とむかわ町という対象地域別に、地域への評価のあり方を確認する。はじめに、地域別に見た出身地域を表４－１に掲げた。これを見ると、札幌市では「北海道内の他市町村」が54.1%と最も多いことがわかる。むかわ町でも、同じく「北海道内の他市町村」が40.2%と多いが、「現住所以外の市町内」が27.9%、「現住所」が22.1%と、半数がむかわ町の出身であることがわかる。一方、札幌市の場合、札幌市出身者は約３割にとどまっている。いわゆる「地元」出身者は、むかわ町に多いことがわかる。

表４－１　地域別に見た出身地域

	現住所	現住所以外の市町内	北海道内の他市町村	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	外国	N
札幌市	6.8	24.8	54.1	2.8	5.9	1.0	1.9	－	0.9	1.9	577
むかわ町	22.1	27.9	40.2	3.0	2.1	0.6	0.6	0.6	0.2	2.8	530
合計	14.1	26.3	47.4	2.9	4.1	0.8	1.3	0.3	0.5	2.3	1107

$p<.001$（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

次に、地域別に見た居住開始世代を表４－２に掲げた。これを見ると、札幌市では「自分の代」「親の代」とする者が相対的に多いのに対し、むかわ町では「祖父母の代」「祖父母より前」とする者が多い。端的にいえば、札幌市は比較的最近の世代から住み始めたものが多く、むかわ町では３代以上前から暮らしている家が多いということである。

表４－２　地域別に見た居住開始世代

	自分の代	親の代	祖父母の代	祖父母より前	わからない	N
札幌市	53.2	28.2	11.6	5.3	1.8	570
むかわ町	32.3	22.2	28.1	14.9	2.5	523
合計	43.2	25.3	19.5	9.9	2.1	1093

$p<.001$（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

このことは、当然ながら、家族の居住年数にも影響をもたらす。地域別に見た家族の居住年数をまとめた表４－３を見ると、札幌市では40年未満が58.5%に達するのに対し、むかわ町では40年未満は39.7%にとどまっている。「70年以上」も26.9%となっており、むかわ町の方が家族の居住年数は長い。

表４－３　地域別に見た家族の居住年数

	10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40～50年未満	50～60年未満	60～70年未満	70年以上	N
札幌市	12.0	14.3	16.2	16.0	19.3	15.4	1.7	5.0	357
むかわ町	12.7	10.6	7.8	8.6	11.8	8.6	13.1	26.9	245
合計	12.3	12.8	12.8	13.0	16.3	12.6	6.3	14.0	602

p<.001（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

また、自身の居住年数についても、札幌市の場合、40年未満で58.0%を占めるのに対し、むかわ町では37.4%にとどまるなど、やはり札幌市の方で居住年数が短く、むかわ町では長くなっている（表４－４）。ただし、このことは、それぞれの地域の調査対象者の年齢層の違いにも関わっている。札幌市の対象者の平均年齢は51.6歳であるのに対し、むかわ町の対象者の平均年齢は58.0歳となっている。むかわ町の対象者の方で年齢がやや高い分、居住年数も長くなっているところがあると思われる。

表４－４　地域別に見た自身の居住年数

	10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40～50年未満	50～60年未満	60～70年未満	70年以上	N
札幌市	10.6	10.8	16.0	20.6	21.4	13.5	3.9	3.3	519
むかわ町	8.0	6.5	9.5	13.4	14.9	19.3	16.6	11.8	476
合計	9.3	8.7	12.9	17.2	18.3	16.3	9.9	7.3	995

p<.001（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

続いて、地域への評価を７つの項目で尋ねている。このうち、有意差を生じなかったのは、「誰でも自由にものがいえる」である（表４－５）。これを見ると、全体としては「そう思う」（「とてもそう思う」＋「ある程度そう思う」、以下同様）が51.4%であり、肯定と否定がほぼ半分ずつとなっている。このことから、農漁村であるむかわ町だからといって、必ずしも発言がしづらいということでもないし、都市的地域である札幌市だからといって、自由に発言できるというわけでもないことがうかがえる。札幌市の場合は、「地域ボス」からなるような地域権力構造が強固に存在しているというより、札幌への根づきが浅い人が多いため、発言手段を持っていないということを示しているのかもしれない。

表４－５　地域別に見た「誰でも自由にものがいえる」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	5.5	44.4	41.2	8.9	563
むかわ町	6.9	46.2	40.5	6.5	509
合計	6.2	45.2	40.9	7.7	1072

p=.389（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

一方、これ以外の項目では、地域による差が生じている。まず、「新しくきた人でもなじみやすい」についての回答をまとめた表４－６を見ると、札幌市の方が若干、「そう思う」という肯定的評価が多くなっている。都市的地域である札幌市の方が、新住民への障壁がやや低いと感じられているものと思われる。

表４－６　地域別に見た「新しくきた人でもなじみやすい」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	7.7	56.4	29.6	6.9	564
むかわ町	5.0	52.5	37.1	5.4	518
合計	6.1	54.5	33.2	6.2	1082

$p<.05$（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

この札幌市での新住民に対する障壁の低さは、１つには、札幌市の方が新しいものを取り入れる雰囲気が存在していることが関係している。「新しいものを積極的に取り入れる」についての評価をまとめた表４－７を見ると、札幌市の方がやや肯定的評価が高くなっている。このことから、札幌市では、新住民を含めて「新しいもの」が積極的に取り入れられているがゆえに、新住民が移り住みやすいと認識されているものと思われる。

他方で、昔からの習慣が強固には存在していないことも関わっている。「昔からの文化・習慣を大事にする」についての評価をまとめた表４－８を見ると、札幌市では半数以上が否定的評価であるのに対し、むかわ町では半数以上は肯定的評価となっている。さらに、「昔から住んでいる人の意見が強い」についても、同様の結果が示される（表４－９）。このように、札幌市では、昔ながらのやり方があまり強くなく、昔から住んでいる人の意見も強くないからこそ、新住民が移り住みやすいと感じているのだと受けとめられる。

また、新住民への障壁の低さは、もう一方で、近隣の付き合いがあまり密でないこととも関わっていることが推測される。「日常的な付き合いが盛ん」についての評価をまとめた表４－10を見ると、むかわ町では肯定的な評価が過半数であるのに対し、札幌市では否定的な評価が過半数となっている。さらに、「住民のまとまりが強い」についても、むかわ町では過半数が肯定、札幌市では過半数が否定となっている（表４－11）。加えて、近所の人たちとの交流をまとめた表４－12からも、札幌市では「互いの家をよく行き来する」や「会った際に世間話をする」といった関わりは、約４分の１の対象者にしか持たれていない一方で、むかわ町では、世間話以上の付き合いがある者が半数以上に達していることがわかる。そのうえ、町内会活動への参加状況をまとめた表４－13を見ても、札幌市では「参加している」側の回答をした者が約３割にとどまっており、あまり積極的なものとなっていないことがうかがえる。これらのことから、札幌市では、日常的な近所付き合いや地域活動があまりないからこそ、新しい住民でも気兼ねなく地域に入ることができるという感覚を持たせているものと考えられる。

表４－７　地域別に見た「新しいものを積極的に取り入れる」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	5.0	41.5	46.1	7.4	564
むかわ町	2.5	31.8	56.9	8.8	510
合計	3.8	36.9	51.2	8.1	1074

p<.01（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－８　地域別に見た「昔からの文化・習慣を大事にする」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	2.7	32.7	51.7	12.9	559
むかわ町	10.9	47.0	38.4	3.7	513
合計	6.6	39.6	45.3	8.5	1072

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－９　地域別に見た「昔から住んでいる人の意見が強い」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	6.4	28.0	53.0	12.6	564
むかわ町	14.9	46.3	36.7	2.2	510
合計	10.4	36.7	45.3	7.6	1074

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－10　地域別に見た「日常的な付き合いが盛ん」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	3.0	26.7	53.6	16.7	562
むかわ町	5.5	53.3	36.1	5.1	510
合計	4.2	39.4	45.2	11.2	1072

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－11　地域別に見た「住民のまとまりが強い」への評価

	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	4.6	39.4	46.3	9.8	564
むかわ町	5.7	53.4	36.8	4.1	511
合計	5.1	46.0	41.8	7.1	1075

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－12　地域別に見た近所の人たちとの交流

	互いの家を よく行き来する	会った際に 世間話をする	道であえばあいさつ をかわす程度	近所の住民と 付き合いはない	N
札幌市	1.9	24.8	63.9	9.4	565
むかわ町	10.8	43.0	42.0	4.2	528
合計	6.2	33.6	53.3	6.9	1093

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－13　地域別に見た町内会活動への参加

	積極的に 参加している	ある程度 参加している	あまり 参加していない	まったく 参加していない	N
札幌市	3.8	25.5	30.9	39.7	572
むかわ町	20.9	47.7	20.6	10.8	535
合計	12.1	36.2	25.9	25.7	1107

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

今後の居住希望については、表４－14のとおりである。これを見ると、「いまの場所にずっと住みたい」という希望は札幌市の方が強くなっている。これに対し、「別の場所に移りたい」、あるいは「別の場所に移る予定がある」は、むかわ町の方が高い割合を示している。その詳しい理由を見ると、「いまの場所にずっと住みたい」については、札幌市は「生活環境が良いから」が最も多く70.3%となっている。これに対して、むかわ町では「土地や家があるから」が最も多く70.6%となっている（表４－15）。札幌市は、住む場所として適切だと評価されて、「いまの場所にずっと住みたい」とされやすいのに対し、むかわ町では「土地や家があるから」というやや消極的な理由で居住を継続している状況がうかがえる。

表４－14　地域別に見た今後の居住希望

	いまの場所に ずっと住みたい	別の場所に 移りたい	別の場所に 移る予定がある	わからない	N
札幌市	81.9	6.3	2.5	9.3	558
むかわ町	63.7	14.8	7.3	14.2	521
合計	73.1	10.4	4.8	11.7	1079

p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－15　地域別に見た現住所居住希望の理由（複数回答）

	生活環境が 良いから	人間関係が 良いから	親の面倒を 見るため	土地や家が あるから	職場や学校が 近いから	その他	N	M.T. 計
札幌市	70.3	13.7	12.4	51.1	20.9	7.7	468	176.1
むかわ町	27.4	19.0	9.0	70.6	12.0	6.4	343	144.4
合計	52.2	15.9	11.0	59.3	17.1	7.2	811	162.7

注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

これに対し、むかわ町から転居を希望する理由としては、「交通の便が悪いから」が53.3%と最も多く、次いで、「生活環境が悪いから」が27.2%となっている（表４－16）。また、むかわ町から転居しなければならない理由は、「転勤があるから」（45.5%）が多くなっている（表４－17）。つまり、むかわ町では、交通や生活環境の面で不便だという事情や、転勤のために、離れたい、もしくは離れねばならないという人が生じている。

なお、転居しなければならない理由の「その他」については、「退職を機に転居」という、転勤とは逆の理由がいくつか見られた。また、「親の介護のため」といった家庭の状況も確認された。ただし、「子どものところへ行きたい」など、確定した予定というよりは、「希望」のレベルにとどまっているものも含まれていた。

表４－16　地域別に見た現住所転居希望の理由（複数回答）

	生活環境が悪いから	人間関係が悪いから	交通の便が悪いから	別の場所に土地や家があるから	よい仕事がないから	職場や学校が遠いから	その他	N	M.T. 計
札幌市	18.0	10.0	18.0	2.0	12.0	－	50.0	50	110.0
むかわ町	27.2	15.2	53.3	8.7	21.7	5.4	27.2	92	158.7
合計	23.9	13.4	40.8	6.3	18.3	3.5	35.2	142	141.4

注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－17　地域別に見た現住所転居の理由（複数回答）

	就職するから	転勤があるから	結婚するから	その他	N	M.T. 計
札幌市	13.0	39.1	4.3	43.5	23	100.0
むかわ町	4.5	45.5	－	50.0	44	100.0
合計	7.5	43.3	1.5	47.8	67	100.0

注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

第２節　地域の要因から見たアイヌの人たちとの交流

このように、居住年数、地域への評価、居住希望といった、地域に関する要因のほとんどで、札幌市とむかわ町との間に有意差があった。それでは、このような地域の要因の差は、アイヌ民族との関わりや意識にどのように影響しているのであろうか。他の章での分析と重なるが、これを地域の要因から行っていきたい。

まず、アイヌの人々との交流について見ていく。まず、地域別・居住開始世代別にみたアイヌの人々との交流を、表４－18に掲げた。札幌市では、アイヌの人々との交流を持つ人自体が極端に少ないので、明瞭な差は生じていない。一方、むかわ町では、「自分の代」からむかわ町に暮らし始めた者では、「よくある」と「たまにある」をあわせて、半数をやや下回る水準であるけれども、「親の代」「祖父母の代」「祖父母より前」の場合は、「よくある」と「たまにある」とする者は半数を超えている。全体としても、とくに「祖父母の代」や「祖父母より前」から居住しているとする者ほど、アイヌの人々との交流が盛んである様子が見られる。このように、むかわ町では、何世代にもわたってむかわ町に暮らしている家の人ほど、アイヌの人々との交流が活発であることがうかがえる。

表４－18　地域別・居住開始世代別に見たアイヌの人々との交流

		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	N
札幌市	自分の代	0.7	5.0	3.3	91.0	300
	親の代	－	1.3	7.5	91.2	159
	祖父母の代	1.5	1.5	9.2	87.7	65
	祖父母より前	－	－	3.3	96.7	30
	合計	0.5	3.2	5.2	91.0	554
むかわ町	自分の代	18.9	30.5	15.9	34.8	164
	親の代	31.9	39.8	11.5	16.8	113
	祖父母の代	30.4	30.4	20.3	18.8	138
	祖父母より前	32.0	28.0	25.3	14.7	75
	合計	27.1	32.2	17.6	23.1	490
合計	自分の代	7.1	14.0	7.8	71.1	464
	親の代	13.2	17.3	9.2	60.3	272
	祖父母の代	21.2	21.2	16.7	40.9	203
	祖父母より前	22.9	20.0	19.0	38.1	105
	合計	13.0	16.9	11.0	59.1	1044

札幌市：p<.1（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

また、地域別・家族の居住年数別に見たものを表４－19に掲げた。札幌市のデータについては有意差が生じていないけれども、むかわ町のデータでは有意差が生じている。これについても、単純な線形の形をとってはいないが、基本的には家族の居住年数が長いほど、アイヌの人々との交流は活発になっている。とくに、「10年未満」では「よくある」が１人もいないのに対し、「70年以上」では「よくある」だけで47.7%に達していることは非常に対照的である。

さらに、地域別・自身の居住年数別でのアイヌの人々との交流をまとめた表４－20を見ると、むかわ町では居住年数が長いほどアイヌの人々との交流が活発になる様子がうかがえる。ただし、表４－19と比べると、若干、差が小さくなっているようにも感じられる。このことをふまえれば、居住年数については、自身の居住年数よりも、家族の居住年数による影響が強いのかもしれない。そこには、自分自身がアイヌの人々との関係を築くということにだけでなく、家族で受け継がれてきた交流に乗っかって、アイヌの人々との関わりが生じるという状況も考えられるかもしれない。

続いて、地域への評価との関連として、近所の人たちとの交流の認識とアイヌの人々との交流を示したものを表４－21にまとめた。これを見ると、近所付き合いが盛んであるほど、アイヌの人々との交流も盛んになっている状況がわかる。つまり、アイヌの人々との交流も、一般的な近所付き合いと同じように営まれていることがうかがえる。

これ以外に地域への評価で有意差を生じた項目は、「新しく来た人でもなじみやすい」（札幌市：p=.740（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.05（χ^2 検定））、「誰でも自由にものが言える」（札幌市：p=.135（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.01（χ^2 検定））、「日常的な付き合いが盛ん」（札幌市：p=.362（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定））、「昔から住んでいる人の意見が強い」（札幌市：p<.05（χ^2 検定）、むかわ町：p<.05（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定））、「新しいものを積極的に取り入れる気風がある」（札幌市：p=.176（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p=.235（χ^2 検定））と、「町内会への参加状況」（札

幌市：p<.1（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定））である。「昔から住んでいる人の意見が強い」は、これを否定する人ほどアイヌの人々との交流が活発であった。これ以外の項目は、肯定的な評価が高いほど、アイヌの人々との交流が盛んになっていた。つまり、現在住んでいる地域が、開放的で、「新住民」という尋ね方ではあるけれども、従来の地域には「異質」な人々を受け入れる素地があると感じている人ほど、アイヌの人々との交流も活発なものとなっている。居住地域でアイヌの人々との交流も当然のものとして受けとめられているか否かが、住民のアイヌの人々との交流に影響を与えるものと思われる。

表４－19　地域別・家族の居住年数別に見たアイヌの人々との交流

		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	N
札幌市	10年未満	2.3	4.7	－	93.0	43
	10～20年未満	－	3.9	3.9	92.2	51
	20～30年未満	－	3.5	3.5	93.0	57
	30～40年未満	－	7.0	7.0	86.0	57
	40～50年未満	1.5	1.5	9.2	87.7	65
	50～60年未満	－	3.6	7.3	89.1	55
	60～70年未満	－	－	16.7	83.3	6
	70年以上	－	－	－	100.0	18
	合計	0.6	3.7	5.4	90.3	352
むかわ町	10年未満	－	22.6	6.5	71.0	31
	10～20年未満	23.1	30.8	15.4	30.8	26
	20～30年未満	11.8	29.4	23.5	35.3	17
	30～40年未満	33.3	38.1	19.0	9.5	21
	40～50年未満	31.0	37.9	17.2	13.8	29
	50～60年未満	21.1	42.1	21.1	15.8	19
	60～70年未満	32.3	32.3	19.4	16.1	31
	70年以上	47.7	33.8	12.3	6.2	65
	合計	28.9	33.1	15.5	22.6	239
合計	10年未満	1.4	12.2	2.7	83.8	74
	10～20年未満	7.8	13.0	7.8	71.4	77
	20～30年未満	2.7	9.5	8.1	79.7	74
	30～40年未満	9.0	15.4	10.3	65.4	78
	40～50年未満	10.6	12.8	11.7	64.9	94
	50～60年未満	5.4	13.5	10.8	70.3	74
	60～70年未満	27.0	27.0	18.9	27.0	37
	70年以上	37.3	26.5	9.6	26.5	83
	合計	12.0	15.6	9.5	62.9	591

札幌市：p=.740（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

今後の居住希望別にアイヌの人々との交流の状況をまとめたものを、表４－22に掲げる。これを見ると、「いまの場所にずっと住みたい」という人ほどアイヌの人々との交流も活発であることがわかる。むかわ町の場合、「いまの場所にずっと住みたい」とする者は「土地や家があるから」という理由が多く、別の場所に移りたい、もしくは別の場所に移る予定があるとする者は、交通の便や生活環境の悪さ、あるいは転勤しなければならない状況を指摘していた（表４－15～17）。むかわ町に拠点があり、今後もむかわ町で暮らそうという人々はアイヌの人々との交流が盛んであ

表４－20　地域別・自身の居住年数別に見たアイヌの人々との交流

		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	N
札幌市	10年未満	1.8	9.1	－	89.1	55
	10～20年未満	－	3.6	－	96.4	56
	20～30年未満	－	1.2	3.7	95.1	82
	30～40年未満	－	2.8	9.4	87.7	106
	40～50年未満	0.9	1.9	8.3	88.9	108
	50～60年未満	－	2.9	5.8	91.3	69
	60～70年未満	5.0	－	5.0	90.0	20
	70年以上	－	－	－	100.0	17
	合計	0.6	2.9	5.3	91.2	513
むかわ町	10年未満	－	21.6	10.8	67.6	37
	10～20年未満	22.6	35.5	9.7	32.3	31
	20～30年未満	19.0	19.0	21.4	40.5	42
	30～40年未満	25.0	25.0	23.4	26.6	64
	40～50年未満	31.9	33.3	21.7	13.0	69
	50～60年未満	30.7	39.8	17.0	12.5	88
	60～70年未満	39.7	28.8	19.2	12.3	73
	70年以上	37.0	42.6	16.7	3.7	54
	合計	28.2	31.7	18.3	21.8	458
合計	10年未満	1.1	14.1	4.3	80.4	92
	10～20年未満	8.0	14.9	3.4	73.6	87
	20～30年未満	6.5	7.3	9.7	76.6	124
	30～40年未満	9.4	11.2	14.7	64.7	170
	40～50年未満	13.0	14.1	13.6	59.3	177
	50～60年未満	17.2	23.6	12.1	47.1	157
	60～70年未満	32.3	22.6	16.1	29.0	93
	70年以上	28.2	32.4	12.7	26.8	71
	合計	13.6	16.5	11.4	58.5	971

札幌市：$p<.05$（χ^2 検定）、むかわ町：$p<.001$（χ^2 検定）、合計：$p<.001$（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

表４－21　地域別・近所の人たちとの交流別に見たアイヌの人々との交流

		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	N
札幌市	互いの家をよく行き来する	－	－	9.1	90.9	11
	会った際に世間話をする	0.7	3.6	4.3	91.4	140
	道であえばあいさつをかわす程度	0.6	2.8	5.8	90.8	360
	近所の住民と付き合いはない	－	3.8	1.9	94.3	53
	合計	0.5	3.0	5.1	91.3	564
むかわ町	互いの家をよく行き来する	52.8	30.2	13.2	3.8	53
	会った際に世間話をする	32.4	33.8	16.2	17.6	222
	道であえばあいさつをかわす程度	16.3	31.6	20.0	32.1	215
	近所の住民と付き合いはない	4.5	22.7	13.6	59.1	22
	合計	26.6	32.0	17.4	24.0	512
合計	互いの家をよく行き来する	43.8	25.0	12.5	18.8	64
	会った際に世間話をする	20.2	22.1	11.6	46.1	362
	道であえばあいさつをかわす程度	6.4	13.6	11.1	68.9	575
	近所の住民と付き合いはない	1.3	9.3	5.3	84.0	75
	合計	12.9	16.8	11.0	59.3	1076

札幌市：$p=.960$（χ^2 検定）、むかわ町：$p<.001$（χ^2 検定）、合計：$p<.001$（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

り、転居の予定や希望がある人は、あまりアイヌの人々との交流がなされない状況にある。「むかわ町で生活していく」という見通しが、アイヌの人々との関わりをもたらしているとも考えられる。

表４－22　地域別・居住希望別に見たアイヌの人々との交流

		よくある	たまにある	あまりない	ほとんどない	N
札幌市	いまの場所にずっと住みたい	0.7	3.6	5.6	90.2	449
	別の場所に移りたい	－	－	8.6	91.4	35
	別の場所に移る予定がある	－	7.7	－	92.3	13
	合計	0.6	3.4	5.6	90.3	497
むかわ町	いまの場所にずっと住みたい	31.2	36.0	20.1	12.7	314
	別の場所に移りたい	21.3	32.0	14.7	32.0	75
	別の場所に移る予定がある	8.3	25.0	8.3	58.3	36
	合計	27.5	34.4	18.1	20.0	425
合計	いまの場所にずっと住みたい	13.2	16.9	11.5	58.3	763
	別の場所に移りたい	14.5	21.8	12.7	50.9	110
	別の場所に移る予定がある	6.1	20.4	6.1	67.3	49
	合計	13.0	17.7	11.4	57.9	922

札幌市：p=.741（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

第３節　地域の要因から見たアイヌ文化の保存に対する意識

次に、地域の要因とアイヌ文化の保存に対する意識との関連を見てみたい。まず、居住年数については、有意差は生じていなかった。このことから、アイヌ文化の保存に対する意識には、アイヌの人々が多く暮らす地域にどのくらい長く生活しているかということは、あまり影響を与えていないことがうかがえる。

地域への評価については、いくつかの項目で有意差が生じた。まず、「昔からの文化・習慣を大事にする」に対する評価とアイヌ文化の保存との関係を表４－23に掲げた。これを見ると、「昔からの文化･習慣を大事にする」地域であると考えている人ほど、「アイヌ文化を積極的に保存すべき」とも考えていることがわかる。このことは、「昔からの文化」のなかにアイヌ文化も位置づいているととらえることができる。「昔からの文化を大切にする土地柄で、アイヌ文化は昔からの文化なのだから、積極的に保存すべき」との発想である。

一方、「新しいものを積極的に取り入れる」についての評価別に見た集計結果を表４－24に掲げた。これを見ても、「新しいものを積極的に取り入れる」土地柄だと感じている者ほど、アイヌ文化の保護にも積極的であることがわかる。ここでは、アイヌ文化は、「新しいもの」との相同性を持っている。表４－23では、「昔からの文化」とアイヌ文化が同様に扱われていた。このように、アイヌ文化をめぐっては、「昔からの文化」であり、かつ「新しいもの」とも受けとめられているという両義的な性格を持っている。ここには、先住民をめぐる「本質主義」と、それへのアンチテーゼとが同時にみられる。大村啓一は、先住民をめぐる「本質主義」について、次のように述べている。

表４－23　地域別・「昔からの文化・習慣を大事にする」への評価別に見た「アイヌ文化を積極的に保存すべき」の意識

	昔からの文化＼アイヌ文化	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	53.3	40.0	6.7	－	15
	ある程度そう思う	42.6	49.7	5.5	2.2	183
	あまりそう思わない	43.6	48.4	8.0	－	289
	まったくそう思わない	42.3	42.3	5.6	9.9	71
	合計	43.4	47.8	6.8	2.0	558
むかわ町	とてもそう思う	51.9	40.7	3.7	3.7	54
	ある程度そう思う	30.8	51.7	13.3	4.2	240
	あまりそう思わない	22.1	46.7	24.1	7.2	195
	まったくそう思わない	26.3	26.3	21.1	26.3	19
	合計	29.5	47.6	16.7	6.1	508
合計	とてもそう思う	52.2	40.6	4.3	2.9	69
	ある程度そう思う	35.9	50.8	9.9	3.3	423
	あまりそう思わない	34.9	47.7	14.5	2.9	484
	まったくそう思わない	38.9	38.9	8.9	13.3	90
	合計	36.8	47.7	11.5	3.9	1066

札幌市：p<.001（χ^2 検定）、むかわ町：p<.001（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

もし、ある先住民族に関する「正しい」情報なるものが、あらかじめ定められた「民族」の「伝統」的な「文化」を基準にした情報であるとすれば、たとえ変化しつつある先住民社会の現状を記述するとしても、それは「サルベージ的」、あるいは「帝国主義的ノスタルジア」とも呼ばれる本質主義的な記述の典型となってしまうのではないだろうか（本多ほか 2005：325）

このように、先住民の生活や文化のあり方には、ある「本質」を想定し、そこから逸脱したものを先住民の生活や文化とは認めない「本質主義」と呼ばれる立場がある。これに対し、先住民の生活や文化には、新しく創造される部分があり、時代によって変化するものととらえる立場がある。とくに、先住民の生活や文化は、国民国家の成立以後、抑圧されてきたことにより変容せざるをえなかったという側面がある。その流れの一つとして、本研究グループで同時に研究を進めている北欧の先住民サーミにみられる復権と再生の動きも位置づけることができる（小内 2013）。これらの「本質主義」とアンチ「本質主義」の両者から見れば、アイヌ文化は「昔からの文化」でありかつ「新しいもの」と受けとめられうるといえる。

ただし、前節でも触れたように、ここでいう「新しい」とは、「自分たちの日常的なものとは異なる」という意味合いを持っているとも考えられる。つまり、「昔からの文化」であり、「自分たちの日常的なものとは異なる」ものを重視している土地柄であれば、アイヌ文化も積極的に保護すべきという考え方になるということである。

また、このほかに地域への評価で有意差を生じた項目は、「住民のまとまりが強い」（札幌市：p=.920（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.05（χ^2 検定））、「新しくきた人でもなじみやすい」（札幌市：p<.01（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定））、「昔から住んでいる人の意見が強い」（札幌市：p=.207（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：

p<.05（χ^2検定））、「町内会活動への参加」（札幌市：p=.542（χ^2検定）、むかわ町：p<.05（χ^2検定）、合計：p=.473（χ^2検定））であった。このうち、「住民のまとまりが強い」については、アイヌの人々を含めて「住民」とする認識が強いこと、「新しくきた人」は、先述のように「自分たちとは異なる人」という意識だと推測されることが、アイヌ文化を積極的に保護すべきとの考えに結びつくものと考えられる。

一方、「昔から住んでいる人の意見が強い」については、これを肯定する人ほど、アイヌ文化を保護すべきだと考えていた。ここから考えると、「昔から住んでいる人」に、アイヌの人々も含まれる可能性が考えられる。たしかに、アイヌの人々は、「昔から住んでいる人」に間違いはない。しかし、ここでいう「昔から住んでいる人」は、単に長い期間暮らしているというだけではなく、「その地域の有力者」であるというニュアンスをも持つ表現だと考えられる。アイヌの人々が「その地域の有力者」と位置づけられるかはわからないが、アイヌ民族内にも階層差があり、その上下関係で民族内差別がなされてきた状況も報告されている（濱田 2012）。また、白糠町では、漁業の「親方」として、地域の有力者となっていたアイヌ民族の人々が少なくないことも聞かれた（新藤 2015）。これらの点から、「その地域の有力者」にも一定のアイヌ民族が想定されており、そのことが、その地域でのアイヌ文化保護にもつながると考えられている部分もあると推測される。

表４－24　地域別・「新しいものを積極的に取り入れる」への評価別に見た「アイヌ文化を積極的に保存すべき」の意識

	新しいもの＼アイヌ文化	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	57.1	32.1	10.7	－	28
	ある程度そう思う	49.6	43.6	5.1	1.7	234
	あまりそう思わない	38.6	54.1	6.9	0.4	259
	まったくそう思わない	26.2	47.6	11.9	14.3	42
	合計	43.2	28.1	6.7	2.0	563
むかわ町	とてもそう思う	61.5	23.1	7.7	7.7	13
	ある程度そう思う	34.8	45.6	13.3	6.3	158
	あまりそう思わない	25.6	50.9	19.4	4.2	289
	まったくそう思わない	26.7	40.0	15.6	17.8	45
	合計	29.5	47.5	16.8	6.1	505
合計	とてもそう思う	58.5	29.3	9.8	2.4	41
	ある程度そう思う	43.6	44.4	8.4	3.6	392
	あまりそう思わない	31.8	52.4	13.5	2.4	548
	まったくそう思わない	26.4	43.7	13.8	16.1	87
	合計	36.7	47.8	11.5	3.9	1068

札幌市：p<.001（χ^2検定）、むかわ町：p<.001（χ^2検定）、合計：p<.001（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

今後の居住希望別に見たアイヌ文化の保護についての意識を、表４－25にまとめた。これを見ると、むかわ町では、「別の場所に移りたい」とするもので、「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計が７割を下回るなど、やや低くなっている。逆に言うと、「いまの場所にずっと住みたい」と感じている人々は、この地域で暮らしているアイヌ民族の人々の文化を保護することは望ましいと考えているし、「別の場所に移る予定がある」とする転勤族なども、文化についてはその保護が求められると考えている。居住地域の文化と、一般的な文化と、居住希望によって念頭に置かれる

文化は異なるが、いずれも住民の意識をアイヌ文化の保護に向かわせることになっている。

表４－25　地域別・居住希望別に見た「アイヌ文化を積極的に保護すべき」の意識

	居住希望＼アイヌ文化	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	いまの場所にずっと住みたい	44.7	47.8	6.2	1.3	450
	別の場所に移りたい	62.9	28.6	5.7	2.9	35
	別の場所に移る予定がある	15.4	76.9	7.7	－	13
	合計	45.2	47.2	6.2	1.4	498
むかわ町	いまの場所にずっと住みたい	34.7	46.6	14.4	4.3	326
	別の場所に移りたい	16.0	52.0	20.0	12.0	75
	別の場所に移る予定がある	33.3	50.0	16.7	－	36
	合計	31.4	47.8	15.6	5.3	437
合計	いまの場所にずっと住みたい	40.5	47.3	9.7	2.6	776
	別の場所に移りたい	30.9	44.5	15.5	9.1	110
	別の場所に移る予定がある	28.6	57.1	14.3	－	49
	合計	38.7	47.5	10.6	3.2	935

札幌市：p<.1（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.01（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

第４節　地域の要因から見たアイヌ民族への経済的援助の評価

さらに、ここではアイヌ民族への経済的援助の評価を検討したい。白糠町での調査では、「アイヌ文化振興は許容できるが、経済的援助は許容できない」という一般住民の意識が見えてきていた（新藤 2015）。そこで、アイヌ文化を扱った前節との対比で、アイヌ民族への経済的援助の評価を検討したい。

まず、家族の居住年数との関係をまとめたものを、表４－26に掲げる。このなかで、とくにむかわ町に着目すると、札幌市に比べて全体的に肯定的な意見が少ないが、家族の居住年数が長いほど肯定的な意見が少なくなっていることがわかる。この点は、アイヌの人々との交流をまとめた表４－19と対比すると興味深い。表４－19では、家族の居住年数が長いほど、アイヌの人々との交流はむしろ活発になっていた。それゆえ、ここでの経済的援助への否定的な見解は、アイヌの人々との接点がないがゆえの無理解などにもとづくものではない。むしろ、日常的に交流しているからこそ、「アイヌ民族への経済的援助はいらない」と判断しているものと思われる。これは、日常的な交流から、労働や生活の状況もつかめており、そこには特段の経済的援助が必要だとの認識は持たれなかったということであろう。逆に、日常的な交流に乏しい居住年数の短い人々、あるいは札幌市民の方で、経済的支援が必要との意識が高いのは、アイヌの人々の生活実態をよく把握していないからだといえるのかもしれない。

しかし、客観的なデータに基づけば、アイヌ民族は一般の北海道民と比べて、年収で100万円くらい低い水準となっている（野崎 2014）。それを、アイヌ民族であるがゆえの結果ととらえるか、単に個人的な状況が招いたものととらえるかは議論が分かれるが、少なくとも、むかわ町で長くアイヌ民族の人々と関わっている人たちには、経済的援助が必要な状況には見えないということである。

表４－26　地域別・家族の居住年数別に見た「アイヌ民族に対する経済的な援助をすべき」の意識

		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	10年未満	16.7	33.3	45.2	4.8	42
	10～20年未満	16.3	30.6	34.7	18.4	49
	20～30年未満	3.8	34.0	50.9	11.3	53
	30～40年未満	21.4	42.9	33.9	1.8	56
	40～50年未満	16.4	45.9	32.8	4.9	61
	50～60年未満	28.0	40.0	26.0	6.0	50
	60～70年未満	20.0	40.0	20.0	20.0	5
	70年以上	13.3	60.0	20.0	6.7	15
	合計	16.9	39.3	36.0	7.9	331
むかわ町	10年未満	13.8	27.6	34.5	24.1	29
	10～20年未満	12.0	16.0	44.0	28.0	25
	20～30年未満	－	11.1	66.7	22.2	18
	30～40年未満	15.0	25.0	40.0	20.0	20
	40～50年未満	3.6	3.6	78.6	14.3	28
	50～60年未満	5.9	41.2	47.1	5.9	17
	60～70年未満	－	10.7	46.4	42.9	28
	70年以上	7.8	20.3	46.8	25.0	64
	合計	7.4	18.8	49.8	24.0	229
合計	10年未満	15.5	31.0	40.8	12.7	71
	10～20年未満	14.9	25.7	37.8	21.6	74
	20～30年未満	2.8	28.2	54.9	14.1	71
	30～40年未満	19.7	38.2	35.5	6.6	76
	40～50年未満	12.4	32.6	47.2	7.9	89
	50～60年未満	22.4	40.3	31.3	6.0	67
	60～70年未満	3.0	15.2	42.4	39.4	33
	70年以上	8.9	27.8	41.8	21.5	79
	合計	13.0	30.9	41.6	14.5	560

札幌市：$p<.05$（χ^2検定）、むかわ町：$p<.05$（χ^2検定）、合計：$p<.001$（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

次に、地域への評価との関連については、「住民のまとまりが強い」との関連を表４－27に掲げた。これを見ると、「住民のまとまりが強い」地域だと受け止めている人ほど、アイヌ民族への経済的支援をすべきと考えていることがわかる。また、これ以外の地域への評価でアイヌ民族への経済的な援助の意識に有意差を生じた項目は、「新しく来た人でもなじみやすい」（札幌市：$p=.140$（χ^2検定）、むかわ町：$p<.05$（χ^2検定）、合計：$p<.05$（χ^2検定））、「誰でも自由にものが言える」（札幌市：$p=.119$（χ^2検定）、むかわ町：$p<.01$（χ^2検定）、合計：$p<.01$（χ^2検定））、「新しいものを積極的に取り入れる」（札幌市：$p<.1$（χ^2検定）、むかわ町：$p<.01$（χ^2検定）、合計：$p<.001$（χ^2検定））である。いずれも、地域への評価が肯定的であるほど、アイヌ民族への経済的支援をすべきだと考える傾向が強い。つまり、現在居住している地域はまとまりがあり、新しい人やものも受け入れていると評価されていれば、アイヌ民族への経済的支援も肯定されるという図式が見出される。

表４－27　地域別・「住民のまとまりが強い」への評価別に見た「アイヌ民族に対する経済的な援助をすべき」の意識

	経済的支援／住民のまとまり	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	37.5	25.0	33.3	4.2	24
	ある程度そう思う	16.3	46.9	30.1	6.7	209
	あまりそう思わない	14.4	34.0	45.6	6.0	250
	まったくそう思わない	8.2	22.4	51.0	18.4	49
	合計	15.6	37.6	39.5	7.3	532
むかわ町	とてもそう思う	26.1	26.1	26.1	21.7	23
	ある程度そう思う	6.7	18.7	52.0	22.6	252
	あまりそう思わない	7.4	12.6	47.4	32.6	175
	まったくそう思わない	15.8	5.3	31.6	47.4	19
	合計	8.3	16.2	48.2	27.3	469
合計	とてもそう思う	31.9	25.5	29.8	12.8	47
	ある程度そう思う	11.1	31.5	42.1	15.4	461
	あまりそう思わない	11.5	25.2	46.4	16.9	425
	まったくそう思わない	10.3	17.6	45.6	26.5	68
	合計	12.2	27.6	43.6	16.7	1001

札幌市：p<.001（χ^2 検定）、むかわ町：p<.01（χ^2 検定）、合計：p<.01（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

また、今後の居住希望との関連を、表４－28にまとめた。これを見ると、むかわ町では、「別の場所に移る予定がある」という層で経済的援助への肯定度が高くなっている。「いまの場所にずっと住みたい」という人々が必ずしも経済的援助を肯定しないのは、家族の居住年数が長い者が経済的援助を肯定しないのと同様の構造を示していると考えられる。

表４－28　地域別・居住希望別に見た「アイヌ民族に対する経済的援助をすべき」の意識

	経済的支援／居住希望	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	いまの場所にずっと住みたい	15.9	39.9	38.2	5.9	421
	別の場所に移りたい	20.6	32.4	32.4	14.7	34
	別の場所に移る予定がある	8.3	25.0	66.7	－	12
	合計	16.1	39.0	38.5	6.4	467
むかわ町	いまの場所にずっと住みたい	7.9	16.9	50.3	24.8	290
	別の場所に移りたい	11.3	5.6	43.7	39.4	71
	別の場所に移る予定がある	11.8	29.4	32.4	26.5	34
	合計	8.9	15.9	47.6	27.6	395
合計	いまの場所にずっと住みたい	12.7	30.5	43.2	13.6	711
	別の場所に移りたい	14.3	14.3	40.0	31.4	105
	別の場所に移る予定がある	10.9	28.3	41.3	19.6	46
	合計	12.8	28.4	42.7	16.1	862

札幌市：p=.156（χ^2 検定）、むかわ町：p<.05（χ^2 検定）、合計：p<.001（χ^2 検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

ただし、もう１つ取り上げたいのは、「昔からの文化・習慣を大事にする」の意識との関連である。この点をまとめた表４－29を見ると、とくにむかわ町では、やや特徴的な形態を示している。基本的には「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だとの認識が強いほど、アイヌ民族への経済

的な援助をすべきとの考えを肯定する者が多い。この点は、アイヌ文化の保護をめぐる意識をまとめた表４－23と同様である。ただし、「昔からの文化･習慣を大事にする」と「まったく思わない」層でも、アイヌ民族への経済的援助をすべきという考えに「そう思う」と回答している者が少なくない。この点は、アイヌ民族への経済的援助への意識は、アイヌ文化の保護とは異なったメカニズムによっても規定されていることがうかがわれる。これについては、後ほど改めて検討する。

表４－29　地域別・「昔からの文化・習慣を大事にする」への評価別に見た「アイヌ民族に対する経済的な援助をすべき」の意識

	経済的支援／昔からの文化	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	61.5	15.4	23.1	－	13
	ある程度そう思う	15.6	43.4	33.5	7.5	173
	あまりそう思わない	11.2	38.8	43.9	6.1	278
	まったくそう思わない	22.7	24.2	39.4	13.6	66
	合計	15.3	37.9	39.4	7.4	530
むかわ町	とてもそう思う	20.0	22.2	31.1	26.7	45
	ある程度そう思う	9.9	18.5	49.1	22.5	222
	あまりそう思わない	2.2	13.6	50.5	33.7	184
	まったくそう思わない	17.6	5.9	52.9	23.5	17
	合計	8.1	16.5	48.1	27.4	468
合計	とてもそう思う	29.3	20.7	29.3	20.7	58
	ある程度そう思う	12.4	29.4	42.3	15.9	395
	あまりそう思わない	7.6	28.8	46.5	17.1	462
	まったくそう思わない	21.7	20.5	42.2	15.7	83
	合計	11.9	27.9	43.5	16.7	988

札幌市：p<.001（χ^2検定）、むかわ町：p<.001（χ^2検定）、合計：p<.001（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

第５節　地域の要因から見たアイヌ民族への教育支援の評価

続いて、本節では地域の要因とアイヌ民族への教育支援の評価との関係を見たい。アイヌ民族については、和人との間に教育達成の差が生じていることが指摘されている。2008年に北海道大学アイヌ・先住民研究センターで実施された調査によれば、高校進学率については、最近ではほとんど差がなくなっている。しかし、大学進学率については2005年でも27.1%と、全国平均の５分の３程度にとどまっている。また、中退率が高く、高校中退率は12.9%で全国平均の約６倍、大学中退率は20.3%で全国平均の約９倍の水準となっている（野崎 2012：61）。このように、アイヌ民族の場合、教育機会が必ずしも保障されていない側面がある。そのため、アイヌ民族への教育支援が必要だとの考え方も生じる。この点について、アイヌ民族多住地域の一般住民は、どのように考えているのだろうか。

まず、居住世代や居住年数との関係を検討した結果、それぞれの地域内では、有意差は生じていなかった。ただし、家族の居住年数については全体の分析では有意差が見られ（札幌市：p=.140（χ^2検定）、むかわ町：p=.404（χ^2検定）、合計：p<.01（χ^2検定））、居住世代が新しく、家族の居住年数が短いほど、教育支援をすべきと考える傾向が強く、居住世代が古く、家族の居住年数が長いほど、教育支援をすべきでないと考えている人が多かった。このことは、居住世代が新しく、家族の居住年数が短い札幌市では教育支援をすべきと考える人が多く、居住世代が古く、家

族の居住年数が長いむかわ町の人々は教育支援をすべきでないと考えるケースが多いという地域の差が存在することを意味していると考えられる。

次に、地域への評価に関わって、「住民のまとまりが強い」との関連を表４－30にまとめた。これを見ると、むかわ町では、「住民のまとまりが強い」と考えている人ほど、アイヌ民族への教育支援をすべきとする傾向が強いことが見て取れる。これ以外の地域への評価でアイヌ民族への経済的な援助の意識に有意差を生じた項目は、「新しく来た人でもなじみやすい」（札幌市：p=.173（χ^2検定）、むかわ町：p<.05（χ^2検定）、合計：p<.01（χ^2検定））、「誰でも自由にものが言える」（札幌市：p=.369（χ^2検定）、むかわ町：p<.05（χ^2検定）、合計：p<.05（χ^2検定））、「日常的な付き合いが盛ん」（札幌市：p<.1（χ^2検定）、むかわ町：p<.1（χ^2検定）、合計：p<.1（χ^2検定））、「町内会活動への参加」（札幌市:p<.05（χ^2検定）、むかわ町:p<.1（χ^2検定）、合計:p<.001（χ^2検定））である。いずれも肯定度が高い、または積極的なものになっているほど、アイヌ民族への教育支援をすべきと考える人が多くなっている。

表４－30　地域別・「住民のまとまりが強い」への評価別に見た「アイヌ民族に対する教育支援をすべき」の意識

	教育支援／住民のまとまり	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	50.0	25.0	25.0	－	24
	ある程度そう思う	29.3	43.8	22.1	4.8	208
	あまりそう思わない	25.3	41.8	28.5	4.4	249
	まったくそう思わない	18.0	50.0	24.0	8.0	50
	合計	27.3	42.6	25.4	4.7	531
むかわ町	とてもそう思う	32.0	28.0	24.0	16.0	25
	ある程度そう思う	11.8	27.5	44.7	16.1	255
	あまりそう思わない	10.8	21.0	46.0	22.2	176
	まったくそう思わない	10.5	10.5	36.8	42.1	19
	合計	12.4	24.4	43.8	19.4	475
合計	とてもそう思う	40.8	26.5	24.5	8.2	49
	ある程度そう思う	19.7	34.8	34.6	11.0	463
	あまりそう思わない	19.3	33.2	35.8	11.8	425
	まったくそう思わない	15.9	39.1	27.5	17.4	69
	合計	20.3	34.0	34.1	11.6	1006

札幌市：p=.142（χ^2検定）、むかわ町：p<.05（χ^2検定）、合計：p<.05（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

ただし、有意差が生じているが、これらの項目とは異なる傾向を示すのが、経済的支援の部分でもみた「昔からの文化・習慣を大事にする」である。この項目との関連を表４－31にまとめた。これを見ると、基本的には「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だと認識している人ほど、教育支援をすべきと考えていることがわかる。ただし、むかわ町については、表４－29の経済的支援の場合と同様、「まったくそう思わない」人々でも、教育支援をすべきと考えている人が少なくない。これらの点をふまえると、まずは「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だと考えている人々は、昔からの文化・習慣を受け継いできたアイヌ民族の人々への支援は、その地域の特性に照らして、経済的なものも、教育的なものも重視されるべきだと考えていることがうかがえる。その一方で、「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だと考えていない人々は、昔からの文化・習慣

が大事にされていないからこそ、昔からの文化・習慣を受け継いできたアイヌ民族への経済的・教育的支援が必要だと判断されているものと推測できる。つまり、「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だと考えている人も、そういう地域ではないと考えている人も、ともに昔からの文化・習慣は重視しており、そうであるがゆえに、昔からの文化・習慣を受け継いできたアイヌ民族の人々への支援は重要だと受けとめられているのだととらえられる。「昔からの文化・習慣を大事にする」地域だと感じている人はそのような地域の性格に沿った形で、「昔からの文化・習慣を大事にする」地域ではないと感じている人はそのような地域の問題を改善するという形で、いずれにしてもアイヌ民族への支援が肯定されるという構図が存在するのではないだろうか。

表４－31　地域別・「昔からの文化・習慣を大事にする」への評価別に見た「アイヌ民族に対する教育支援をすべき」の意識

	教育支援 / 昔からの文化	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	N
札幌市	とてもそう思う	69.2	15.4	15.4	－	13
	ある程度そう思う	26.7	45.3	22.7	5.2	172
	あまりそう思わない	25.9	42.4	28.8	2.9	278
	まったくそう思わない	26.9	41.8	19.4	11.9	67
	合計	27.4	42.6	25.3	4.7	530
むかわ町	とてもそう思う	33.3	31.1	20.0	15.6	45
	ある程度そう思う	12.8	27.4	43.8	15.9	226
	あまりそう思わない	5.9	19.9	50.5	23.7	186
	まったくそう思わない	17.6	23.5	29.4	29.4	17
	合計	12.2	24.7	43.7	19.4	474
合計	とてもそう思う	41.4	27.6	19.0	12.1	58
	ある程度そう思う	18.8	35.2	34.7	11.3	398
	あまりそう思わない	17.9	33.4	37.5	11.2	464
	まったくそう思わない	25.0	38.1	21.4	15.5	84
	合計	20.2	34.2	34.0	11.7	1004

札幌市：$p<.01$（χ^2検定）、むかわ町：$p<.001$（χ^2検定）、合計：$p<.01$（χ^2検定）
注）１．単位＝人、%。
　　２．不明・無回答を除く。
資料：実態調査より。

第６節　まとめ――居住年数が持つ両義的な意味

最後に、本章を通じて明らかになった点を確認したい。

第１に、地域への評価については、一般的な都市と農漁村の特徴が示されていた。すなわち、札幌市では近所付き合いが活発でないけれども、それが新住民にとっては居心地のよさにつながっていた。一方、むかわ町では、近所付き合いも活発で、祖父母世代より以前から暮らしている人々が多かった。その分、昔ながらの習慣も重視されていた。

第２に、アイヌの人々との交流は、居住年数が長くなるほど活発になっていた。札幌市でアイヌの人々と交流している人は非常に限られるが、むかわ町では、半数以上の人たちがアイヌ民族の人たちと日常的な交流を持っていた。とくに、自身の居住年数とともに、家族の居住年数が長い人ほどアイヌ民族との交流も活発なものとなっていた。このことは、家（族）を通じた交流が、アイヌ民族と和人との間に形成されていることをうかがわせる。

第３に、アイヌ文化の保護については、昔からの文化とともに、異なる存在を許容する雰囲気が関わりを持っていた。アイヌ文化の保護に積極的な意識を持つ人々は、現在居住している地域で、

昔ながらの文化が重視される半面、新しいものを取り入れているとも考えていた。この「新しいもの」については、先住民文化を、ある本質的なものに限定する「本質主義」に対し、先住民文化が、抑圧や、その後の復権・再生を経験するなど、時代によって変化し、新たな形態をとりうるという立場と共鳴する部分も見出される。加えて、「新しいもの」は、従来この地域にあまりなかった「異なったもの」を示すともとらえられる。このことから、アイヌ文化は「昔からの文化」であるとともに、「新しいもの」でもあり、また「異なったもの」とも受けとめられるものと思われる。これらを受け入れる素地が当地にあると認識されているか否かが、アイヌ文化の重視と関わっていることがうかがわれる。

さらに第４に、アイヌ民族への経済的援助と教育支援については、昔からの文化・習慣を重視する姿勢との関連がみられた。現在の居住地域が昔からの文化・習慣を重視しているか否かについては、これを肯定する人々も、否定する人々も、ともにアイヌ民族への経済的・教育的支援をすべきとするケースが多かった。このことは、いずれの人々も昔からの文化・習慣を重視し、一方は現在の地域の性格に沿って、他方は現在の地域の問題点を解消するために、昔からの文化・習慣を継承してきたアイヌ民族への経済的・教育的支援を行うべきと考えているものと推測される。

ただし、第５に、アイヌ民族への経済的援助については、家族の居住年数の持つ意味が文化の保護とは異なっていた。端的には、むかわ町では、家族の居住年数が長い人たちほど、アイヌ民族への経済的援助に消極的であった。２点目でも触れたとおり、居住年数の長い人々は、日常的に、アイヌ民族と活発な交流を営んでいる。にもかかわらず、経済的援助には消極的であるのは、日常的な付き合いがあるからこそ、逆に経済的な援助が必要であるようには感じられないということである。その意味では、居住年数はアイヌ民族をめぐる意識において両義的な意味を持っていると捉えられる。この点は、相対的にアイヌ民族との関わりが薄い札幌市民や、むかわ町でも居住歴が短い人たちの方が、アイヌ民族への経済的援助に肯定的な意識を持つことと対をなしている。

このように、限られた範囲ではあるが、アイヌ民族をめぐる交流・文化・経済的援助・教育支援と地域的な要因との関連を探ってきた。そこでは、とくに居住年数が大きな意味を持っていた。しかし、居住年数が長いことは、交流と文化にはプラスに働くが、経済的援助にはマイナスに作用していた。このように、アイヌ民族との交流やアイヌ民族に対する意識は、それぞれの要素によって異なった規定関係を持っている。今後は、地域的な要因に着目しながら、和人とアイヌ民族との交流や和人が持つアイヌ民族に対する意識を成り立たせるメカニズムをより精緻に描いていきたい。

注

1）本研究グループで2012年に実施した新ひだか町での調査には、アンケート調査のなかに一定のアイヌ住民が含まれていたため、一般住民とアイヌ住民の比較を行った（新藤 2013）。しかし、今回の調査データは、「本人がアイヌ」と確定されるものが４人、「配偶者がアイヌ」と捉えられるものが２人と、きわめて少数だった。そのため、今回は対象者のエスニシティを考慮した分析は行えなかった。

参考文献

濱田国佑，2012，「アイヌ社会における差別の問題――生活史から見る民族内差別」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その２　現代アイヌの生活の歩みと意識の変容――2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター，157-168.

本多俊和（スチュアート・ヘンリ）・葛野浩昭・大村敬一，2005，「共同の学問、共生の世界へ」本多俊和・大村敬一・葛野浩昭編著『文化人類学研究――先住民の世界』放送大学教育振興会，319-344.

野崎剛毅，2012，「教育不平等の実態と教育意識」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その１　現代アイヌの生活と意識――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター，59-71.

――――，2014，「『アイヌの貧困』の諸リスク」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その３　現代アイヌの生活と意識の多様性――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査再分析報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター，27-44.

小内透，2013，「ノルウェー・サーミの概況」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書29　ノルウェーとスウェーデンのサーミの現状』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室，13-40.

新藤慶，2013，「地域への評価」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書30　新ひだか町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室，148-166.

――――，2015，「アイヌ民族多住地域としての白糠への評価」小内透編著『調査と社会理論・研究報告書33　白糠町におけるアイヌ民族の現状と地域住民』北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室, 211-229.

（新藤　　慶）

終　章　調査報告のまとめ

小内　　透

北海道大学大学院教育学研究院教授
北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員

本報告書では、アイヌ民族多住地域における地域住民のアイヌ民族やアイヌ政策に対する評価とアイヌの人々との社会関係に関して、札幌市とむかわ町の地域住民の方々を対象にした郵送法による「日常的な交流とアイヌ文化・アイヌ政策に関する意識調査」の結果にもとづいて検討してきた。そこで、明らかになったことを改めて確認し、調査報告のまとめとする。

（1）まず第１章で、札幌市およびむかわ町における地域住民とアイヌの人々との交流状況、また交流を枠づけている条件を検討した。その結果、札幌市ではアイヌの人々との交流がある住民は４％弱とごくわずかしか存在しなかった。そのため、札幌市でアイヌの人々との交流を枠づけている条件を検討するのが困難であった。これに対し、むかわ町では同様な人々は、６割弱と過半数に達していた。その背後に、両地域における地域住民に占めるアイヌの人々の比率の違いがあることはいうまでもない[1)]。それは、「近所付き合い」と「職場付き合い」が交流内容の中心を占めていたことからもうかがえる。むかわ町では「近所」や「職場」という身近なところにアイヌの人々がいることが多いということである。

ただし、むかわ町では、交流の度合いに世代差があり、老年層から青年層へと世代が下るにしたがって交流がある者の比率が減少していた。さらに、女性より男性、地元以外から来住した者より地元で生まれ育った者、ホワイトカラーよりブルーカラーの方が、アイヌの人々との交流が盛んであった。年齢、性別、出身地、職業といった地域住民の属性が交流の度合いを左右する要因となっていた。

また、青年層を除いて、定住志向を持つ者の方がそうでない者よりもアイヌの人々と交流する傾向が見られた。さらに、アイヌの歴史や文化についての知識を獲得し、アイヌの文化に触れる体験をし、アイヌの文化に触れることへの積極的な意志を持つ者において、より高い交流頻度とより多彩な交流が実現される傾向が強かった。

こうして、より盛んな交流が実現されるには、地域住民としてともに暮らす環境に身を置くことが基盤となるのは疑う余地がない。ただし、学校教育あるいはその他の機会を得てアイヌの歴史や文化を学び体験することが、より多くの交流につながっていることにも目を向ける必要がある。知識や体験、体験への関心を持つことが交流の入り口となり、交流によって知識と体験の蓄積が促され、体験への関心が深まる可能性があるからである。ここから、こうした循環を支えることができる広い意味での教育について考える必要があるとの問題提起が可能になる。

（2）第２章では、札幌市とむかわ町における和人住民のアイヌ文化への関わり方を他の地域（新ひだか町、伊達市、白糠町）との比較の視点も導入して検討した。そこでは、和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験の地域的な共通性が浮き彫りになった。たとえば、いずれの地域におい

ても、おおよそ２割程度の者がアイヌ文化を体験している点、アイヌ文化の知識を得る経路としてアイヌ文化に関する施設や展示物が最も多く見られる点、アイヌ文化は日本の国として残すべきと考える者が最も多く見られる点が５つの地域で共通していた。さらに、アイヌ文化の体験の規定要因にも、地域的な共通性があった。男女間では選好するアイヌ文化に違いがあり、若い世代ほど学校を通じてアイヌ文化に触れ、高学歴の者ほどアイヌ文化の知識を得ていた。

これとは対照的に、和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験のあり方に関して、地域的な多様性も存在した。札幌市では、将来体験したいアイヌ文化がある者がとりわけ多く、情報メディアを通じてアイヌ文化の知識を得る傾向も強かった。これに対し、むかわ町では、札幌市と同様、アイヌ文化の知識を持つ者が多いものの、「インフォーマル」で「パーソナル」な経路を通じてアイヌ文化の知識を得ることも多いという点で独自な特徴が見られた。

こうした和人住民におけるアイヌ文化の知識と体験の地域的な多様性の背景には、当該地域の学歴構成や人口構成の特質、さらに地域の歴史的な性格が存在しているといえる。

（３）第３章では、札幌市およびむかわ町に居住する地域住民が各種のアイヌ政策に対してどのような意識を持っているのかを、地域住民調査の結果をもとに明らかにした。そこでは、全般的に「アイヌ文化の保存・振興」「アイヌ語の保存・振興」「正しい理解の提供」といったアイヌ文化政策に対する支持が高く、反対に「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的支援の拡充」といったアイヌの人々の生活支援に関する政策への支持が弱いという傾向が確認された。こうした傾向は北海道内の他地域における調査でも確認されたものである。また「特別な政策を行うべきではない」という項目に対して肯定的な回答をする人の割合が、むかわ町においては約７割、札幌市でも半数を超えていた。ここから、アイヌ民族のみを対象にした政策、アイヌ民族を「特別」扱いする政策に対する拒否感や否定的な態度が根強く存在していることが明らかになった。

一方、札幌市とむかわ町で、各種のアイヌ政策に対する明確な温度差も見られた。アイヌ政策に対して肯定的に回答する人の割合は札幌市において全般的に高く、逆にむかわ町では低いという傾向が見られた。とりわけ「雇用対策の拡充」「教育支援の拡充」「経済的支援の拡充」といったアイヌの人々の生活支援に関する政策については、札幌市とむかわ町の間における肯定的な回答の割合の差が大きかった。こうした差は、各地域におけるアイヌ民族の歴史、またアイヌの人々が身近に存在するという地域的な環境に起因するものであろう。アイヌの人々が非常に身近な存在であり、アイヌ政策についても見聞きした経験があるからこそ、それに対して抵抗感や拒否感を持つ人も多いと考えられる。実際、アイヌ政策に対する支持の規定要因に関しては、回答者の個人属性やアイヌの人々との交流といった要因はほとんど影響を与えておらず、地域的な要因によって規定される部分がきわめて大きかった。

今回の調査結果を見ても、アイヌ関連政策、とりわけアイヌの人々への生活支援策に対する支持は十分に広がっているとはいえない。アイヌ民族に関する知識、さらにはアイヌの人々の生活の実態に関する正しい知識を提供しながら、幅広い層に対して働きかけを続けていくことが、今後政策を進めていく上での重要なポイントになるであろう。

（４）第４章では、札幌市、むかわ町を対象に、これらの地域に暮らす一般住民が、アイヌ民族多住地域としての札幌市、むかわ町をどのように評価しているか、また地域への評価が、アイヌ民族やアイヌ文化への受けとめ方にもたらす影響についても検討した。

検討を通じて、地域への評価については、札幌市とむかわ町では、近所付き合いの活発さに関して、都市と農漁村の一般的な特徴が明らかになった。つまり、大都市である札幌市では近所付き合いが活発でなく、それが新住民にとっては居心地のよさにつながっていた。一方、農漁村であるむかわ町では、近所付き合いが活発であると同時に、昔ながらの習慣も重視されていた。

これに対し、アイヌ民族との交流、アイヌ文化への関心、アイヌ民族への経済的支援・教育支援に対する評価と地域的な要因との関連に関しては、とくに居住年数が大きな意味を持っていた。その場合、居住年数の長さはアイヌ民族との交流を盛んにし、アイヌ文化に関心を強め、アイヌ民族への経済的支援・教育支援に対する評価を積極的なものするという直線的な関係にはなっていなかった。実際には、居住年数が長いことは、交流と文化にはプラスに働くが、経済的支援・教育支援に対する評価にはマイナスに作用していた。つまり、アイヌ民族との交流やアイヌ民族に対する意識は、それぞれの要素によって異なった規定関係を持っていることがうかがえた。

とくに、むかわ町の場合、居住年数の長い人々は、日常的に、アイヌ民族と活発な交流を営んでいる。にもかかわらず、経済的支援には消極的であった。それは、日常的な付き合いがあるからこそ、逆に経済的な支援が必要であるようには感じられないということであろう。

（５）以上のように、アイヌの人々との交流、アイヌ文化への関心、経済的支援・教育支援に対する評価は、アイヌの人々と地域住民の日常的な関係性の蓄積のあり方によって規定されることが明らかであるといえる。それゆえ、アイヌの人々が数多く居住する地域では、アイヌの人々自身が自らの実情を地域住民に伝え、地域住民がそれに耳を傾けることによって、互いの新しい関係性を築き上げていくことが求められている。その際、当該の自治体が、アイヌの人々と地域住民の間に立って、両者の日常的な関係性をよりよい方向に促していく努力をする必要があろう。

注

１）2008年時点におけるウタリ協会札幌支部と同協会むかわ支部の会員はそれぞれ275人、265人とほぼ同じ規模である（山﨑 2010：8）。一方、2010年国勢調査人口は札幌市が1,913,545人、むかわ町が9,746人と大きく異なっており、地域住民に占めるアイヌの人々の比率には大きな違いがある。

参考文献

山﨑幸治, 2010,「調査対象の特性」小内透編著『北海道アイヌ民族生活実態調査報告　その１　現代アイヌの生活と意識――2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書』北海道大学アイヌ・先住民研究センター，7-18.

（小内　　透）

付　属　資　料

1　お願い状（札幌市）

2　お願い状（むかわ町）

3　調査票（札幌市）

4　調査票（むかわ町）

5　単純集計表（札幌市）

6　単純集計表（むかわ町）

平成２６年１０月３１日

札幌市民各位

北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室
北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務
教授　　小内　透
札幌市北区北１１条西７丁目
TEL＆ FAX (011)706-3093

学術調査へのご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、平成 19 年のセンター開設以来、道内におけるアイヌ民族の方々の生活実態とそれを取り巻く地域社会の環境を明らかにするため、各種の社会調査プロジェクトを実施してまいりました。平成 20 年に北海道アイヌ民族生活実態調査（アンケート調査）、平成 21 年に札幌市およびむかわ町においてアイヌの方々を対象にしたインタビュー形式による生活実態調査を実施したほか、教育社会学研究室でも「先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究」（平成 24～27 年度・基盤研究Ａ、研究代表者・小内透）というテーマで文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金による助成を受け、センターと連携して、新ひだか町、伊達市、白糠町などにおいて地域社会の状況に関する調査研究を進めております。

こうした研究の目的は、平成 20 年にわが国の衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択されて以降、新たなアイヌ政策が進展している現状をふまえ、アイヌの方々が数多く居住する地域社会の実情、および地域住民のアイヌ文化やアイヌ政策に対する意識を把握することを通して、政策的な課題を改めて検討するための基礎的な資料を得ることにあります。そのためには、アイヌの方々だけではなく、アイヌの方々を含めた地域住民の皆様の交流の実態、アイヌ文化やアイヌ政策への意識などを把握することが必要になります。この目的に沿って、本年度は、札幌市にお住いの皆様を対象として「地域住民の日常的な交流の実態とアイヌ文化・アイヌ政策についての意識」に関する調査を実施する計画を立てました。

具体的には、**札幌市にお住まいの満 20 歳以上の方々**から、**無作為**に 1,200 名を選ばせていただき、住民の日常的な交流とアイヌ文化やアイヌ政策に関する意識について、アンケートをお願いすることになりました。なお、**皆様のお名前・ご住所につきましては、正規の手続きを経た上で、札幌市各区の選挙管理委員会の選挙人名簿抄録を閲覧させていただきました。**

お答えいただいた**結果はすべて統計的に処理されますので、お名前や内容が外部にもれることはいっさいございません。**あなた様ご自身が回答用紙にご記入の上、**１１月１４日（金）まで**に、同封いたしました封筒に密封してご投函ください。**切手を貼る必要はございません。開封と保管は北海道大学教育社会学研究室が責任を持って行います。なお、同封したボールペンにつきましては、ご返送いただかなくても構いません。記念にお受け取りください。**

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、どうか調査の趣旨をおくみとりいただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

平成２６年１０月３１日

むかわ町民各位

北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室
北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務
教授　　小内　透
札幌市北区北１１条西７丁目
TEL＆ FAX (011)706-3093

学術調査へのご協力のお願い

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

北海道大学アイヌ・先住民研究センターでは、平成 19 年のセンター開設以来、道内におけるアイヌ民族の方々の生活実態とそれを取り巻く地域社会の環境を明らかにするため、各種の社会調査プロジェクトを実施してまいりました。平成 20 年に北海道アイヌ民族生活実態調査（アンケート調査）、平成 21 年に札幌市およびむかわ町においてアイヌの方々を対象にしたインタビュー形式による生活実態調査を実施したほか、教育社会学研究室でも「先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究」（平成 24～27 年度・基盤研究Ａ、研究代表者・小内透）というテーマで文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金による助成を受け、センターと連携して、新ひだか町、伊達市、白糠町などにおいて地域社会の状況に関する調査研究を進めております。

こうした研究の目的は、平成 20 年にわが国の衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択されて以降、新たなアイヌ政策が進展している現状をふまえ、アイヌの方々が数多く居住する地域社会の実情、および地域住民のアイヌ文化やアイヌ政策に対する意識を把握することを通して、政策的な課題を改めて検討するための基礎的な資料を得ることにあります。そのためには、アイヌの方々だけではなく、アイヌの方々を含めた地域住民の皆様の交流の実態、アイヌ文化やアイヌ政策への意識などを把握することが必要になります。この目的に沿って、本年度は、むかわ町にお住いの皆様を対象として「地域住民の日常的な交流の実態とアイヌ文化・アイヌ政策についての意識」に関する調査を実施する計画を立てました。

具体的には、**むかわ町にお住まいの満 20 歳以上の方々**から、**無作為**に 1,200 名を選ばせていただき、住民の日常的な交流とアイヌ文化やアイヌ政策に関する意識について、アンケートをお願いすることになりました。なお、**皆様のお名前・ご住所につきましては、正規の手続きを経た上で、むかわ町選挙管理委員会の選挙人名簿抄録を閲覧させていただきました。**

お答えいただいた**結果はすべて統計的に処理されますので、お名前や内容が外部にもれることはいっさいございません。**あなた様ご自身が回答用紙にご記入の上、**１１月１４日（金）まで**に、同封いたしました封筒に密封してご投函ください。**切手を貼る必要はございません。開封と保管は北海道大学教育社会学研究室が責任を持って行います。なお、同封したボールペンにつきましては、ご返送いただかなくても構いません。記念にお受け取りください。**

お忙しい中、お手数をおかけいたしますが、どうか調査の趣旨をおくみとりいただき、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

札幌市民の日常的な交流の実態と
アイヌ文化・アイヌ政策に関する意識調査

これは、札幌市の人たちの日常生活のあり方とアイヌ文化・アイヌ政策に関する意識についてお聞きするアンケート調査です。対象の方は、札幌市にお住まいのみなさまのなかから、無作為に選ばせていただきました。

この調査の結果は、科学的・統計的に処理しますので、個人的にご迷惑のかかることはございません。お名前は必要ありません。お気軽にお答えください。

なお、不明な点などがありましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】　北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室
〒060-0811　札幌市北区北 11 条西 7 丁目
電話（FAX 兼用）：011－706－3093
e-mail：soe@edu.hokudai.ac.jp

Ⅰ．はじめに、基本的なことがらについてお聞きします。

問１　あなたの**性別・年齢・生まれた場所**を教えてください。

Ａ．性別　→　男・女
Ｂ．年齢　→　満（　　）歳
Ｃ．生まれた場所（あてはまる番号１つに○をつけてください）
1．現住所
2．現住所以外の札幌市内
3．北海道内の他市町村
4．東北　5．関東　6．中部　7. 近畿
8．中国・四国　9．九州・沖縄　10．外国

問２　あなたの家が札幌市にお住まいになられたのは、**どなたの代から**ですか。また、それは**いつごろ**ですか。それぞれ教えてください。

（A）どなたの代
1．自分の代　2．親の代　3．祖父母の代　4．祖父母より前　5．わからない
（B）いつごろ
1．明治より前　2．明治・大正・昭和・平成（　　）年から　3．わからない

問３　あなたご自身が札幌市にお住まいになられたのは**いつから**ですか。

1．生まれてからずっと　2．明治・大正・昭和・平成（　　）年から

Ⅱ．日常生活のあり方についてお聞きします。

問４　**札幌市のあなたのお住まいの地域について感じておられること**についておたずねします。
それぞれについて、あてはまるものを１つ選んで、○をつけてください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
(ア)住民のまとまりが強い	1	2	3	4
(イ)新しくきた人でもなじみやすい	1	2	3	4
(ウ)誰でも自由にものが言える	1	2	3	4
(エ)日常的なつきあいが盛ん	1	2	3	4
(オ)昔からの文化・習慣を大事にする	1	2	3	4
(カ)昔から住んでいる人の意見が強い	1	2	3	4
(キ)新しいものを積極的に取り入れる気風がある	1	2	3	4

問５　あなたは、普段**ご近所の人たちと、どのくらい交流**を行っていますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1．近所の住民とつきあいはない　　2．道であえばあいさつをかわす程度
3．会った際に世間話をする　　4．互いの家をよく行き来する

問６　あなたは、お住まいの**地域で自治会（町内会）の活動や行事**に参加なさっていますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1．積極的に参加している　　2．ある程度参加している
3．あまり参加していない　　4．まったく参加していない

問７　あなたは普段、**アイヌの人たちと交流**がありますか。

1．よくある
2．たまにある
3．あまりない
4．ほとんどない

⇨ それは**どのような交流**ですか。**あてはまるもの全てに○**をつけてください。

1．近所づきあい　　2．職場での付き合い
3．趣味の付き合い　　4．子どもを介した付き合い
5．インターネットを介した付き合い
6．学生時代からの付き合い
7．その他（　　）

問８　あなたは、**今後とも札幌市に住みたい**と思いますか。あてはまる番号を１つ選んだ上で、その理由を以下の表から、いくつでも選んで記入してください。

1. いまの場所にずっと住みたい　――→札幌市に住みたい理由　（　　）
2. 別の場所に移りたい　――→別の場所に移りたい理由　（　　）
3. 別の場所に移る予定がある　――→別の場所に移る理由　（　　）
4. わからない

〈札幌市に住みたい理由〉

1. 生活環境がよいから
2. 人間関係がよいから
3. 親の面倒を見るため
4. ここに土地や家があるから
5. 職場や学校が近いから
6. その他（　　）

〈別の場所に移りたい理由〉

7. 生活環境が悪いから
8. 人間関係が悪いから
9. 交通の便が悪いから
10. 別の場所に土地や家があるから
11. よい仕事がないから
12. 職場や学校が遠いから
13. その他（　　）

〈別の場所に移る理由〉

14. 就職するから
15. 転勤があるから
16. 結婚するから
17. 進学するから
18. その他（　　）

Ⅲ．アイヌ文化についてお聞きします。

問９　アイヌ民族の**伝統文化は、現在どのくらい残っている**と思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. かなり残っている　2. ある程度残っている　3. あまり残っていない
4. 全然残っていない　5. わからない

問１０　あなたは、今後アイヌ民族の**伝統文化を、積極的に保存していくべき**だと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. そう思う　2. ある程度そう思う
3. あまりそう思わない　4. そう思わない

問１１　アイヌ民族の伝統文化を**後世に残していく場合、どのように残されるべき**だと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. アイヌの人たちが残すべきだと思う　2. 日本の国として残すべきだと思う
3. 地域ごとに残すべきだと思う　4. その他（　　）

問１２　今年（平成26年）6月、**アイヌ文化の復興の促進および民族共生の象徴の場として**、北海道白老町に**国立の施設を設置**することが閣議決定されました。あなたは、こうした施設を設置することについてどのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1．賛成　　2．やや賛成　　3．やや反対　　4．反対

問１３　あなたは、下記の**（A）アイヌ文化について知っていますか**。また、**（B）体験したり参加したりしたことがあるもの**はありますか。さらに**（C）将来体験したり参加したりしたいもの**はありますか。あてはまるものがある場合、**（A）～（C）それぞれについて**以下の選択肢から選び、カッコの中に番号を記入してください。

(A) 内容を知っているものがある	1．はい→（　　）	2．いいえ
(B) 体験・参加したことがある	1．はい→（　　）	2．いいえ
(C) 将来体験・参加したい	1．はい→（　　）	2．いいえ

1．カムイノミ(動物や物の霊送り)などの祭事	9．アイヌ語
2．伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	10．ユカラなど口承文芸
3．伝統的な葬儀・先祖供養	11．歌と踊り・楽器
4．イナウを捧げる	12．工芸(編み物・刺繍・織物・木彫)
5．神聖な場所への祈り	13．伝統的狩猟・農法・漁法
6．海・川・山でのタブーや約束事	14．伝統的な料理
7．まじない・トゥス(巫術)	15．その他(　　)
8．夢見を大事にする	

問１４　**【問１３の（A）で「1．はい」を選んだ人にお聞きします。それ以外の人は問１５へ進んでください】そのアイヌ文化は、どこで（誰から）**知りましたか。**あてはまるものすべてに○**をつけてください

1．家族や親戚　　2．近所の人　　3．友人　　4．学校の授業や行事
5．アイヌ文化を普及している団体　　6．情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）
7．施設や展示物　　8．その他（　　）

問１５　**学校（小学校・中学校・高校など）で、アイヌの歴史**を学んだことはありますか。

1．ある　→　そのうち特に印象に残っている事柄について教えてください。
2．ない

（　　）

問１６　**学校（小学校・中学校・高校など）で、アイヌの文化**を体験したことはありますか。

1. ある　→　それはどのようなアイヌ文化ですか。具体的に教えてください。
2. ない

（　　）

問１７　あなたは**アイヌの歴史や文化の内容**が世間一般の人々に正しく知られていると思いますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1. 正しく知られていると思う
2. だいたいは正しく知られていると思う
3. あまり正しく知られていないと思う
4. 正しく知られていないと思う
5. わからない

問１８　あなたは、**国や道によるアイヌ民族に関する施策**は、今後どうあるべきだと思いますか。以下のそれぞれの項目について、あてはまる番号を１つ選んで○をつけてください。

	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(ア)アイヌ民族への差別が起こらない人権尊重の社会をつくるべき	1	2	3	4
(イ)アイヌ文化の保存・振興を図るべき	1	2	3	4
(ウ)アイヌ語の保存・振興を図るべき	1	2	3	4
(エ)アイヌ民族に対する雇用対策を拡充すべき	1	2	3	4
(オ)アイヌ民族に対する教育支援を拡充すべき	1	2	3	4
(カ)アイヌ民族に対する経済的な援助を拡充すべき	1	2	3	4
(キ)アイヌ民族の土地・資源に対する補償を行うべき	1	2	3	4
(ク)アイヌ民族に関する正しい理解を提供すべき	1	2	3	4
(ケ)アイヌ民族のみを対象とした特別な政策は行うべきではない	1	2	3	4

Ⅳ．最後に、あなたとご家族のことについてお聞きします。

問１９　あなたが**最後に卒業（または中退）なさった（または、現在かよっている）学校**は、次のどれですか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1. 義務教育（旧制高等小学校をふくむ）
2. 高校（旧制中学校・旧制高等女学校・師範学校をふくむ）
3. 専修学校（専門学校）専門課程
4. 短大・高専（旧制高校をふくむ）
5. 大学（大学院をふくむ）
6. その他（具体的に　　）

問２０　あなたの**お仕事（就業形態）**は、次のうちどれにあたりますか。

1.　経営者・役員
2.　常時雇用されている一般従業者（サラリーマンなど雇われている人）
3.　パート、アルバイト、臨時雇用、季節労働
4.　自営業主（従業員４人以下の店や工場を経営）
5.　家族従業者（家業の手伝い）
6.　その他（　　）
7.　無職
8.　学生（在学中）

問２１　**【問２０で、７（無職）、８（学生）以外を選択された方にお聞きします。】**
あなたの**職業**を教えてください。下の表の中であてはまる番号１つに○をつけてください。

1.　事務的職業（総務・営業・人事・経理など事務一般）
2.　保安的職業（警察官・自衛官・消防士、ガードマンなど）
3.　販売的職業（卸・小売、不動産仲介、保険外交など）
4.　技能工・生産工程に関わる職業（工員、建設作業員、大工、自動車整備など）
5.　運輸・通信的職業（運転手、郵便配達、通信士など）
6.　専門・技術的職業（医師・看護師・弁護士・教師・保育士・税理士・技術者などの専門的知識や技術を要するもの）
7.　管理的職業（企業・官公庁における課長職以上、議員や経営者を含む）
8.　農林水産的職業（第二種兼業や農水産物加工は含まない）
9.　サービス的職業（ホームヘルパー、理美容師、飲食店従業員、ホテル従業員など）
10.　その他（　　）

問２２　あなたの**世帯**は以下のうちどれにあてはまりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ
3. 夫婦と未婚の子どもの二世代（父子・母子世帯をふくむ）
4. 夫婦（片親をふくむ）と既婚の子どもの二世代
5. 三世代同居
6. その他（　　）

問２３　あなたの**現在のお住まい**は、次のどれにあたりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 一戸建て持ち家（土地も所有）
2. 一戸建て持ち家（借地）
3. 分譲マンション
4. 民間の借家・アパート・賃貸マンション
5. 社宅・官舎
6. 公営・公団（UR賃貸）住宅
7. その他（　　）

問２４　もしさしつかえなければ、あなた**個人の年間収入**（年金等をふくむ）を税込みで教えてください。また、あなたの**世帯全体の年間収入**は税込みでおよそどのくらいになりますか。家賃収入、地代収入等も含めて教えてください。下の表からあてはまるものを１つ選んでカッコの中に記入してください。

Ａ．あなた個人（　　）　Ｂ．世帯全体（　　）

ア．なし	カ．400 万円～500 万円未満	サ．900 万円～1000 万円未満
イ．100 万円未満	キ．500 万円～600 万円未満	シ．1000 万円～1500 万円未満
ウ．100 万円～200 万円未満	ク．600 万円～700 万円未満	ス．1500 万円以上
エ．200 万円～300 万円未満	ケ．700 万円～800 万円未満	
オ．300 万円～400 万円未満	コ．800 万円～900 万円未満	

質問はこれで終わりです。ご協力いただき、まことにありがとうございました。

本調査に関してご意見・ご感想などございましたらご記入ください

むかわ町民の日常的な交流の実態と
アイヌ文化・アイヌ政策に関する意識調査

これは、むかわ町の人たちの日常生活のあり方とアイヌ文化・アイヌ政策に関する意識についてお聞きするアンケート調査です。対象の方は、むかわ町にお住まいのみなさまのなかから、無作為に選ばせていただきました。

この調査の結果は、科学的・統計的に処理しますので、個人的にご迷惑のかかることはございません。お名前は必要ありません。お気軽にお答えください。

なお、不明な点などがありましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

【連絡先】　北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室
〒060-0811　札幌市北区北 11 条西 7 丁目
電話（FAX 兼用）：011－706－3093
e-mail：soe@edu.hokudai.ac.jp

Ⅰ．はじめに、基本的なことがらについてお聞きします。

問１　あなたの**性別・年齢・生まれた場所**を教えてください。

Ａ．性別　→　男・女
Ｂ．年齢　→　満（　　）歳
Ｃ．生まれた場所（あてはまる番号１つに○をつけてください）
1．現住所
2．現住所以外のむかわ町内
3．北海道内の他市町村
4．東北　5．関東　6．中部　7. 近畿
8．中国・四国　9．九州・沖縄　10．外国

問２　あなたの家がむかわ町にお住まいになられたのは、**どなたの代から**ですか。また、それは**いつごろ**ですか。それぞれ教えてください。

（A）どなたの代
1．自分の代　2．親の代　3．祖父母の代　4．祖父母より前　5．わからない
（B）いつごろ
1．明治より前　2．明治・大正・昭和・平成（　　）年から　3．わからない

問３　あなたご自身がむかわ町にお住まいになられたのは**いつから**ですか。

1．生まれてからずっと　2．明治・大正・昭和・平成（　　）年から

Ⅱ．日常生活のあり方についてお聞きします。

問４　**むかわ町について感じておられること**についておたずねします。それぞれについて、あてはまるものを１つ選んで、○をつけてください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
(ア)住民のまとまりが強い	1	2	3	4
(イ)新しくきた人でもなじみやすい	1	2	3	4
(ウ)誰でも自由にものが言える	1	2	3	4
(エ)日常的なつきあいが盛ん	1	2	3	4
(オ)昔からの文化・習慣を大事にする	1	2	3	4
(カ)昔から住んでいる人の意見が強い	1	2	3	4
(キ)新しいものを積極的に取り入れる気風がある	1	2	3	4

問５　あなたは、普段**ご近所の人たちと、どのくらい交流**を行っていますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1．近所の住民とつきあいはない　　2．道であえばあいさつをかわす程度
3．会った際に世間話をする　　4．互いの家をよく行き来する

問６　あなたは、お住まいの**地域で自治会（町内会）の活動や行事**に参加なさっていますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1．積極的に参加している　　2．ある程度参加している
3．あまり参加していない　　4．まったく参加していない

問７　あなたは普段、**アイヌの人たちと交流**がありますか。

1．よくある
2．たまにある
3．あまりない
4．ほとんどない

⇨ それは**どのような交流**ですか。**あてはまるもの全てに○**をつけてください。

1．近所づきあい　　2．職場での付き合い
3．趣味の付き合い　　4．子どもを介した付き合い
5．インターネットを介した付き合い
6．学生時代からの付き合い
7．その他（　　）

問８　あなたは、**今後ともむかわ町に住みたい**と思いますか。あてはまる番号を１つ選んだ上で、その理由を以下の表から、いくつでも選んで記入してください。

1. いまの場所にずっと住みたい　――→むかわ町に住みたい理由　（　　）
2. 別の場所に移りたい　――→別の場所に移りたい理由　（　　）
3. 別の場所に移る予定がある　――→別の場所に移る理由　（　　）
4. わからない

〈むかわ町に住みたい理由〉

1. 生活環境がよいから
2. 人間関係がよいから
3. 親の面倒を見るため
4. ここに土地や家があるから
5. 職場や学校が近いから
6. その他（　　）

〈別の場所に移りたい理由〉

7. 生活環境が悪いから
8. 人間関係が悪いから
9. 交通の便が悪いから
10. 別の場所に土地や家があるから
11. よい仕事がないから
12. 職場や学校が遠いから
13. その他（　　）

〈別の場所に移る理由〉

14. 就職するから
15. 転勤があるから
16. 結婚するから
17. 進学するから
18. その他（　　）

Ⅲ．アイヌ文化についてお聞きします。

問９　アイヌ民族の**伝統文化は、現在どのくらい残っている**と思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. かなり残っている　2. ある程度残っている　3. あまり残っていない
4. 全然残っていない　5. わからない

問１０　あなたは、今後アイヌ民族の**伝統文化を、積極的に保存していくべき**だと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. そう思う　2. ある程度そう思う
3. あまりそう思わない　4. そう思わない

問１１　アイヌ民族の伝統文化を**後世に残していく場合、どのように残されるべき**だと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1. アイヌの人たちが残すべきだと思う　2. 日本の国として残すべきだと思う
3. 地域ごとに残すべきだと思う　4. その他（　　）

問１２　今年（平成26年）6月、**アイヌ文化の復興の促進および民族共生の象徴の場として**、北海道白老町に**国立の施設を設置**することが閣議決定されました。あなたは、こうした施設を設置することについてどのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んで、○をつけてください。

1．賛成　　2．やや賛成　　3．やや反対　　4．反対

問１３　あなたは、下記の**（A）アイヌ文化について知っていますか**。また、**（B）体験したり参加したりしたことがあるもの**はありますか。さらに**（C）将来体験したり参加したりしたいもの**はありますか。あてはまるものがある場合、**（A）～（C）それぞれについて**以下の選択肢から選び、カッコの中に番号を記入してください。

(A) 内容を知っているものがある	1．はい→（　　）	2．いいえ
(B) 体験・参加したことがある	1．はい→（　　）	2．いいえ
(C) 将来体験・参加したい	1．はい→（　　）	2．いいえ

1．カムイノミ(動物や物の霊送り)などの祭事	9．アイヌ語
2．伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い	10．ユカラなど口承文芸
3．伝統的な葬儀・先祖供養	11．歌と踊り・楽器
4．イナウを捧げる	12．工芸(編み物・刺繍・織物・木彫)
5．神聖な場所への祈り	13．伝統的狩猟・農法・漁法
6．海・川・山でのタブーや約束事	14．伝統的な料理
7．まじない・トゥス(巫術)	15．その他(　　)
8．夢見を大事にする	

問１４　**【問１３の（A）で「1．はい」を選んだ人にお聞きします。それ以外の人は問１５へ進んでください】そのアイヌ文化は、どこで（誰から）**知りましたか。**あてはまるものすべてに○**をつけてください

1．家族や親戚　　2．近所の人　　3．友人　　4．学校の授業や行事
5．アイヌ文化を普及している団体　　6．情報メディア（本・テレビ・ラジオ・インターネットなど）
7．施設や展示物　　8．その他（　　）

問１５　**学校（小学校・中学校・高校など）で、アイヌの歴史**を学んだことはありますか。

1．ある　→　そのうち特に印象に残っている事柄について教えてください。
2．ない

（　　）

問１６　**学校（小学校・中学校・高校など）で、アイヌの文化**を体験したことはありますか。

1. ある　→　それはどのようなアイヌ文化ですか。具体的に教えてください。
2. ない

（　　）

問１７　あなたは**アイヌの歴史や文化の内容**が世間一般の人々に正しく知られていると思いますか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1. 正しく知られていると思う
2. だいたいは正しく知られていると思う
3. あまり正しく知られていないと思う
4. 正しく知られていないと思う
5. わからない

問１８　あなたは、**国や道によるアイヌ民族に関する施策**は、今後どうあるべきだと思いますか。以下のそれぞれの項目について、あてはまる番号を１つ選んで○をつけてください。

	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
(ア)アイヌ民族への差別が起こらない人権尊重の社会をつくるべき	1	2	3	4
(イ)アイヌ文化の保存・振興を図るべき	1	2	3	4
(ウ)アイヌ語の保存・振興を図るべき	1	2	3	4
(エ)アイヌ民族に対する雇用対策を拡充すべき	1	2	3	4
(オ)アイヌ民族に対する教育支援を拡充すべき	1	2	3	4
(カ)アイヌ民族に対する経済的な援助を拡充すべき	1	2	3	4
(キ)アイヌ民族の土地・資源に対する補償を行うべき	1	2	3	4
(ク)アイヌ民族に関する正しい理解を提供すべき	1	2	3	4
(ケ)アイヌ民族のみを対象とした特別な政策は行うべきではない	1	2	3	4

Ⅳ．最後に、あなたとご家族のことについてお聞きします。

問１９　あなたが**最後に卒業（または中退）なさった（または、現在かよっている）学校**は、次のどれですか。あてはまる番号を１つ選んで、○をつけてください。

1. 義務教育（旧制高等小学校をふくむ）
2. 高校（旧制中学校・旧制高等女学校・師範学校をふくむ）
3. 専修学校（専門学校）専門課程
4. 短大・高専（旧制高校をふくむ）
5. 大学（大学院をふくむ）
6. その他（具体的に　　）

問２０　あなたの**お仕事（就業形態）**は、次のうちどれにあたりますか。

1.　経営者・役員
2.　常時雇用されている一般従業者（サラリーマンなど雇われている人）
3.　パート、アルバイト、臨時雇用、季節労働
4.　自営業主（従業員４人以下の店や工場を経営）
5.　家族従業者（家業の手伝い）
6.　その他（　　）
7.　無職
8.　学生（在学中）

問２１　**【問２０で、７（無職）、８（学生）以外を選択された方にお聞きします。】**
あなたの**職業**を教えてください。下の表の中であてはまる番号１つに○をつけてください。

1.　事務的職業（総務・営業・人事・経理など事務一般）
2.　保安的職業（警察官・自衛官・消防士、ガードマンなど）
3.　販売的職業（卸・小売、不動産仲介、保険外交など）
4.　技能工・生産工程に関わる職業（工員、建設作業員、大工、自動車整備など）
5.　運輸・通信的職業（運転手、郵便配達、通信士など）
6.　専門・技術的職業（医師・看護師・弁護士・教師・保育士・税理士・技術者などの専門的知識や技術を要するもの）
7.　管理的職業（企業・官公庁における課長職以上、議員や経営者を含む）
8.　農林水産的職業（第二種兼業や農水産物加工は含まない）
9.　サービス的職業（ホームヘルパー、理美容師、飲食店従業員、ホテル従業員など）
10.　その他（　　）

問２２　あなたの**世帯**は以下のうちどれにあてはまりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ
3. 夫婦と未婚の子どもの二世代（父子・母子世帯をふくむ）
4. 夫婦（片親をふくむ）と既婚の子どもの二世代
5. 三世代同居
6. その他（　　）

問２３　あなたの**現在のお住まい**は、次のどれにあたりますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1. 一戸建て持ち家（土地も所有）
2. 一戸建て持ち家（借地）
3. 分譲マンション
4. 民間の借家・アパート・賃貸マンション
5. 社宅・官舎
6. 公営・公団（UR賃貸）住宅
7. その他（　　）

問２４　もしさしつかえなければ、あなた**個人の年間収入**（年金等をふくむ）を税込みで教えてください。また、あなたの**世帯全体の年間収入**は税込みでおよそどのくらいになりますか。家賃収入、地代収入等も含めて教えてください。下の表からあてはまるものを１つ選んでカッコの中に記入してください。

Ａ．あなた個人（　　）　Ｂ．世帯全体（　　）

ア．なし	カ．400 万円～500 万円未満	サ．900 万円～1000 万円未満
イ．100 万円未満	キ．500 万円～600 万円未満	シ．1000 万円～1500 万円未満
ウ．100 万円～200 万円未満	ク．600 万円～700 万円未満	ス．1500 万円以上
エ．200 万円～300 万円未満	ケ．700 万円～800 万円未満	
オ．300 万円～400 万円未満	コ．800 万円～900 万円未満	

質問はこれで終わりです。ご協力いただき、まことにありがとうございました。

本調査に関してご意見・ご感想などございましたらご記入ください

付属資料　単純集計表（札幌市）

Q1A　性別

		度数	%
1	男性	225	38.9
2	女性	353	61.0
9	無回答	1	0.2
合計		579	100.0

Q1B　年齢

		度数	%
1	20～29歳	47	8.1
2	30～39歳	92	15.9
3	40～49歳	120	20.7
4	50～59歳	114	19.7
5	60～69歳	125	21.6
6	70歳以上	79	13.6
99	無回答	2	0.4
合計		579	100.0

Q1C　出身地域

		度数	%
1	現住所	39	6.7
2	札幌市内（現住所以外）	143	24.7
3	道内他市町村	312	53.9
4	東北	16	2.8
5	関東	34	5.9
6	中部	6	1.0
7	近畿	11	1.9
8	中国・四国	0	0.0
9	九州沖縄	5	0.9
10	外国	11	1.9
99	無回答	2	0.4
合計		579	100.0

Q2A　家来住世代

		度数	%
1	自分の代	303	52.3
2	親の代	161	27.8
3	祖父母の代	66	11.4
4	祖父母より前	30	5.2
5	わからない	10	1.7
99	無回答	9	1.6
合計		579	100.0

Q2B　家来住時期

		度数	%
1	明治より前	6	1.0
2	明治・大正・昭和・平成	466	81.5
3	わからない	54	90.9
99	無回答	53	100.0
合計		579	100.0

Q2Bsq　家来住年（Q2B で２を選択した場合）

	度数	%
1945 年以前	14	2.4
1946 ～ 1970 年	106	18.3
1971 ～ 1995 年	142	24.5
1996 年以降	89	15.4
非該当	60	10.4
無回答	168	29.0
合計	579	100.0

Q3　個人来住時期

		度数	%
1	生まれてからずっと	154	26.6
2	明治・大正・昭和・平成	420	72.5
99	無回答	5	0.9
合計		579	100.0

Q3sq　個人来住年（Q3 で２を選択した場合）

	度数	%
1945 年以前	2	0.3
1946 ～ 1970 年	97	16.8
1971 ～ 1995 年	162	28.0
1996 年以降	105	18.1
非該当	154	26.6
無回答	59	10.2
合計	579	100.0

Q4 ア　住民のまとまりが強い

		度数	%
1	とてもそう思う	26	4.5
2	ある程度そう思う	222	38.3
3	あまりそう思わない	261	45.1
4	まったくそう思わない	55	9.5
99	無回答	15	2.6
合計		579	100.0

Q4 イ　新しくきた人でもなじみやすい

		度数	%
1	とてもそう思う	40	6.9
2	ある程度そう思う	318	54.9
3	あまりそう思わない	167	28.8
4	まったくそう思わない	39	6.7
99	無回答	15	2.6
合計		579	100.0

Q4 ウ　誰でも自由にものが言える

		度数	%
1	とてもそう思う	31	5.4
2	ある程度そう思う	250	43.2
3	あまりそう思わない	232	40.1
4	まったくそう思わない	50	8.6
99	無回答	16	2.8
合計		579	100.0

Q4 エ　日常的な付き合いが盛ん

		度数	%
1	とてもそう思う	17	2.9
2	ある程度そう思う	150	25.9
3	あまりそう思わない	301	52.0
4	まったくそう思わない	94	16.2
99	無回答	17	2.9
合計		579	100.0

Q4 オ　昔からの文化・習慣を大事にする

		度数	%
1	とてもそう思う	15	2.6
2	ある程度そう思う	183	31.6
3	あまりそう思わない	289	49.9
4	まったくそう思わない	72	12.4
99	無回答	20	3.5
合計		579	100.0

Q4 カ　昔から住んでいる人の意見が強い

		度数	%
1	とてもそう思う	36	6.2
2	ある程度そう思う	158	27.3
3	あまりそう思わない	299	51.6
4	まったくそう思わない	71	12.3
99	無回答	15	2.6
合計		579	100.0

Q4 キ　新しいものを積極的に取り入れる気風がある

		度数	%
1	とてもそう思う	28	4.8
2	ある程度そう思う	234	40.4
3	あまりそう思わない	260	44.9
4	まったくそう思わない	42	7.3
99	無回答	15	2.6
合計		579	100.0

Q5　近所の人たちとの交流

		度数	%
1	近所の住民と付き合いはない	53	9.2
2	あいさつをかわす程度	361	62.4
3	会った際に世間話をする	140	24.2
4	互いの家をよく行き来する	11	1.9
99	無回答	14	2.4
合計		579	100.0

Q6　自治会（町内会）行事への参加

		度数	%
1	積極的に参加している	22	3.8
2	ある程度参加している	146	25.2
3	あまり参加していない	177	30.6
4	まったく参加していない	227	39.2
99	無回答	7	1.2
合計		579	100.0

Q7　アイヌの人たちとの交流

		度数	%
1	よくある	3	0.5
2	たまにある	18	3.1
3	あまりない	29	5.0
4	ほとんどない	523	90.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq1　交流の内容：近所付き合い

		度数	%
0	非選択	20	3.5
1	選択	1	0.2
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq2　職場での付き合い

		度数	%
0	非選択	15	2.6
1	選択	6	1.0
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq3　交流の内容：趣味の付き合い

		度数	%
0	非選択	19	3.3
1	選択	2	0.4
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq4　交流の内容：子どもを介した付き合い

		度数	%
0	非選択	20	3.5
1	選択	1	0.2
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq5　交流の内容：インターネットを介した付き合い

		度数	%
0	非選択	21	3.6
1	選択	0	0.0
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq6　交流の内容：学生時代からの付き合い

		度数	%
0	非選択	18	3.1
1	選択	3	0.5
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q7sq7　交流の内容：その他

		度数	%
0	非選択	13	2.3
1	選択	8	1.4
8	非該当	552	95.3
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q8　札幌市居住希望

		度数	%
1	いまの場所にずっと住みたい	457	78.9
2	別の場所に移りたい	35	6.0
3	別の場所に移る予定がある	14	2.4
4	わからない	52	9.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq1　住みたい理由：生活環境がよいから

		度数	%
0	非選択	136	23.5
1	選択	321	55.4
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq2　住みたい理由：人間関係がよいから

		度数	%
0	非選択	393	67.9
1	選択	64	11.1
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq3　住みたい理由：親の面倒を見るため

		度数	%
0	非選択	401	69.3
1	選択	56	9.7
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq4　住みたい理由：ここに土地や家があるから

		度数	%
0	非選択	222	38.3
1	選択	235	40.6
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq5　住みたい理由：職場や学校が近いから

		度数	%
0	非選択	359	62.0
1	選択	98	16.9
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq6　住みたい理由：その他

		度数	%
0	非選択	422	72.9
1	選択	35	6.0
8	非該当	101	17.4
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq7　移りたい理由：生活環境が悪いから

		度数	%
0	非選択	27	4.7
1	選択	8	1.4
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq8　移りたい理由：人間関係が悪いから

		度数	%
0	非選択	32	5.5
1	選択	3	0.5
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq9　移りたい理由：交通の便が悪いから

		度数	%
0	非選択	28	4.8
1	選択	7	1.2
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq10　移りたい理由：別の場所に土地や家があるから

		度数	%
0	非選択	34	5.9
1	選択	1	0.2
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq11　移りたい理由：よい仕事がないから

		度数	%
0	非選択	32	5.5
1	選択	3	0.5
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq12　移りたい理由：職場や学校が遠いから

		度数	%
0	非選択	35	6.0
1	選択	0	0.0
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq13　移りたい理由：その他

		度数	%
0	非選択	17	2.9
1	選択	18	3.1
8	非該当	523	90.3
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq14　移る理由：就職するから

		度数	%
0	非選択	12	2.1
1	選択	2	0.4
8	非該当	544	94.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq15　移る理由：転勤があるから

		度数	%
0	非選択	7	1.2
1	選択	7	1.2
8	非該当	544	94.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq16　移る理由：結婚するから

		度数	%
0	非選択	13	2.3
1	選択	1	0.2
8	非該当	544	94.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq17　移る理由：進学するから

		度数	%
0	非選択	14	2.4
1	選択	0	0.0
8	非該当	544	94.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q8sq18　移る理由：その他

		度数	%
0	非選択	10	1.7
1	選択	4	0.7
8	非該当	544	94.0
99	無回答	21	3.6
合計		579	100.0

Q9　アイヌ文化はどのくらい残っているか

		度数	%
1	かなり残っている	7	1.2
2	ある程度残っている	154	26.6
3	あまり残っていない	237	40.9
4	全然残っていない	28	4.8
5	わからない	143	24.7
99	無回答	10	1.7
合計		579	100.0

Q10　アイヌ文化を積極的に保存すべき

		度数	%
1	そう思う	247	42.7
2	ある程度そう思う	276	47.7
3	あまりそう思わない	39	6.7
4	そう思わない	11	1.9
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q11　アイヌ文化をどのように残すべきか

		度数	%
1	アイヌの人たちが残すべき	89	15.4
2	日本の国として残すべき	324	56.0
3	地域ごとに残すべき	136	23.5
4	その他	19	3.3
99	無回答	11	1.9
合計		579	100.0

Q12　国立のアイヌ関連施設の整備に対する賛否

		度数	%
1	賛成	339	58.6
2	やや賛成	180	31.1
3	やや反対	35	6.0
4	反対	11	1.9
99	無回答	14	2.4
合計		579	100.0

Q13A　知っているアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	329	56.8
2	いいえ	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A1　知っている：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	236	40.8
1	選択	93	16.1
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A2　知っている：伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	321	55.4
1	選択	8	1.4
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A3　知っている：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	320	55.3
1	選択	9	1.6
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A4　知っている：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	316	54.6
1	選択	13	2.3
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A5　知っている：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	302	52.2
1	選択	27	4.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A6　知っている：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	307	53.0
1	選択	22	3.8
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A7　知っている：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	325	56.1
1	選択	4	0.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A8　知っている：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	325	56.1
1	選択	4	0.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A9　知っている：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	192	33.2
1	選択	137	23.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A10　知っている：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	257	44.4
1	選択	72	12.4
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A11　知っている：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	152	26.3
1	選択	177	30.6
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A12　知っている：工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	116	20.0
1	選択	213	36.8
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A13　知っている：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	301	52.0
1	選択	28	4.8
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A14　知っている：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	304	52.5
1	選択	25	4.3
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13A15　知っている：その他

		度数	%
0	非選択	325	56.1
1	選択	4	0.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q13B　体験・参加したアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	105	18.1
2	いいえ	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B1　体験・参加した：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	97	16.8
1	選択	8	1.4
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B2　体験・参加した：伝統的婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	105	18.1
1	選択	0	0.0
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B3　体験・参加した：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	105	18.1
1	選択	0	0.0
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B4　体験・参加した：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	104	18.0
1	選択	1	0.2
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B5　体験・参加した：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	102	17.6
1	選択	3	0.5
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B6　体験・参加した：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	104	18.0
1	選択	1	0.2
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B7　体験・参加した：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	105	18.1
1	選択	0	0.0
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B8　体験・参加した：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	105	18.1
1	選択	0	0.0
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B9　体験・参加した：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	96	16.6
1	選択	9	1.6
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B10　体験・参加した：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	97	16.8
1	選択	8	1.4
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B11　体験・参加した：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	30	5.2
1	選択	75	13.0
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B12　体験・参加した：工芸（編物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	72	12.4
1	選択	33	5.7
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B13　体験・参加した：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	103	17.8
1	選択	2	0.4
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B14　体験・参加した：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	91	15.7
1	選択	14	2.4
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13B15　体験・参加した：その他

		度数	%
0	非選択	103	17.8
1	選択	2	0.4
8	非該当	409	70.6
99	無回答	65	11.2
合計		579	100.0

Q13C　将来体験・参加したいアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	202	34.9
2	いいえ	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C1　体験・参加したい：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	177	30.6
1	選択	25	4.3
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C2　体験参加したい：伝統的婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	189	32.6
1	選択	13	2.3
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C3　体験・参加したい：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	187	32.3
1	選択	15	2.6
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C4　体験・参加したい：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	196	33.9
1	選択	6	1.0
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C5　体験・参加したい：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	182	31.4
1	選択	20	3.5
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C6　体験・参加したい：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	176	30.4
1	選択	26	4.5
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C7　体験・参加したい：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	181	31.3
1	選択	21	3.6
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C8　体験・参加したい：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	189	32.6
1	選択	13	2.3
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C9　体験・参加したい：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	161	27.8
1	選択	41	7.1
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C10　体験・参加したい：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	179	30.9
1	選択	23	4.0
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C11　体験・参加したい：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	163	28.2
1	選択	39	6.7
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C12　体験参加したい：工芸（編物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	114	19.7
1	選択	88	15.2
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C13　体験・参加したい：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	183	31.6
1	選択	19	3.3
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C14　体験・参加したい：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	152	26.3
1	選択	50	8.6
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q13C15　体験・参加したい：その他

		度数	%
0	非選択	197	34.0
1	選択	5	0.9
8	非該当	297	51.3
99	無回答	80	13.8
合計		579	100.0

Q14C1　文化の認知方法：家族や親戚

		度数	%
0	非選択	306	52.9
1	選択	23	4.0
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C2　文化の認知方法：近所の人

		度数	%
0	非選択	319	55.1
1	選択	10	1.7
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C3　文化の認知方法：友人

		度数	%
0	非選択	316	54.6
1	選択	13	2.3
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C4　文化の認知方法：学校の授業や行事

		度数	%
0	非選択	240	41.5
1	選択	89	15.4
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C5　文化の認知方法：アイヌ文化を普及している団体

		度数	%
0	非選択	304	52.5
1	選択	25	4.3
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C6　文化の認知方法：情報メディア

		度数	%
0	非選択	161	27.8
1	選択	168	29.0
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C7　文化の認知方法：施設や展示物

		度数	%
0	非選択	142	24.5
1	選択	187	32.3
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q14C8　文化の認知方法：その他

		度数	%
0	非選択	300	51.8
1	選択	29	5.0
8	非該当	226	39.0
99	無回答	24	4.2
合計		579	100.0

Q15　学校でアイヌの歴史を学んだ経験

		度数	%
1	ある	218	37.7
2	ない	342	59.1
99	無回答	19	3.3
合計		579	100.0

Q16　学校でアイヌの文化を体験した経験

		度数	%
1	ある	82	14.2
2	ない	483	83.4
99	無回答	14	2.4
合計		579	100.0

Q17　アイヌの歴史や文化が正しく知られているか

		度数	%
1	正しく知られている	3	0.5
2	だいたいは正しく知られている	29	5.0
3	あまり正しく知られていない	270	46.6
4	正しく知られていない	173	29.9
5	わからない	98	16.9
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q18 ア　差別が起こらない社会をつくるべき

		度数	%
1	そう思う	373	64.4
2	ある程度そう思う	155	26.8
3	あまりそう思わない	17	2.9
4	そう思わない	12	2.1
99	無回答	22	3.8
合計		579	100.0

Q18 イ　アイヌ文化の保存・振興を図るべき

		度数	%
1	そう思う	229	39.6
2	ある程度そう思う	278	48.0
3	あまりそう思わない	36	6.2
4	そう思わない	6	1.0
99	無回答	30	5.2
合計		579	100.0

Q18 ウ　アイヌ語の保存・振興を図るべき

		度数	%
1	そう思う	203	35.1
2	ある程度そう思う	269	46.5
3	あまりそう思わない	69	11.9
4	そう思わない	10	1.7
99	無回答	28	4.8
合計		579	100.0

Q18 エ　雇用対策を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	166	28.7
2	ある程度そう思う	228	39.4
3	あまりそう思わない	121	20.9
4	そう思わない	27	4.7
99	無回答	37	6.4
合計		579	100.0

Q18 オ　教育支援を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	148	25.6
2	ある程度そう思う	229	39.6
3	あまりそう思わない	136	23.5
4	そう思わない	25	4.3
99	無回答	41	7.1
合計		579	100.0

Q18 カ　経済的な援助を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	83	14.3
2	ある程度そう思う	206	35.6
3	あまりそう思わない	211	36.4
4	そう思わない	39	6.7
99	無回答	40	6.9
合計		579	100.0

Q18 キ　土地・資源に対する補償を行うべき

		度数	%
1	そう思う	110	19.0
2	ある程度そう思う	234	40.4
3	あまりそう思わない	160	27.6
4	そう思わない	33	5.7
99	無回答	42	7.3
合計		579	100.0

Q18 ク　アイヌ民族に関する正しい理解を提供すべき

		度数	%
1	そう思う	299	51.6
2	ある程度そう思う	215	37.1
3	あまりそう思わない	27	4.7
4	そう思わない	6	1.0
99	無回答	32	5.5
合計		579	100.0

Q18 ケ　特別な政策を行うべきではない

		度数	%
1	そう思う	115	19.9
2	ある程度そう思う	176	30.4
3	あまりそう思わない	181	31.3
4	そう思わない	70	12.1
99	無回答	37	6.4
合計		579	100.0

Q19　最終学歴

		度数	%
1	義務教育	43	7.4
2	高校	194	33.5
3	専修学校専門課程	98	16.9
4	短大・高専	77	13.3
5	大学	160	27.6
6	その他	1	0.2
99	無回答	6	1.0
合計		579	100.0

Q20　就業形態

		度数	%
1	経営者・役員	21	3.6
2	常時雇用の一般従業者	191	33.0
3	パート・アルバイト・臨時雇用	126	21.8
4	自営業主	30	5.2
5	家族従業者	10	1.7
6	その他	30	5.2
7	無職	142	24.5
8	学生	11	1.9
99	無回答	18	3.1
合計		579	100.0

Q21　職業

		度数	%
1	事務的職業	61	10.5
2	保安的職業	5	0.9
3	販売的職業	34	5.9
4	技能工・生産工程に関わる職業	26	4.5
5	運輸・通信的職業	11	1.9
6	専門・技術的職業	76	13.1
7	管理的職業	10	1.7
8	農林水産的職業	0	0.0
9	サービス的職業	52	9.0
10	その他	40	6.9
88	非該当	153	26.4
99	無回答	111	19.2
合計		579	100.0

Q22　世帯の形態

		度数	%
1	一人暮らし	108	18.7
2	夫婦のみ	155	26.8
3	夫婦と未婚の子どもの二世代	233	40.2
4	夫婦と既婚の子どもの二世代	13	2.3
5	三世代同居	27	4.7
6	その他	32	5.5
99	無回答	11	1.9
合計		579	100.0

Q23　住居の形態

		度数	%
1	一戸建て持ち家（土地所有）	229	39.6
2	一戸建て持ち家（借地）	6	1.0
3	分譲マンション	130	22.5
4	借家・アパート・賃貸マンション	172	29.7
5	社宅・官舎	9	1.6
6	公営・公団住宅	17	2.9
7	その他	6	1.0
99	無回答	10	1.7
合計		579	100.0

Q24A　個人の年間収入

		度数	%
1	なし	45	7.8
2	100万円未満	86	14.9
3	100～200万円未満	88	15.2
4	200～300万円未満	72	12.4
5	300～400万円未満	44	7.6
6	400～500万円未満	33	5.7
7	500～600万円未満	24	4.2
8	600 ～ 700 万円未満	16	2.8
9	700～800万円未満	12	2.1
10	800～900万円未満	8	1.4
11	900～1000万円未満	5	0.9
12	1000～1500万円未満	9	1.6
13	1500万円以上	11	1.9
99	無回答	126	21.8
合計		579	100.0

Q24B　世帯の年間収入

		度数	%
1	なし	4	0.7
2	100 万円未満	4	0.7
3	100 ～ 200 万円未満	19	3.3
4	200 ～ 300 万円未満	44	7.6
5	300 ～ 400 万円未満	42	7.3
6	400 ～ 500 万円未満	41	7.1
7	500 ～ 600 万円未満	34	5.9
8	600 ～ 700 万円未満	31	5.4
9	700 ～ 800 万円未満	16	2.8
10	800 ～ 900 万円未満	18	3.1
11	900 ～ 1000 万円未満	17	2.9
12	1000 ～ 1500 万円未満	29	5.0
13	1500 万円以上	8	1.4
99	無回答	272	47.0
合計		579	100.0

付属資料　単純集計表（むかわ町）

Q1A　性別

		度数	%
1	男性	260	48.2
2	女性	274	50.7
9	無回答	6	1.1
合計		540	100.0

Q1B　年齢

		度数	%
1	20～29歳	24	4.4
2	30～39歳	52	9.6
3	40～49歳	61	11.3
4	50～59歳	125	23.2
5	60～69歳	129	23.9
6	70歳以上	141	26.1
99	無回答	8	1.5
合計		540	100.0

Q1C　出身地域

		度数	%
1	現住所	117	21.7
2	むかわ町内（現住所以外）	148	27.4
3	道内他市町村	213	39.4
4	東北	16	3.0
5	関東	11	2.0
6	中部	3	0.6
7	近畿	3	0.6
8	中国・四国	3	0.6
9	九州沖縄	1	0.2
10	外国	15	2.8
99	無回答	10	1.9
合計		540	100.0

Q2A　家来住世代

		度数	%
1	自分の代	169	31.3
2	親の代	116	21.5
3	祖父母の代	147	27.2
4	祖父母より前	78	14.4
5	わからない	13	2.4
99	無回答	17	3.2
合計		540	100.0

Q2B　家来住時期

		度数	%
1	明治より前	19	3.5
2	明治・大正・昭和・平成	384	71.1
3	わからない	68	12.6
99	無回答	69	12.8
合計		540	100.0

Q2Bsq　家来住年（Q2B で２を選択した場合）

		度数	%
	1945 年以前	52	9.6
	1946 ～ 1970 年	66	12.2
	1971 ～ 1995 年	55	10.2
	1996 年以降	53	9.8
	非該当	87	16.1
	無回答	227	42.0
合計		540	100.0

Q3　個人来住時期

		度数	%
1	生まれてからずっと	232	43.0
2	明治・大正・昭和・平成	302	55.9
99	無回答	6	1.1
合計		540	100.0

Q3sq　個人来住年（Q3 で２を選択した場合）

		度数	%
	1945 年以前	6	1.1
	1946 ～ 1970 年	83	15.4
	1971 ～ 1995 年	91	16.9
	1996 年以降	65	12.0
	非該当	232	43.0
	無回答	63	11.7
合計		540	100.0

Q4 ア　住民のまとまりが強い

		度数	%
1	とてもそう思う	29	5.4
2	ある程度そう思う	273	50.6
3	あまりそう思わない	188	34.8
4	まったくそう思わない	21	3.9
99	無回答	29	5.4
合計		540	100.0

Q4 イ　新しくきた人でもなじみやすい

		度数	%
1	とてもそう思う	26	4.8
2	ある程度そう思う	272	50.4
3	あまりそう思わない	192	35.6
4	まったくそう思わない	28	5.2
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q4 ウ　誰でも自由にものが言える

		度数	%
1	とてもそう思う	35	6.5
2	ある程度そう思う	235	43.5
3	あまりそう思わない	206	38.2
4	まったくそう思わない	33	6.1
99	無回答	31	5.7
合計		540	100.0

Q4 エ　日常的な付き合いが盛ん

		度数	%
1	とてもそう思う	28	5.2
2	ある程度そう思う	272	50.4
3	あまりそう思わない	184	34.1
4	まったくそう思わない	26	4.8
99	無回答	30	5.6
合計		540	100.0

Q4 オ　昔からの文化・習慣を大事にする

		度数	%
1	とてもそう思う	56	10.4
2	ある程度そう思う	241	44.6
3	あまりそう思わない	197	36.5
4	まったくそう思わない	19	3.5
99	無回答	27	5.0
合計		540	100.0

Q4 カ　昔から住んでいる人の意見が強い

		度数	%
1	とてもそう思う	76	14.1
2	ある程度そう思う	236	43.7
3	あまりそう思わない	187	34.6
4	まったくそう思わない	11	2.0
99	無回答	30	5.6
合計		540	100.0

Q4 キ　新しいものを積極的に取り入れる気風がある

		度数	%
1	とてもそう思う	13	2.4
2	ある程度そう思う	162	30.0
3	あまりそう思わない	290	53.7
4	まったくそう思わない	45	8.3
99	無回答	30	5.6
合計		540	100.0

Q5　近所の人たちとの交流

		度数	%
1	近所の住民と付き合いはない	22	4.1
2	あいさつをかわす程度	222	41.1
3	会った際に世間話をする	227	42.0
4	互いの家をよく行き来する	57	10.6
99	無回答	12	2.2
合計		540	100.0

Q6　自治会（町内会）行事への参加

		度数	%
1	積極的に参加している	112	20.7
2	ある程度参加している	255	47.2
3	あまり参加していない	110	20.4
4	まったく参加していない	58	10.7
99	無回答	5	0.9
合計		540	100.0

Q7　アイヌの人たちとの交流

		度数	%
1	よくある	137	25.4
2	たまにある	166	30.7
3	あまりない	92	17.0
4	ほとんどない	123	22.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq1　交流の内容：近所付き合い

		度数	%
0	非選択	150	27.8
1	選択	153	28.3
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq2　職場での付き合い

		度数	%
0	非選択	185	34.3
1	選択	118	21.9
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq3　交流の内容：趣味の付き合い

		度数	%
0	非選択	253	46.9
1	選択	50	9.3
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq4　交流の内容：子どもを介した付き合い

		度数	%
0	非選択	255	47.2
1	選択	48	8.9
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq5　交流の内容：インターネットを介した付き合い

		度数	%
0	非選択	302	55.9
1	選択	1	0.2
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq6　交流の内容：学生時代からの付き合い

		度数	%
0	非選択	235	43.5
1	選択	68	12.6
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q7sq7　交流の内容：その他

		度数	%
0	非選択	254	47.0
1	選択	49	9.1
8	非該当	215	39.8
99	無回答	22	4.1
合計		540	100.0

Q8　むかわ町居住希望

		度数	%
1	いまの場所にずっと住みたい	332	61.5
2	別の場所に移りたい	77	14.3
3	別の場所に移る予定がある	38	7.0
4	わからない	74	13.7
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq1　住みたい理由：生活環境がよいから

		度数	%
0	非選択	238	44.1
1	選択	94	17.4
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq2　住みたい理由：人間関係がよいから

		度数	%
0	非選択	271	50.2
1	選択	61	11.3
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq3　住みたい理由：親の面倒を見るため

		度数	%
0	非選択	303	56.1
1	選択	29	5.4
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq4　住みたい理由：ここに土地や家があるから

		度数	%
0	非選択	99	18.3
1	選択	233	43.2
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq5　住みたい理由：職場や学校が近いから

		度数	%
0	非選択	291	53.9
1	選択	41	7.6
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq6　住みたい理由：その他

		度数	%
0	非選択	311	57.6
1	選択	21	3.9
8	非該当	189	35.0
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq7　移りたい理由：生活環境が悪いから

		度数	%
0	非選択	54	10.0
1	選択	23	4.3
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq8　移りたい理由：人間関係が悪いから

		度数	%
0	非選択	64	11.9
1	選択	13	2.4
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq9　移りたい理由：交通の便が悪いから

		度数	%
0	非選択	39	7.2
1	選択	38	7.0
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq10　移りたい理由：別の場所に土地や家があるから

		度数	%
0	非選択	72	13.3
1	選択	5	0.9
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq11　移りたい理由：よい仕事がないから

		度数	%
0	非選択	58	10.7
1	選択	19	3.5
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq12　移りたい理由：職場や学校が遠いから

		度数	%
0	非選択	72	13.3
1	選択	5	0.9
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq13　移りたい理由：その他

		度数	%
0	非選択	56	10.4
1	選択	21	3.9
8	非該当	444	82.2
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq14　移る理由：就職するから

		度数	%
0	非選択	37	6.9
1	選択	1	0.2
8	非該当	483	89.4
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq15　移る理由：転勤があるから

		度数	%
0	非選択	18	3.3
1	選択	20	3.7
8	非該当	483	89.4
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq16　移る理由：結婚するから

		度数	%
0	非選択	38	7.0
1	選択	0	0.0
8	非該当	483	89.4
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq17　移る理由：進学するから

		度数	%
0	非選択	38	7.0
1	選択	0	0.0
8	非該当	483	89.4
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q8sq18　移る理由：その他

		度数	%
0	非選択	23	4.3
1	選択	15	2.8
8	非該当	483	89.4
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q9　アイヌ文化はどのくらい残っているか

		度数	%
1	かなり残っている	26	4.8
2	ある程度残っている	207	38.3
3	あまり残っていない	147	27.2
4	全然残っていない	24	4.4
5	わからない	125	23.2
99	無回答	11	2.0
合計		540	100.0

Q10　アイヌ文化を積極的に保存すべき

		度数	%
1	そう思う	156	28.9
2	ある程度そう思う	252	46.7
3	あまりそう思わない	89	16.5
4	そう思わない	32	5.9
99	無回答	11	2.0
合計		540	100.0

Q11　アイヌ文化をどのように残すべきか

		度数	%
1	アイヌの人たちが残すべき	147	27.2
2	日本の国として残すべき	203	37.6
3	地域ごとに残すべき	148	27.4
4	その他	23	4.3
99	無回答	19	3.5
合計		540	100.0

Q12　国立のアイヌ関連施設の整備に対する賛否

		度数	%
1	賛成	205	38.0
2	やや賛成	196	36.3
3	やや反対	77	14.3
4	反対	27	5.0
99	無回答	35	6.5
合計		540	100.0

Q13A　知っているアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	277	51.3
2	いいえ	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A1　知っている：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	139	25.7
1	選択	138	25.6
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A2　知っている：伝統的な婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	264	48.9
1	選択	13	2.4
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A3　知っている：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	251	46.5
1	選択	26	4.8
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A4　知っている：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	253	46.9
1	選択	24	4.4
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A5　知っている：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	259	48.0
1	選択	18	3.3
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A6　知っている：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	262	48.5
1	選択	15	2.8
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A7　知っている：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	271	50.2
1	選択	6	1.1
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A8　知っている：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	272	50.4
1	選択	5	0.9
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A9　知っている：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	191	35.4
1	選択	86	15.9
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A10　知っている：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	249	46.1
1	選択	28	5.2
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A11　知っている：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	146	27.0
1	選択	131	24.3
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A12　知っている：工芸（編み物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	122	22.6
1	選択	155	28.7
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A13　知っている：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	255	47.2
1	選択	22	4.1
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A14　知っている：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	248	45.9
1	選択	29	5.4
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13A15　知っている：その他

		度数	%
0	非選択	271	50.2
1	選択	6	1.1
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q13B　体験・参加したアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	96	17.8
2	いいえ	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B1　体験・参加した：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	65	12.0
1	選択	31	5.7
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B2　体験・参加した：伝統的婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	89	16.5
1	選択	7	1.3
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B3　体験・参加した：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	81	15.0
1	選択	15	2.8
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B4　体験・参加した：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	89	16.5
1	選択	7	1.3
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B5　体験・参加した：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	95	17.6
1	選択	1	0.2
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B6　体験・参加した：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	90	16.7
1	選択	6	1.1
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B7　体験・参加した：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	94	17.4
1	選択	2	0.4
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B8　体験・参加した：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	93	17.2
1	選択	3	0.6
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B9　体験・参加した：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	75	13.9
1	選択	21	3.9
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B10　体験・参加した：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	90	16.7
1	選択	6	1.1
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B11　体験・参加した：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	54	10.0
1	選択	42	7.8
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B12　体験・参加した：工芸（編物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	66	12.2
1	選択	30	5.6
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B13　体験・参加した：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	94	17.4
1	選択	2	0.4
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B14　体験・参加した：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	78	14.4
1	選択	18	3.3
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13B15　体験・参加した：その他

		度数	%
0	非選択	94	17.4
1	選択	2	0.4
8	非該当	374	69.3
99	無回答	70	13.0
合計		540	100.0

Q13C　将来体験・参加したいアイヌ文化がある

		度数	%
1	はい	116	21.5
2	いいえ	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C1　体験・参加したい：カムイノミなどの祭事

		度数	%
0	非選択	104	19.3
1	選択	12	2.2
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C2　体験参加したい：伝統的婚礼・地鎮祭・新築祝い

		度数	%
0	非選択	106	19.6
1	選択	10	1.9
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C3　体験・参加したい：伝統的な葬儀・先祖供養

		度数	%
0	非選択	114	21.1
1	選択	2	0.4
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C4　体験・参加したい：イナウを捧げる

		度数	%
0	非選択	114	21.1
1	選択	2	0.4
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C5　体験・参加したい：神聖な場所への祈り

		度数	%
0	非選択	109	20.2
1	選択	7	1.3
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C6　体験・参加したい：海・川・山でのタブーや約束事

		度数	%
0	非選択	106	19.6
1	選択	10	1.9
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C7　体験・参加したい：まじない・トゥス（巫術）

		度数	%
0	非選択	112	20.7
1	選択	4	0.7
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C8　体験・参加したい：夢見を大事にする

		度数	%
0	非選択	113	20.9
1	選択	3	0.6
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C9　体験・参加したい：アイヌ語

		度数	%
0	非選択	101	18.7
1	選択	15	2.8
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C10　体験・参加したい：ユカラなどの口承文芸

		度数	%
0	非選択	108	20.0
1	選択	8	1.5
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C11　体験・参加したい：歌と踊り・楽器

		度数	%
0	非選択	102	18.9
1	選択	14	2.6
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C12　体験参加したい：工芸（編物・刺繍・織物・木彫）

		度数	%
0	非選択	65	12.0
1	選択	51	9.4
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C13　体験・参加したい：伝統的な狩猟・農法・漁法

		度数	%
0	非選択	101	18.7
1	選択	15	2.8
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C14　体験・参加したい：伝統的な料理

		度数	%
0	非選択	90	16.7
1	選択	26	4.8
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q13C15　体験・参加したい：その他

		度数	%
0	非選択	115	21.3
1	選択	1	0.2
8	非該当	327	60.6
99	無回答	97	18.0
合計		540	100.0

Q14C1　文化の認知方法：家族や親戚

		度数	%
0	非選択	229	42.4
1	選択	48	8.9
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C2　文化の認知方法：近所の人

		度数	%
0	非選択	224	41.5
1	選択	53	9.8
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C3　文化の認知方法：友人

		度数	%
0	非選択	230	42.6
1	選択	47	8.7
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C4　文化の認知方法：学校の授業や行事

		度数	%
0	非選択	237	43.9
1	選択	40	7.4
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C5　文化の認知方法：アイヌ文化を普及している団体

		度数	%
0	非選択	199	36.9
1	選択	78	14.4
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C6　文化の認知方法：情報メディア

		度数	%
0	非選択	177	32.8
1	選択	100	18.5
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C7　文化の認知方法：施設や展示物

		度数	%
0	非選択	133	24.6
1	選択	144	26.7
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q14C8　文化の認知方法：その他

		度数	%
0	非選択	262	48.5
1	選択	15	2.8
8	非該当	208	38.5
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q15　学校でアイヌの歴史を学んだ経験

		度数	%
1	ある	114	21.1
2	ない	390	72.2
99	無回答	36	6.7
合計		540	100.0

Q16　学校でアイヌの文化を体験した経験

		度数	%
1	ある	35	6.5
2	ない	485	89.8
99	無回答	20	3.7
合計		540	100.0

Q17　アイヌの歴史や文化が正しく知られているか

		度数	%
1	正しく知られている	11	2.0
2	だいたいは正しく知られている	77	14.3
3	あまり正しく知られていない	220	40.7
4	正しく知られていない	96	17.8
5	わからない	123	22.8
99	無回答	13	2.4
合計		540	100.0

Q18ア　差別が起こらない社会をつくるべき

		度数	%
1	そう思う	248	45.9
2	ある程度そう思う	163	30.2
3	あまりそう思わない	53	9.8
4	そう思わない	34	6.3
99	無回答	42	7.8
合計		540	100.0

Q18 イ　アイヌ文化の保存・振興を図るべき

		度数	%
1	そう思う	144	26.7
2	ある程度そう思う	234	43.3
3	あまりそう思わない	81	15.0
4	そう思わない	31	5.7
99	無回答	50	9.3
合計		540	100.0

Q18 ウ　アイヌ語の保存・振興を図るべき

		度数	%
1	そう思う	118	21.9
2	ある程度そう思う	201	37.2
3	あまりそう思わない	124	23.0
4	そう思わない	43	8.0
99	無回答	54	10.0
合計		540	100.0

Q18 エ　雇用対策を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	72	13.3
2	ある程度そう思う	113	20.9
3	あまりそう思わない	217	40.2
4	そう思わない	79	14.6
99	無回答	59	10.9
合計		540	100.0

Q18 オ　教育支援を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	60	11.1
2	ある程度そう思う	120	22.2
3	あまりそう思わない	212	39.3
4	そう思わない	93	17.2
99	無回答	55	10.2
合計		540	100.0

Q18 カ　経済的な援助を拡充すべき

		度数	%
1	そう思う	40	7.4
2	ある程度そう思う	79	14.6
3	あまりそう思わない	231	42.8
4	そう思わない	129	23.9
99	無回答	61	11.3
合計		540	100.0

Q18 キ　土地・資源に対する補償を行うべき

		度数	%
1	そう思う	46	8.5
2	ある程度そう思う	114	21.1
3	あまりそう思わない	209	38.7
4	そう思わない	115	21.3
99	無回答	56	10.4
合計		540	100.0

Q18 ク　アイヌ民族に関する正しい理解を提供すべき

		度数	%
1	そう思う	160	29.6
2	ある程度そう思う	203	37.6
3	あまりそう思わない	80	14.8
4	そう思わない	39	7.2
99	無回答	58	10.7
合計		540	100.0

Q18 ケ　特別な政策を行うべきではない

		度数	%
1	そう思う	183	33.9
2	ある程度そう思う	158	29.3
3	あまりそう思わない	102	18.9
4	そう思わない	51	9.4
99	無回答	46	8.5
合計		540	100.0

Q19　最終学歴

		度数	%
1	義務教育	100	18.5
2	高校	242	44.8
3	専修学校専門課程	65	12.0
4	短大・高専	48	8.9
5	大学	62	11.5
6	その他	7	1.3
99	無回答	16	3.0
合計		540	100.0

Q20　就業形態

		度数	%
1	経営者・役員	37	6.9
2	常時雇用の一般従業者	126	23.3
3	パート・アルバイト・臨時雇用	90	16.7
4	自営業主	45	8.3
5	家族従業者	48	8.9
6	その他	35	6.5
7	無職	134	24.8
8	学生	1	0.2
99	無回答	24	4.4
合計		540	100.0

Q21　職業

		度数	%
1	事務的職業	38	7.0
2	保安的職業	3	0.6
3	販売的職業	17	3.2
4	技能工・生産工程に関わる職業	24	4.4
5	運輸・通信的職業	12	2.2
6	専門・技術的職業	42	7.8
7	管理的職業	8	1.5
8	農林水産的職業	68	12.6
9	サービス的職業	27	5.0
10	その他	25	4.6
88	非該当	135	25.0
99	無回答	141	26.1
合計		540	100.0

Q22　世帯の形態

		度数	%
1	一人暮らし	78	14.4
2	夫婦のみ	192	35.6
3	夫婦と未婚の子どもの二世代	135	25.0
4	夫婦と既婚の子どもの二世代	24	4.4
5	三世代同居	47	8.7
6	その他	46	8.5
99	無回答	18	3.3
合計		540	100.0

Q23　住居の形態

		度数	%
1	一戸建て持ち家（土地所有）	333	61.7
2	一戸建て持ち家（借地）	65	12.0
3	分譲マンション	0	0.0
4	借家・アパート・賃貸マンション	33	6.1
5	社宅・官舎	41	7.6
6	公営・公団住宅	45	8.3
7	その他	7	1.3
99	無回答	16	3.0
合計		540	100.0

Q24A　個人の年間収入

		度数	%
1	なし	20	3.7
2	100万円未満	87	16.1
3	100～200万円未満	84	15.6
4	200～300万円未満	78	14.4
5	300～400万円未満	51	9.4
6	400～500万円未満	26	4.8
7	500～600万円未満	17	3.2
8	600 ～ 700 万円未満	16	3.0
9	700～800万円未満	15	2.8
10	800～900万円未満	1	0.2
11	900～1000万円未満	1	0.2
12	1000～1500万円未満	7	1.3
13	1500万円以上	3	0.6
99	無回答	134	24.8
合計		540	100.0

Q24B　世帯の年間収入

		度数	%
1	なし	3	0.6
2	100 万円未満	4	0.7
3	100 ～ 200 万円未満	16	3.0
4	200 ～ 300 万円未満	46	8.5
5	300 ～ 400 万円未満	41	7.6
6	400 ～ 500 万円未満	40	7.4
7	500 ～ 600 万円未満	19	3.5
8	600 ～ 700 万円未満	17	3.2
9	700 ～ 800 万円未満	17	3.2
10	800 ～ 900 万円未満	13	2.4
11	900 ～ 1000 万円未満	12	2.2
12	1000 ～ 1500 万円未満	18	3.3
13	1500 万円以上	17	3.2
99	無回答	277	51.3
合計		540	100.0

執筆者紹介・執筆順（担当）

小内　　透　　北海道大学大学院教育学研究院教授（序章・終章・編集）
北海道大学アイヌ・先住民研究センター兼務教員

小野寺理佳　　名寄市立大学保健福祉学部教授（第１章）

上山浩次郎　　北海道大学大学院教育学研究院助教（第２章）

濱田　国佑　　駒澤大学文学部講師（第３章）

新藤　　慶　　群馬大学教育学部准教授（第４章）

地域住民のアイヌ政策への評価と
アイヌの人々との社会関係

――札幌市とむかわ町を対象にして――

2015 年 9 月 30 日発行

編　集　小内　透

発　行　〒060-0808　札幌市北区北８条西６丁目
北海道大学アイヌ・先住民研究センター